令和2年度

仙台市
市民センター
事業概要

令和３年９月

仙台市教育委員会

目　次

Ⅰ　市民センターの概要

1　仙台市市民センター（公民館）の歴史 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1
2　市民センター概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　5
3　令和３年度　市民センターの体制 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１０
4　仙台市市民センターの施設理念と運営方針 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１１
5　市民センター事業体系 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１９
6　新型コロナウイルス感染症拡大防止への対応・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２１

Ⅱ　拠点館事業　令和２年度 市直営事業実績

1　地域づくり支援 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２３
2　広域規模の学習支援 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３６
3　人材育成 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３８
4　ジュニアリーダー ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　４５
5　地域社会教育推進 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　４８
6　学習情報提供 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　５２
7　各区中央市民センター事業 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　５４
8　仙台市公民館運営審議会 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　５６

Ⅲ　地区館事業　令和２年度 指定管理事業実績

青葉区

青葉区中央市民センター ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　６１
柏木市民センター ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　６３
北山市民センター ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　６５
福沢市民センター ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　６７
旭ケ丘市民センター ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　６９
三本松市民センター ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　７１
片平市民センター ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　７３
水の森市民センター ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　７５
貝ケ森市民センター ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　７７
中山市民センター ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　７９
折立市民センター ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　８１
木町通市民センター ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　８３
広瀬市民センター ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　８５
宮城西市民センター ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　８７
大沢市民センター ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　８９
落合市民センター ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　９１
吉成市民センター ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　９３

宮城野区

宮城野区中央市民センター ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　９５
生涯学習支援センター ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　９７
高砂市民センター ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　９８
岩切市民センター ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１００
鶴ケ谷市民センター ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１０２
榴ケ岡市民センター ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１０４
東部市民センター ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１０６
幸町市民センター ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１０８
田子市民センター ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１１０
福室市民センター ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１１２

若林区
若林区中央市民センター ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １１４
七郷市民センター ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １１６
荒町市民センター ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １１８
六郷市民センター ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １２０
若林市民センター ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １２２
沖野市民センター ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １２４
太白区
太白区中央市民センター ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １２６
生出市民センター ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １２８
中田市民センター ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １３０
西多賀市民センター ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １３２
八本松市民センター ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １３４
八木山市民センター ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １３６
山田市民センター ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １３８
茂庭台市民センター ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １４０
東中田市民センター ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １４２
柳生市民センター ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １４４
富沢市民センター ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １４６
秋保市民センター・馬場市民センター・湯元市民センター・・・・・・・・ １４８
泉区
泉区中央市民センター ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １５０
根白石市民センター ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １５２
南光台市民センター ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １５４
黒松市民センター ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １５６
将監市民センター ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １５８
加茂市民センター ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １６０
高森市民センター ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １６２
松陵市民センター ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １６４
寺岡市民センター ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １６６
長命ケ丘市民センター ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １６８
松森市民センター ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １７０
桂市民センター ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １７２
南中山市民センター ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １７４

Ⅳ　資料
１　市民センターの予算 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １７７
２　令和２年度　市民センター職員数 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １７８
３　令和２年度　主催講座の事業別実施状況・・・・・・・・・・・・・・・・ １８０
４　主催事業参加者数推移 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １８４
５　市民センター利用者数推移 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １８６
６　仙台市市民センター条例・施行規則 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ １８８

令和２年度仙台市市民センター事業概要は
市民センターのホームページでもご覧いただけます

Ⅰ 市民センターの概要

１　仙台市市民センター（公民館）の歴史

昭和 21 年、在仙文化人有志により、宮城県医師会館内に「仙台公民館」が設立された後、昭和 24 年の社会教育法施行に合わせた「仙台市公民館条例」の制定により、仙台市公会堂(現市民会館)内に仙台市公民館が誕生した。

以後、館数を増やしながら、社会教育施設として、市民の学習意欲に応える種々の事業を実施するとともに、市民が自主的に学習活動を行う場の提供を行っている。

平成元年には、教育委員会所管の公民館と市民局所管の地区市民センターを相互に併設して名称を「市民センター・公民館」とし、政令指定都市移行に伴って各区に拠点館を置いた。さらに、翌平成 2 年度に、「仙台市市民センター条例」を新たに制定し、施設名称を「市民センター」に統一した。

平成 3 年度、財団法人仙台市地域振興公社に施設管理を委託し、平成 13 年度には、市民センターの業務再編により市職員を各区拠点館に集中配置して、地区館の生涯学習事業を財団法人仙台ひと・まち交流財団（平成 13 年度に地域振興公社から名称変更）に委託した。平成 16 年度からは、指定管理者制度導入に伴い、同財団（平成 23 年 4 月に公益財団法人化）を指定管理者とし、以降、指定を更新・継続して現在に至っている。

平成 23 年 5 月 1 日には、地域政策と教育行政の円滑な推進を図るため、教育局の第二種公所であった各区拠点館を区役所組織に移管し、各区の第二種公所として位置付けた。

平成 24 年 8 月 28 日に宮城野区中央市民センターが新設され、市民センターは、概ね中学校区毎に 60 館設置されている。

平成 26 年度から、中央市民センターの人材育成機能等を強化し、本市の生涯学習支援体制を充実するとともに、名称を生涯学習支援センターに変更した。

年　月	摘　　要	館数
昭和 21 年 10 月	在仙文化人有志により、宮城県医師会館内に「仙台公民館」設立	
昭和 24 年 6 月	「社会教育法」制定	
昭和 24 年 8 月	「仙台市公民館条例」の制定により、仙台市公会堂（現市民会館）内に「仙台市公民館」誕生	1 館
昭和 25 年 12 月	仙台市教育委員会発足 仙台市公民館運営審議会設置	
昭和 27 年 6 月	「仙台市社会教育委員の設置に関する条例」制定	
昭和 31 年 4 月	生出村が仙台市に合併したことに伴い、「生出村公民館」を「生出分館」に改称	1 館 1 分館
昭和 42 年 4 月	「生出分館」が移転し、「生出公民館」に名称を変更	2 館
昭和 42 年 10 月	「仙台市公民館条例」を新たに制定（旧条例は廃止）、貸室の有料化 「長町公民館」開館	3 館
昭和 43 年 11 月	「高砂公民館」開館	4 館
昭和 44 年 10 月	「中田公民館」開館	5 館

年 月	摘　　要	館数
昭和 46 年 8 月	公会堂解体・市民会館建設に伴い、「仙台市公民館」が東二番丁の「市民教養センター」に移転	
昭和 48 年 3 月	「仙台市公民館」を「中央公民館」に改称	
昭和 56 年 12 月	「岩切公民館」開館	6 館
昭和 58 年 3 月	「中央公民館」を現在地（仙台駅東口「パルシティ仙台」内）に新築移転し、宮城野通図書館（現・榴岡図書館）と共に開館	
昭和 58 年 4 月	「七郷公民館」開館	7 館
昭和 61 年 3 月	東二番丁小学校改築に伴う「市民教養センター」の廃止	
昭和 61 年 7 月	「中央公民館柏木分館」開館	7 館 1 分館
昭和 62 年 11 月	宮城町合併に伴い、公民館 9 館、分館 1 館となる （※）宮城・宮城西	9 館 1 分館
昭和 63 年 1 月	「中央公民館一番町分館」開館	9 館 2 分館
昭和 63 年 3 月	秋保町、泉市の合併に伴い、公民館 18 館、分館 2 館となる (※)泉・南光台・加茂・将監・根白石・秋保・馬場・湯元・八乙女	18 館 2 分館
平成元年 4 月	教育委員会所管の「公民館（18 館 2 分館)」と市民局所管の「地区市民センター（15 館)」が相互に併設され、新たに開館した 3 館を含めて施設の名称を「○○市民センター・公民館」の二枚看板とする 政令指定都市移行に伴い 5 区 38 館制をとり、各区に拠点館を設置 青 葉 区：「一番町公民館」 宮城野区：「中央公民館」 若 林 区：「七郷公民館」 太 白 区：「中田公民館」 泉　　区：「泉公民館」 ・名称変更：柏木・一番町（分館から公民館へ名称変更） ・新　　設：片平・東中田・高森 ・市民会館の一部として開館していたものに併設：榴ヶ岡 ・市民センターに併設 鶴ヶ谷・東部・北山・福沢・旭ヶ丘・三本松・荒町・ 南小泉・六郷・西多賀・八本松・八木山・山田・茂庭台	38 館
平成 2 年 3 月	「仙台市市民センター条例」を新たに制定。	
平成 2 年 4 月	名称を「市民センター」に統一し、施設を教育委員会が所管する公民館として位置づけ、施設の使用許可を区長に委任、施設管理の総括を市民局、維持管理を区長に補助執行させる 「松陵市民センター」開館	39 館
平成 2 年 5 月	「大沢市民センター」開館	40 館
平成 2 年 9 月	「水の森市民センター」開館	41 館

年　月	摘　　要	館数
平成 3 年 4 月	財団法人仙台市地域振興公社に施設管理を委託、「若林市民センター」「沖野市民センター」「寺岡市民センター」開館	44 館
平成 3 年 6 月	「宮城市民センター」の名称を変更し、広瀬文化センター内に「広瀬市民センター」が開館	
平成 5 年 4 月	「幸町市民センター」「貝ヶ森市民センター」「長命ヶ丘市民センター」開館	47 館
平成 5 年 9 月	「南小泉市民センター」の名称を変更し、若林区文化センター内に若林区の拠点館「若林区中央市民センター」として開館	
平成 6 年 4 月	「落合市民センター」開館	48 館
平成 6 年 11 月	「せんだいＬＬプラン 21　仙台市生涯学習基本構想」策定	
平成 7 年 4 月	「中山市民センター」開館	49 館
平成 7 年 5 月	「折立市民センター」開館	50 館
平成 8 年 4 月	「吉成市民センター」開館	51 館
平成 9 年 4 月	「柳生市民センター」開館	52 館
平成 11 年 6 月	「長町市民センター」の名称を変更し、太白区文化センター内に太白区の拠点館「太白区中央市民センター」として開館	52 館
平成 11 年 8 月	「田子市民センター」開館	53 館
平成 12 年 1 月	「松森市民センター」開館	54 館
平成 13 年 1 月	「仙台まなびの杜（仙台市教育ビジョン)」策定（平成 13 年～22 年）	
平成 13 年 4 月	市民センターの業務再編により、市職員を各区拠点館に集中配置、地区館の生涯学習事業を「仙台ひと・まち交流財団」に委託	
平成 13 年 9 月	「市民センター運営方針」を定める	
平成 13 年 11 月	「富沢市民センター」開館	55 館
平成 13 年 12 月	「桂市民センター」開館	56 館
平成 15 年 3 月	「福室市民センター」開館	57 館
平成 15 年 11 月	仙台市市民利用施設予約システムの導入 「南中山市民センター」開館	58 館
平成 16 年 4 月	指定管理者制度導入に伴い、財団法人仙台ひと・まち交流財団を指定管理者に指定（3 年間） 「木町通市民センター」開館	59 館
平成 19 年 4 月	非公募により引き続き、財団法人仙台ひと・まち交流財団を指定管理者に指定（2 年間）	
平成 19 年 10 月	仙台市公民館運営審議会より「市民センターの施設理念と運営方針の見直しについて」（答申）を受ける。	

年 月	摘　　要	館数
平成 20 年 12 月	「仙台市市民センターの施設理念と運営方針」策定	
平成 21 年 4 月	非公募により引き続き、財団法人仙台ひと・まち交流財団を指定管理者に指定（2 年間）	
平成 23 年 4 月	非公募により引き続き、公益財団法人仙台ひと・まち交流財団を指定管理者に指定（2 年間） ※平成 23 年 4 月 1 日より「財団法人仙台ひと・まち交流財団」から「公益財団法人仙台ひと・まち交流財団」に変更	
平成 23 年 5 月	各区中央市民センターを教育局から各区役所区民部の公所として組織変更し、業務を各区長の補助執行とする。 宮城野区の拠点館機能を教育局中央市民センターから分離し、宮城野区中央市民センターが新設されるまでの間、宮城野区区民部に「市民センター事業推進室」を設置	
平成 24 年 8 月	「宮城野区中央市民センター」開館 宮城野区拠点館である「宮城野区市民センター事業推進室」の名称を「宮城野区中央市民センター」に変更 「榴ケ岡市民センター」を廃止 「榴ケ岡市民センター榴岡公園軽体育館」の名称を「榴ケ岡市民センター」に変更	60 館
平成 25 年 4 月	非公募により引き続き、公益財団法人仙台ひと・まち交流財団を指定管理者に指定（5 年間）	
平成 26 年 4 月	中央市民センターの人材育成機能等を強化し、生涯学習支援体制の充実を図るとともに、名称を生涯学習支援センターに変更 「仙台市市民センターの施設理念と運営方針」を改定	
平成 30 年 4 月	非公募により引き続き、公益財団法人仙台ひと・まち交流財団を指定管理者に指定（5 年間）	
令和元年 10 月	「仙台市市民センターの施設理念と運営方針」を改定	

２　市民センター概要

（令和３年８月１日現在）

（１）市民センターの概要

市民センターは概ね中学校区毎に設置されており、その総数は現在 60 館となっている。市民センターの種類は次のとおりである。

① 生涯学習支援センター

本市の全域を主たる対象区域としてその事業を行うとともに、他の全ての市民センターを統括する市民センターで、1 館設置されている。

② 区中央市民センター

その所在する区の区域内を主たる対象区域としてその事業を行うとともに、当該区域内に所在する地区市民センターを支援する市民センターで、各区に 1 館ずつ、計 5 館設置されている。

③ 地区市民センター

生涯学習支援センター及び区中央市民センター以外の市民センターで、54 館設置されている。

（２）市民センターの施設概要

①　生涯学習支援センター

館名	所在地	電話番号 FAX番号	竣工	敷地面積 建物延床 面積(㎡)	主要施設	併設施設
生涯学習支援	宮城野区榴岡四丁目 1 番 8 号	295-0403 295-0810	昭和 58 年 2 月 28 日	3,367.52 4,064.32	会議室、セミナー室(4)、和室、音楽室(2)、創作室(2)、体育館、トレーニング室、ミーティング室	図書館

②　区中央市民センター

館名	所在地	電話番号 FAX番号	竣工	敷地面積 建物延床 面積(㎡)	主要施設	併設施設
青葉区中央	青葉区一番町二丁目 1 番 4 号	223-2516 261-3251	昭和 62 年 12 月 15 日	7,148.85 2,311.55	ホール、小ホール(2)、会議室(5)、和室、調理実習室、音楽室、市民活動室	幼稚園・小学校
宮城野区中央	宮城野区五輪二丁目 12 番 70 号	791-7015 295-2337	平成 24 年 7 月 13 日	(宮城野区文化センター内) 12,626.18 3,075.46	会議室(4)、和室(2)、調理実習室、音楽室、創作室、体育館、市民活動室、親子室、娯楽室、資料室	文化センター・児童館・図書館・情報センター
若林区中央	若林区南小泉一丁目 1 番 1 号	282-1173 282-1180	平成 5 年 3 月	(若林区文化センター内) 11,842.43 515.21	会議室(2)、和室(3)、セミナー室(2)、市民活動室、サークル連絡室、プレイルーム	文化センター・図書館・情報センター
(若林区中央別棟)	若林区保春院前丁 3 番地の1		平成 29 年 6 月 30 日	4,149.32 1,507.98	会議室(2)、和室、調理実習室、創作室、ホール	児童館・子育てふれあいプラザ・社会福祉協議会

館名	所在地	電話番号 FAX番号	竣工	敷地面積 建物延床 面積(㎡)	主要施設	併設施設
太白区 中央	太白区長町 五丁目 3 番 2 号	304-2741 304-2526	平成 11 年 3 月 31 日	(太白区文化 センター内) 9,684.57 2,311.68	会議室(5)、和室(2)、調理実 習室、音楽室、創作室、体 育館	文化センター・ 図書館・児童 館・情報センタ ー
泉区 中央	泉区市名坂 字東裏 53 番 地の 1	372-8101 372-2447	平成 15 年 11 月 14 日	3,035.78 2,138.54	会議室(3)、和室(2)、調理実 習室、研修室、音楽室、創 作室、親子室、娯楽室、市 民活動室、ホール	コミュニティ防 災センター・泉 ふるさと生活ギ ャラリー

③　地区市民センター

館名	所在地	電話番号 FAX番号	竣工	敷地面積 建物延床 面積(㎡)	主要施設	併設施設
柏木	青葉区柏木 三丁目 3 番 1 号	233-8066 233-8484	平成 10 年 4 月 1 日	2,822.73 1,315.20	会議室、和室(2)、ホール、 市民活動室、資料室	コミュニティ防 災センター
北山	青葉区新坂 町 8 番 4 号	272-1020 272-1036	平成 22 年 11 月 16 日	2,071.54 1,406.43	会議室(3)、和室(4)、調理実 習室、娯楽室、トレーニング 室、親子室、資料室、図書 室、市民活動室	
福沢	青葉区福沢 町 9 番 9 号	223-9095 213-1647	昭和 59 年 6 月 9 日	3,205.75 1,998.46	会議室(3)、和室(3)、視聴覚 室、調理実習室、遊戯室、 図書室、娯楽室、体育館	コミュニティ防 災センター
旭ケ丘	青葉区旭ケ丘 三丁目 25 番 15 号	271-4729 271-7984	昭和 60 年 6 月 15 日	3,128.66 2,044.91	展示ホール(2)、ホール(2)、 会議室(3)	旭ケ丘バス乗 継ターミナル
三本松	青葉区堤町 三丁目 23 番 1 号	274-3955 234-5355	昭和 62 年 3 月 31 日	4,861.02 1,499.07	会議室、会議室兼調理実習 室、和室(2)、体育館、遊戯 室、図書室	コミュニティ防 災センター
片平	青葉区米ケ袋 一丁目 1 番 35 号	227-5333 268-0234	平成元年 3 月 15 日	2,500.03 2,027.60	会議室(2)、会議室兼調理実 習室、和室(3)、体育館、娯 楽室、広瀬川自然展示コー ナー	児童館(図書 室)・コミュニティ 防災センター
水の森	青葉区水の 森四丁目 1 番 1 号	277-2711 277-8863	平成 2 年 8 月 30 日	(水の森温水 プール内) 11,317.60 1,847.57	会議室、会議室兼調理実習 室、和室(3)、体育館、親子 室	児童館(図書 室)・コミュニティ 防災センター・ 温水プール
貝ケ森	青葉区貝ケ森 一丁目 4 番 6 号	279-6320 279-6704	平成 5 年 4 月 26 日	3,669.11 1,578.64	会議室、会議室兼調理実習 室、和室(2)、資料室、親子 室、ホール	児童館(図書 室)
中山	青葉区中山 三丁目 13 番 1 号	279-9216 719-2150	平成 7 年 3 月 31 日	4,047.48 1,719.78	会議室、会議室兼調理実習 室、和室(2)、資料室、親子 室、ホール、市民活動室	児童館(図書 室)・老人憩い の家・コミュニテ ィ防災センター
折立	青葉区折立 三丁目 20 番 1 号	226-1226 226-2660	平成 7 年 5 月 30 日	2,843.36 1,790.71	会議室、会議室兼調理実習 室、和室(2)、ホール、親子 室、資料室	児童館(図書 室)・コミュニティ 防災センター
木町通	青葉区木町 通一丁目 7 番 36 号	711-2561 212-4330	平成 16 年 2 月 27 日	(木町通小学 校内) 10,480.00 2,892.34	会議室(2)、和室(2)、調理実 習室、娯楽室、親子室、市 民活動室、ホール	小学校・児童館 (図書室)・コミュ ニティ防災セン ター

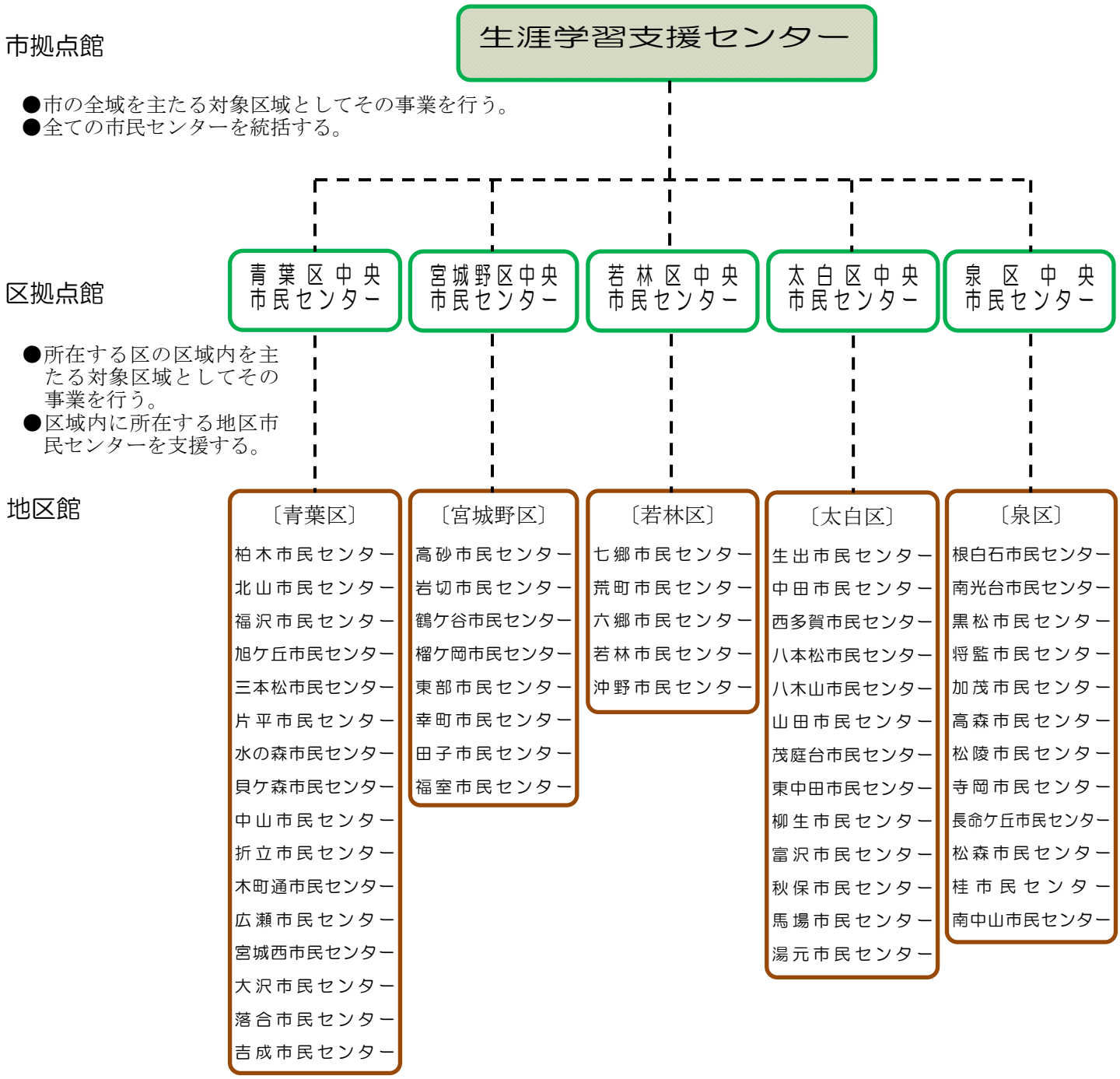
館名	所在地	電話番号 FAX番号	竣工	敷地面積 建物延床 面積(㎡)	主要施設	併設施設
広瀬	青葉区下愛子字観音堂5番地	392-8405 392-8410	平成3年 3月31日	(広瀬文化センター内) 6,746.77 786.54	会議室、セミナー室(2)、和室(2)、創作室、サークル連絡室、プレイルーム	文化センター・図書館
宮城西	青葉区熊ヶ根字石積47番地	393-2829 393-2491	平成24年 5月18日	3,274.47 1,484.56	会議室(2)、和室(2)、調理実習室、ホール、市民活動室、親子室、娯楽室	
大沢	青葉区芋沢字要害65番地	394-6891 394-6439	平成2年 5月24日	6,318.73 1,266.34	会議室兼調理実習室、和室(2)、体育館	児童館(図書室)・コミュニティ防災センター
落合	青葉区落合二丁目15番15号	392-7301 392-6737	平成6年 3月31日	4,078.96 1,248.45	会議室兼調理実習室、和室(2)、娯楽室、図書室、親子室、ホール	コミュニティ防災センター
吉成	青葉区国見ヶ丘二丁目2番地の1	279-2033 279-9431	平成8年 4月26日	3,300.76 1,606.03	会議室、会議室兼調理実習室、和室、親子室、ホール、資料室	児童館(図書室)・コミュニティ防災センター
高砂	宮城野区高砂一丁目24番地の9	258-1010 259-7577	平成6年 3月30日	10,000.02 1,908.06	会議室(2)、和室(2)、調理実習室、親子室、ホール、資料室	児童館(図書室)・コミュニティ防災センター・老人福祉センター・デイサービスセンター・保健センター
岩切	宮城野区岩切字三所南88番地の2	255-7728 255-2075	昭和56年 12月15日	4,789.09 2,060.91	講義室、研修室(2)、和室(2)、調理実習室、視聴覚室、創作室、体育館、図書室、交流室、親子室、資料室	保健センター・老人憩いの家・コミュニティ防災センター・証明発行センター
鶴ケ谷	宮城野区鶴ケ谷二丁目1番地の7	251-1562 251-1564	平成28年 2月19日	3,291.14 1,763.95	会議室(3)、和室、調理実習室、ホール、娯楽室、親子室、市民活動室、図書室	コミュニティ防災センター
榴ケ岡	宮城野区五輪一丁目3番1号	299-5666 299-5690	平成元年 4月26日	963.40 1,005.33	和室(2)、ミーティングルーム(2)、休憩室、体育館	
東部	宮城野区平成一丁目3番27号	237-0092 235-7634	昭和58年 4月8日	1,795.57 1,435.36	会議室、和室(3)、調理実習室、娯楽室、体育館	児童館(図書室)
幸町	宮城野区幸町三丁目13番13号	291-8651 291-8561	平成5年 3月31日	3,838.08 1,756.90	会議室、会議室兼調理実習室、和室(2)、親子室、資料室、ホール	児童館(図書室)・コミュニティ防災センター
田子	宮城野区田子二丁目4番25号	254-2721 254-2722	平成11年 8月5日	2,877.76 1,951.49	会議室(2)、和室(2)、調理実習室、ホール、娯楽室、親子室、市民活動室	児童館(図書室)・コミュニティ防災センター
福室	宮城野区福室五丁目9番36号	786-3540 388-6320	平成15年 1月10日	4,747.25 1,956.70	ホール、会議室(2)、和室(2)、調理実習室、市民活動室、娯楽室、親子室	児童館(図書室)・コミュニティ防災センター
七郷	若林区荒井三丁目7番地の2	288-8700 288-2340	昭和58年 3月7日	5,674.00 1,986.39	会議室、研修室(2)、和室(3)、調理実習室、視聴覚室、創作室、体育館、市民活動室	児童館(図書室)・保健センター・コミュニティ防災センター・証明発行センター

館名	所在地	電話番号 FAX番号	竣工	敷地面積 建物延床 面積(㎡)	主要施設	併設施設
荒町	若林区荒町 86 番地の 2	266-3790 266-5436	平成 21 年 11 月 27 日	1,430.29 2,234.78	会議室(3)、和室(2)、調理実習室、ホール、娯楽室、親子室、市民活動室	児童館(図書室)・コミュニティ防災センター
六郷	若林区今泉 一丁目 3 番 19 号	289-5127 289-6359	昭和 56 年 12 月 15 日	4,354.80 1,843.28	会議室(3)、和室(3)、調理実習室、娯楽室、市民活動室、体育館	児童館(図書室)・保健センター・証明発行センター
若林	若林区若林 三丁目 15 番 20 号	282-4541 282-2637	平成 3 年 4 月 29 日	3,048.00 1,624.03	会議室、会議室兼調理実習室、和室(2)、資料室、親子室、ホール	児童館(図書室)・コミュニティ防災センター
沖野	若林区沖野 七丁目 34 番 43 号	282-4571 285-4681	平成 3 年 3 月 30 日	6,151.42 1,637.42	会議室、会議室兼調理実習室、和室(2)、親子室、資料室、ホール	児童館(図書室)・老人福祉センター・デイサービスセンター
生出	太白区茂庭 二丁目 8 番地 の 1	281-2040 281-4319	昭和 55 年 3 月 31 日	4,253.24 955.78	講義室(2)、和室、図書室、調理実習室、体育館	診療所・保健センター・証明発行センター
中田	太白区中田 四丁目 1 番 5 号	241-1459 242-2535	昭和 56 年 3 月 20 日	3,217.97 1,801.97	講義室、研修室(2)、和室(2)、調理実習室、視聴覚室、図書室、体育館	コミュニティ防災センター・証明発行センター
西多賀	太白区西多 賀三丁目 6 番 8 号	244-6721 244-0524	平成 30 年 10 月 15 日	2,940.37 1,916.91	会議室(3)、会議室兼調理実習室、和室、ホール	児童館(図書室)
八本松	太白区八本 松二丁目 4 番 20 号	246-2426 246-9023	昭和 60 年 5 月 12 日	3,606.73 1,495.44	会議室兼調理実習室、会議室、和室(2)、体育館、市民活動室	児童館・太白図書館分室・コミュニティ防災センター
八木山	太白区八木 山本町一丁 目 43 番地	228-1190 228-1689	昭和 62 年 2 月 10 日	4,239.00 2,599.94	会議室、会議室兼調理実習室、研修室(3)、和室(2)、体育館、遊戯室、娯楽室、図書室、市民活動室	コミュニティ防災センター
山田	太白区山田 北前町 13 番 1 号	244-0213 244-1843	昭和 62 年 4 月 17 日	4,434.93 1,496.88	会議室、会議室兼調理実習室、和室(2)、体育館、遊戯室、娯楽室、図書室	コミュニティ防災センター
茂庭台	太白区茂庭 台四丁目 1 番 10 号	281-3293 281-4349	昭和 63 年 3 月 31 日	9,803.90 1,495.55	会議室、和室(2)、会議室兼調理実習室、娯楽室、体育館	児童館(図書室)・コミュニティ防災センター
東中田	太白区四郎 丸字吹上 51 番地	242-1185 242-7053	平成元年 3 月 5 日	5,516.21 1,619.96	会議室、和室(2)、娯楽室、体育館、会議室兼調理実習室	児童館(図書室)・保健センター・コミュニティ防災センター
柳生	太白区柳生 七丁目 20 番 地の 7	306-6750 306-7081	平成 9 年 3 月 31 日	2,879.16 1,633.01	会議室、和室(2)、ホール、資料室、親子室、会議室兼調理実習室	児童館(図書室)・コミュニティ防災センター
富沢	太白区富沢 南一丁目 18 番地の 10	244-3977 307-5101	平成 13 年 11 月 22 日	4,068.46 1,839.30	会議室(2)、和室(2)、ホール、調理実習室、娯楽室、親子室、図書室、市民活動室	コミュニティ防災センター
秋保	太白区秋保 町長袋字大 原 44 番地の 1	399-2316 399-2394	平成 25 年 3 月 29 日	5,281.64 1,643.03	研修室、図書室、和室(2)、会議室(2)、ホール、調理実習室、親子室、市民活動室、資料室	
馬場	太白区秋保 町馬場字竹 林 45 番地の 1	399-2745 －	昭和 52 年 3 月 31 日	3,185.42 734.20	会議室、調理実習室、体育館、図書室兼談話室	

館名	所在地	電話番号 FAX番号	竣工	敷地面積 建物延床 面積(㎡)	主要施設	併設施設
湯元	太白区秋保町湯向2番地の20	398-2720 398-2789	昭和54年3月31日	1,846.47 844.98	集会室、会議室、講義室、視聴覚室、調理実習室、和室	
根白石	泉区根白石字杉下前24番地	379-2108 376-5769	昭和63年3月31日	5,839.66 1,911.53	会議室(2)、ホール、工作室、和室、調理実習室	泉図書館分室、証明発行センター
南光台	泉区南光台七丁目1番30号	253-1023 253-1024	平成27年2月13日	2,829.02 1,750.15	会議室(4)、和室、調理実習室、ホール、親子室、市民活動室	泉図書館分室、コミュニティ防災センター・証明発行センター
黒松	泉区黒松一丁目33番40号	234-5346 219-2038	平成4年10月20日	5,264.63 1,491.48	ホール、研修室(2)、多目的室、和室、調理実習室	泉図書館分室
将監	泉区将監八丁目2番1号	372-0923 374-8704	平成4年3月19日	1,821.00 1,497.95	和室(2)、研修室(3)、調理実習室、ホール、娯楽室、託児室	泉図書館分室
加茂	泉区加茂四丁目2番地	378-2970 377-4565	昭和58年4月1日	4,471.52 2,127.06	会議室、和室、研修室(2)、調理実習室、体育館、談話室、市民活動室	泉図書館分室
高森	泉区高森六丁目1番地の2	378-9950 378-9969	平成元年3月20日	3,000.12 1,499.93	研修室(3)、和室、調理実習室、音楽室、工作室、ホール	泉図書館分室
松陵	泉区松陵五丁目20番地の2	375-8101 375-6101	平成2年3月10日	2,806.93 1,498.49	研修室(3)、工作室、調理実習室、和室、託児室、ホール	泉図書館分室
寺岡	泉区寺岡二丁目14番地の4	378-4490 378-4534	平成3年3月10日	2,665.42 1,481.22	研修室(3)、和室、調理実習室、トレーニング室、ホール、市民活動室	泉図書館分室
長命ケ丘	泉区長命ケ丘二丁目14番地の15	377-3504 377-3508	平成5年4月27日	2,885.07 1,496.35	会議室、会議室兼調理実習室、和室(2)、娯楽室、親子室、ホール	泉図書館分室
松森	泉区松森字城前9番地の2	776-9510 776-9512	平成11年12月10日	4,000.50 1,870.33	会議室、和室(2)、調理実習室、工作室、ホール、娯楽室、図書室、親子室、市民活動室	コミュニティ防災センター、訪問看護ステーション
桂	泉区桂三丁目19番地の1	375-0550 771-5931	平成13年12月4日	7,759.48 2,268.05	会議室(2)、和室(2)、創作室、調理実習室、娯楽室、親子室、市民活動室、ホール	児童センター(図書室)・コミュニティ防災センター
南中山	泉区南中山二丁目24番地の12	379-4780 348-4340	平成15年11月13日	5,718.56 1,579.66	会議室(2)、和室(3)、調理実習室、研修室、親子室、娯楽室、市民活動室、図書コーナー、体育館	コミュニティ防災センター

３　令和３年度 市民センターの体制

（令和３年４月１日現在）



※仙台市内の市民センター　60 館（青葉区 17 館、宮城野区 10 館、若林区 6 館、太白区 14 館、泉区 13 館）

※市拠点館及び区拠点館については、地区館としての機能も有している。

※地区館の業務（生涯学習事業、施設の使用許可等）は、指定管理者（公益財団法人　仙台ひと・まち交流財団）が行っている。

４　仙台市市民センターの施設理念と運営方針

（令和元年 10 月改定）

は じ め に

仙台市公民館運営審議会からの答申を基に、平成 20 年 12 月に「仙台市市民センターの施設理念と運営方針」を策定し、５年経過した平成 25 年度に見直しを行い、平成 23 年３月の東日本大震災、同年５月の社会教育施設としての役割を堅持した上での区中央市民センターの区役所移管、平成 26 年度の生涯学習支援センターとしての機能強化等を踏まえ、平成 26 年４月に改定を行ったところである。

改定以降、本市では、教育の振興に関する施策の大綱（平成 27 年 12 月）等が、そして、本市教育委員会では第２期仙台市教育振興基本計画（平成 29 年１月）等がそれぞれ策定されたところであり、市民センターにおいては、これら計画等を踏まえた事業の企画・実施等が行われているところである。

また、仙台市震災復興計画（平成 23～27 年度）の計画期間が終了する中、仙台市協働によるまちづくりの推進に関する条例（平成 27 年７月施行）、仙台市障害を理由とする差別をなくし障害のある人もない人も共に暮らしやすいまちをつくる条例（平成 28 年４月施行）、仙台市いじめの防止等に関する条例（平成 31 年４月施行）等の制定、平成 31 年４月の区役所まちづくり推進部の新設など、市民センターをとりまく情勢が変化しているところである。

こうした中、改定後５年を目途とした見直しを行うため、平成 29 年 11 月に仙台市公民館運営審議会に「「仙台市市民センターの施設理念と運営方針」の見直し（第二次）のあり方について」諮問を行った。

審議会においては、市拠点館である教育局生涯学習支援センターの「学びのまち・仙台市民カレッジ事業」及び「学びを支える人材育成推進事業」の事業評価を行い、答申検討の一助にしていただきながら、「拠点館の役割の再検討及び記載の明確化」、「『震災を踏まえた市民センターの役割と取組』及び『市民センターの施設管理の運営方針』の記載事項の内容・構成の再検討」を中心に協議いただいた。

事業視察も含め、合計 13 回、約１年半にわたる審議会の成果として、令和元年７月に「『仙台市市民センターの施設理念と運営方針』の見直し（第二次）のあり方について」の答申がまとめられ、見直しに係る意見やＳＤＧｓとのつながりを意識すること等の提言をいただいた。

上記答申における意見等を受け、併せてこの５年間の社会情勢、教育環境の変化を踏まえ、このたび、「仙台市市民センターの施設理念と運営方針」を改定するものである。

※ＳＤＧｓ（2030 年に向けて世界が合意した 17 の「持続可能な開発目標」）のうち右記の３目標を表記した。

仙台市市民センターの施設理念

市民センターとは、次の３つの機能が一体となって運営される社会教育施設である。

１　市民の学びのプロセスに沿った学習支援のための諸機能を有し、あらゆるライフステージに応じた市民一人ひとりの学びを総合的に支援する、市民との協働による市民本位の生涯学習の支援拠点としての機能

２　子どもから高齢者までのあらゆる市民が集い交流し、多様な市民による様々な活動が主体的に行えるよう支援する場や機能を持った市民のための市民が主役の交流拠点としての機能

３　学びを通して地域の人と人とをつなぎ、住みよいまちづくりにつながる人づくりを行う地域づくりの拠点としての機能

仙台市市民センター事業の運営方針

１．市民センター事業の目的

１）市民センター全体の事業目的

市民センターは、それぞれの地域での市民ニーズに応じた多様な事業を実施することにより、市民一人ひとりの主体的な生涯学習活動が充実し、その活動をきっかけとして仲間が集い交流が生まれ、その相互の交流を通して住みよい地域づくりにつながる自治活動が活発になるなど、それぞれの地域社会のより良い形成に寄与する“人づくり”を目指す。

【重点方針】

・全ての市民センター事業は、この目的に向かって計画性を持って実施する。

・実際の事業の企画・実施にあたり、職員は「きっかけ」「仕掛け」「働きかけ」といった社会教育的関わりを常に意識し、市民の主体的な「学び」を支え、市民と協働して事業に取り組む。

・職員はこのような目的が達成されているかどうかを自己点検・評価するとともに、市民・地域住民による評価を受け、事業の改善に絶えず努める。

・東日本大震災での経験を踏まえるとともに、震災からの復興を見据え、地域課題の解決や地域づくりの担い手の育成に向けた取組の強化を図る。

２）拠点館事業の主要な目的

拠点館事業の主要な目的は、本市における、あらゆる市民のライフステージごとの学習ニーズに対応した、多様な生涯学習事業の計画的かつ体系的な推進である。さらには、指定管理者制度の下で事業を受注している地区館（地区市民センター）に対して、市拠点館（生涯学習支援センター）はその果たすべき業務の目的・目標を設定するとともに、区拠点館（区中央市民センター）は定期的に事業を評価し必要な助言を行うなど、発注者としての地区館事業へのマネジメントを行い社会教育施設としての質の確保を図ることである。

【重点方針】

・拠点館は、体系化された事業計画と社会教育の専門性を持って、市民センター事業全体の質を維持し高めるものとする。
・拠点館職員は常に専門性の維持・向上に努め、地域課題を踏まえた調査研究事業の充実と地区館支援のための環境整備に重点的に取り組むものとする。

３）地区館事業の主要な目的

地区館事業の主要な目的は、地域を基盤とし、地域づくりにつながる人づくりを行うことであり、市民一人ひとりが「出会い・ふれあい・学びあう」ことでつながり、さらには市民自ら地域課題に向き合い住み良いまちづくりに協働して取り組むことができるように支援することである。

【重点方針】

・地区館は“地域づくりの拠点”としての機能を果たすことを重点目標とし、地域のコーディネーターの役割を担うものとする。
・地域の連帯感を高め豊かな地域社会を創るために、地域における市民の主体的で多様な生涯学習活動を支援し、質・量ともに充実するものとする。

２　市民センターの役割

１）　市拠点館（生涯学習支援センター）の基本的な役割

⑴ 市民センターにおける生涯学習事業体系の策定と行動計画の立案、及び全市にわたる生涯学習事業の推進

本市における生涯学習に関わる機関・団体との役割分担を踏まえ、学校教育や関係局・区役所とも連携しながら、市民センターが担うべき生涯学習事業体系を策定し、事業目標を定めた行動計画にしたがって本市の生涯学習事業を着実に推進する。併せて、人材育成にかかる事業を中心とした生涯学習事業を総合的・体系的に実施する。

⑵ 生涯学習推進のための専門性の向上

少子高齢化・国際化・情報化、男女共同参画、多様性配慮などの現代的な課題、ＳＤＧｓや本市が抱える諸課題への先進的な取組み、及び市民のライフステージごとの多様な学習ニーズの把握と効果的なプログラムづくり等の調査・研究を推進するとともに、その成果を地区館等へ還元する。

また、東日本大震災を機に生じた地域社会のあり方、大規模自然災害の備え、エネ

ルギー問題等の社会的課題や社会からの要請に対応する取組についての調査･研究を推進する。

⑶ 市民一人ひとりのニーズに対応した生涯学習支援体制の充実

〔学習活動のネットワーク化とリーダー等の養成〕

市民相互の学習活動やそのネットワーク化を支援するとともに、学習リーダーや学習ボランティアを養成し、その活動を推進する。

〔生涯学習に関する関係機関等との連携・協力の推進〕

生涯学習について、小学校、中学校、高等学校、大学等、市民活動団体等関係機関・団体との連携・協力を推進する。

〔生涯学習情報の計画的体系的な収集と提供〕

計画的で体系的な生涯学習情報の収集と提供を行い、生涯学習相談事業の充実を図る。

⑷ 指定管理者制度下での指定管理業務のマネジメントの推進

市民センターの指定管理業務を統括する立場から、地区館業務の目的とそのための事業の目標及びその要求水準の考え方を明確にし、地区館ごとに事業を評価できる体制を構築する。

⑸ 職員の育成

〔職員研修の体系化と専門研修の充実〕

初任者・中堅者・館長などに対する経験や役割に応じた体系的な研修や、社会教育を担当する職員としての専門性を高める研修の充実を図る。

〔職員への助言及び支援体制づくり〕

事業が具体的な目標のもとに計画的に推進できるよう、事業を担当する職員への専門的な助言や支援のための体制づくりに努める。

２） 区拠点館（区中央市民センター）の基本的な役割

⑴ 区内の生涯学習事業の推進

〔区内の生涯学習事業の推進と地域リーダーの発掘・育成〕

地域の諸団体や学校等、区役所関係課、区内地区館などとの連携を図り地域課題に取り組むことで、区内の生涯学習事業を推進するとともに、区内の地域リーダーの発掘・育成に努める。

〔区内の市民の学習・グループ活動への支援〕

区内の生涯学習活動を幅広く支援するため、生涯学習情報の収集と提供及び相談事業を充実させるとともに、活動する市民・団体等のグループ化やネットワーク化への支援に努める。

⑵ 区内地区館事業への支援

〔関係諸団体との連携の推進〕

地域団体、ＮＰＯ・ボランティア団体等の民間諸団体や、区役所関係課等の行政機関、小学校、中学校、高等学校等の教育機関との連携によって地区館事業が活発に展開されるよう、地区館を積極的に支援する。

特に、地域課題の把握とその対応等に向け、区役所関係課と地区館とが連携して取り組み、市民協働による地域づくりが推進されるよう支援する。

〔家庭及び地域での教育力向上、ジュニアリーダーの育成支援〕

地域での子育て支援や子どもが育つ環境づくりのために、地域団体、民間諸団体、区役所関係課等、学校等、嘱託社会教育主事研究協議会支部等と連携し、地区館において、家庭及び地域社会の教育力の向上に資する取り組みとジュニアリーダーの育成支援が十分に行われるようともに取り組む。

〔地区館職員の育成〕

定期的な連絡会の開催や、区内地区館が連携して進める事業の支援など、地区館職員の育成が図られ、かつ効果的な事業が推進されるよう働きかけを行う。

⑶ 指定管理者制度下での区内地区館業務のマネジメントの推進

地区館業務の目的、各事業の目標及び要求水準をもとに、それぞれの地域ニーズを地区館職員と共有し、より効果的な事業の実施に向けた助言等を行うとともに、事業の結果について的確な評価を行うことで、地区館事業の質・量の充実が図られるよう支援に努める。

３） 地区館（地区市民センター）の基本的な役割

【取組指針】

社会教育施設としての地区館に求められる下記の機能は、相互に関連を持ちながら総合的に発揮されなければならない。それにより、これまで市民センターに関心のなかった人々が、地区館事業に様々な形で関わることができ、地区館が多くの市民の参画を得ながら地域づくりの拠点として活発に機能することになる。

また、地区館の職員は、区拠点館の支援を受けつつ、地域に積極的に出向きながら、これらの機能が総合的に発揮されるよう「きっかけ」をつくり、「仕掛け」「働きかけ」を行い、地域住民や地域の諸団体等と協働して事業を展開していくものとする。

⑴ 地域住民本位の生涯学習拠点機能

〔学習ニーズ・地域課題を踏まえた特色ある事業の実施〕

地域住民を対象にしたアンケート調査や事業運営懇話会、日々の地域情報の収集などを通して地域住民の学習ニーズと地域課題を把握し、目標を明確にした上で特色ある事業を実施する。

〔事業の魅力づくりと参加しやすい条件づくり〕

事業の企画にあたっては「学びを通じての人と人とのつながり」を基本方針とし、地域住民が楽しく参加したくなるような工夫（魅力づくり）や参加しやすい条件を整えるよう努める。

〔市民参画の推進と市民の活動の育成支援〕

市民自らが学ぶことで主体的な活動が地域で多様に展開できるよう、市民参画による事業を積極的に推進するとともに、地域を基盤としたサークル活動や市民活動、ボランティアやジュニアリーダーの育成支援に取り組む。

(2) 地域の交流・拠点機能

〔地域住民の交流の場、子どもたちの交流の場の確保〕

多様な地域住民が気軽に集い、楽しく交流のできる場と機会を設ける。

特に、地域の中で見守られ育まれるべき次代を担う子どもたちのための子育て支援と青少年の交流の場、地域住民と児童生徒との交流の場の確保に配慮する。

〔様々な地域ネットワークの拠点機能＝プラットフォームの確保〕

地域にある様々な団体、ＮＰＯ、ボランティア等が共通の地域課題のもとに集まれるネットワークの拠点としての機能を持つ、プラットフォームを確保するよう努める。

(3) 地域のコミュニティづくり機能

〔コミュニティ意識の醸成〕

地域住民と協働し、地域の歴史・自然・行事などの地域資源を活かした地域文化の継承と創造の事業に継続的に取り組むとともに、地域の魅力と課題の発見を通して、多くの地域住民が地域と関わることができるよう積極的に働きかけ、地域住民のコミュニティ意識の醸成を図る。

〔地域活動を担う人材の育成〕

地域課題を踏まえ、地域の諸団体や学校等と連携しながら、地域での多様な活動を担う人材の育成に努める。この場合において、青少年を含め幅広い世代の人材育成にも配慮しながら取り組む。

〔地区館事業に市民が主体的に関わる仕組みづくり〕

地域に根差した地区館事業を市民と協働で推進するために、地域住民が地区館事業に主体的に関わる仕組み（地域住民による地区館ごとの運営協議会等）を創り活かす。

(4) 地域のコーディネート機能

〔地域にある機関・団体等のネットワーク化の支援〕

町内会・ＰＴＡ・商店街等の地域団体、ＮＰＯ等の民間諸団体、学校等の教育機関や区役所等の行政機関等と連携し、地域住民とともに地域課題に取り組むためのネットワークが構築されるよう支援する。

〔地域と行政機関との仲介・調整〕

“地域の声”を施策や事業につなげるために、地域の諸団体等と行政機関等との仲介及び調整の窓口機能を担う。

(5) 地域の情報ステーション機能

〔地域の資源等の保管と公開〕

地域にある様々な資源（歴史、文化、自然、祭礼行事、施設、人材等）などに関する情報を多様な媒体に整理・保管し、地域住民が必要に応じて閲覧し活用できる仕組みを整える。

〔生涯学習情報・地域情報の収集と提供〕

地域内の学校や社会教育施設、区役所などの行政機関からのお知らせや催し情報のほか、地域団体や各種サークル、ＮＰＯなどからの活動情報や募集情報などを随時収集・整理し、適時、地域住民に提供する。

仙台市市民センターの施設管理の運営方針

１）市民サービスの向上

(1) 利用者の立場に立ったサービスを行う。

(2) 利用者の安全安心の確保に積極的に取り組む。

(3) 利用者のプライバシーを保護するよう十分配慮する。

２）市民交流スペースの確保とオープンスペースの活用

市民の誰もが気軽に立ち寄り、交流のできる場と機能を確保する。

地区館のオープンスペース等に関しては、地域住民にとって魅力ある場となるよう、地域住民の意向を十分に踏まえた各館独自のルール及び運営体制を設けるなど、その利用を促進する。

３）地域住民等との顔の見える関係づくり

地区館は、地域づくりの拠点としての機能を踏まえ、施設管理における日常の様々な場面において、地域住民や地域団体等との顔の見える関係をつくり、信頼され、信頼に応える運営を行う。

震災を踏まえた市民センターの役割と取組

未曽有の被害をもたらした平成 23 年３月の東日本大震災により、大きな被害を受け、建替えを余儀なくされた市民センターがあった一方で、地域住民の避難所となった市民センターも数多くあった。市民センターは、住民に身近な施設として住民の安全を守る役割などを担ったところである。

そして、これまで市民センターにおいては、この震災を踏まえ、震災復興や地域の防災・減災に資する事業、地域の絆を深める事業等に取り組んできたところである。

現在、地域においては、平時から地域団体や住民等が連携しながら、地域における防災体制を構築するなどの安全・安心な地域づくりが求められていることから、災害・防災等に関する知識を深め、防災・減災意識の向上を図るとともに、地域課題の解決や地域づくりの担い手の育成に向けた取組の強化を図ることが重要となっている。

１）災害時における役割

現行の仙台市地域防災計画において、市民センターは、必要に応じて開設される補助避難所に、高砂市民センターは指定避難所に位置づけられており、食料、飲料水等の物資が備蓄されている。

災害時において避難所となる市民センターは、地域防災計画等に基づき、住民等の安全を守るとともに、多様な視点に立ち、求められる配慮を適切に行いながら、避難所の運営に協力し支える役割を担うこととなる。住民に身近で信頼される施設として、災害対応力の向上に努め、災害時における役割を十分に果たしていくものとする。

２）地域の防災体制づくりへの支援

市民センターは、これまで培ってきた小学校、中学校、高等学校及び地域団体等とのネットワークを活かしながら、地域のコミュニティづくり機能やコーディネート機能等を十分に発揮し、防災訓練等も含め、地域の防災体制づくりに資する取組を行うとともに、地域主体の復興まちづくりにおいても、市民センターとしての役割を果たしていくものとする。

３）震災を踏まえた講座等の実施

地域の生涯学習の拠点として、地域の防災・減災に資する講座等を積極的に開催するとともに、震災の経験や教訓、地域の歴史や文化等を広く発信していく。この場合において、次世代への継承、担い手の育成に向け重点的に取り組むものとする。

（付記）

「仙台市市民センターの施設理念と運営方針」は、改定から５年間を目途に見直しを行う。

５　市民センター事業体系

＜事業体系＞

大分類	中分類	事業内容（例）
01 市民が様々な課題に応じて学べるようになる	01 市民がライフステージに応じた課題について学べるようになる	インリーダー研修会 職場体験学習・社会教育実習等の受入 若者と地域住民との交流を深める事業 家庭教育に関する講座 健康づくりに関する講座 老壮大学 自然・教養・文化に関する講座 地域資源を活用した講座
	02 市民が、時代に応じた新しい課題について学べるようになる	学び直しに関わる講座 国際化時代に対応した講座 情報化時代に対応した講座 防災・減災に関する講座 環境保全に関する講座 男女共同参画に関する講座 子育て支援に関する講座 高齢化社会に対応した講座 福祉に関する講座 ボランティア・奉仕活動に関する講座
02 市民が、学習に必要な情報を得ることで、主体的に学べるようになる	01 市民が、市民センターで学習相談・情報提供を受けられるようになる	学習（地域）情報の収集 学習（地域）情報の提供・相談 サークル活動支援
	02 市民が、市民センターの講座情報をいつでも得られるようになる	市民センターだより・講座レポートの発行 生涯学習情報誌の発行 ホームページによる学習情報の発信
03 市民が学んだ成果を地域に生かせるようになる	01 市民が、生涯学習ボランティアとして活動できるようになる	ジュニアリーダーの育成支援 ボランティア養成講座 ボランティア活動の支援
	02 市民が、自らの知識や経験を生涯学習事業に生かせるようになる	市民による地域情報の発信 市民が企画・運営する講座の実施 生涯学習事業の企画の公募
04 市民が、地域で学びの活動を広げるようになる	01 学校、地域、市民活動団体が、地域活動を通して、連携できるようになる	学校と連携した事業 学校支援地域本部と連携した事業 地域の団体と連携した事業 学びのコミュニティづくり推進事業
	02 市民が、自らの学習活動を生かして、地域づくり・人づくりに参加できるようになる	まちづくりに参加する事業 地域間交流事業
	03 市民が、地域の人やほかの団体と交流できるようになる	市民センターまつり 市民の学習発表会 市民交流事業
05 市民が、質の高い市民センター事業を受けられるようにする	01 市民の意見が市民センターの運営に反映できるようにする	事業運営懇話会等 市民ニーズ・地域課題の把握 地域の各種団体と行政・専門機関との仲介・調整

＜事業区分＞

区　分	定　　義
家庭教育推進事業	子育て世代が育児や家庭生活について学ぶことができたり、親子のふれあいを深めることをねらいとする事業 （例）子育て支援講座／親子ふれあい教室／食育講座／思春期親学／ プレパパママ講座／絵本よみきかせ講座
青少年健全育成事業	青少年が様々な体験を通じて学ぶ力を身につけることによって心身の健やかな成長を培ったり、仲間づくりや親子・異世代の交流を図ることをねらいとする事業 （例）インリーダー研修／子どもの広場／キッズクッキング／ 夏休みチャレンジ講座／子ども体験塾
成人学習振興事業	幅広い教養を身につけたり、さまざまな課題を学習する機会を提供するとともに、共通の課題や関心を持つ市民（受講者）相互の仲間づくりや交流を図ることをねらいとする事業 （例）自然体験教室／エコライフ講座／男の料理教室／現代課題対応講座
高齢者学習振興事業	長寿社会の中で、高齢者が学習を通した仲間づくりや交流によって、生きがいを持って社会生活を送ることができるようになることをねらいとする事業 （例）明治青年大学／老壮大学／健康づくり教室／介護予防教室／
地域社会教育推進事業	市民や地域の団体等がイベントや体験活動などを通して、地域住民との交流や地域活動の推進を図ることをねらいとする事業 （例）市民センターまつり／事業運営懇話会／学びのコミュニティ関連事業／ 地域防災教室／社会学級連携事業／地域(自然・伝統)を知る講座
民間指導者育成事業	自らの学習成果や経験を生涯学習ボランティアとして社会に生かす意欲のある人材を養成したり、そのような活動を支援することをねらいとする事業 （例）各種ボランティア育成講座／各種ボランティアスキルアップ研修／ ジュニアリーダー育成支援
学習情報提供・ 学習相談事業	生涯学習の推進に必要な人材や施設、学習機会、サークルなどの情報を収集し市民に提供するとともに、学習相談に応じる事業 （例）学習情報提供・相談／サークル活動支援／サークル体験／ 市民センターだより発行／学習・人材情報収集

６　新型コロナウイルス感染症拡大防止への対応

新型コロナウイルス感染症は、令和元年 12 月末に発生の報告がなされて以降、瞬く間に世界中に蔓延した。国内でも感染が相次ぎ、令和２年２月下旬には不要不急の外出やスポーツ・文化イベントの自粛、学校の休校の要請等が行われ、４月７日には７都府県を対象に緊急事態宣言がなされ、４月 16 日には全都道府県に拡大された。（同宣言は５月 25 日までに全都道府県で解除。）

仙台市では、令和２年２月 27 日に「新型コロナウイルス感染症の発生に伴う仙台市の事業及び施設等の取り扱いに係るガイドライン（暫定版）」が発出され、市民センターにおいても、主催事業を順次中止するとともに、施設使用につき、感染拡大防止を理由とする使用取りやめの場合に使用料を返還する取扱いを開始した。さらに、４月 11 日からは臨時休館となり、既予約団体に利用の自粛を要請するに至った。

市民センターは、６月２日に使用が再開され、以後の事業実施・施設運営は、仙台市の「新型コロナウイルス感染症の発生に伴う仙台市の事業及び施設等の取り扱いに係るガイドライン」（感染症の発生状況等により改訂され、令和３年８月 26 日現在の最新は二十三訂版）に基づき、感染防止策を徹底した上で行っている。

生涯学習事業に関しては、事業内容と感染状況とを勘案し、また必要に応じて連携先等と協議の上、やむを得ず内容の変更や延期・中止とする場合もあるが、市民の学習機会の確保のため、以下に挙げるような工夫を行いながら、講座等の実施を推進している。

【利用自粛を要請した期間（令和２年度関係分）】

・令和２年４月 11 日から５月 31 日まで
・令和３年３月 27 日から５月 11 日まで

【基本的な感染防止策】

・３つの密（密閉・密集・密接）の回避
・人と人との間隔（ソーシャルディスタンス）の確保
・マスク着用、手指消毒の呼びかけ
・こまめな換気
・講座受講者の名簿作成、施設利用者の連絡先把握　等

【講座等実施の際の工夫例】

・受講者数の調整（受講者を２つの班に分け、従来の半分の人数で受講してもらう　等）
・（屋内より感染リスクが低い）屋外を会場とする事業への移行
・コロナ禍の状況に対応した企画（ステイホームに対応した在宅でできる体操の講座　等）
・インターネット動画や資料郵送による情報発信
・オンライン会議システムの活用（遠方の講師による講義　等）　等

Ⅱ　拠 点 館 事 業

令和２年度 市直営事業実績

１　地域づくり支援

市民自ら地域課題に向き合い，住み良いまちづくりにともに取り組むことができるよう，地域の身近な社会教育施設として，多様な学習の機会を創出するとともに，市民の主体的な学びを支援し，学びを通した人づくりに取り組んでいる。

（１）若者社会参画型学習推進事業

若者が地域づくり活動への参加や様々な人々との学び合いを通じて，身近な地域をより良くすることへの意識を高め，自発的・主体的に活動することを学ぶ事業である。

平成 22 年度から 24 年度は「若者によるまちづくり実践塾」という事業名で各区中央市民センター等において実施した。平成 25 年度からは，事業名を変更して各区中央市民センターで実施している。

【各区中央市民センターにおける受講者数等一覧】

区	受講者数	受講者延人数	イベント参加者数	受講者内訳
青葉区	１０	４０	４３	高校生・短大生・大学生
宮城野区	１６	１６３	（実施せず）	高校生
若林区	３０	４１	２４３	大学生・社会人等
太白区	９	６４	（実施せず）	大学生
泉区	１１	６２	６	大学生・専門学校生

① 若者によるまちづくり実践塾

＜青葉区中央市民センター＞

若者自身が地域課題を発見し，その調査・整理・分析を行い，自分たちの取組を発信することで，「若者がまちづくりに関わっていく」という事業のねらいを達成することができるように取り組んできた。活動の発展性を見据えると共に，新たな視点を探りながら，令和元年度に引き続き「多文化共生」をテーマに設定して事業を展開することにした。

しかしながら，コロナ禍により外国人の参加が難しい状況にあり，年度当初に予定していた活動ができなくなったため，参加者自らが事業のねらい等を再度設定し，方向転換を図った。

令和２年度は，若者の視点で青葉区の魅力を再発見することを目的に，全６回（大崎八幡宮近辺１回・川内近辺３回・青葉区中央市民センター近辺１回・宮城西部地区１回）のフィールドワークを行い，それらを動画にまとめて YouTube の仙台市市民センターチャンネルで発信した。参加者にとって新たな視点や気付きが生まれ，主体的に事業に取組むことができた。

取材活動を繰り返し実施したことで，参加者は対話を通して取材対象への考えを深めたり，視野を広く持って考えを巡らせたりすることができ，事業全体を通して他者理解力及び発信力を向上することができた。

② まいぷろ・Miyagino for Young PROgram

＜宮城野区中央市民センター＞

令和 2 年度は，震災から 10 年を迎える「沿岸部のいま」を取材し，ウェブ記事や動画の制作・発表を通じて，①様々な人々と協働し，身近な地域をより良くすることへの関心を高めること，②社会・地域の一員として，自発的・主体的に行動できる人づくりを行うことを目標に取り組んだ。

若者が興味・関心を持った太平洋フェリー仙台営業所やキリンビール仙台工場，南蒲生浄化センター，日和山において取材し，仙台市市民活動サポートセンターや住民参加型ニュースサイト「ＴＯＨＯＫＵ３６０」等と連携し，4 つのウェブ記事を作成した。活動を通して，主体的に行動する大切さを学ぶと同時に，自らの新たなつながりを生むきっかけとなった。

制作過程では，読者に分かりやすく伝えるよう工夫したり，「人の思い」を強調して取り上げたりした。記事を作成する技量の向上とともに，完成度の高いものにしたいという思いが次第に強くなり，そのことが成果物の出来栄えにも表れた。また，活動を通じて，参加者の将来への進路への考えも広がった。

③ 仙白園プロジェクト・人

＜若林区中央市民センター＞

大学生を中心とした概ね 20 代の受講者が，地域のために何ができるかを考えながら，地域交流イベントを活性化させる活動を行っている。

仙白園と名付けた畑（若林区中央市民センターが仙台白菜を誕生させた実験農場である養種園の跡地に立地することに由来）での野菜作りを活動のベースにしながら，年間を通して様々なイベントに取り組む本事業であるが，令和 2 年度は，新型コロナウイルス感染症の流行のため，例年実施してきた収穫祭などで飲食を伴う地域交流は行うことができなかった。一方で，東日本大震災から 10 年の節目の年であったことから，受講者はオンラインでの打ち合わせを重ね，いわゆるご当地サイダーとして「仙台・絆サイダー」を製造し，その頒布によって募った寄付金を六郷東部地区の追悼行事「鎮魂の花火」の打ち上げ費用として寄付する取組みを行った。また，活動の広報のため，ショッピングビルでのブースの出店，ラジオ番組への出演，「仙台防災未来フォーラム」への参加など，幅広い活動を展開することができた。

④ 仙台学生ネットワーク事業「つながりんぐ」

＜太白区中央市民センター＞

地域や地区市民センターから「学生と連絡を取りたいがどうしたらいいかわからない」，また，学生からは「社会貢献したいが窓口がわからない」等の意見を受けて，本事業を平成 26 年に立ち上げ，活動する学生のネットワークを「つながりんぐ」と名付けて活動をスタートした。

令和 2 年度は「つながりんぐ」としては，新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により，学生が所属する大学で，サークル活動等の対外的活動の自粛を要請されるなど，

参画団体による活動計画の立案や，協働による活動を行うことはできなかった。また，多くの団体と連携し好評を得ている長町地域のイベント「ながまち交流フェスタ」も中止となり，例年「つながりんぐ」参画団体が企画運営している「おばけやしき」も実施できなくなるなど，団体同士の顔の見えるつながりづくりは十分な成果を得るには至らなかった。

そのような中，「つながりんぐ」の中心となって活動していた東北工業大学環境サークル「たんぽぽ」の学生から，新型コロナ禍でも社会貢献活動に取り組みたいとの前向きな提案を受けたことから，当該サークルに対する個別の活動支援を行うこととし，長町地域内で子ども食堂を展開するＮＰＯ法人とのマッチングを行い，相互の良好な関係を築くなど，次年度に向けて太白区内における地域活動等の見通しを持つことができた。

⑤ ICP　Izumi Community Project

＜泉区中央市民センター＞

泉区内に通学している大学生を中心とした受講生が地域の現状や課題について考え，学生の自由な発想で地域創造に向けて取り組みたいことを企画し，実施する事業を行った。

令和 2 年度は，受講生数 11 人（延べ 62 人），事業実施回数 15 回，イベント参加者数 6 人。新型コロナウイルス感染症対策のため，7 月から 10 月にかけては月に 1 度オンライン会議システムで参加者増員に向けたミーティングを持った。11 月からは，対面で 8 回定例会を行い，大学生対象の地域づくり講座を 2 月に実施することを決定し，その準備に努めた。12 月には講座開催地の調査や市民センター館長から講話をいただいた。2 月に講座を実施し，地域づくりに携わる方々を招いて学習会を行った。3 月には次年度のチラシを作成した。

社会的波及効果としては，東北学院大学や仙台白百合女子大学等，大学生にＰＲする機会で，本活動について大学生の理解を得ることができた。また，地域づくりに関わろうとしている大学生がいることを多くの方々に伝えることができた。

本事業に関わることで，すべての参加者が自分自身の成長を感じている。中でも，参加することで地域に積極的に関わる楽しさを感じるようになったこと，人とのコミュニケーションの中には多くの学びがあること，チームの中で自分の役割を考え誠実に取り組むようになったことが，記入を重ねた質問紙から読み取ることができる。地区館の事業に積極的に関わる参加者も出てきている。

参加者一人一人が，自分自身の変化を感じるだけでなく，地域づくりに携わりながら生きていくその姿勢の大切さを確認した 1 年間だった。また，制限が多くかかる中で，どのような対策をとれば活動できるか，どんな工夫をすれば周りの理解が得られるかなどの学びを得ることができた。

⑥ 「若者社会参画型学習推進事業」にかかる支援

＜生涯学習支援センター＞

（ア）アイディア会議

（R2.12.11(金)15:50～17:40　参加者:大学生 30 名　各区中央市民センター担当者等 4 名）

今後の事業展開の参考とするために，尚絅学院大学で「地域活動論実習」を受講して

いる学生とともに，これまでの取組みをもとに，事業のブラッシュアップの方向性についてアイディア会議を実施した。

（2）住民参画・問題解決型学習推進事業

各区中央市民センターのコーディネートのもと，住民と市民センターの協働により地域課題を発見し，その課題解決への取組みを学び，実践する事業である。

平成 23 年度から実施しており，地区市民センターとも共催しながら事業を展開している。

【各区中央市民センターにおける受講者数等一覧】

区	受講者数	受講者延人数	イベント参加者数	受講者内訳
青葉区	８６	４４９	１，６６９	宮城西 19，落合 14， 中山 14，吉成 7，折立 32
宮城野区	５２	４６１	６６９	高砂 16，田子 10， 幸町 7，岩切 19
若林区	６４	２７５	１３４	六郷 25，団体 8，若林 20， 沖野 11
太白区	２０	２６	中止	区内 9 団体
泉区	４４	２５７	４５６	泉区中央 14，根白石 10 南光台 7，高森 4，松陵 4， 寺岡 3，桂 2

① 地域元気クラブ

＜青葉区中央市民センター＞

受講生が講座を通じて得た学びやネットワークを生かして，地域の資源や人材を活用し，地域活性化のための企画を提案・実践していくことを通し，地域を元気にするノウハウについて学びを深めることができた。企画する事業への参加者が増えたり，学校をはじめとする地域の諸団体と連携する機会が増えたりするなど，地域づくりにつながるネットワークの構築が進んでいる。

【企画・実施した事業…大倉ダムの魅力発信事業「鯉のぼり×大倉ダム」（宮城西市民センター），ふるさと落合栗生地元塾（落合市民センター），ララら♪歌で元気に（中山市民センター），国見ケ丘・吉成・南吉成地域の魅力再発見（吉成市民センター），折立素敵物語「ライトアートin折立」（折立市民センター）】

② 地域の“絆”再生プロジェクト　「地域づくり講座」

＜宮城野区中央市民センター＞

高砂市民センター，田子市民センター，幸町市民センター，岩切市民センターと連携しながら，住民がこれまで以上に地域づくりに関心を持ち，地域の課題や将来像を共有できるようにするためのワークショップやフィールドワーク等を展開する講座を行った。

「中野ふるさと学校」（高砂市民センター）では，鶴巻小学校 4 年生と「蒲生干潟の自

然観察会と日和山登山」を行った。また，ダーツ交流会を行ったり，移動学習会で閖上日和山・名取市震災復興伝承館へ行ったりと，学びやつながりを深めた。また，「日和山登山」は，コロナ禍のため一般参加者を募集せず有志で行い，仙台蒲生の歴史に触れながら，一人一人が思いをもって登頂を目指した。

「田子今昔物語」（田子市民センター）では，活動範囲を広げ，旧田子村だった福田町界隈のまち歩きを行い，第二弾となるリーフレットを完成させた。地域が持つ魅力を探し出し，人と人のつながりが生まれたほか，ドローン撮影に協力してくださる方や，地域の歴史を知る方との出会いもあり，地域の新たな歴史と魅力を発見することができた。活動の様子（動画）は YouTube の仙台市市民センターチャンネルに掲載した。

「枡江の森 魅力発信プロジェクト」（幸町市民センター）では，市民センター内で展示会を実施し，エリアを分けて魅力発信を行った。「展示エリア」では，これまでの活動や資料，企画員の詩などを展示した。「遊びエリア」では，まつぼっくりツリー作りやどんぐりゴマなどのコーナーを設け，来館者の感想も好評だった。さらに，開催に合わせて行ったクラフトワークショップは，森の豊かさやより活性化するための手段・方法等を学ぶきっかけとなった。

「子どもの広場（居場所）づくりボランティア」（岩切市民センター）では，子どもの遊びや体験を支え，子どもを見守るネットワークづくりを目指している。今年度は，新型コロナウイルス感染防止対策をしながらできることを考え，ジュニアリーダーと連携し，魚釣りコーナーも実施した。ボランティアの方々は毎回約 20 名，子どもの参加状況は平均約 30 名だった。ボランティアのサークル化を目指して話し合いを持ち，横のネットワークづくりに向けて動き出した。

③ わたしのふるさとプロジェクト

＜若林区中央市民センター＞

各地区館と共催して，地域住民が課題と向き合い解決を目指す取り組みを支援した。

「わたしのふるさとプロジェクト」（六郷市民センター）では，東日本大震災以来，六郷東部地区の復興をテーマにコミュニティやにぎわいの再生に向けた活動に取り組んできた。令和 2 年度は，新型コロナウイルス感染拡大防止のため，毎月の定例会を一部オンライン開催としながら話し合いを進め，東六郷小学校跡地を活用した「来てけさいん♪六郷東部夏祭り」を中止し，「ふるさとにつどう鎮魂の花火」は，交流会を中止して花火の打ち上げのみを 12 月 6 日に東六郷小学校跡地周辺で行った。イベントを中止した分，今後の活動についての意見交換や震災の被災者の声を聴く学習会を行うなど，改めて地域を見直す１年となった。

その他，絵本や紙芝居による地域貢献を目指す「読み聞かせボランティア講座」（若林市民センター），おやじの会を中心に地域で子どもたちを育てる「お父さん出番です！」（沖野市民センター）の活動支援を予定したが，コロナ禍の影響を受けて多くのイベントの中止を余儀なくされ，次年度以降への環境整備を行うにとどまった。「ここ・そこ・どこでも 六郷ふるさと音頭」（六郷市民センター）では，歌詞の由来や踊り方を解説する動画を制作し広く公開した。

④ 太白おやじネットワーク事業

＜太白区中央市民センター＞

太白区内各小中学校に在籍する児童・生徒の保護者を中心に構成する通称「おやじの会」の活動を支援することにより，若い世代の地域づくり活動への参画機会の充実と地域づくり活動の活性化を図る取り組みを進めている。

各地域においては，「転勤族が多く，横のつながりが希薄」「高齢者が多く，防災・防犯面で不安」などの地域課題の解決に向けて，意欲的に取り組んでいる「おやじの会」もあれば，活動が停滞している会もある。そこで，各地域での活動を支援しつつ，緩やかにネットワークを形成し，お互いが刺激し合い，学び合う機会の創出を目指した。

令和２年度は，太白区内のおやじの会ネットワークと，太白区中央市民センターの共催事業として毎年取り組んでいる，主に小学生を対象としたスポーツイベント「太白みんなdeスポフェス」の開催を前提として，前向きな協議を進めた。しかし，新型コロナウイルス感染症拡大の影響で市内の夏・秋イベントが軒並み中止となっていく中で，子どもを対象とした大規模イベントの開催は困難と判断し中止とすることとなった。一方，このような中でも，次年度以降の活動の持ち方の意見交換会や情報交換会を３回企画し，うち２回を対面で実施することができ，次年度以降の活動再開に向けて，これまで築いてきたネットワークの関係を維持することができた。

⑤ 地域いきいきプロジェクト

＜泉区中央市民センター＞

区内地区館８館との共催により，区拠点館として事業の実施・運営に関する助言，事業成果の情報発信等を行い，地域特性に応じながら住民と各地区館職員が協働で地域課題を発見し解決につながる活動の実践を推進した。

令和２年度は，泉区中央市民センター（地区館）で，地域の歴史や文化を学び，魅力を伝える新規事業「いずみ探訪～地域案内人養成講座」が始まった。根白石市民センター「かむりの里地域いきいきプロジェクト」では，20～40代の企画員が参加し，旧村民歌の動画化・ジャズラテン風編曲など，郷土愛を未来に生かそうとする取り組みが行われている。

さらに，コロナ禍でも前向きに心穏やかな生活が送れるよう，学びの機会や交流の機会を創出するため，高森市民センター「魅力あふれる高森をめざして」では，講義形式の講座を企画したり，寺岡市民センター「今，思っていることを聞かせて！」では，地域住民同士の掲示板上での意見交換を行ったりした。

また，南光台市民センター「みせましょう！おやじの力」，加茂市民センター「エンジョイ加茂ン」，松陵市民センター「みんなで創る紙芝居講座」，桂市民センター「桂のお茶会」は，前年度と同じ企画員で新型コロナウイルス感染拡大防止対策をとりながら引き続き事業を実施した。

⑥「住民参画・問題解決型学習推進事業」にかかる支援

＜生涯学習支援センター＞

各区中央市民センターで実施している本事業の担当者を対象とした研修会等を実施し，

各区の事業推進を支援した。

（ア） 方向性を確認する会①

（R2.4.14(火)15:30～17:15　参加者：各区中央市民センター子ども事業担当者等 18 名）

生涯学習支援センター・各区中央市民センターの事業担当者を対象に，年度初めに際し，実施計画をもとにした情報交換と，地区市民センターへの事業支援の在り方に関する検討を行うことにより，事業内容をブラッシュアップするとともに，効果的な事業展開を目指すために実施した。

（イ） 方向性を確認する会②

（R2.7.16(木)14:30～17:15　参加者：各区中央市民センター子ども事業担当者等 18 名）

生涯学習支援センター・各区中央市民センターにおける事業の取組状況の報告と今後の予定などの情報の共有化を図り，今後の事業展開の参考とするために実施した。

（ウ） パンフレットの発行

市民や関係機関に向け，住民参画・問題解決型学習推進事業の啓発のため，令和 3 年 3 月に発行した。1,500 部作成し，市民向けに市民センター等に配架するとともに，市内各小中学校にも配布した。

（3）子ども参画型社会創造支援事業

小学校中学年の児童から中学校・高等学校の生徒まで，子どもたちがそれぞれに地域社会の構成員としての意識を育みながら成長していくことを目指し，子どもたち自身が主体的に参画し，子どもならではの役割と可能性を自由に発揮できる事業である。

平成 23 年度から実施しており，各区中央市民センターを中心に，地区市民センターとも共催しながら事業展開を図っている。

【各区中央市民センターにおける受講者数等一覧】

区	受講者数	受講者延人数	イベント参加者数	受講者内訳
青葉区	３６	２７３	７８	幼児，小・中学生，高校生
宮城野区	５０	４５３	７１８	小・中学生，※大学生
若林区	２６	２７５	（実施せず）	小・中学生
太白区	9	３５	（実施せず）	小学生
泉区	8	７５	３６	中学生

※宮城野区の大学生はアシスタントとして参加

① 地域盛り上げ隊

＜青葉区中央市民センター＞

地区館においては，2 つの市民センターで事業を実施している。

広瀬市民センターでは「カッパダ川で地域交流」を実施している。広瀬地区・愛子地区・錦ケ丘地区の交流を目的に，「カッパダ川ダンス部」を立ち上げ，地域に流れる「カッパダ川（千代老堀）」をテーマにしたダンスの練習に取り組んだ。コロナ禍により地域のまつり等での発表は難しかったが，ダンスを YouTube の仙台市市民センターチャンネルで発信することで，活動の周知を図ることができた。本事業を通して，参加者自身が地域への愛着を持ち，地域のひと・もの・ことについて理解を深めるとともに，それらを尊重しようとする心情も育ってきている。受講者がボランティア活動に参加したり，ジュニアリーダーに登録したりするなど，社会参画に資する人材育成の基礎づくりが進んでいる。

青葉区中央市民センター（地区館）では，隣接する東二番丁小学校から参加者を募集し，「東二小やる気キッズ」を実施している。メンバーの興味・関心に基づき，「地域が元気になる活動」を考え，参加者自身が主体となって事業を展開している。活動を通して，参加者が様々なものの見方や考え方を学び，地域に対する思いを高めることを目指している。令和 2 年度は「おばけやしき＆だっしゅつゲーム」を企画・運営し，異年齢間の交流や自己肯定感の向上につながっている。

また，拠点館である青葉区中央市民センターにおいては，「青陵インパクト」を実施している。小学生が地域での活動に目を向け，将来主体的に地域で活躍できる人材に育つことを目指し，仙台青陵中等教育学校の中学生・高校生のメンバーがカードゲームを制作し，活用を図った。メンバーが意見を練り合い，町内会役員の仕事を取材した経験を紙芝居や新聞にまとめたり，カードゲームのルール説明用の動画を制作したりした。本事業への参加者は，企画・制作を通して地域活動への興味・関心が高まり，意欲的にこの事業に取り組んでいる。

なお，拠点館ではこの他にも，区内の小・中学生から「あなたのまちの『すてき』を絵・川柳にしよう！」を募集し，令和 2 年度は絵画 83 点，川柳 173 点の作品が集まり，小・中学生の地域への関心の高まりがうかがえる。

② 宮城野区子ども参画プロジェクト

＜宮城野区中央市民センター＞

2 つの地区館と共催で，子どもたち目線でそれぞれの地域を盛り上げた。子どもたちが地域の市民センター等に自分たちの活動拠点を設け，イベント企画や情報収集・発信の活動によって地域とつながり，社会に参画していくきっかけづくりとなった。

宮城野区中央市民センター（地区館）では，原町小・宮城野小・東宮城野小児童を対象とした，「キッズもりあげ隊」を実施。「交流」と「仲間集め」をテーマに，「ちいきスタンプラリーde ビンゴ」や「キッズ学園 学園長からの挑戦状！」などの企画・運営を行い，子どもから大人までみんなで楽しく交流できる場づくりを行った。

鶴ケ谷市民センターでは，中学校の部活動顧問やスーパーバイザーと連携し，鶴谷中学校美術部の生徒が主体となり，「つるっこ画樹園～実れ！鶴心（ツルココ）～」を実施し

た。地域の魅力的なスポットを透明水彩画で表現し，「杜の美術セカンド展」を中学生たちが企画・運営した。

③ 子どもボランティア事業　チャイルドボランティア「チャボ！」

＜若林区中央市民センター＞

子どもたちに地域でのボランティア活動の機会を作ったり，子ども自身が「地域のためにできること」を企画・実施する活動をしたりすることで，自分の存在の大切さを実感するとともに，将来，社会・地域にその一員として積極的に関わることができるようにしていく事業。対象は当センター近隣の小学 4 年生～中学生。地域の団体や施設などの協力を得て，一年を通して月 1，2 回活動しており，令和 2 年度は，感染防止ポスター制作，地域清掃，沿岸地域での育樹会や深沼ビーチクリーンへの参加，高齢の方に届ける宅配弁当に添える手紙書き，地域を元気にするチャボ！ダンスソング制作などの活動を行った。

④ たいはくキッズリーダー育成事業

＜太白区中央市民センター＞

「エフエムたいはくキッズ情報局」は，西多賀市民センターとの共催により，近隣小学校 3 校から参加児童を募集し，地域の魅力を取材し，まとめ，エフエムたいはくのラジオで発信するという事業内容で，全 5 回活動した。エフエムたいはくのキッズアナウンサーとして，また，地域のキッズリーダーとして，市民センターを拠点に活動することにより，地域のさまざまな方と交流することができた。また，番組制作を通して，自分たちの地域を学習したり，地域の良さを再発見したりすることができ，自分たちの地域の良さをもっと調べて発信したいという意欲につながった。

「見つける！伝える！ヒロセ川！」は，長町地区の広瀬川近隣の小学校 2 校から参加児童を募集し，広瀬川をテーマとした体験活動を通した学びをエフエムたいはくから発信する事業で，全 4 回活動した。広瀬川の生物を採集して観察したり，広瀬川でカヌー体験したりすることを通して広瀬川の魅力等を再発見し，学んだことをＦＭ放送で発信した。事業を通した地域の交流は，将来の地域を支える担い手を育む一助となった。

⑤ 子どもまちづくり企画室

＜泉区中央市民センター＞

南光台市民センター「南光台をもっと元気に委員会 2」と連携し，区拠点館として事業の実施・運営に関する助言，事業成果の情報発信等を行い，地域を舞台とした子ども参画型社会創造支援事業を推進した。

南光台市民センターでは，平成 30 年度以来継続して子ども参画型社会創造支援事業の趣旨を踏まえた事業を行ってきた。3 年目となる令和 2 年度は，新たなメンバーを増やしながら「南光台をさらに活性化したい」という子どもたちの思いを実現すべく，南光台の旧跡や人物，文化など様々な地域資源を題材にした「南光台かるた」を作成し，それを使った「巨大かるた大会」の企画・運営を行った。

本事業では，かるた大会に参加した地域住民の世代間交流が図られたほか，企画員とし

て参加していた中学生４人が市民センターのジュニアリーダーサークルに加わり，サークルのメンバーが本事業企画員として参加する，といったジュニアリーダー育成支援事業への波及効果も見られた。

また，南光台市民センター周辺の小・中学校の校長をはじめとする教職員，嘱託社会教育主事からは，子どもたちへの声がけや励まし，かるた大会当日の参加など，本事業への理解や協力が得られ，学校と地域の連携促進につながった。

⑥ 「子ども参画型社会創造支援事業」にかかる支援

＜生涯学習支援センター＞

各区中央市民センターで実施している本事業の担当者を対象とした報告会等を実施し，各区の事業推進を支援した。

（ア） 方向性を確認する会①

（R2. 4. 14（火）15：30～17：15　参加者：各区中央市民センター子ども事業担当者等 18 名）

生涯学習支援センター・各区中央市民センターの事業担当者を対象に，年度初めに際し，実施計画をもとに情報交換を行い，今年度の事業展開について見通しを持つことを目的として実施した。

（イ） 方向性を確認する会②

（R2. 7. 16（木）14：30～17：15　参加者：各区中央市民センター子ども事業担当者等 18 名）

生涯学習支援センター・各区中央市民センターの事業担当者を対象に，情報交換と地区市民センターへの事業支援の在り方に関する検討を行うことにより，事業内容をブラッシュアップし，効果的な事業展開を推進することを目的として実施した。

（ウ） リーフレットの発行

地区市民センター及び仙台市内の小中学校に向けて，子ども参画型社会創造支援事業の啓発のため，令和３年３月に発行した。事業に参加している子どもの声を取り上げるなど，学校教職員など子どもと関わる方々の理解が得られるような内容として 1，500 部作成し，地区市民センター職員と市内小中学校，高等学校，中等教育学校，さらに本年度から各小中学校のＰＴＡにも配付した。

（４） 仙台市市民センター事業展「市民センターを楽しむ学びのカタチ」

＜生涯学習支援センター＞

市民センターにおける主体的な生涯学習活動に対する市民の関心を高めるため，せんだいメディアテークを会場に，市民参画型事業を中心として，各市民センターの特色ある取組をパネルや映像で紹介した。

前年度までは，若者社会参画型学習推進事業，住民参画・問題解決型学習推進事業，子ども参画型社会創造支援事業の事業参加者や担当職員が一堂に会し，各事業の取組みの様子などを発表する成果報告会を実施してきたが，本年度は新型コロナウイルス感染症の流行を踏まえ，大人数が同じ時間に集まることのないよう，展示を自由に観覧してもらう形で事業成果を紹介した。

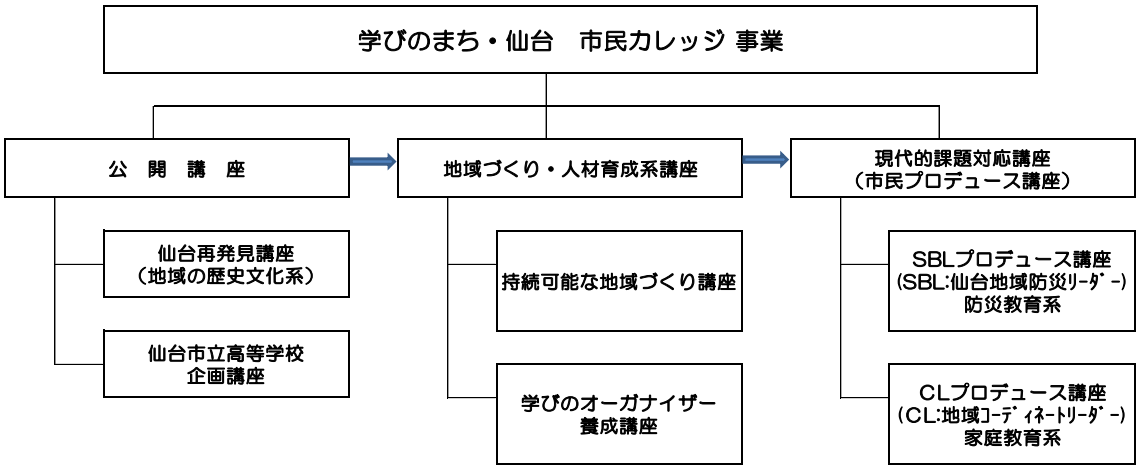
（R3.1.16(土)～17(日)

参加者：市民 145 名　市民センター職員 62 名　行政・教育関係職員 61 名）

（5） 学びのまち・仙台 市民カレッジ事業

＜生涯学習支援センター＞

本市における生涯学習の支援拠点として，全市域の市民を対象に，地域資源や地域課題，現代的課題等をテーマに，専門的で質の高い学習の機会を提供することで，地域づくりを牽引する人材の育成を目指すとともに，学習成果が地域や社会に還元されるような仕組みづくりを進める。



① 公開講座

（ア）仙台再発見講座　５回連続講座

仙台の従来気付かなかった側面を改めて見出すことを共通テーマに，歴史，文化，仙台の原風景等それぞれの専門家による講座を実施した。

回	日　時	概　　要	受講者
1	1.9(土) 14:00～16:00	講話「仙台伊達家の家紋～具足や調度にみる家紋事情」 仙台市博物館　副館長　髙橋あけみ 氏	39
2	1.16(土) 14:00～16:00	講話「仙台シネマ～スクリーンに映る仙台の風景」 せんだい・宮城フィルムコミッション　渡邉由香里 氏	41
3	1.23(土) 14:00～16:00	講話「仙台のまちの歴史～取材を通して触れる仙台のあれこれ」 有限会社荒蝦夷　「仙台学」編集長　千葉由香 氏	37
4	2.6(土) 14:00～16:00	講話「仙台の文学～井上ひさしと仙台」 仙台文学館　副館長　赤間亜生 氏	35
5	2.13(土) 14:00～16:00	講話「仙台と鉄道～文化資源ガクの視点から」 東北福祉大学･鉄道交流ステーション　学芸員　鈴木佳子 氏	31

（イ）市立高等学校教員による企画講座

仙台市立高等学校の教員を派遣してもらい，市民向けの実学的な講座を開催する。「高等学校開放講座」事業と連動して行う。(p.36「高等学校開放講座」参照)

② 地域づくり・人材育成系講座

地域づくりに関する専門性を高める学習の場を提供することで，身近な地域をより良くするため主体的に行動するとともに，中核となって地域を支える人材の育成を図る。(令和２年度は，新型コロナウイルス感染症の影響により未実施。)

③ 現代的課題対応講座（市民プロデュース講座）

市民センターの講座等の受講生や市内で活動する団体等が，身近な地域をより良くするために，学びや専門性を生かして講座の企画やコーディネートを行い，他の市民とともに専門的な講話やワークショップから学ぶ。前年度に続き，仙台市地域防災リーダー（ＳＢＬ），学校支援地域本部のスーパーバイザーやコーディネーター等の地域コーディネートリーダー（ＣＬ）の企画・運営による講座を実施した。

ⅰ）ＳＢＬプロデュース講座　「防災・減災講座」　５回連続講座

回	開催日	概　　要	受講者
1	10.3(土) 14:00～16:30	講話「予防の段階から災害に向き合う ～防災啓発ドキュメンタリー映画制作を通して～」 認定ＮＰＯ法人 桜ライン３１１　理事　小川光一 氏	20
2	10.24(土) 14:00～16:30	講話「3.11 から学ぶ「災害をのりこえる」」 東北大学災害科学国際研究所　准教授　佐藤翔輔 氏	22
3	11.7(土) 14:00～16:30	講話「救急車が到着するまで、あなたがとるべき行動は？」 東北医科薬科大学　准教授　遠藤智之 氏	27
4	11.14(土) 14:00～16:30	講話「緊急時の避難と心理学」 東北大学災害科学国際研究所　教授　邑本俊亮 氏	19
5	12.5(土) 14:00～16:30	講話「学習のまとめ「防災エンスショー」」 株式会社ＭＣラボ　代表取締役　阿部清人 氏	20

ⅱ）ＣＬプロデュース講座　「子どもの『こころ』のアレやコレ」　２回連続講座

回	開催日	概　　要	受講者
1	11.27(金) 10:00～12:00	講話「子どものストレスのとらえ方」 学校法人ろりぽっぷ学園　カウンセラー　八巻寛治 氏	40
2	12.4(金) 10:00～12:00	講話「ストレスを抱えた子どもとのかかわり方」 学校法人ろりぽっぷ学園　カウンセラー　八巻寛治 氏	39

２　広域規模の学習支援

（１）高等学校開放講座

＜生涯学習支援センター＞

高等学校の持つ教育機能を生かし，市民の生活上・職業上の専門知識・技能及び一般教養の修得を図る。 【昭和 51 年度開始　市立高校５校・５講座，受講生 28 名，延 66 名】

学校名	講座名	内容	実施日	受講者
仙台青陵中等教育学校	オリジナルカードを作ろう！	画用紙やカードに刺繍をしたり，飾りを付けたりして，オリジナルカードを作る。	11.12(木)～ 11.13(金)	3
仙台商業高校	表計算入門『エクセル基礎講座』～表計算ソフトを基礎から学ぶ～	エクセル 2019 を使って，表計算ソフトの基礎や，関数の利用，いろいろな表やグラフの作成などを学ぶ。	11.28(土)～ 11.29(日)	18
仙台大志高校	防災カレンダー作り講習会	お気に入りの写真や記念日を付け加えたオリジナルカレンダーの裏面に，防災関連の心得や避難場所を記載して，非常時にも役立つカレンダーを作る。	12.25(金)～ 12.26(土)	1
仙台高校	英語の有名表現を諳んじよう！	英詩，英語の歌，有名演説等をネイティブのように流ちょうに諳んじることに挑戦する。	12.25(金)～ 12.28(月)	6
仙台工業高校	「自分で描いた絵で作る！プラ板キーホルダー講座」の開設を計画したが，新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により中止した。			

（２）若い青年教室

＜生涯学習支援センター＞

仙台市内に在住又は勤務している知的障害のある青年に対し，仲間づくりや生活上の基本的知識・技能の習得に役立つ活動を展開することを目的として，学習機会を提供する事業を行った。【昭和 45 年度開設，令和 2 年度末教室生 31 名】

主な活動内容	実施回数	延参加者
○顔合わせ会（1回）：10/18 講師と教室生の顔合わせと，映画鑑賞を行った。 ○学習会（3回）：11/25，12/13，1/24 クッキング，音楽，探検・スポーツ，創作・美術の4コースの中から希望するコースごとに分かれて2回の学習を行った。そのほかクリスマス会，節分行事を行った。 ○各回とも青葉区中央市民センターを会場に開催。 ※年度当初は年8回の開催を予定していたが，新型コロナウイルス感染症の感染拡大等のため，4回（4/12，6/14，7/19，2/14）の開催を中止した。また，1回の活動時間について，従来午前10時から昼食をはさんで午後3時頃までとしていたところ，短縮して正午終了とした。	4	71

（3）仙台明治青年大学

＜生涯学習支援センター＞

地区市民センターの老壮大学やシルバーセンターのせんだい豊齢学園等を修了した 61 歳以上の高齢者が「生きがいと自己実現」を図ることを目的として，学習会などを自主運営により開催している。同期会やクラブ活動，ボランティア活動も盛んに行われている。

本学は昭和 41 年に開設され，令和 3 年度に創立 55 周年を迎える。

（年度別在籍者数の推移）

年　度	H28	H29	H30	R1	R2
新入生数	74	78	74	68	60
在籍者総数	810	806	821	824	807

（主な活動）

活　動	活動内容	実施回数	延参加者
学習会	太白区文化センター楽楽楽ホールを会場に開催。1 回あたりの平均出席者数は 257 名であった。文化芸能，健康，震災などをテーマに，外部講師を招聘し実施した。年度当初は年 20 回の開催を予定していたが，新型コロナウイルス感染症の感染拡大等のため，8 回の開催を中止した。	12	3,609
式典	入学・開講式及び修了・閉講式を計画していたが，令和 2 年度は新型コロナウイルス感染症の影響で中止した。	－	－
大学祭	クラブ活動等の発表の場として，楽楽楽ホールと生涯学習支援センターを会場に 2 日間計画していたが，令和 2 年度は新型コロナウイルス感染症の影響で中止した。	－	－
広報活動	・学生間の情報共有を促進するため，学内広報誌「団欒」を発刊した。 ・文芸誌「老学文苑」を発刊した。	－	－
ボランティア活動	・近隣小学校，児童館，児童養護施設等で昔遊びや囲碁・将棋，七夕飾り作り等を教えている。 ・市民センター事業への協力や外部からの要請に対応した。	－	－

（4）仙台自主夜間中学

「仙台自主夜間中学」（主催：仙台自主夜間中学（「仙台に夜間中学をつくり育てる会」から令和 3 年 5 月に名称変更））を仙台市教育委員会との共催事業と位置付け，一部会場の提供，チラシ配布による広報支援等を行った。

第 1･3 水曜日　昼間部開講 20 回（会場:仙台市市民活動サポートセンター）
第 1･3 水曜日，第 2･4 金曜日　夜間部開講 37 回（会場：生涯学習支援センター）
参加者延数　1,355 人（生徒 630 人　スタッフ 687 人　見学等 38 人）
令和 3 年 3 月末実数　生徒 53 人　スタッフ 35 人

３　人材育成

（１）職員研修（学びを支える人材育成推進事業）

＜生涯学習支援センター＞

市民センター全 60 館ならびに 19 箇所の社会教育施設等の職員が，生涯学習事業の推進に必要な知識や考え方を深められるようにするとともに，社会の変化や市民ニーズに迅速かつ柔軟に対応しながら，積極的に市民や地域と連携を図ることができる専門性やスキルを身に付けられるようにする。

区分	受講対象	研修名と概要	受講者
基礎研修	・市民センター職員 ・他の社会教育施設職員(博物館，科学館，図書館，天文台，大倉ふるさとセンター，オーエンス泉岳自然ふれあい館，仙台ひと・まち交流財団，仙台市市民文化事業団 5 施設) ・関係課職員	**◇社会教育施設等新任職員研修【全 1 回】** 5/22（金）15:00～17:00 ◎講話「社会教育入門」※講師のみオンライン 仙台白百合女子大学　特任教授　高橋 満　氏 **◇社会教育施設等職員資質向上研修【全 3 回】** **＜第 1 回「学習支援者としての在り方」＞** 7/10（金）14:00～17:00 ◎講話「学習支援者としての役割」 東北大学高度教養教育・学生支援機構 准教授　佐藤智子　氏 ◎グループワーク・演習 **＜第 2 回「学びのオーガナイザーとしての在り方」＞** 10/2（金）14:00～17:00 ◎講話「学びのオーガナイザーとしての役割」 文教大学　准教授　青山鉄兵　氏 ◎グループワーク **＜第 3 回「社会教育における評価」＞** 12/13（金）14:00～17:00 ◎講話「社会教育と評価の方法」 特定非営利活動法人 教育支援協会 代表理事　吉田博彦　氏	39 29 22 21
	・市民センター職員	**◇市民センター新任職員研修【全 1 回】** 5/29（金）14:15～17:00 ◎講話 1　「市民センターの概要」 ◎講話 2　「学校との連携について」 ◎講話 3　「市民参画型事業について」 ◎講話 4　「ジュニアリーダー育成支援について」 ◎講話 5　「職員研修について」 以上、生涯学習支援センター職員 ◎講話 6　「新任職員への期待」※講師のみオンライン 東北学院大学　教授　水谷 修　氏	37

区分	受講対象	研修名と概要	受講者
基礎研修	・市民センター館長	**◇市民センター館長研修【全１回】** 8/25（火）14:00～17:00　※講師のみオンライン ◎講話「教育における動向と政策について」 国立大学法人宮城教育大学 学長特別補佐　野澤令照　氏 ◎グループワーク	55
	・市民センター職員 ・他の社会教育施設職員 ・関係課職員	**◇現代的課題対応研修【全２回】** **＜第１回＞** 7/31（金）14:00～17:00 ◎講話「障害者の生涯学習支援について」 文部科学省　障害者学習支援推進室 障害者学習支援第一係　係長　井口啓太郎　氏 障害者学習支援第一係　鈴木孝志　氏 ◎グループワーク **＜第２回＞** 8/21（金）14:00～17:00　※講師のみオンライン ◎講話「超高齢社会における社会教育施設の役割～市民目線と職員目線から『高齢者』を知る～」 東京都健康長寿医療センター研究所 研究部長　藤原佳典　氏 ◎グループワーク	31 37
応用研修	・市民センター職員 ・他の社会教育施設職員 ・関係課職員	**◇ファシリテーション研修（基礎）【全３回】** **＜第１回～初級編～＞** 7/1（水）14:00～17:00 ◎講話とワークショップ「ファシリテーション入門」 地域社会デザイン・ラボ　代表　遠藤智栄　氏 **＜第２回～ワークショップ編～＞** 7/29（水）14:00～17:00 ◎講話とワークショップ 「ワークショップ体験とファシリテーション」 地域社会デザイン・ラボ　代表　遠藤智栄　氏 **＜第３回～会議編～＞** 9/3（木）14:00～17:00 ◎講話とワークショップ 「会議でのファシリテーション」 地域社会デザイン・ラボ　代表　遠藤智栄　氏	24 24 24
	・市民センター職員 ・他の社会教育施設職員 ・関係課職員	**◇ファシリテーション研修（応用）【全２回】** **＜第１回～スキルアップ①～＞** 12/23（水）14:00～17:00 ◎講話とワークショップ 「ファシリテーションのスキルアップ①」 地域社会デザイン・ラボ　代表　遠藤智栄　氏 **＜第２回～スキルアップ②～＞** 1/22（金）14:00～17:00 ◎講話とワークショップ 「ファシリテーションのスキルアップ②」 地域社会デザイン・ラボ　代表　遠藤智栄　氏	8 7

区分	受講対象	研修名と概要	受講者
応用研修	・市民センター職員 ・他の社会教育施設職員 ・関係課職員	**◇講座企画研修（基礎）【全１回】** 6/12（金）14:00～17:00 ◎講話とワークショップ「企画・立案する際のポイント」 尚絅学院大学　教授　松田道雄　氏	26
	・市民センター職員 ・他の社会教育施設職員 ・関係課職員	**◇講座企画研修（応用）【全２回】** **＜第１回＞** 9/9（水）14:00～17:00 ◎講話とワークショップ 「各講座（事業）の持ち寄り，講座運営のポイント」 尚絅学院大学　教授　松田道雄　氏 **＜第２回＞** 11/18（水）14:00～17:00　※講師のみオンライン ◎講話とワークショップ「企画のプレゼンと練り合い」 尚絅学院大学　教授　松田道雄　氏	24 17
	・市民センター職員 ・他の社会教育施設職員 ・関係課職員	**◇広報企画研修【全１回】** 9/18（金）14:00～17:00 ◎講話とグループワーク 「効果的な情報発信～広報戦略のすすめ～」 仙台市市民活動サポートセンター 副センター長　松村翔子　氏	33
社会教育研修	・生涯学習支援センター，各区中央市民センター等に所属する社会教育主事等教育局職員	**◇社会教育推進研修【全１回】** 6/10（水）14:15～17:15　　【講師のみオンライン】 ◎講話 「社会教育主事の役割～生涯学習への支援のあり方～」 尚絅学院大学　教授　松田道雄　氏 ◎グループワーク	18
	・市民センター職員 ・他の社会教育施設職員 ・地域連携担当教員 ・嘱託社会教育主事 ・関係課職員・関係教員	**◇学校との連携・協働研修【全１回】** 10/23（金）14:00～16:45 ◎講話 「社会教育と学校教育の連携・協働について ～『学校を核とした地域づくり』における 社会教育施設の役割～」 国立大学法人宮城教育大学 学長特別補佐　野澤令照　氏 ◎グループワーク ※対象を社会教育施設等職員に限定して開催。	41
	・市民センター職員 ・他の社会教育施設職員 ・関係課職員 ・希望する市民	**◇学びの還元（ボランティア）研修【全１回】** 11/20（金）14:00～17:00　仙台市縄文の森広場 ◎施設見学「仙台市縄文の森広場の施設概要」 ◎講話　「仙台市縄文の森広場の事業概要」 「ボランティアスタッフの育成と活動の実際」 仙台市縄文の森広場職員	15

（2）学びの還元（ボランティア）研修

＜生涯学習支援センター＞

「学びのまち・仙台」を支える基盤の充実を目指し，より多くの市民や団体等が，学びの活動に参画できるよう，市民や行政といった立場の違いを越えて理念の共有を図るとともに，ネットワークの構築を進めることを目的として実施した。

※職員研修・発展研修としても位置付ける。

受講対象	概　要	受講者
・市民センター職員 ・社会教育施設職員 ・関係課職員 ・希望する市民（生涯学習ボランティア等）	11/20（金）14:00～17:00　仙台市縄文の森広場 ◎施設見学「仙台市縄文の森広場の施設概要」 ◎講話「仙台市縄文の森広場の事業概要」 「ボランティアスタッフの育成と活動の実際」 仙台市縄文の森広場職員	15

（3）地域コーディネートリーダー研修

＜生涯学習支援センター＞

子どもを育む地域力を高める視点に立ち，地域内のコミュニケーションやネットワークの活性化を目指し，地域で核となる人材を育成する事業。実際に地域で活躍している市民（企画員）との協働により研修内容を企画・実施した。

受講対象	概　要	受講者
・学校支援地域本部事業，放課後子ども教室事業，図書室等開放事業，社会学級，学コミ事業の関係者 ・ＰＴＡ関係者，学校教員，児童館職員 ・市民センター職員 ・その他	**◇第１回「地域コーディネートリーダー研修会」** 10/30（水）に計画していたが，新型コロナウイルスの流行を踏まえ，研修会は中止とした。参加対象者の情報共有のため，コロナ禍における子ども・学校・地域の様子や活動の工夫についてアンケートを行い，「おらほのコロナチエ」と題した冊子にまとめ，配布した。 **◇第２回「地域コーディネートリーダー研修会」** 2/20（土）13:30～15:00 ◎情報交換会 ◎励ましのメッセージ 研修アドバイザー 国立大学法人宮城教育大学 学長特別補佐　野澤令照　氏 **※地域コーディネートリーダー研修会企画員会** 研修会の方向性や内容の検討（全４回　延参加者 45 名） 5/19(火)15:30～17:00，10/30(金)15:00～17:00， 12/1(火)15:00～17:00，3/9(火)10:00～12:00	－ 72

（4） ボランティア養成等人材育成事業

① 託児ボランティア養成・活動支援

＜生涯学習支援センター・各区中央市民センター＞

子育て中の保護者が安心して学習できるよう，市民センターでは託児付きの講座を設けている（令和2年度実績：5事業）。

託児は，ボランティアグループによる主体的な運営を基本としており，そのため，託児ボランティアグループの活動を支援するとともに，新たな託児ボランティアの養成のための研修会を実施している。

事業名	開催日	内　　容	延受講者
託児ボランティア連絡会	6月30日 10月13日 3月 2日	市民センターで活動する託児ボランティアグループの代表者等と意見交換を行うため，連絡会を開催した。	33
託児ボランティア養成講座	8月26日 9月 2日 9月 9日 9月16日 9月30日 全回水曜日 10:00～ 11:30	託児ボランティアとしての活動に必要な知識や技術を学ぶ講座（全5回）を実施した。新型コロナウイルス感染症対策のため，託児は行わなかった。 ①オリエンテーション「託児ボランティア活動について」 ②講話「子どもを取り巻く環境①遊びと発達」 仙台市支倉保育所　地域子育て支援センター 主任保育士　髙橋伸子　氏 ③移動学習「子どもを取り巻く環境②保育所見学」 仙台市向山保育所見学 ④講話「子どもの病気と怪我」 仙台市宮城野区家庭健康課母子保健係 保健師　菅野友紀　氏 ⑤話し合い，実技「これからの活動に向けて」	47
託児ボランティアフォローアップ研修	10月13日 （火） 10:00～ 12:00	より質の高い託児室運営のため，託児ボランティアの資質や技術向上に役立つ研修を実施した。 講話「よみきかせを楽しみましょう」 あっぷる保育園園長　杉山秀子　氏	30

【託児ボランティアグループ一覧】（令和3年3月現在）

グループ名	設立年月	主な活動区域（区域以外での活動も有り）	会員数
にんじん	S59. 7	宮城野区，青葉区	8
たんぽぽ	H 3	太白区	12
アリスの会	H 5. 7	若林区，青葉区，宮城野区	4
てっての会	H 6. 4	青葉区・泉区	7
クリップ	H 9. 4	市内全般	6
ひまわり	H 9. 8	泉区，青葉区，宮城野区を主として市内全般	7
でんでんむし	H12. 3	太白区	8
さくらんぼ	H14. 5	青葉区	6
ハイジ	H22. 4	若林区	5
合計　9グループ　/　会員数　63名			

② 図書ボランティア活動支援

＜生涯学習支援センター＞

市民センター併設の図書室（48 館）のうち 30 館の図書室では，市民ボランティアの協力により図書の貸し出し等の運営を行っている。

【図書ボランティアー覧】（令和 3 年 3 月現在）

グループ名	活動館	会員数
さくらさくら	北山市民センター	12
カンナの会	福沢市民センター	11
ぽけっと	三本松市民センター	6
片平市民センター・児童館図書ボランティア	片平市民センター	5
（グループ名なし）	水の森市民センター	13
ひまわり	貝ケ森市民センター	8
（グループ名なし）	中山市民センター	4
図書ボランティアコスモス文庫	大沢市民センター	13
栞の会	落合市民センター	11
たんぽぽ	吉成市民センター	10
木町通図書ボランティア	木町通市民センター	7
かすみそう	高砂市民センター	4
しおりの会	岩切市民センター	11
もくれんの会	鶴ケ谷市民センター	14
ターンぽっぽ	東部市民センター	5
（グループ名なし）	田子市民センター	6
（グループ名なし）	七郷市民センター	8
わかば	荒町市民センター	7
（グループ名なし）	沖野市民センター	8
（グループ名なし）	生出市民センター	5
ブックスフレンド中田	中田市民センター	7
（グループ名なし）	西多賀市民センター	3
（グループ名なし）	八木山市民センター	30
図書ボランティア縄文	山田市民センター	8
茂庭台図書ボランティア	茂庭台市民センター	9
（グループ名なし）	東中田市民センター	7
ブックポケット	柳生市民センター	12
富沢市民センター図書ボランティアの会	富沢市民センター	14
（グループ名なし）	松森市民センター	8
図書ボランティア「虹」	南中山市民センター	9
ボランティア数計 275 名		

（5） 実習受入

○社会教育実習生

東北学院大学，宮城教育大学からの依頼を受け，各大学の社会教育主事資格取得を目指す学生を社会教育実習生として生涯学習支援センター及び各区中央市民センターで受け入れ，公民館（市民センター）の概要や講座の企画立案・実践について指導した。

a. 施設実習　R2.9.1（火）～R2.9.6（日）

b. 講座実習　R2.11 上旬～12 上旬

c. 実習報告　R3.2.4（木）

実習生　東北学院大学 10 名(a.b.c.)，宮城教育大学 9 名(a.のみ)

○大学生施設見学（生涯学習支援センター）

大学の授業の一環として施設見学を受け入れ,市民センター業務について学ぶ機会を提供した。

聖和学園短期大学……約 30 名

○インターンシップ（青葉区中央市民センター）

大学生が市民センター事業や来館者との交流等を通じて,社会人としての実践的なスキルを身につけるとともに就職活動の参考となるよう，実習生を受け入れ指導した。

東北文化学園大学……4 名

○児童・生徒の職場体験実習

小学生，中学生の職場体験実習を受け入れ，市民センター業務について学ぶ機会を提供している。

≪生涯学習支援センターの受入実績　小学校（１校 36 名）≫

【中学校職場体験】

仙台市立東仙台中学校……新型コロナウイルス感染症の影響により中止

仙台市立八木山中学校……新型コロナウイルス感染症の影響により中止

【仙台市立榴岡小学校】

第２学年生活科「まちたんけん」……　36 名

※各区中央市民センター（拠点館）においても，同様に児童・生徒の職場体験実習を受け入れている。

4　ジュニアリーダー

ジュニアリーダー育成・支援

ジュニアリーダーとは，青少年ボランティア活動の一環として，地域の市民センターを拠点とするサークルに所属し活動する中学生・高校生のことであり，地域の子ども会活動のお手伝いや様々なボランティア活動に積極的に取り組んでおり，自身の人格形成にも生かされている。

ジュニアリーダー育成支援は，社会教育における“青少年の健全育成”，また，“学びを通した人づくり”の一環として位置づけられる重要な事業である。仙台市生涯学習支援センターおよび各区中央市民センターでは，ジュニアリーダーを育成するために，下図の通り段階的に研修会を開き，ジュニアリーダー活動に必要な知識や技能を習得する場を提供している。また，活動拠点となる地区市民センターでは，ジュニアリーダーが幅広い視野や責任を持って地域での活動を行えるよう支援を行っている。

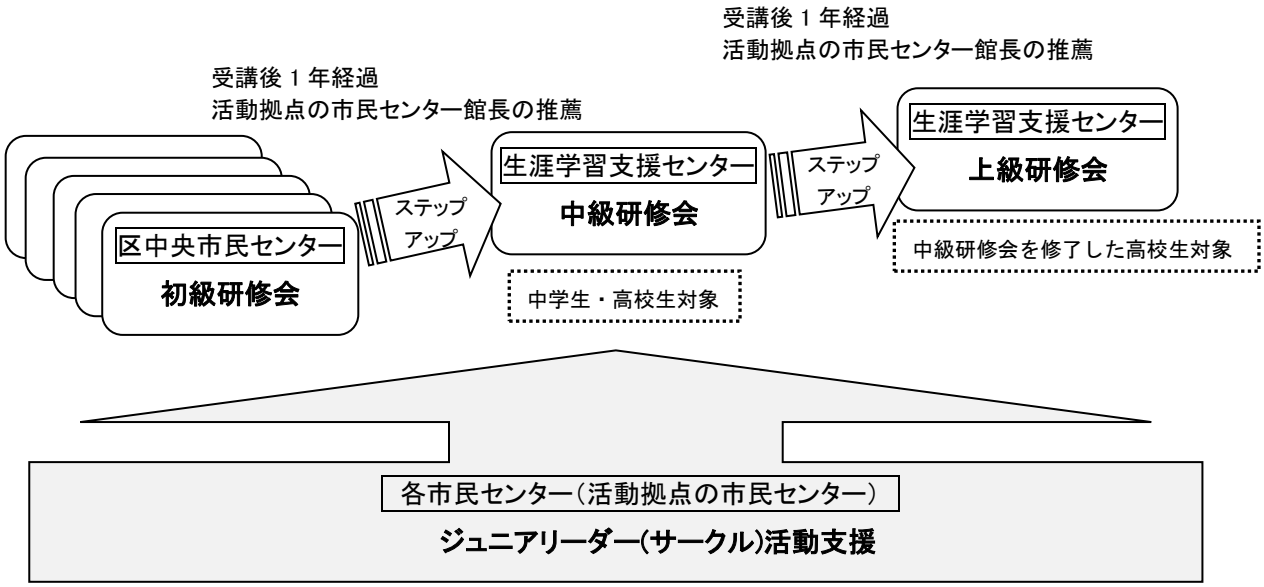
【ジュニアリーダーサークルの主な活動】

○自主企画(ジュニアと遊ぼう，交流会など)，定例研修会及び連絡会，各種研修会の実施

○子ども会，市民センター，その他の機関からの要請による活動

・子ども会行事の実施及び企画の補助　　・区民まつりへの参加

・市民センター事業への補助　　・児童館行事のスタッフ　　等



○ジュニアリーダー初級研修会

＜区中央市民センター＞（共催：仙台市嘱託社会教育主事研究協議会支部）

ジュニアリーダー活動の理念に触れ，興味・関心を高めるとともに，現ジュニアリーダーとの親睦を図り，今後の活動への意欲を持たせることを中心にした内容の研修を各区で実施した。対象者は，「新たにジュニアリーダーを志す中学生・高校生」とした。

研修内容：「ジュニアリーダーの活動について」，「子ども会について」，
「安全に活動するために」等

【令和２年度実績】

主催館名	開催日	受講者
青葉区中央市民センター	１１月２９日（日）	５８
宮城野区中央市民センター	１１月２１日（土）	１４
若林区中央市民センター	１２月１３日（日）	１７
太白区中央市民センター	１１月２８日（土）	２２
泉区中央市民センター	１１月２１日（土）	３０

○ジュニアリーダー中級研修会

＜生涯学習支援センター＞（共催：仙台市嘱託社会教育主事研究協議会）

活動の中心となるジュニアリーダーとして，より専門的な知識と高度な技術の習得を中心とした内容の研修を実施した。対象者は，「初級研修会を受講し，ジュニアリーダーとして活動を行っている中高校生」で，かつ，「子ども対象の活動に 5 回以上参加し，活動拠点となる市民センターの館長の推薦を受けた者」とした。

○31 名受講　12 月 6 日（日）　会場：仙台市生涯学習支援センター

研修内容：「今，ジュニアリーダーに必要なものとは？」，
「リーダーとして要請の場で必要な力」，「子どもを引き付けるコツとは？」，
「要請のプログラムを作成しよう」，「要請のプログラムを実践しよう」等

※新型コロナウイルス感染症の影響により 1 日開催とした。

○ジュニアリーダー上級研修会

＜生涯学習支援センター＞（共催：仙台市嘱託社会教育主事研究協議会）

青少年のボランティア活動と地域の子ども会活動の一層の振興を図るために，仙台市ジュニアリーダー全体をまとめ，リードする立場にある高校生ジュニアリーダーの資質向上と技能の研鑽のための研修を行った。

対象者は，「中級研修会を修了し，引き続きジュニアリーダーとして活動している高校生または高校生の年齢に相当する者」，かつ，「活動実績・資質ともに上級リーダーとして適格であり，活動拠点となる市民センターの推薦を受けた者」とした。

本研修会は，ジュニアリーダー活動のスキルアップを中心とした内容で実施した。

○19 名受講　9 月 13 日（日）　会場：仙台市生涯学習支援センター

研修内容：「上級ＪＬとしての役割と心構え」，「有効なＰＲのために」，「心の開き方」，
「子ども対応スキルアップ」，「コミュニケーションスキルアップ」等

※例年はオーエンス泉岳自然ふれあい館を会場に 1 泊 2 日で実施しているが，新型コロナウイルス感染症の影響により，会場を変更して 1 日開催とした。

○ジュニアリーダー実践研修会

＜生涯学習支援センター＞（共催：仙台市嘱託社会教育主事研究協議会）

上級研修会を受講したジュニアリーダーが講師となり，ジュニアリーダーとしてのスキルを伝達する研修会を実施した。併せて，5 区のジュニアリーダーが交流を深め，幅広い

視野や責任感を持って地域で活動できるリーダーとしての資質向上・技術向上も図る。対象者は,「仙台市ジュニアリーダー全登録者」である。

※令和2年度は，新型コロナウイルス感染症の影響により実施しなかった。

【ジュニアリーダーサークル及び活動拠点館一覧】(令和3年3月現在)

区内連絡会	No	サークル名	登録数	活動拠点館名
青葉区（108名） 連絡会『**星のすなどけい**』 （青葉区中央市民センター）	1	MRVCくまっこ	43	広瀬市民センター
	2	かめ吉	10	福沢市民センター
	3	朝実巣あかよばく	7	北山市民センター
	4	Colors	4	旭ケ丘市民センター
	5	SKY	25	中山市民センター
	6	みずの森ーダー’S	7	水の森市民センター
	7	Blue Leaf Spirits	12	青葉区中央市民センター
宮城野区（47名） 連絡会『**Lovers**』 (宮城野区中央市民センター)	1	高砂フレンズクラブ	5	高砂市民センター
	2	岩切ガンキリーズ	8	岩切市民センター
	3	鶴ケ谷Yourself	4	鶴ケ谷市民センター
	4	幸町Fortune	8	幸町市民センター
	5	With Us 宮城野	22	宮城野区中央市民センター
若林区（53名） 連絡会『**田んぼっ区**』 (若林区中央市民センター)	1	郷郷七郷	10	七郷市民センター
	2	六郷村	1	六郷市民センター
	3	ピ野沖ヲ	2	沖野市民センター
	4	JARO	23	若林区中央市民センター
	5	ワンマイル荒町	8	荒町市民センター
	6	若林にゃくりん	9	若林市民センター
太白区（61名） 連絡会『**ANON**』 (太白区中央市民センター)	1	なかだかな	8	中田市民センター
	2	おいでもん	7	生出市民センター
	3	ジュニアリーダーサークルGreen Powers	0	秋保市民センター
	4	にしたがっつまん	19	西多賀市民センター
	5	ながまっくる	23	太白区中央市民センター
	6	moni-s	4	茂庭台市民センター
泉区（119名） 連絡会『**ざわざわ森**』 (泉区中央市民センター)	1	七北田ＪＬサークルアリス	20	泉区中央市民センター
	2	黒松ファミリー	2	黒松市民センター
	3	南光台アドバルーン	19	南光台市民センター
	4	もみの木カリヨン	1	根白石市民センター
	5	向陽台ぱぴぷぺパレット	0	松陵市民センター
	6	将監くれよん	16	桂市民センター
	7	南中山巣子っぷ	14	南中山市民センター
	8	高森流星サークル	15	高森市民センター
	9	寺岡流星サークル	2	寺岡市民センター
	10	みちのく松陵	8	松陵市民センター
	11	加茂プレゼント	8	加茂市民センター
	12	パズル鶴が丘	2	松森市民センター
	13	根住ｓ	5	根白石市民センター
	14	ＡＭＹＹ	7	長命ケ丘市民センター
市全体（388名／38サークル）　仙台市連絡会『ずんだ』(生涯学習支援センター)				

５　地域社会教育推進

（１）学びのコミュニティづくり推進事業

＜生涯学習支援センター＞

子どもの健やかな育ちを支援するため，地域の様々な団体が連携し，地域の児童，保護者，住民などを対象とし，子どもと大人の交流や自然体験などを地域団体への委託等により実施する。

平成 13 年度に事業を開始。令和 2 年度は，事業委託した 2 団体と 3 年の委託期間が終了した後も自主的に活動を継続している等の 31 団体と合わせて計 33 団体が活動した。

区　　分	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度
委託団体数（うち新規委託団体数）	8(2)	7(1)	5(3)	5(1)	2(0)
委託期間終了後の活動継続団体数	25	27	28	29	30
合計	33	34	33	34	32

《令和 2 年度の委託団体》2 団体

団体名	区	学校区	ねらい・概要	委託状況
プロジェクト北三	青葉	木町通小	北三番丁公園をフィールドに地域貢献活動を行っていた「こよなく北三番丁公園を愛する会」が中心となり，「木町通小学校おやじの会」「木町通小学校」「木町通市民センター・児童館」と連携して児童の健全育成に向けた事業（木町通小学校に泊まろう・段ボール窯でピザを焼こうなど）を展開している。	2 年目
東仙台小学校区学コミ推進委員会	宮城野	東仙台小	東仙台小学校区内の子どもたちを核として，同地域内の各種団体が連携して諸活動を行っていくことにより，子どもたちの豊かな体験と健やかな育ち並びに地域のネットワークづくりを目指す。子どものあそび大会，学校でデイキャンプをしよう，などの事業を実施。	3 年目

《委託終了後も自主的に活動を行っている団体，委託を休止中の団体》　31 団体

No.	団体名	区	学校区	委託終了年度
1	まちがっこ推進委員会	青葉区	東二番丁小	平成 15
2	榴岡かいわい学びのコミュニティ推進委員会	宮城野区	東華中 宮城野中	〃
3	ながまち学びネット推進委員会	太白区	長町中	〃
4	ふれあい学びネットい・ず・み推進委員会	泉区	七北田中	平成 16
5	松陵っ子，土っと来い！	泉区	泉松陵小	〃
6	かみすぎねっと	青葉区	上杉山通小	平成 18
7	パパネット南小泉推進委員会	若林区	南小泉小	平成 19
8	まなこみネット鶴が森 Ⅱ	泉区	鶴が丘中	平成 21
9	将監こども楽校推進委員会	泉区	将監小	平成 22
10	旭ケ丘わんぱく森^{2}がっこ推進委員会	青葉区	旭丘小	平成 23
11	上愛子学びのコミュニティづくり推進委員会	青葉区	上愛子小	〃
12	「西山っ子ニコニコ楽校」	宮城野区	西山小	〃
13	通学合宿連坊実行委員会	若林区	連坊小路小	〃

14	まなびネット「いずみ中山」	泉区	南中山中	〃
15	五城学区地域連携教育推進委員会	青葉区	五城中	平成 24
16	福室学びのコミュニティづくり推進委員会	宮城野区	福室小	〃
17	「がんばれ秋保っ子」推進委員会	太白区	秋保中	〃
18	カモンレインボープラン推進委員会	泉区	加茂中	〃
19	おいで里ネット	太白区	生出中	平成 25
20	川平学びのミュージアム	青葉区	川平小	平成 26
21	袋原中学校区学びのコミュニティ推進委員会	太白区	袋原中	平成 27
22	ロングライフヒルコミュニティ協議会	泉区	長命ケ丘中	〃
23	山ガキ隊わくわく学校推進員会	太白区	山田中	平成 28
24	森の応援団　愛子ハグリッズ	青葉区	愛子小 錦丘小	平成 29
25	楽コミ金剛沢おやじっ子推進委員会	太白区	金剛沢小	〃
26	坪沼スポーツ振興会	太白区	生出小学校区の一部	〃
27	未来っこ桂	泉区	桂小	〃
28	田子っこ学びのコミュニティ推進委員会	宮城野区	田子小	平成 30
29	八木山おやじの会	太白区	八木山小	令和元
30	幸町おやじの会	宮城野区	幸町小	※
31	大和学びのコミュニティ推進委員会	若林区	大和小	※

※幸町おやじの会と大和学びのコミュニティ推進委員会は，新型コロナウイルス感染症の影響により，令和 2 年度は委託を休止した。

（2）学びのコミュニティづくり推進事業支援等

「学びのコミュニティづくり推進事業」の委託団体及び，3 年間の委託期間終了後も自主的に事業を実施している団体に対して，活動支援を行った。

○実施団体連絡会

＜生涯学習支援センター＞

委託期間が終了した後も自立した活動を行っている 28 団体を含め，事業実施団体連絡会による研修会を開催し，団体相互の情報共有を図った。

開催日時	内　　容	受講者
2.27(土) 13:30～15:30	事例発表「コロナ禍での取組と今後の展望」 東仙台小学校区学コミ推進委員会　委員長　堀江孝浩　氏 旭ケ丘わんぱく森²がっこ推進委員会 委員長　岡崎千佳子　氏 話題提供「子どもの学びを育む市民センター事業 ～地域全体で子どもの育ちを支える環境づくりの視点から～」 教育局生涯学習支援センター　主査兼社会教育主事　佐伯修一 情報交換	14

【委託終了後の事業に対する継続的支援等】

館名・事業名	概要	実施回数	延参加者
青葉区中央市民センター			
かみすぎねっと (№6)	上杉山通小学校区の学校関係団体・地域団体等との連携により，子どもの健やかな育ちに資する事業を実施した。 ・5 月 25 日　第 1 回幹事会→中止 ・7 月 29 日　第 2 回幹事会 （10 月 11 日　チャレンジランキング秋の陣） （10 月 31 日　ハロイモ）		27

		・2 月 17 日　第 3 回幹事会 ほか	1	18
	旭ケ丘わんぱく森[2]がっこ （№10）	旭丘小学区の学校関係団体・地域団体等との連携により，子どもの健やかな育ちに資する事業を実施した。 ・6 月 23 日　推進委員会 （7 月～11 月　ファーム事業） （8 月 17・18 日　ラジオ体操&ランランタイム） （8 月 16 日～18 日　おこと・三味線　体験教室） ほか	1	14
宮城野区中央市民センター				
	榴岡かいわい学びのコミュニティづくり推進事業 （№2）	仙台駅東口かいわいの幼児，小学生を対象として遊びの広場を提供した。また，地域の住民や中学生，ボランティア等の参加も促し，異世代間の交流を図る。※令和 2 年度は中止 ・8月29日　第20回つつじがおかワイワイ夏まつり ・1月16日　第14回つつじがおかワイワイ冬まつり	0 0	0 0
	「西山っ子ニコニコ楽校」 （№12）	西山小学校区の学校関係団体・地域団体との連携により，子どもの健やかな育ちに資する事業を実施した。 ・11月28日　夜の学校探検 ・2月20日　みんなで楽しくいい気モチ イン 西山	1 1	47 34
若林区中央市民センター				
	区内小学校合宿等支援	学びのコミュニティづくり推進事業から続く「通学合宿！連坊！」など区内小学校の合宿等の事業を支援する。※令和 2 年度は中止	0	0
	若林小あそび場支援	若林小学校を中心に放課後の児童に遊びの場をつくる「若林小あそび場」の活動（概ね月 1 回開催）を，関係団体，若林児童館，若林市民センター，ボランティアとともに支援する。※令和 2 年度は中止	0	0

太白区中央市民センター				
	ながまち学びネット（№3）	長町中学校区の児童･生徒や保護者，地域住民とともに，子どもたちの健全育成を目的とした参加体験型の活動を行うことを通して，地域のコミュニティ形成と連携した地域づくりを目指す。※令和２年度は中止	0	0
	がんばれ秋保っ子（№17）	秋保中学校区の各団体と協力して事業を実施することで，地域全体で子どもを育てていくきっかけをつくることを目的とし，事業開催に向けて話し合いを行う。※令和２年度は中止	0	0
	おいで里ネット（№19）	おいで里ネット推進委員会の意向で，中学生の有志による企画員会議を開催した。中学生の企画員会議の中から出された企画案を実現させる形でイベントを計画する。※令和２年度は中止	0	0
泉区中央市民センター				
	区内学コミ連絡会	区内で活動している各学コミ団体と情報を共有し，学コミの活動の促進ならびに拡大を図っている。令和２年度はコロナ禍につき対面での集まりを中止。各団体代表者に電話やメールで近況を確認し，情報共有を行った。	適宜	
	ふれあい学びネットい・ず・み推進委員会（№4）	七北田中学校区内の諸団体が連携し，青少年健全育成事業の展開を図るとともに，子どもの居場所づくり事業について協議，企画，実施している。 ・11 月 11 日 役員会 ・11 月 27 日 推進委員会 コロナ禍の状況を踏まえ，事業の中止を決定	 1 1	 6 16

（3）地域情報発信サポーター養成・活動支援

＜生涯学習支援センター＞

○地域情報発信サポーター養成講座

地域情報発信サポーターを養成するために，「まちの魅力を再発見」と題した連続 3 回の講座を行った。

回	日　時	内　　容	受講者
1	9.26(土) 10:00～12:00	講話「お宝は足元にある－地域を見る目をじぶんの中に育てる」 講師：青空編集室主宰　西大立目祥子氏	21
2	10.3(土) 10:00～12:00	まち歩き　地下鉄南北線「五橋駅」～地下鉄東西線「連坊駅」 講師：青空編集室主宰　西大立目祥子氏	20
3	10.31(土) 10:00～12:00	受講者が撮影してきたまちの写真の発表，グループワーク 講話「地域を知る，発信方法を考える」 講師：青空編集室主宰　西大立目祥子氏	17

○地域情報発信サポーター活動支援

平成 28 年度地域情報発信サポーター養成講座の修了者が自主サークル「仙台おもしろ発見隊」を結成。また，令和２年度養成講座の修了者のうち８名もサポーター登録したが，新型コロナウイルス感染症の影響により活動は行われなかった。

６　学習情報提供

（１） 学習情報レファレンスシステム・市民センターホームページの運営等

＜生涯学習支援センター＞

学習情報レファレンスシステムは，市民の学習意欲に応え，的確な情報提供サービスを展開することで，効果的に市民の学習活動を支援するため，生涯学習支援センターと市民センターとをネットワークで結び，生涯学習に関するより新しい情報を提供するとともに，市民の学習相談に応じることを目的として平成 12 年 3 月より運営している。

平成 26 年 11 月にシステムを更新し，新たな「市民センターホームページ」と「学習情報データベース」の運用を開始した。新たなホームページでは，各市民センターの情報を統合して表示するほか，講座の開催日を検索しやすくするなどの手法により，市民により分かりやすいページ構成とした。また，スマートフォン・タブレット等でも閲覧可能となっている。

令和元年度には，システムの機器更新を行うとともに，動画が公開できるよう YouTube 上に仙台市市民センターチャンネルを開設し，市民センターホームページに設けたリンクからアクセスできるようにした。令和 3 年 3 月末現在、63 本の動画を公開している。

【令和 2 年度　市民センターホームページアクセス件数】

アクセス件数	732,494	一日あたりの閲覧数	2,007
閲覧者数	550,366	一日あたりの訪問者数	1,508

【市民センターホームページＵＲＬ　https://www.sendai-shimincenter.jp/】

（2）市民センター事業ガイド

＜各区中央市民センター・生涯学習支援センター＞

講座等参加者の募集中，募集予定がある事業について，区ごとにまとめ，毎月 1 回発行して，市民への情報提供を行った。市民センターホームページでも公開している。

(3)「学都仙台サテライトキャンパス」支援等

＜生涯学習支援センター＞

大学等の高等教育機関の連携組織である「学都仙台コンソーシアム」（平成 18 年設立）のうち「サテライトキャンパス部会」で実施する公開講座「学都仙台サテライトキャンパス」や部会構成校が独自に実施する市民向け公開講座について，市民が円滑に講座を受講できるよう，広報及び情報提供等の支援を行った。

7　各区中央市民センター事業

（1）嘱託社会教育主事研究協議会区部会との共催事業

嘱託社会教育主事（社会教育主事資格を持ち学校に在籍している教員）研究協議会の各区部会と各区中央市民センターの共催による事業を通して，子ども達の健全育成や地域コミュニティの活性化を図り，地域で子どもを育てる環境づくりを推進した。

館名	内容	実施回数	参加者
青葉区中央市民センター	6月24日　青葉区社会教育推進連絡会研修会【中止】 9月6日　「青葉チャレンジキッズin科学館」【中止】 10月25日　「青葉チャレンジキッズin博物館」 11月29日　ジュニアリーダー初級研修会 12月12日　インリーダー研修会事前打合せ 1～2月　インリーダー研修会11会場【紙面開催】	14	554
宮城野区中央市民センター	5月～6月　宮城野区社会教育推進連絡会・事業検討会（4回） 6月24日　宮城野区社会教育推進連絡会研修会【中止】 10月31日　「貞山堀でハゼゲットだぜ！」 11月21日　宮城野区ジュニアリーダー初級研修会 12月14日　インリーダー研修会事前打合せ会 2月　インリーダー研修会9会場【延期】	7	約200
若林区中央市民センター	8月　若林区地域学校連携推進会議　【中止】 11月23日　ものづくり体験教室　【中止】 12月13日　ジュニアリーダー初級研修会 2月　インリーダー研修会　【資料配付による自主研修】	1	35
太白区中央市民センター	6月26日　第1回地域連携ネットワーク会議【中止】 6月～1月　太白区内地域連携ネットワーク事業 9地区10事業を実施 11月28日　ジュニアリーダー初級研修会 12月5日　インリーダー研修会事前打合せ会【中止】 1月～2月　インリーダー研修会 【ＤＶＤ配付による自主研修】 1月26日　第2回地域連携ネットワーク会議【中止】	8	約2,100
泉区中央市民センター	9月～2月　泉区の社会教育を考える会（4回 他役員会1回） 11月21日　泉区ジュニアリーダー初級研修会 7月～2月　インリーダー研修会 （研修会5回中2回で講師担当， 研修会を中止した子ども会育成会への資料提供）	8	166

（2）インリーダー研修会

子ども会活動の充実を図るため，子ども会のリーダーとして活躍する児童及び世話人を対象に，子ども会活動についての知識やレクリエーションなどの実技を学習するための研修会を実施している。令和 2 年度は，新型コロナウイルス感染防止のため，次年度への延期，テキスト配付，研修内容を記録したＤＶＤの配付などに代えて実施した。

【令和 2 年度実績】

区	開催状況
青葉区	紙面開催（372 名にテキスト配付，児童 165 名に修了証授与）
宮城野区	次年度の夏に延期
若林区	自主研修（テキスト配付）
太白区	自主研修（460 組にテキストと自作オリジナルＤＶＤ配付）
泉区	5 回開催，183 名参加

（3）生涯学習研究事業

◎事業例　泉区の社会教育を考える会

＜泉区中央市民センター＞（事業検討 4 回，役員会 1 回実施　延参加者：39 名）

区内の社会教育について，嘱託社会教育主事研究協議会泉区部会と協働で，既存の事業の見直しや，新たな事業の企画を行った。また，それら事業を実施検証し，泉区の社会教育事業の新たな展開の可能性を探り，活性化につなげた。

（4）その他の主な事業

館名	事業名	内容	開催回数	参加者
青葉区中央市民センター	子どものための日本語講座	日本語を母語としない小学生，中学生に日本語を学習する機会を提供し，充実した学校生活が送れるように支援している。	30	302
	せんだい日本語講座	在仙の外国人等に，日常生活に必要な日本語習得の機会を提供するとともに，日本の伝統文化に触れ交流する場を設定することで，国際交流や多文化理解を促進している。	512	3,759
若林区中央市民センター	まなびごっこ	若林区内で活動する生涯学習指導者ボランティアグループ「まなびごっこ」がこれまでに培った知識や技術を生かして，当センターと共催で誰でも参加しやすい内容の講座・教室（女性のための囲碁教室，映画上映会など 9 種類）を開催した。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため，10 月から翌年 3 月までの開催となった。	47	512
太白区中央市民センター	長町・あすと長町地域活性化事業	地域振興団体が主催するイベント「長町秋のフェスティバル」の企画運営等の支援を行った。新型コロナウイルス感染症の影響により中止となったが，関係団体間の交流や協議の場づくり等の支援を行った。	4	47

８　仙台市公民館運営審議会

社会教育法第29条，仙台市市民センター条例第13条に基づき，市民センターにおける各種の事業の企画実施につき調査審議を行う，本市が設置するすべての市民センターに共通の公民館運営審議会として設置している。

現委員は14人で，任期は令和元年11月1日から令和3年10月31日までの2年間となっている。

【委員名簿】　〔令和3年7月1日現在〕

氏　名	職業または所属団体
○　相澤　雅子	仙台市立南小泉中学校学校支援地域本部 スーパーバイザー
安藤　歩美	ＴＯＨＯＫＵ３６０ 代表・編集長
市瀬　智紀	宮城教育大学教員キャリア研究機構 教授
大内　幸子	せんだい女性防災リーダーネットワーク 代表
幾世橋　広子	仙台市社会学級研究会 顧問
後藤　武俊	東北大学大学院教育学研究科 准教授
佐々木　稔	公募委員
佐藤　正実	有限会社イーピー風の時編集部 代表取締役
柴田　真理子	仙台市立東長町小学校 校長
髙橋　卓誠	仙台市議会 議員
福士　定男	仙台市連合町内会長会　庶務理事
牧　靖子	マイスクール川平　コーディネーター
◎　松田　道雄	尚絅学院大学 教授
八十川　淳	東北文化学園大学科学技術学部　教授

◎：会長　○：副会長　敬称略・50 音順

【近年の審議内容（平成 15 年度～令和 2 年度）】

提出日	種別	テーマ（題名）	主な内容
平成 15 年 10 月 7 日	提言	市民センターにおける子どもの事業のあり方について	1　審議会における検討の過程 2　子どもの事業に取り組む課題と視点 3　ジュニアリーダーの育成と活動支援 4　学社連携・融合事業について 5　学校週 5 日制に対応した事業について
平成 17 年 9 月 12 日	提言	市民センターにおける市民参加と市民協働の推進について	1　市民参加と市民協働の課題 2　市民センター運営における市民参加について 3　市民企画委員によるプログラムづくりについて 4　市民参加を広げる事業活動をめざして
平成 19 年 10 月 30 日	答申	市民センターの施設理念と運営方針の見直しについて	1　見直しの背景 2　見直しにあたっての考え方 3　市民センターの施設理念と運営方針

提出日	種別	テーマ(題名)	主な内容
平成 21 年 10 月 13 日	報告	審議の経過報告	1　今期審議会のテーマ設定と議論の経緯について 2　経過報告のまとめについて ＜これまでの審議内容(各委員の意見)の概要＞ 1　市民センターの区への移管について 2　連携事業の調査からみえてきたもの <市民センターが大切にしてきた社会教育の価値とは>（梨本雄太郎委員） ＜区行政との「融合」をめぐって＞（石井山竜平委員）
平成 22 年 3 月 16 日	意見	「次期行財政改革計画(素案)」に対する意見書	区役所への移管については課題や懸念があることから，それらを解決・解消した上で判断するべきと考える。
平成 22 年 8 月 31 日	提案	市民センターを拠点とした新しいまちづくりの提案ー仙台プランー	＜市民センターを拠点とした新しいまちづくり＞ 1　意識を変える 2　人材発掘・育成とネットワーク化 3　市民の活動の場を生み出し支援する ＜新しいまちづくりに向けた市民センターの新たな一歩/今後の取り組み[提案] / 仙台プラン対応事業案＞ 1　住民参画・問題解決型学習事業 2　子ども参画型社会創造事業 3　学社連携・既存の事業範囲枠を超えた公共施設の連携事業
平成 23 年 1 月 25 日	意見	「市民センターを生かした地域づくりの推進」に関する意見	1　検討の進め方について 2　組織見直しをめぐる課題について
平成 25 年 5 月 31 日	答申	仙台市市民センター事業の評価のあり方について	1　これまでの経緯 2　評価の現状と基本的な考え方 3　本審議会が実施する外部評価 4　本審議会以外が実施する外部評価 5　まとめ
平成 25 年 10 月 26 日	報告	平成 24 年度仙台市市民センター事業評価報告書	1　評価の目的 2　評価の実施 3　評価の結果 4　まとめ
平成 25 年 10 月 26 日	意見	仙台市市民センターの施設理念と運営方針の見直しに関する意見について	1　「仙台市市民センターの施設理念」について 2　「仙台市市民センター事業の運営方針」について 3　「仙台市市民センターの施設管理の運営方針」について 4　東日本大震災を踏まえた内容の見直しについて 5　その他
平成 26 年 7 月 31 日	報告	平成 25 年度仙台市市民センター事業評価報告書	1　評価の目的 2　評価の実施 3　評価の結果 4　まとめ
平成 27 年 8 月 25 日	報告	平成 26 年度仙台市市民センター事業評価報告書	1　評価の目的 2　評価の実施 3　評価の結果 4　まとめ
平成 27 年 10 月 17 日	意見	震災を踏まえた今後の市民センター事業のあり方等について	1　震災後の取り組みの成果と課題 2　今後の市民センター事業に関する委員の意見
平成 29 年 3 月 23 日	報告	仙台市市民センター事業評価報告書	1　評価の目的 2　評価の実施 3　評価の結果
平成 29 年 10 月 23 日	意見	仙台市市民センター事業評価に関する意見について	1　事業評価について 2　事業運営懇話会等について

提出日	種別	テーマ(題名)	主な内容
平成 30 年 11 月 8 日	報告	仙台市市民センター事業評価報告	1　評価の目的 2　評価の実施 3　評価の結果
令和元年 7 月 4 日	答申	「仙台市市民センターの施設理念と運営方針」の見直し（第二次）のあり方について	＜見直しのあり方に関する意見＞ 1　拠点館の役割の再検討及び記載の明確化について 2　「震災を踏まえた市民センターの役割と取組」の記載事項の内容・構成の再検討 3　「仙台市市民センターの施設管理の運営方針」の記載事項の内容・構成の再検討 4　全体，他の項目への意見等
令和 2 年 11 月 5 日	意見	今後の市民センター事業に関する意見について	＜新型コロナウイルス感染症との共生時代の市民センター事業に関する意見＞ 1　オンラインと対面（リアル）のバランスについて 2　子どもの育ち・交流・実体験の場となることについて 3　記録を残すことについて 4　グループ討議を踏まえた意見など

【審議経過】

開催日	会議種別	協議議題
令和元年 11 月 8 日（金）	定例会	○委嘱状交付式 ○会長，副会長選出 協議：(1)会議の公開，非公開について (2)議事録及び署名人について (3)公民館運営審議会定例会の進め方について 報告：(1)仙台市市民センターの概要について (2)市民センターホームページについて
令和 2 年 1 月 16 日（木）	定例会	協議：(1)今後の日程について (2)今期の審議テーマについて 報告：○仙台市市民センター事業の運営方針について ～市民センターの役割～
7 月 2 日（木）	定例会	協議：○公民館運営審議会の今後の進め方について 報告：○新型コロナウイルス感染症の影響について ・市民センター事業（令和 2 年度） ・子ども参画型社会創造支援事業（若林区）
8 月 27 日（木）	定例会	協議：○新型コロナウイルス感染症との共生時代の市民センター事業について
11 月 5 日（木）	定例会	協議：(1)今後の市民センター事業に関する意見について (2)今後の進め方について
11 月 22 日（日） 12 月 12 日（土）	臨時会	○事業視察 11/22　つるっこ画樹園～実れ！鶴心～ （鶴ケ谷市民センター） 12/12　チャイルドボランティア「チャボ！」 （若林区中央市民センター）
令和 3 年 1 月 14 日（木）	定例会	報告：○今後の市民センター事業に関する意見について 協議：(1)仙台市市民センター事業に係る調査研究について (2)令和 2 年度子ども参画型社会創造支援事業について
1 月 26 日（火） 2 月 27 日（土）	臨時会	○事業視察 1/26　青陵インパクト（青葉区中央市民センター） 2/27　南光台をもっと元気に委員会 2 （南光台市民センター）

3 月 18 日（木）	定例会	協議：(1)仙台市市民センター事業に係る調査研究について (2)令和 2 年度子ども参画型社会創造支援事業について
3 月 20 日（土）	臨時会	○事業視察 3/20　チャイルドボランティア「チャボ！」 （若林区中央市民センター）
5 月 13 日（木）	定例会	協議：○仙台市市民センター事業（子ども参画型社会創造支援事業）の調査研究について 報告：(1)仙台市教育構想 2021 について (2)令和 3 年度市民センター事業について
7 月 1 日（木）	定例会	協議：○仙台市市民センター事業（子ども参画型社会創造支援事業）の調査研究について
8 月 26 日（木）	定例会	協議：○仙台市市民センター事業（子ども参画型社会創造支援事業）の調査研究について

※令和 2 年 3 月 17 日（火）及び 5 月 14 日（木）に開催を予定していた定例会は，新型コロナウイルス感染拡大防止のため延期とした。

Ⅲ　地区館事業

令和２年度 指定管理事業実績

青葉区中央市民センター

〔沿　革〕

青葉区中央市民センターは、昭和 40 年 4 月、市立東二番丁小学校に「仙台市市民教養センター」として開設され、昭和 61 年、小学校の全面改築に伴い廃止され、昭和 63 年 1 月に「仙台市中央公民館一番町分館」として開館した。平成 13 年 4 月、隣接の「アスピア一番町（勤労青少年ホーム）」を統合し、現在の「青葉区中央市民センター」としてスタートした。

市の中心部で交通の便が良いため、若い世代から高齢者まで昼夜を問わず利用率が高い。また、仙台市の日本語講座が継続的に行われていることから来館する外国人も多く、国際交流の場としても一翼を担っている。

［★震災を踏まえた事業　●区役所との連携事業］

〔特色ある事業〕

事業名	●子ども参画型社会創造支援事業　東二小やる気キッズ		
参加者	東二番丁小学校児童	延参加者	135 人
開催日	全 7 回　令和 2 年 9 月 25 日(金)～令和 3 年 2 月 18 日(木)		
協力者・協力団体	青葉区まちづくり推進課、東二番丁小学校、東二番丁マイスクール児童館		
ねらい	当市民センター隣接の東二番丁小学校はオフィスビルや商業施設に囲まれた中に立地しており、児童が地域の人々と関わる機会が乏しい。そこで市民センターが児童自身の興味関心を形にできる機会や、行事に参加し人々と交流する場を作ることで、自分の住む地域への理解を深め、児童の健やかな成長につなげる。		
概要・成果	東二番丁小学校の児童が企画員となり、自分自身の興味関心やアイディアを基に「おばけやしき」「脱出ゲーム」を実現し、地域の人に楽しんでもらうことができた。東二番丁小学校や、児童館と連携しながら講座を実施したことにより、地域全体で子どもを見守る環境づくりの一助となった。また、次年度以降、小学校や児童館等と連携した講座を実施する基盤を作ることができた。 話し合いの場で最初は引っ込み思案だった児童も、職員が児童の意見を引き出すような雰囲気づくりを心掛けたことで積極的に意見を出すようになった。学校外の場である市民センターを会場に、児童が他学年との交流を通して講座を企画、実施したことで、自分の役割を遂行することの大切さを学び、児童自身にとって貴重な地域交流の機会となった。講座を通して児童の健やかな成長の一助とすることができた。		

〔令和２年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日･期間	回数	延参加者
親子人形劇観賞会	併設する東二番丁幼稚園と幼稚園の保護者の会との共催で、プロの人形劇団を招き観賞会を開催。劇団員の火による「ひよこのさんぽ」他を園児と保護者とともに観賞した。	10 月 20 日	1	154
子育てサロン　パンダくらぶ	新型コロナウイルス感染症の影響で回数と募集人数を縮小し、乳幼児親子を対象にふれあい遊びと育児相談を行った。地域の保育所職員を講師に、交流を図りながら育児のストレスや不安解消に努めた。	10 月 22 日 11 月 27 日	2	12
仙台市子ども会インリーダー研修会	子ども会のリーダーとして活動する児童と世話人を対象に行事のプログラムの組み方やゲーム進行の実技を行う予定だったが、新型コロナウイルス感染症の影響により配布資料にて紙面開催とした。	1 月 30 日	1	43

小学生の防災減災講座	東二番丁小５年生が防災減災についてゲームや実験を通して学び、災害に対する意識や対応力を高めた。	1 月 21 日	1	20
絵馬に託す私たちの町	東二番丁小 3 年生の総合学習で地域の野中神社を見学・学習した。幼稚園との開催も計画していたが、講師に予定していた大学生に新型コロナウイルス感染者が出たため中止とした。	9 月 15 日	1	26
【中止】 外国語活動「ハロウィン集会」	連携先の東二番丁小において、今年度は国際交流の時間が取れず開催が不可となったため中止とした。	【中止】 10 月	－	－
【中止】 体験しよう！仙台七夕	仙台七夕祭りの中止にならい連携先の仙台銀座新和会も中止としたため、センター職員で飾りを製作した。吹き流しには利用者がしたためた短冊を貼り市民センター入り口に飾り付けた。	【中止】 4 月～8 月	－	－
あおばカレッジ	高齢者が心豊かな生活が送れるよう、お天気・脳トレ・カードゲーム・歴史・健康・コンサート鑑賞と多岐にわたる学習をした。コロナ禍により回数を減らし、広い会場に変更して開催した。	9 月～2 月	6	229
防災減災講座 「いざという時慌てない！我が家の防災を考える」	防災ゲーム「クロスロード」と、コロナ禍で災害が起きた時も想定しながら「いつもともしもの垣根をはずそう」をテーマに、普段の生活から無理なく備える術を学習した。	10 月 29 日 11 月 12 日	2	9
社会学級連携事業「ブラキムラと歩く城下町さんぽ」	コロナ禍の影響で、連携先の社会学級との企画会議は委員長と行った。伊達政宗のまちづくりを座学で学び、講師の案内で城下町散歩を行った。	7 月 29 日 8 月 5 日 9 月 29 日 10 月 7 日	4	22
青葉区中央市民センタープレゼンツ「みんなのはっぴょうかい中学生のチカラ」	コロナ禍で成果発表の場を失った管轄地域の五橋中と上杉山中の吹奏楽部の生徒に、全員で演奏し発表する場を提供するための発表会を実施した。	11 月 21 日 1 月 23 日	2	126
【中止】 ふれあい祭「和気藹々☆一番町」	コロナ禍のため、前年度の実行委員会の役員と協議の上、中止を決定した。	【中止】 9 月 27 日	－	－
一番町ミュージックタイム	金管アンサンブルやフォーク＆ポップス、蓄音器でのレコード鑑賞やピアノとヴァイオリンのコンサートを実施。密を避けるため地域のビルの公開空地を借用し屋外でも開催した。	10 月 24 日 12 月 19 日 2 月 5 日 2 月 25 日	4	163
あおちゅうにあつまろう！	ニュースポーツ ボッチャと、航空教室と題したパイロットの仕事体験や客室乗務員の仕事体験を、子ども達が大人と一緒に行った。	11 月 7 日 12 月 5 日	2	34
青葉区中央市民センター地域懇話会	主催事業の紹介やコロナ禍でのお互いの状況、課題の共有や市民センターへの意見要望を聞いた。感染症拡大の状況に対応し、年１回の開催とした。	7 月 29 日	1	18

〔令和２年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

近隣事業所のイベントと商店街とのコーディネート

青葉通り、サンモール一番町、いろは横丁をハロウィンの仮装をして親子でパレードするのびすく仙台のイベントが行われた。コロナ禍のため、参加人数を減らしてのイベント開催となったが、市民センターが地域商店街との仲介役となり、参加者が事前に承諾を得た場所で写真撮影をするよう調整を図る等して、安心・安全なパレードを実施に努めた。

柏木市民センター

〔沿　革〕

柏木市民センターは、昭和 61 年 7 月に旧仙台高等学校(後に仙台女子高等学校)の校舎を改修し、中央公民館柏木分館として開館した。平成元年の政令指定都市移行とともに、「柏木公民館・市民センター」として独立、そして平成 2 年には名称を「柏木市民センター」とした。その後、施設の老朽化のため平成 7 年 4 月から一時休館して改修工事を行い、平成 10 年 4 月にコミュニティ防災センターを併設した複合施設として新たに開館した。施設の特徴としては、収納式のステージをもつホール、会議室、和室等に加え、広いロビーがあり、地域住民の学習・スポーツ・交流の場として活用されている。

［★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業］

〔特色ある事業〕

事業名	●「へくり沢散歩道」と水路を活用した地域づくり事業 － 八幡町・柏木・通町、水の道で地域をつなぐ －		
参加者	成人・小学生と保護者	延参加者	55 人
開催日	全 4 回　令和 2 年 10 月 24 日(土)、11 月 7 日(土)、11 月 25 日(水)、12 月 3 日(木)		
協力者・ 協力団体	八幡児童館、八幡地域内町内会長、青葉区家庭健康課		
ねらい	かつて、柏木八幡地区を流れていた「へくり沢」は、高低差がある特有な地形を有し、伊達政宗が青葉城を築城した時代に、交通の難所として名高い場所であった。しかし、戦災復興や都市化を経て、現在は、こうした地域の特殊性は見えにくいものとなっている。当市民センターでは、地域の地理的・歴史的な特徴を次世代や地域の方々に伝えるため、地形模型やジオラマ、ウォーキングマップ、案内板などを製作し、地域住民とともに学習・調査等を行ってきた。令和 2 年度は、新型コロナウイルス感染症予防に配慮しながら、センター周辺の水路に視点を広げ、まち歩きワークショップを実施し、地域資源の発掘を目指した。		
概要・成果	四ツ谷用水、センター周辺のみず道（かつての水の通り道）をテーマにまち歩きを行い、町の変遷、歴史を学んだ。前年度の講座でコーディネートをしてくださった東北文化学園大学教授の八十川淳氏の案内で、四ツ谷用水跡や北九番丁川跡のウォーキングを行った。その多くは埋め立てられているが、かつてのみず道をたどることで水と深くかかわってきた人々の暮らしと今後の地域のあり方について学ぶことができた。また、児童館共催では、小学生とその保護者を対象に八幡地域のお宝発見をテーマにまち歩きをしたが、地域の町内会長が要所要所で街の歴史を案内してくださったことで地域に親しむ良い機会となった。また、家庭健康課共催で、健康づくりを兼ねた四ツ谷用水ウォーキングを行い、気軽に町の歴史に触れる機会となった。		

〔令和２年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
●休日は親子でＹＥＳ運動！	3 歳以上の未就学児親子を対象に開催。食事と運動についてのミニ講話の後、家庭でも気軽にできるストレッチと運動で身体を動かした。	11 月 21 日	1	11
【中止】柏木ワンダーランド	学校ではなかなか体験できない市民センターならではのプログラムを提供し、子供の健全な育ちを支援する事業を実施の予定だったが感染状況を踏まえて中止とした。	【中止】 1 月	－	－
インリーダー研修会	新型コロナウイルス感染症の影響により、対象の子ども会へ資料を配布し紙面開催とした。	1 月 23 日	1	28

≪青葉区≫

●伝統ものづくり塾共催事業 「仙台の食の歴史を学ぶ」	区民の交流を図りながら伝統文化や仙台の歴史に触れる機会を提供した。小学生と保護者を対象に兜のお面作り、成人対象に和菓子の講話と実演、感染症予防に努めながら仙台みそ作りの体験を行った。	7月25日 11月18日 1月16日 (午前・午後)	4	60
柏梁学院	地域に居住する高齢者に生涯学習と相互交流の場を提供した。ボランティア・ふるさとの歴史や童謡、手話ソングと篠笛のコンサート、介護予防と運動など幅広いテーマで学習した。新型コロナウイルス感染症対策のため2グループに分けて実施した。	9月2日～ 3月3日	15	364
通町地域防災講座	通町小学校を会場とした防災講座は中止になったが地域の方を対象にＡＥＤ・普通救命法講座と地震、風水害、雷、火災に備えての対策講座を開催した。	12月5日 2月6日	2	15
【中止】第17回柏木ふれあいまつり	前年度の役員と開催を検討し、市内の感染状況、及び参加者の安全性等を考慮した上で中止を決定した。	【中止】 10月4日	－	－
●【中止】てらまちフェスタ２０２０－あそびでつながるまちづくり	前年度の役員と開催を検討し、市内の感染状況、及び参加者の安全性等を考慮した上で中止を決定した。	【中止】 10月14日	－	－
柏木地域懇話会	第1回は学校、児童館との懇話会で新型コロナウイルス感染症対策の現状と今後の連携について、第2回は地域の子どもたちとかかわりの深い地域団体を対象に今後の連携等について情報交換を行った。	9月25日 11月20日	2	9
柏木まざらいんサロンコンサート	コロナ禍において少しでも楽しい時間を地域で共有できる場の提供を図った。第1回は「柏木展示発表会」開催直前イベントとして、ピアノの連弾コンサートを開催。第2回はピアノとヴァイオリンによるクラシックコンサート、第3回はピアノと尺八によるコンサートをロビーにて開催した。	10月1日 12月19日 2月13日	3	98
柏木展示発表会	例年、10月に開催している「柏木ふれあいまつり」がコロナウイルス感染症の拡大により中止となった代替として、地域団体やサークルの作品を展示する場として開催した。	10月2日～ 10月4日	1	70
【中止】市民企画会(仮称) 一緒に考えよう！地域で講座	地域から企画員を募り、より深く地域を知り、住民同士の交流が図れる講座を企画、開催する予定であったが、コロナ禍により中止。	【中止】 6月～1月	－	－
【中止】市民企画会義「(仮称) 一緒に考えよう！地域で講座」で企画した事業	新型コロナウイルス感染症対策により市民企画会を中止としたため、市民企画会を経た講座企画ができなかった。	【中止】	－	－

〔令和２年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

史跡標柱再建のコーディネート

柏木市民センター敷地内にある老壮大学25周年記念の標柱を見かけた北山五山を案内する北山ガイドボランティアグループから、五山にある支倉常長のお墓の標柱を再建したいとの相談があった。標柱建立の業者も見つからず困っていたとのことで、早速老壮大学の標柱作成に携わった受講生を紹介し、無事完成に至った。完成式典には青葉神社まちづくり協議会、北山市民センターも出席し、今後連携して地域の歴史資源を生かした事業を展開する足がかりとなった。令和 2 年度は新型コロナウイルス感染症拡大により地域内の行事、サークル活動なども制限された中、北山ガイドボランティアの懸案だった標柱が新しくなったことはガイドボランティアのみなさんの活動の励みとなった。

北山市民センター

〔沿　革〕

北山市民センターは、昭和49年7月に北山福祉会館として設置され(所管は仙台市社会福祉協議会)、平成元年の政令指定都市移行に伴い「北山市民センター・公民館」となり、平成2年には「北山市民センター」と名称を改めた。地域の生涯学習の拠点としての機能を果たしてきたが、施設の老朽化に伴う改築後、平成23年1月に再開した。

地域内には、青葉神社、大崎八幡神社、北山五山などの神社仏閣があり、歴史的・文化的資源や緑に恵まれている。また、東北福祉大学や東北大学国際交流会館の立地により、若者や外国人の居住者が多い。

［★震災を踏まえた事業　●区役所との連携事業］

〔特色ある事業〕

事業名	通町小学校連携講座「わたしのまちの歴史探検」		
参加者	通町小学校5年生	延参加者	49人
開催日	全1回　令和2年6月30日(火)		
協力者・協力団体	通町小学校、北山ガイドボランティア		
ねらい	北山地域には多くの歴史遺産がある寺院が点在しているが、地域の小学生がその歴史的背景を知る機会は少ない。そこで小学校と連携して総合的な学習の時間に地域の歴史を学習し、子どもたちが地域の歴史へ関心を持てるようにすることを目的とする。		
概要・成果	従来は1クラス20～30名に講師の北山ガイドボランティアが2～3名付いて見学していたが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症対策のため1グループ7～8名に講師1名が付く形を取った。少人数だったため講師に質問しやすく、地域の歴史遺産に対する学びを深める機会となった。秋には学習成果を発表する場が設けられた。		

〔令和２年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
●ルンルン子育てサロン	子育ての楽しさを認識してもらえるよう、子連れで気兼ねなく遊べる部屋を開放したり、託児ボランティアと一緒に遊んだり、保健師の講話を開いたりした。	10月20日～3月16日	6	43
インリーダー研修会	子ども会活動の充実と活性化を図るため、主に小学5年生と世話人を対象に、子ども会活動についての知識、技術などの学習機会を提供した。新型コロナウイルス感染症の影響により対面開催は行わず、資料を配布した。	1月22日	1	58
【中止】 北山市民医学講座	4回目まで講師を依頼し感染対策を含め準備を進めたが、直前に感染者が増加して中止に至る等、感染拡大状況を踏まえ、結果全回中止とした。	【中止】 5月27日～3月24日	－	－

北山シルバースクール 2020	健康、生活、自然科学・防災等を開催。講座や運営委員会への熱心な参加者が多く、地域の高齢者の生きがい作り学習・社会参加の場となった。感染予防のため 5 月から 7 月は中止し、9 月開講とした。	9 月 25 日～ 2 月 26 日	6	156
●北山地区合同防災訓練－北山補助避難所訓練－	令和 2 年度は､新型コロナウイルス感染症の影響により、国見地区連合町内会東部ブロックの防災訓練は中止となった。そこで、課題検証訓練としてコロナ禍における補助避難所運営訓練を補助避難所運営委員とともに実施し、今後の補助避難所運営マニュアル改定への一助とした。	5 月 22 日～ 10 月 31 日	6	55
【中止】 市民参画講座おばけ屋敷プロジェクト「北山納涼祭」	大学生が市民企画員となり計画する予定だったが、企画会議を開催することが難しく、また、おばけ屋敷自体が閉鎖的な空間となりやすく三密を避けがたいと判断し、中止とした。	【中止】 8 月 30 日	－	－
朗読の部屋	地域交流と集いの場として利用されている市民センターを会場として開催する「ロビー展」に合わせ朗読会を開催した。近隣の保育園に声をかけたところ園児と先生が参加し、新たな繋がりができた。	11 月 26 日	1	27
第 13 回 北山交流まつり	感染拡大の状況を踏まえ、実行委員会役員会により従来の形のまつりは中止が決定された。そこで展示のみ、感染防止対策を講じたうえで開催した。町内会･子ども会･地域諸団体・サークル・個人等の参加を得て開催した。	11 月 26 日 11 月 27 日 11 月 28 日	1	302
地域懇話会	地域住民や地域諸団体等からの意見・要望や地域課題などを把握・共有することで，事業運営に役立ち地域づくりの拠点機能を発揮する機会となった。	6 月 17 日 1 月 9 日	2	16
北山地区歴史ガイドボランティア次世代養成講座	通町小学校連携事業では、新人ガイドが自立し主導的な役割を果たし、班編成の児童を案内した。また、令和 3 年度の資料改訂版発行のためグループに分かれ、自主学習を継続して行っている。	4 月 8 日～ 3 月 10 日	8	89

〔令和２年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

東北福祉大学「子育て支援プロジェクト ママサプリ」の活動支援

令和元年度より、幼児教育を学ぶ学生たちのボランティア団体「ママサプリ」の自主企画開催の支援に関わっている。新型コロナウイルス感染拡大防止のため自主企画開催は断念したものの、学生 2 名が来館し、講座「ルンルン子育てサロン」を見学した。その際に、参加者、講師の仙台市の保健師とのコミュニケーションを図る場を提供したことで、親子講座企画のヒントを得る機会とすることができた。

福沢市民センター

〔沿　革〕

福沢市民センターは、昭和 59 年 6 月 9 日、コミュニティ防災センターを併設し、開館。平成 20 年 6 月より大規模改修工事を行い平成 21 年 1 月 14 日に再開した。

当市民センターの地域内は、東照宮の門前町として栄えた宮町を中心として歴史を感じる雰囲気を今にとどめており、下町情緒に溢れている。反面、仙台市中心部からも近く、マンションも建ち並び新旧住民が混在した地域でもあり、ここ数年地域の総人口は増加に転じている。また、地域内に復興公営住宅が 2 ヵ所建設され、地域コミュニティの形成がより重要となりつつある中で、地域の交流の場として多くの人々に利用されている。

［★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業］

〔特色ある事業〕

事業名	市民企画会議「音楽交流会」を経て実施する事業		
参加者	乳幼児親子、小学生、中学生、地域住民	延参加者	157 人
開催日	全 4 回　令和 2 年 10 月 3 日(土)～12 月 12 日(土)		
協力者・協力団体	小松島児童館		
ねらい	市民が企画員となり、地域住民のために音楽交流会を企画開催する。地域の児童館と連携したり、子育て世代のニーズを取り入れたりすることなどにより、幅広い年代の方々が気軽に集い、楽しみながら交流を図る場を提供する。		
概要・成果	市民企画員が検討を重ね、子育て世代から高齢者まで幅広い年代が楽しめるよう、オルゴール演奏、ギターアンサンブル、ウクレレとフラダンス、琉球太鼓の演舞を実施した。三密を避け、コロナ禍の中でも演奏者も来場者も安心して参加できるような工夫をして開催をした。「小さな子どもも一緒に楽しめた」、「久しぶりにこのような集まりに来て楽しかった」、「コロナで外出できない毎日だったが、スカッとした気持ちになった」等の感想があった。コロナ禍で疎遠になっていた来場者同士が会話する光景も見られ、外出のきっかけとなり、住民の交流にも役立った。		

〔令和２年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
ママのためのリフレッシュタイム♪	親子ヨガや親子ビクスを体験した。親子で一緒に音楽に合わせて身体を動かすことにより、気分のリフレッシュや、家庭でも継続できる運動のヒントとなった。	10 月 27 日 11 月 10 日 12 月 15 日	3	44
エンジョイ！こどもひろば	12 月に児童館と連携し工作やクリスマス会等を行った。3 月末に体育館で運動遊びなどのレクリエーションを実施の予定であったが新型コロナウイルス急増のため中止とした。	12 月 19 日	1	20
仙台市子ども会インリーダー研修会	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、世話人向け、児童向け資料配布により紙面開催として実施した。	1 月 23 日	1	38
先人の知恵に学ぶ	令和 2 年度は、「日本人は何を食べてきたか」をテーマに、主に新石器時代から現在に至るまでの主食や副食、調味料について学び、和食がいかに世界に誇れる食文化であるかを学んだ。コロナ禍のため、募集人数を半分にして実施した。	7 月 25 日～ 1 月 30 日	5	67

福沢シニア大学	健康体操、介護予防講座、新春漫談、箏演奏などの内容で開催した。感染予防対策として、会場を会議室から体育館へ変更して開催した。	9月17日～ 2月18日	6	290
★災害にそなえよう！その時どうする？	地球温暖化による大雨、洪水の災害や家庭における火災予防など、身近に起こりうる災害について学んだ。また、いざという時に役立つ救命救急講座を行った。	9月18日 9月29日 11月27日	3	40
【中止】認知症についてやさしく学ぶカフェ～ホッとひと息カフェ～	令和元年度より継続して行うことを企画し、6月から実施できるよう準備を進めていたが、参加対象者及び運営スタッフに高齢者が多いことと飲食を伴う形式の講座であるため参加者の安全等を考慮した上で中止を決定した。	【中止】 4月～3月	－	－
第31回福沢市民センターまつり2020	役員会にて要望があり、新型コロナウイルス感染防止のため、「2020おまつりウイーク!!～サークル体験・見学会」として開催した。開会セレモニー、本のリサイクル、参加サークル・団体は体験・見学・発表など希望する内容で日頃の活動のＰＲを行った。	11月8日～ 11月28日	1	617
福沢懇話会	管内の3連合町内会長、役員との懇話会と管内の4児童館館長、主任との懇話会を実施した。地域の様子を直接聞くことができたこと、当館の活動を理解してもらうことができたことで有意義な会になった。	7月20日 1月27日	2	20
●ご近所応援団～食でつながろう～	若い子育て世代の母親を対象に、「食」をテーマに栄養についてや子供が食べやすい調理方法などを学んだ。子どもにどんな本を与えたらよいかなど読み聞かせについても学んだことで、その後「読み聞かせボランティア」の結成に至った。	11月25日～ 3月18日	5	67
社会学級共催事業企画会議	管内2つの社会学級と連携し、コロナ禍による運動不足解消のための楽しく体を動かすことに関する講座の企画と運営を行った。	9月11日 10月8日 10月28日 12月3日	4	16
市民企画会議「音楽交流会」	企画員が地域住民のために音楽会を企画運営し、地域で積極的に活動できる人材育成に繋がった。	7月 3日～ 12月12日	5	26
社会学級共催事業企画会議を経て実施する事業	「みんなで体を動かそう！」をテーマに、参加者みんなで音楽に合わせてストレッチや軽体操を行った。講座を通して、心身をリフレッシュすることができ、自宅でも行いやすいストレッチや緩やかな筋トレの仕方を習得できた。	12月3日	1	25

〔令和２年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

「福沢ちえ袋の会」の活動支援

福沢ちえ袋の会は、平成 19 年度から福沢市民センターで節句のお飾り作りやその作り方の指導をしている。また、昔遊び(お手玉・割りばし鉄砲・紙とんぼ)の紹介や道具の制作、仕組みの学習等の体験活動を地域の保育所、児童館、小学校等で行っている。

令和 2 年度は、コロナ禍のため、学校での活動はできなかったが、市民センターがコーディネートし児童館で昔遊びを行ったり、市民センターと連携して七夕飾り作りと展示を行ったりした。近年、会員の高齢化と会員数の減少により要請に応えられなくなるという課題を抱えてはいるが、実情に合わせて無理のないように工夫して活動している。これまでの市民センターによる協力要請の仲介に加え、団体へ直接依頼されることも増え、長年にわたる活動が地域へ浸透している。

旭ケ丘市民センター

〔沿　革〕

旭ケ丘市民センターは、地下鉄南北線建設事業の一環として昭和 60 年 6 月に開館した。地下鉄・バスの利便性が非常に良い立地にあり、また近隣は日立システムズホール仙台（仙台市青年文化センター）、スリーエム仙台市科学館、仙台文学館等の学術文化ゾーンとなっている。さらに西側には市民から親しまれている台原森林公園が広がり自然環境にも恵まれている。当市民センターは、年間利用者が 10 万人近いことから市内全域を視野に入れ、現代社会における課題を踏まえ、地域資源・人材を活用した事業展開を推進し、多様なニーズに対応する生涯学習の場を提供するとともに、地域コミュニティの基盤としての役割を担っている。

［★震災を踏まえた事業　●区役所との連携事業］

〔特色ある事業〕

事業名	旭ケ丘老壮大学		
参加者	高齢者	延参加者	268 人
開催日	全 4 回　令和 2 年 7 月 10 日(金)～令和 3 年 2 月 5 日(金)		
協力者・協力団体	台原地域包括支援センター		
ねらい	地域の高齢者が、多様化している社会の変化に対応できるよう、様々な分野の学習の場を提供するとともに、受講生同士の交流と親睦を図る。		
概要・成果	コロナ禍にあって、受講生が集まらなくても開催できる通信制に変更した。申込時に興味ある分野を尋ね、「健康」「歴史」「食と栄養」「介護」の 4 つに絞り、講師に原稿を依頼した。講師から作成いただいた資料を受講生に送付する際は、感想などを記入するアンケート用紙を同封し、受講生から返送をしてもらった。また、次回の資料送付時には返送されたアンケートをまとめたものを同封した。このやりとりが受講生の様子を知る術となり、通信制ならではの交流ができた。「日程を気にせず受講できる」「市民センターに出向かなくても勉強できる」といった通信制に対しての好意的な意見がある一方で、これまで通り対面で集まる機会が欲しいとの声もあり、今後にどう活かしていくかが課題である。		

〔令和２年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
ワクワク！ドキドキ！をさがそう旭ケ丘	コロナ禍でもできる内容を検討し、回数を 2 回、小学生を対象とし定員は各 10 名で実施した。第 1 回はホタルの学習・えさやり体験をし、第 2 回は書きぞめのコツを学んだ。	10 月 7 日 12 月 19 日	2	29
仙台市インリーダー研修会	コロナウイルスの感染状況が悪化し、対面式から紙面開催へ変更になった。学校を通して、資料を配布した。	1 月 30 日	1	34
【中止】 今昔地図でまち歩き	新生活様式に沿っての開催方法を熟考したが、受講生の話し合い等の内容で進める予定だったため、開催するのが難しく、また実施するのに十分な期間もとれないため中止とした。	【中止】 6 月～12 月	－	－

あさひがおか音楽会	コロナ禍のため、回数と定員を減らし抽選で受講生を募集し、ピアノとヴァイオリンの演奏会を行った。演奏者による話と、事前に受付けた質問への返答をプログラムに組み込んだ。	11 月 28 日	1	46
みんなにやさしい避難所	新型コロナウイルス感染症に配慮し、定員と内容を見直して実施した。災害に対する備えや心構え、避難所ありきではない自宅避難の方法の他、ふろしきを防災グッズとして活用する方法を学んだ。	9 月 17 日 12 月 15 日	2	16
災害につよいまちづくり	新型コロナウイルス感染拡大防止のため避難所運営訓練は中止としたが、感染予防の視点を入れた避難所マニュアルの見直しを関係団体と行った。	8 月 7 日 9 月 25 日	2	10
旭ケ丘の魅力	コロナ禍のため公開講座を取りやめ、企画員のみで寺社見学学習や台原森林公園を撮影している写真家の講話を聞いた。それらの学習を生かし地域検定クイズを作成している。	7 月 15 日～ 3 月 10 日	8	41
【中止】旭ケ丘市民センターまつり	実行委員会役員による会議を開催した。現状では仙台市のガイドラインの条件をクリアすることは難しく、参加者の安全等を考慮し中止を決定した。	【中止】 10 月 17 日 10 月 18 日	－	－
旭ケ丘地域懇話会	地域の町内会、教育機関、各種団体等と新型コロナウイルス感染対策を含め各団体の現状や課題、市民センターの事業実施状況等について情報交換を行った。	7 月 16 日 3 月 4 日	2	34

〔令和２年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

<u>地域における健康増進活動への支援</u>

これまで、地域の町内会等が集会所で「杜の都のおトク体操」を実施していたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため開催できなくなった。そこで地域包括支援センターと市民センターが支援して、家庭でも継続して体操をできるようにと、貯筋カード（運動の実施記録）と体操のしおりを作成し、各家庭に配布した。

当初 9 月までの貯筋カードを渡していたが、10 月以降のカードも欲しいと利用者から希望があり、市民センターで 3 月までのカードを作成し、民児協を通じて配布した。

令和 3 年度には、各回の人数を制限したり、天気のいい日は室内ではなく公園なども活用し、コロナ禍でも感染防止を図りながら実施できるよう支援を続けていく予定。

三本松市民センター

〔沿　革〕

三本松市民センターは、北仙台駅から近く、閑静な住宅街である堤町の中に位置し、西側には野鳥や山野草に恵まれた三本松緑地公園が隣接している。堤町は、現在は窯の火は消えてしまったものの、古くから「堤焼き」と「堤人形」の町として知られた歴史のある地域である。

当市民センターは、昭和 62 年 4 月 1 日、泉ヶ岳を眺望できる高台に建設された。駐車場(35 台)、舞台付で約 50 畳の和室と広い体育館(バスケットボールコート 1 面、バレーボールコート 2 面、卓球台 9 台)があり、地域住民の生涯学習の場として広く利用されている。平成 27 年度に大規模修繕を実施し、平成 28 年 4 月に再開した。

［★震災を踏まえた事業　●区役所との連携事業］

〔特色ある事業〕

事業名	堤町再発見～堤町まちものがたり2～		
参加者	成人	延参加者	86 人
開催日	全 14 回　令和 2 年 6 月 10 日(水)～令和 3 年 3 月 18 日(木)		
協力者・協力団体	つつみのおひなっこや、菊田陶業株式会社、つつみ人形製造所、建築と子供たちネットワーク仙台等		
ねらい	複数年事業で、地域の歴史や文化を学び直し、「堤焼の里」「街道」「自然と生活」の 3 つのテーマに分かれてグループで調査してきた内容を基に冊子にまとめ、地域の子どもや地域の方々に「地域かたり隊」として伝えていくことを目指す。		
概要・成果	コロナ禍で、前半は当初予定の活動ができない中、自主的な活動により受講生それぞれが役割を果たすことで、冊子にまとめることができたことは大きな成果だった。受講生が地域の魅力に気づき、その地域資源を守る取り組みを自主的に始めている。班の活動を通じて、仲間意識が芽生え、一緒に活動することでより一層綿密な調査ができた。		

〔令和２年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
子育て支援講座 ママ☆ピヨひろば	親子で楽しめる「親子ヨガ」とバレトンを体験できる「バレエでエクササイズ」を行った。	10 月 20 日 3 月 4 日	2	26
インリーダー研修会	世話人向けは、子ども会活動についてと世話人の役割について、児童向けは、子ども会活動の意義とインリーダーの役割について紙面で研修した。	1 月 30 日	1	34
三本松寺子屋	小学生を対象に、学校とは違う体験学習の場を提供し、同世代の仲間と楽しみながら学習し交流を図った。「虫の声を楽しむ会」「三本松緑地散策とリース作り」「移動天文車ベガ号で天体観望会」「お琴教室」を開催した。	9 月 19 日～ 12 月 5 日	6	112
防災講座	救急救命講習会（心肺蘇生法・ＡＥＤの使い方）を開催した。	11 月 14 日	1	5
三本松老壮大学	高齢者を対象に物知り講座、介護予防、軽運動などを行った。開始月を 9 月からとし、体育館で時間短縮して開催した。	9 月 9 日～ 3 月 10 日	7	207

【中止】 3×3 バスケットボール大会 in 三本松	時間を短縮し、参加者数を少なくすることで開催を予定していたが、急激な感染拡大によりやむなく中止決定とした。	【中止】 12 月 6 日	－	－
【中止】 三本松市民センターがやってくる！	参加者の大部分が高齢者となる出前講座を実施することは、市内の感染状況を考慮すると難しいと考え中止とした。	【中止】 6 月～3 月	－	－
図書まつり～本に親しもう！	幼児から高齢者まで幅広い年齢層の住民が図書に触れ、親しむことができる機会を提供し、読書推進につなげることを目的に、川柳募集、川柳入選句とリサイクル図書の展示を行った。	6 月 2 日～ 11 月 7 日	3	200
三本松市民センターまつり	およそ一か月の期間を設け、感染症対策に気を付けながら、ロビースペースを利用しサークルや個人の作品展示をした。	10 月 11 日～ 11 月 7 日	1	120
市民企画講座「三本松から音楽の風を」	体育館にて第 1 回「ヴァイオリン&ピアノコンサート」第 3 回「オカリナコンサート」を開催した。第 2 回「ミュージックあらかると」はコロナ感染拡大状況を鑑み延期し、令和 3 年度開催を予定している。	11 月 15 日 2 月 27 日	2	115
三本松地域懇話会	地域団体(町内会)と地域課題などについて意見交換を行った。	11 月 28 日	1	7
市民企画会議　ティータイムサロン in 三本松～三本松から音楽の風を～	「音楽」をキーワードとした催しを開催するために市民企画員がアイディアを出しあい企画立案や講座実施に向けて準備を行った。	6 月 23 日～ 2 月 27 日	9	43
【中止】 サークル体験会	年度初めから開催する予定でセンターだより等にて広報していたが、臨時休館となり中止を決定した。	【中止】	－	－

〔令和２年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

図書ボランティア“ぽけっと”の活動支援、三本松緑地活性化委員会他との堆肥作り

かねてより三本松市民センター図書室運営に携わっている図書ボランティア“ぽけっと”は、市民センターまつりで、市民から寄贈された本のリサイクル展示を行ってきた。令和 2 年度はコロナ禍で市民センターまつりが開催されなかったため、市民センターでは、ロビーにリサイクル図書展示コーナーを常設し、目に留めてもらえるような工夫を行い、併せて来館者への声掛けを行った。展示コーナーの常設に加えて、図書ボランティアの方の積極的な活動もあり、これまで図書室を利用してこなかった方の新たな利用の掘り起こしにつながった。

三本松市民センター付近は周囲が森林に囲まれている環境にあるため、特に道路に大量に舞い散る秋の落ち葉に悩まされているといった地域の声があった。そこで市民センターでは、市民センター講座から立ち上がった三本松緑地活性化委員会の有志メンバーとともに、その落葉を集めて堆肥を作ることを毎年行っている。令和 2 年度も、できあがった堆肥は地域の方へ無料配布して有効活用いただいており、これにより地域の環境美化と資源の有効活用を同時に図ることができている。

片平市民センター

〔沿　革〕

片平市民センターは平成元年、児童館とコミュニティ防災センターを併設して、東北大学農学研究所跡地に開館した。市内中心部に位置し、交通が便利なことから町内会など地域の団体ばかりでなく、全市的な市民活動の場として盛んに利用されている。

また市民センターが立地する地区は、市街地にありながら広瀬川がつくりだす独特な地形と、仙台城や経ヶ峯の豊かな自然に囲まれたところである。さらには歴史的な資源に恵まれ、大学の研究機関などが隣接する。

こうした地域の資源を活かした生涯学習プログラムの提供や、市民の自主的な活動の支援、併設する児童館との共催事業の提供を通して、地域に貢献している。

［★震災を踏まえた事業　●区役所との連携事業］

〔特色ある事業〕

事業名	★●楽しく学ぼう　地域防災		
参加者	地域住民	延参加者	144 人
開催日	全 3 回　令和 2 年 11 月 28 日(土)、令和 3 年 2 月 25 日(木)、3 月 11 日(木)		
協力者・協力団体	片平地区災害に強いまちづくり実行委員会、青葉区家庭健康課、片平ひだまりの会		
ねらい	片平地区はマンション建設が進む仙台市の中心部に位置し、新旧住民が混在しており、住民の年代も若者から高齢者まで、家族構成も単身者・核家庭・多世代同居と様々であり、必要な防災・減災対策も多様である。 そこで、片平地区災害に強いまちづくり実行委員会と連携することで、各地域の状況・住民の立場について広く意見を聴取し、それに応じた防災・減災講座を開催し、住民の防災知識の向上と住民同士の交流を促し、相互理解のきっかけづくりを行う。		
概要･成果	地域との連携を予定していた地区合同防災訓練と「防災×宝探しゲーム」、青葉区家庭健康課との共催を予定していた常備菜づくりの学習会は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止した。しかし、仙台市地域防災リーダーの協力のもと、市民センターだよりに大雨災害に備えるための防災チェックリストを掲載し、地域に特化した防災情報を発信したり、青葉区家庭健康課と協力し、常備菜と食料備蓄についての啓発資料を作成し、館内や近隣の小学校、併設する児童館事業参加者に配布したりするなど情報発信を行った。 コロナ禍に対応した学習としてはフェイスガードと防護服づくりの学習会を開催した。サロンボランティア「片平ひだまりの会」と参加者がマンツーマンで学習を進めていくことができ、感染リスクを抑えながら、地域住民同士の交流を実現することができた。 また、東日本大震災から 10 年目を迎えることから、灯篭づくりと 3 月 11 日のライトアップを実施。地域住民、施設利用者、児童クラブの児童とその保護者など多くの人が作品を見ながら、東日本大震災について思いを寄せる機会をつくることができた。		

〔令和２年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日･期間	回数	延参加者
インリーダー研修会	新型コロナウイルス感染拡大防止を優先し研修資料配布による紙面開催となった。学校を通し子ども会へ研修資料を配布した。該当児童・世話人が資料を基に学習した。	1 月 30 日	1	43
かたひらきっずらんど	新型コロナウイルス感染症拡大のため、美術館探検、宮城県工業高等学校との連携によるものづくり体験を中止。春と秋に花壇づくり、牛乳パックを使ったクリスマスライトづくりを行った。	6 月 13 日 11 月 14 日 12 月 12 日	3	18

広瀬川界隈ぶらり散歩	ボランティアとの企画会を経て、広瀬川を中心とした片平地域の散策を行った。実施後に反省会、次年度に向けての企画会を行った。	7月7日～ 3月4日	5	92
片平シニア麟経大学	高齢者を対象に軽運動、消費者セミナー、科学講座、オカリナコンサート、シルバー川柳、歴史講座を開催した。感染対策として、受講生を2つのグループに分け、月2回実施した。	7月9日～ 2月18日	12	264
地域の宝みんなの片平公園	隣接する片平公園の花壇に花の苗を植えた。また、片平丁小学校3年生の総合的な学習の時間で公園をきれいにする活動(ゴミ拾い、落ち葉集め、花壇づくり等）を片平公園お花の会とともに実施した。	6月13日～ 1月8日	5	292
【中止】片平のひびき～歌声コンサート	当館使用の合唱団体による動画撮影によるＤＶＤコンサートを検討し、団体にアンケートを実施したが、感染拡大もあり、合唱団体の賛同を得られず、中止した。	【中止】 9月12日 10月24日 11月28日	－	－
【中止】かたひらｗａｉｗａｉ広場	実行委員会役員会を開催し、前年度参加団体へのアンケート集計結果も含めて検討した結果、参加者の安全を優先して、中止を決定した。	【中止】 10月10日	－	－
【中止】 Tanabata Night 手作り灯篭ワークショップ	新型コロナウイルス感染拡大により、ワークショップで作成した作品の展示発表の場であった瑞鳳殿での七夕ナイトが中止となったため、本講座も中止した。	【中止】 7月11日～ 8月8日	－	－
片平のひびき～臥竜梅コンサート	中止となった「片平のひびき～歌声コンサート」の代替として年央で企画し、トーンチャイムのコンサートを実施した。感染対策を講じて、楽器の演奏体験による交流も行った。	2月13日	1	28
片平市民センター懇話会	市民センターの事業紹介及び実施報告、協力依頼、並びにコロナ禍における地域団体との情報交換を行い、連携事業の見通しについて共通理解を図った。	7月3日 12月11日	2	29
【中止】盛り上げよう地域のイベント	片平地区まちづくり会などの連携団体と開催について検討したが、市内の感染状況を踏まえ、小学校の授業時間確保や参加者の安全性等を考慮したうえで、中止を決定した。	【中止】 7月30日～ 1月16日	－	－

〔令和２年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

「片平公園お花の会」の活動支援

平成28年度に実施した地域力創造支援事業「地域の宝みんなの片平公園」終了後、平成29年度に「片平公園お花の会」が結成され、令和元年度には自主的な活動を展開するまでに至っている。

片平公園を会場に春のイベントを実施することで、会の活動を市民にＰＲすることができた。

また､片平丁小学校と会を市民センターがコーディネートして実施した3年生の総合的な学習では、児童が自分たちで考えた学習テーマに合わせて、公園の草むしりやゴミ拾い、落ち葉掃き、公園の植物の採取、会員へのインタビューが行われた。学習成果は、冊子やポスター、学校内で会の活動を紹介するための動画などにまとめられ、会のメンバーにも寄贈された。総合的な学習でのつながりをきっかけに、授業外での公園清掃に親子で参加してくれる児童もおり、学校と会との連携の継続によって、地域住民の活動への理解が深まり、参加者が少しずつ増加している。

水の森市民センター

〔沿　革〕

水の森市民センターは、広く市民の憩いの場として親しまれている自然豊かな水の森公園の南側入口に立地している。管内は昭和 30 年代半ばから宅地開発が進んだ水の森、東勝山、桜ケ丘、川平等の閑静な住宅地を擁する地域である。

当市民センターは、児童館・温水プール・コミュニティ防災センターを併設する複合施設として平成 2 年 9 月にオープンした。斬新な外観の施設は地域のランドマークとして親しまれ、一年を通して多くの利用者が訪れる。2 階の広いロビーは、地域住民の情報交換や憩いの場として高齢者から幼児まで常に賑わいをみせている。令和 2 年 11 月から大規模修繕を実施している（令和 3 年 10 月までの予定)。

［★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業］

〔特色ある事業〕

事業名	市民企画講座「インタビューでGO！！」		
参加者	地域の小中学生	延参加者	85 人
開催日	全 5 回　令和 2 年 8 月 4 日(火)～10 月 3 日(土)		
協力者・協力団体	北仙台小学校		
ねらい	地域の小中学校の卒業生や様々な職業に就いている方へのインタビューを通じて、子どもたちに自身の将来を考える上でのヒントを得てもらう。また、企画員や講師など、普段関わることの少ない子どもと大人の顔の見える交流の機会を創出する。		
概要・成果	この講座は、令和元年度に始まった市民企画会議「子どもの育ちを支えよう！」の中で、企画員のアイデアから生まれた。子どもたちが地域の大人と関わることで地域の良さを改めて知ることができ、また、子どもたちと地域住民の双方にとって顔の見える関係づくりの一助となることを目的に実施している。令和 2 年度は、子どもたちが地域の様々な職業に就いている講師の方々へインタビューをして、多様な価値観や生き方に触れ、視野を広げるとともに、自身の将来を考える上でのヒントを得る機会となった。企画員は学校支援地域本部スーパーバイザー・小中学校のＰＴＡ会長・社会学級委員などで、地域の次世代を担う人材同士が密に連携することができた。		

〔令和２年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
集まれマザーズ	家事や育児のストレスを抱え込まないように託児付きの講座を企画することで、ヨガと県産野菜について学び、母親のリフレッシュと情報交換の場を提供した。	8 月 28 日 9 月 25 日	2	8
水の森自遊クラブ【ＭＪＣ】	市民センターの利用が少ない中高生を対象に土曜日に地域で行えるスポーツの場を提供した。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、児童館との共催はできず、開催回数や内容も一部変更して行った。	7 月 18 日 9 月 19 日 10 月 17 日	3	9
インリーダー研修会	子ども会の中心となる児童と世話人を対象に、子ども会に関する知識やレクリエーションについて学んだ。令和 2 年度は新型コロナウイルス感染拡大防止を優先し、資料配付による紙面開催となった。	2 月 3 日	1	34

荒巻地区・桜ケ丘地区出前講座	令和２年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、交流会は行わず内容を変更し実施。連携先と協議し、荒巻地区は中止とし、桜ケ丘地区は連合町内会と話し合いを重ね、歴史講座を実施した。	1 月 30 日	1	26
みんなのつながりがチカラになる防災講座～学ぶ・体験する～	多角的に防災を考え地域の方に向けて防災学習を行った。令和２年度は「わが家の防災チェック表」を地域防災団体と作成し各家庭に配布した。また、地域の防災訓練参加や町内会と一緒に指定避難所までの避難経路を歩く「防災さんぽ」を行った。	7 月 29 日 9 月 27 日 11 月 1 日 3 月 4 日	4	130
市民企画会議 子どもの育ちを支えよう！	コロナ禍で地域の夏まつりが中止となり、昨年に続き行う予定だった「ゆかたでＧＯ！」から内容を変更せざるを得なくなった。そうした中、子どもたちの学びとなる講座を実施する目的で話し合いを重ね、全く新しい内容となる「インタビューでＧＯ！！」を企画した。	6 月 10 日～ 10 月 3 日	6	20
水の森シニア学園	新型コロナウイルス感染防止のため、予定していた４回のうち、蓄音器によるレコード鑑賞会とコンサートを実施した。密な交流が難しい面はあったが、受講生同士が直接顔を合わせ、ともに学び、つながりを深める場となった。	7 月 16 日 9 月 17 日	2	68
【中止】 水の森地域まつり	実行委員会役員と協議した結果、市内の新型コロナウイルス感染状況を踏まえ、参加者の安全を考慮し中止を決定した。	【中止】 10 月 24 日 10 月 25 日	－	－
水の森懇話会	1 回目は主な利用団体代表者と、2 回目は主な地域団体の代表者と令和元年度の事業等の報告や令和２年度の事業計画について意見交換を行った。	6 月 5 日 6 月 25 日	2	25

〔令和２年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

「水の森公園に親しむ会」の活動支援

「水の森公園に親しむ会」は、水の森公園で活動している他の団体と共に定期的に公園の整備保全や清掃、会報誌の発行等を行い、水の森市民センター地域まつりでも毎年展示発表を行っている。

市民センターは水の森公園への散策コース入口となっているため、「水の森公園に親しむ会」の手による公園のわかりやすい地図、野鳥や植物の写真、「水の森公園山野草一覧」などを展示し、地域住民や公園を訪れる方に対して水の森公園の魅力を発信し、会の活動を支援している。

また、令和２年度は、水の森児童館でミツバチの生態を中心に「水の森公園の自然」をテーマとする行事が宮城学院女子大学によって行われたが、その様子を「親しむ会」に紹介したところ、会員向けの研修会に同内容を取り入れることとなり、団体の活動の幅が広がった。

貝ケ森市民センター

〔沿　革〕

“貝”をモチーフにしたデザインが館内随所に配された貝ケ森市民センターは、貝ケ森地区に平成 5 年 4 月、児童館を併設して開館した。閑静な住宅街の中にあって、その瀟洒な建物は、隣接する貝ケ森中央公園とともに地域のシンボルとして親しまれている。

風光明媚な貝ケ森地区は自然の風物に富み、さらに高等教育機関や文化施設などに恵まれており、国際交流の盛んな場所でもある。

当市民センターは、可動式の舞台を持つ多目的ホール、会議室、調理台付き小会議室、水屋付き和室等があり、地域住民の学習・スポーツの場として、また、憩いの場として活用されている。

［★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業］

〔特色ある事業〕

事業名	男の企画会議「歩いて学ぶ郷土の歴史」		
参加者	成人	延参加者	39 人
開催日	全 10 回　令和 2 年 7 月 16 日(木)～12 月 2 日(水)		
協力者・協力団体	－		
ねらい	貝ケ森・国見地区は高齢化が進み、住民の孤立を防ぐことが地域の課題となっている。特に、退職後に自宅に引きこもっている男性は、あまり出かけず地域との交流もほとんどないことから、生きがいを持って生活するためのきっかけづくりが必要とされている。 そこで、地域の男性が集まり、地域の史跡等を活用した歴史講座を企画実施することで、男性の生涯学習のきっかけと仲間作りの場を提供する。		
概要・成果	歴史をテーマにしたことで、歴史好きな地域のシニア世代の男性が集まり、講座の企画、まち歩きの下見、当日の運営まで、とても熱心に取り組んでいた。企画会議を通して、シニア世代の男性が、楽しみながら交流を深められた。 また、自分たちが関心のある地域の題材を市民企画講座として形にし、参加者とともに学びを共有することを通し、生涯学習のきっかけづくりとすることができた。		

〔令和２年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
【中止】 ちびっこまつり	児童館と子育てにかかわる 11 地域団体との協力者会議の開催の調整を図ったが、児童館まつりの中止に伴い、中止とした。	【中止】 10 月 1 日	－	－
中学生のハローワーク	中学 1 年生を対象に、各々の生徒が、7 業種の社会人講師のうち､自分が聞きたいと思う 2 業種の講師を選択し、それぞれの講師から職業講話を聞いた。	11 月 13 日	2	422
●防災リーダー講座	国見小学校 5 年生を対象とした防災クロスロードゲーム、第一中学校 1 年生を対象とした防災クイズ、仙台高等学校防災委員会を対象とした防災講話、地域住民を対象とした防災講話を行った。また、補助避難所運営委員会の会議を 4 回行った。	6 月 6 日～ 2 月 6 日	8	454
インリーダー研修会	新型コロナウイルス感染症感染防止のため、資料配布により実施した。世話人向けには「子ども会活動と世話人の役割」、児童向けには「子ども会活動の意義とインリーダーの役割」の学習内容で行った。	3 月 5 日	1	25

市民企画講座「歩いて学ぶ郷土の歴史」	地域の地名の由来に関する講話、国見の石垣と城下町仙台をテーマにした講話とまち歩きを行った。	10月15日 10月22日 10月29日 11月12日	4	39
貝ケ森シニア学園	シニア世代を対象に、様々なジャンル（文化教養、健康、歴史等）についての講話及び実技、コンサート等を行った。新型コロナにより、開催開始を9月からに変更し、実技は2回に分けて実施した。	9月16日～ 3月3日	8	259
貝ケ森交流サロン	コンサートや、堤人形の絵付け体験、地域散策や健康講話とストレッチ、健康測定や折り紙など多岐にわたる内容のサロンを開催し、住民の交流の場を提供した。	8月28日～ 2月26日	6	89
【中止】 豆まき会	協力団体と協議し、新型コロナウイルス感染防止のため、中止とすることとした。	【中止】 1月	－	－
【中止】 貝ケ森地区文化祭	貝ケ森地区文化祭役員会を行い協議した結果、地域のイベントの中止状況や学校の状況、参加者の安全性等を鑑み、中止を決定した。11月17日に第2回役員会を行い、令和3年度の開催についての話し合いを行った。	【中止】 10月24日 10月25日	－	－
【中止】 地域懇話会	貝ケ森・国見連合町内会の年間行事が全て中止になり、国見小・第一中でも外部の方を交えての会合が全て見送られたことを受けて中止とした。	【中止】 9月～2月	－	－
貝ケ森ガーデンサポーター支援講座	貝ケ森ガーデンサポーターと地域住民を対象に、講話による学習会（貝ケ森シンボル花壇の整備と、自宅の庭づくりに関する学習）、及びガーデンサポーターの活動紹介を行った。	12月17日 2月4日	2	27

〔令和２年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

「貝ケ森シンボル花壇の会」の支援

貝ケ森シンボル花壇の会（旧名称：貝ケ森ガーデンサポーター）は、貝ケ森シンボル花壇の整備を行っている住民によるボランティア団体である。貝ケ森市民センターでは、これまでも「貝ケ森シンボル花壇の会」の活動紹介やメンバー募集、その他花壇整備活動の支援等、幅広い活動支援を行ってきたが、令和2年度は、例年の支援に加え、シンボル花壇の整備等をテーマにしたボランティアのための支援講座を実施した。

支援講座には、ボランティアの方以外に受講を希望する住民の方にも参加いただいたため、講話の後にボランティアの方が自ら活動を紹介する機会を設けた。それにより、これまで会の活動を知らなかった住民の方へ紹介する機会となったことで、会員の増加につなげることができた。

中山市民センター

〔沿　革〕

中山市民センターは、旧中山コミュニティセンターを増改築し、平成７年４月に児童館を併設して開館した。近隣には月急山公園、うどう沼公園があり、街路のケヤキや桜並木に囲まれ緑豊かな自然にあふれている。地域では、街道市や七夕祭り、スノーマン祭り、とびの子祭り、学区民運動会、老人クラブ演芸大会、町内会夏祭り等地域団体が主催する行事が活発である。

当市民センターが受け持つ中山・川平地区は、戸建て・集合住宅のほか、近年は大型マンションが増え、新しい町並みを形成している。また、近くに「せんだんの杜」、「せんだんの里」等の介護や福祉関係の施設があり、福祉に関する住民意識と学習意欲の高い地域である。

［★震災を踏まえた事業　●区役所との連携事業］

〔特色ある事業〕

事業名	めざそう　花と緑のエコタウン		
参加者	地域住民	延参加者	21 人
開催日	全３回　令和２年 12 月３日(木)～令和３年２月 25 日(木)		
協力者・協力団体	中山中学校、中山小学校、中山赤十字奉仕団		
ねらい	中山地域は、街路樹の成長に伴い大量の落ち葉で道路が埋め尽くされるようになった。中山中学校が行っている地域清掃において中学生、小学生、地域住民が集めた落葉をゴミにせず堆肥化し、交流しながら町内会の花壇や児童館・市民センターで再利用することで、地域住民が資源循環について考える機会を提供する。		
概要・成果	令和２年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により開催が遅れ、飲食を伴う交流会といった内容が実施できない状況だったため、内容を「落ち葉堆肥づくり」に絞って実施した。参加者は、落ち葉が微生物の働きによって徐々に堆肥になっていく過程を実技を通して知り、講師から堆肥の活用事例を聞くことで資源循環の事例を学んだ。また、堆肥から花や野菜の栽培のことなど、様々な話題で交流することで、資源循環の実践について意識を高めるとともに、地域で落ち葉堆肥づくりを続けていくことの意義を再認識することができた。		

〔令和２年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
【中止】 かわだいらお楽しみ劇場	共催先の川平マイスクール児童館と延期を検討したが、市内の感染状況を踏まえ、参加者の安全等を考慮したうえで中止を決定した。	【中止】 6 月 27 日	－	－
【中止】 ほっと一息　子育てさんのリフレッシュ講座	市内の感染状況を踏まえ検討したが、託児ボランティアと協議の結果、参加者の安全等を考慮したうえで、中止を決定した。	【中止】 11 月 11 日 11 月 25 日 12 月 9 日	－	－
【中止】 昔遊びを楽しもう	共催先の中山小学校を会場に開催予定だったが、市内の感染状況を踏まえ、参加者の安全等を考慮し、学校と検討の結果、中止を決定した。	【中止】 11 月 20 日	－	－
中山キッズ	小学生向け体験講座。第１回ジュニアリーダーとのゲームやダンス体験、第２回天体やオーロラなどの講話、第３回オイルパステルを使った臨床美術体験。	10 月 24 日 11 月 14 日 12 月 5 日	3	67
インリーダー研修会	子ども会の次期リーダーとなる小学 5 年生及び世話人が、子ども会についての知識やレクリエーションなどを学んだ。新型コロナウイルス感染対策のため、対面研修から紙面研修に変更となった。	2 月 13 日	1	45

★「今」を生きる－震災から 10 年、今こそ聞きたい言葉	東日本大震災から 10 年目という節目を迎えた今、自分自身の生について考え、これからを生きる糧となる言葉の力を体感することを目的に開催した。第 1 回「生と死をつなぐ―いのちのゆくえ―」講師：普門寺副住職髙橋悦堂氏、第 2 回「それでも、生きていく」講師：東松島市役所佐藤伸寿氏、第 3 回「いま、語り継ぐこと」講師：民話採訪者小野和子氏	2 月 13 日 2 月 27 日 3 月 13 日	3	63
くらしほっこり～アラカルト講座	誰でも楽しめる講座を企画し、生活の張りにできる場の提供を目指して開催した。第 1 回：着物地を使ったブックカバーと水引のしおり作り、第 2 回：名曲クラシックのピアノミニコンサート、第 3 回：森の天然素材を使ったリース作り	10 月 31 日 11 月 21 日 12 月 12 日	3	39
中山銀鈴倶楽部	心身ともに健康で豊かな生活を送ることができるよう、様々な内容の学習に取り組んだ。第 1 回（午前・午後）：家でも楽しめる筋トレと脳トレ、第 2 回：認知症当事者からの講話と対談、第 3 回：クリニカルアート、第 4 回：江戸時代の仙台で活躍した作家について講話	10 月 9 日 11 月 13 日 12 月 11 日 1 月 8 日	5	129
【中止】 防災講座	中山地区防災訓練が、市内の感染状況を踏まえ、参加者の安全を考慮し中止となったことを受け、中止を決定した。	【中止】 10 月 17 日	－	－
ラララ♪　歌で元気に	歌うことで、心身の健康を保ち、受講生が生き生きと歌う姿を地域住民に届けることを目指して開催した。心で歌を楽しむ（仙台ＣＭソングの鑑賞、歌詞の解釈等）、青春、人生などのテーマで歌を選択し歌う、地域の歌「なかやま」の練習、地域に向けた活動の話し合い。	10 月 22 日～ 2 月 18 日	5	49
おかのまちコンサート	第 1 回企画会を実施。各サークル企画員の協議の結果、令和 2 年度のコンサート中止を決定した。	8 月 1 日	1	3
【中止】 中山市民センター・児童館まつり	実行委員会役員会で開催を検討したが、市内の感染状況を踏まえ、参加者の安全を考慮したうえで、中止を決定した。	【中止】 9 月 12 日	－	－
懇話会	関係する地域諸団体や学校関係者から、市民センターに関する意見を伺い、また、コロナ禍での各団体の取り組みを共有することで、顔の見える関係作りができた。	2 月 17 日	1	18

〔令和２年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

中山地区社会福祉協議会、中山赤十字奉仕団「ミニコンサート」の支援

中山地区社会福祉協議会、中山赤十字奉仕団から、コロナ禍の中、ミニコンサートを開催するためにどのような対策をとったら良いかについて相談を受けた。ミニコンサートの会場が当市民センターということから、会場の定員、座席間隔の社会的距離、来場者の把握、受付での検温・消毒など詳細を整理し、最終的に会場を多目的ホールに変更して開催された。新型コロナウイルス感染症の影響で地域でのイベントがしばらくなかった時期でもあり、主催者、聴衆とも満足のいくコンサートとなるよう支援することができた。

折立市民センター

〔沿　革〕

折立市民センターは、平成7年5月30日に市内50番目の市民センターとして、折立児童館・コミュニティ防災センターを併設して開館した。

当市民センターは仙台市中心部から西方約5㎞の地点に位置している。東側には青葉山丘陵、南側には里山蕃山があり、北側には広瀬川が流れ、西側にはその広瀬川によって形成された河岸段丘が開けており、遠くには奥羽山系を眺望できるという自然環境に恵まれた場所に立地している。

施設には可動式のステージが備わった多目的ホール、照明付の舞台を備えた 49 畳の和室、調理用機器を完備した会議室兼調理実習室等があり、地域住民の生涯学習・スポーツ・コミュニティづくりの場として、広く利用されている。

［★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業］

〔特色ある事業〕

事業名	ライトアート in 折立		
参加者	地域住民	延参加者	877 人
開催日	全 11 回　令和 2 年 8 月 1 日(土)～12 月 12 日(土)		
協力者・協力団体	折立素敵物語実行委員会、折立学区町内会連合会		
ねらい	折立素敵物語実行委員会が、令和元年度に地域の人々の交流を深める場として折立小学校 6 年生の有志と企画したことから始まった事業である。イベントの企画運営を通じて、自分たちの住む地域に関心を持ち、絆を深め活性化を促すことをねらいとする。		
概要・成果	令和 2 年度はコロナ禍のため小学生との協働は難しく、地域住民から新たな実行委員を募り運営した。イベントは 12 月 5 日、折立公園を会場に、前回よりもイルミネーションの範囲を広げ、開催時間を延長して三密状態を避ける等の新型コロナウイルス感染症対策を講じながら開催し、約 700 人の来場者が訪れ盛大に行うことができた。 当日の運営には多くの地域ボランティアが参加し、活動を通して普段はあまり顔を合わせない住民同士の繋がりが生まれるなど、折立地域を代表する新たなイベントとして定着しつつあり、地域活性化に向けた機運も高まっている。		

〔令和２年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日･期間	回数	延参加者
親子たいけん隊	回数を 2 回に変更し、第 1 回は陶芸体験、第 2 回は万華鏡づくりを予定した。陶芸は講師の工房で電動ろくろを体験した。第 2 回は新型コロナウイルス感染症の影響により急遽中止とした。	11 月 8 日	1	11
インリーダー研修会	子ども会活動の充実を図るための研修会を予定していたが、直前でコロナのため紙面開催となった。研修資料を小学校を通じて各子ども会に配布し、自主研修を行ってもらった。	2 月 19 日	1	29
わらすこたいむ	「昔遊びボランティアグループわらすこ」の皆さんと、折立児童館の児童クラブを利用する小学生が、笹舟作りやけん玉、こま回しなどの昔遊びを通して異世代間交流を行った。	6 月 11 日～3 月 4 日	8	134
【中止】 小学生の防災教室	連携先の小学校と協議の結果、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため休校が長引いた影響で、日程・内容を検討しても実施が難しいと判断し、中止とした。	【中止】 11 月	－	－

【中止】 中学生の防災教室～僕たち私たちの力～	連携先の中学校と協議の結果、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため休校が長引いた影響で、日程・内容を検討しても実施が難しいと判断し、中止とした。	【中止】 5月	－	－
みんなで写そう！折立散歩	地域の自然や名所・旧跡などを歩きながら撮影し、記録に残すことにより地域を知る機会を提供できた。また、作品をセンター内に展示するとともに、ホームページやセンターだよりに掲載した。	10月10日～ 12月19日	5	21
折立老壮大学	高齢者を対象に文学、介護予防、健康講座、軽体操、音楽、地名について等の講座を開催した。感染対策を万全にし、受講生の受付を50名までとして開催した。	9月17日～ 2月18日	6	94
【中止】 折立地域交流会	共催団体と協議した結果、地域住民の交流を促す目的から、密集は避けられないため中止とした。	【中止】 11月28日 1月30日	－	－
折立素敵物語	コロナ禍でも地域活性化のためにできることを協議した。イベント開催に向け活動支援と協力者の呼びかけなどを行い、「ライトアートin折立」を中心として企画運営した。	7月4日～ 1月23日	13	132
【中止】 第12回 折立 風のメロディーコンサート	実行委員会で協議した結果、各サークルとも今年度は練習ができなかったことと、会場の収容人数等の問題から中止とした。	【中止】 7月11日	－	－
【中止】 第18回 折立ふれあいまつり	役員会で協議し、中止とした。	【中止】 10月24日	－	－
折立市民センター懇話会	町内会長や地域の各団体の代表、小学校長等が参加した防災訓練終了後、コロナ禍における市民センターの利用について説明し意見交換を行った。	3月11日	1	33
折り紙ボランティア養成講座 「すてきな折り紙の世界」	令和2年度はコロナ禍のためボランティア活動が難しかったので、今後につなげるためのスキルアップを図った。	7月15日～ 11月25日	6	39
【中止】 市民企画会	コロナ禍の中、どのような講座ができるかわからない状況にあったため、地域住民が講座を企画・実施するのは難しいと判断し中止した。	【中止】 5月13日	－	－
【中止】 市民企画会での企画検討会を経て企画する事業	市民企画会議の中止に伴い中止した。	【中止】	－	－

〔令和２年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

「折立昔遊びボランティアわらすこ」の活動支援

「折立昔遊びボランティアわらすこ」は、平成 25 年度から実施した事業「昔遊び伝承事業」の参加者により、平成 26 年度に結成され、これまで市民センターでは、児童館との共催事業「わらすこたいむ」や「わらすこまつり」、児童館主催の「児童館まつり」や幼児クラブ登録親子を対象にした昔遊びの伝承活動を支援してきた。

令和2年度はコロナ禍のため様々な活動が制限される中、参加対象を折立児童館の児童クラブ利用の小学生に限定して「わらすこたいむ」を3回開催。昔遊びを通して地域の子ども達との交流を深める活動の支援を行うことができた。

木町通市民センター

〔沿　革〕

木町通市民センターは、木町通小学校の改築に伴い、平成 16 年 4 月に小学校と児童館、コミュニティ防災センターとの複合施設として開館した。市民センター施設は、5・6 階に位置し全館バリアフリー対応になっている。また、屋上緑化を施し、一部は児童館の庭園として利用している。

木町通地区は市の中心部に位置し、官公庁・学校・病院・商業施設・マンションが建ち並び、従来からの一戸建ての住宅はほとんど見られなくなった。この地域では若い単身世帯や乳幼児の子育て世代の40 代が多く、20 代、30 代、50 代、60 代と続く人口構成となっている。

当市民センターはこうした環境の下、複合施設の利点を生かし、地域との連携を図りながら学びの場を提供することを目指している。

［★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業］

〔特色ある事業〕

事業名	**子育てENJOY広場**		
参加者	未就学児とその保護者	**延参加者**	21 人
開催日	全 3 回　令和 2 年 10 月 7 日(水)、10 月 28 日(水)、11 月 25 日(水)		
協力者・協力団体	木町通児童館、子育て支援クラブぽこぽこ、仙台こども専門学校		
ねらい	子育て世代の多い地域において、子育て期に孤立感や不安を感じないように必要な情報を広く提供しながら、参加者同士の交流や仲間づくりを促すことを目的とする。		
概要・成果	第 1 回目は、子育て期に興味関心の高い「子どもたちの健やかな脳発達のために」と題して、脳科学の知見から最新の情報を講話いただいた。第 2 回目は、専門的に学んでいる学生から「幼児期に必要な栄養」について講話いただき、レシピの紹介をしてもらった。調理実習を予定していたがコロナ禍で実施できなかったため、専門学校の協力を得て調理手順の動画を YouTube で配信した。第 3 回目の「親子で身体を動かそう！」では実技を取り入れ、スキンシップを図ることができた。また、地域内で子育て支援を行っている団体がそれぞれ自分たちの活動を紹介する時間を設けることで、広く情報を提供することができた。新型コロナウイルス感染症予防の観点から託児室を設けることができず、交流を促すまではいかなかったが、予防対策を十分にとって、短い子育て期に必要な情報をタイムリーに提供することができた。		

〔令和２年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
わくわくキッズ	小学生対象に工作、書道体験、フラワーアレンジメント、木町通小学校 3 年生対象に樹名板づくり、小学生親子対象に星空観望会などを実施した。	8 月 1 日～2 月 13 日	6	249
仙台市子ども会インリーダー研修会	現 5 年生と次年度世話人を対象に、児童には行事プログラムの作り方、レクリエーション等の進め方、世話人には子ども会活動と世話人の役割について研修を実施。コロナ禍のため紙面開催となった。	1 月 30 日	1	43
【中止】男性料理講座～オレが作る一品！	調理をする講座のため、コロナ禍での開催は難しく中止とした。	【中止】	－	－

市民企画会講座「写経をやってみよう」	地域住民が気軽に集い交流を図る場として、安全な実施が可能でかつ参加者の精神の安寧が期待できる写経を行った。	1月19日	1	18
木町通老壮大学	地域の高齢者が孤立することなく、心身ともに健やかに過ごせるよう、地域の歴史、健康講座、館外学習など広い分野について学びながら、受講生がともに考え交流する場を提供した。	9月30日～ 2月10日	9	401
木町通学区の防災講座	救急救命講座（心肺蘇生とＡＥＤの使い方）と「流域治水の取り組み～逃げ遅れゼロを目指して～我が家のマイタイムライン作成」の講座を開催した。	9月25日 12月12日	2	31
【中止】木町通市民センターまつり	役員会にて感染の状況を踏まえ、開催の可否を検討した。参加者及び関係者の健康を第一に考慮した結果、十分な対策がとれないと判断し中止を決定した。	【中止】 10月17日	－	－
木町通市民センター運営懇話会	学校関係者、各町内会関係者をはじめ参加団体から市民センター事業や施設運営についての意見および助言をいただいた。また、コロナ禍における各団体の取り組みなどを含め情報共有を行った。	8月4日 3月2日	2	35
木町通クリエイターズ	先人たちが残し継承されている地域の「有形・無形のまち遺産」を訪ねながら、今に生きる私たちができることを話し合った。講話・まち歩き・振り返り。	8月27日～ 2月4日	6	43
市民企画会	子育て世代が最も多く参加している木町通小学校社会学級と連携して、地域資源や特性を活かした講座を企画運営することで新たな人材の発掘を行ない、地域活性化を推進した。	7月9日～ 1月19日	5	10

〔令和２年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

市民センターで活動しているサークルへの活動支援

木町通市民センターでは市民センター利用サークルへの活動支援として、市民センターだよりへの会員募集記事の掲載、会員募集チラシの窓口配架、市民センターで作成しているサークル情報への掲載等を通年で行っている。

令和 2 年度は、新型コロナウイルスの影響によりサークル活動が自粛され来館の機会もなくなったことから、月に 1 度、町内会を通じて回覧していたセンターだよりに加え、不定期に号外を発行した。県や市から提供される情報や市民センター利用に関するお願い、自粛生活での工夫、市民センターを活動拠点にしている社会福祉協議会や民生委員児童委員協議会などからも記事を提供していただき、地域の商店等にも配架を依頼してできるだけ多くの方へ情報を届けられる工夫を行った。

また、例年サークル活動の紹介と成果発表の場としていた「センターまつり」を中止とした代わりに、来館者が密にならないように開催期間を 1 週間として、展示と動画発表、活動紹介票の配布を行う「KIMACHI 展～まつりウィーク～」を開催し、コロナ禍における新たな活動紹介の機会とした。

広瀬市民センター

〔沿　革〕

広瀬市民センターは、広瀬川の中流域に位置し、周辺にはサイカチ沼や月山池、蕃山などの豊かな自然と、子愛観音をはじめとする数多くの旧跡が残る。また、近年は住宅の造成や商業地域の開発が進み、人口が著しく増加している地域で、平成 31 年 4 月には、錦ケ丘中学校が開校した。

当市民センターの歴史は古く、昭和 24 年大沢・広瀬両村に村立公民館が建設されたことに始まる。昭和 62 年仙台市との合併により仙台市宮城公民館となり、条例改正により仙台市宮城市民センターと改称、平成 3 年 6 月に名称を広瀬市民センターと改めて現在の場所に移転した。

施設は広瀬文化センター・広瀬図書館との複合施設で、地域住民の交流と生涯学習活動の拠点として広く親しまれ利用されている。

［★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業］

〔特色ある事業〕

事業名	広げよう！地域の輪		
参加者	苔玉作り：成人 グラウンドゴルフ大会：小学生と保護者	延参加者	32 人
開催日	全 2 回　令和 2 年 9 月 2 日(水)、10 月 3 日(土)		
協力者・協力団体	愛子小学校		
ねらい	広瀬市民センター管内は、宅地開発等による住民の流入が多く、住民意識の多様化が進んでいる。地域とのつながりが希薄な住民も多く、地域コミュニティの醸成が求められている。そこで、気軽に参加できる講座を開催することにより、地域への関心を高め、参加者相互の仲間づくりや地域交流を深めることをねらいとする。		
概要・成果	学びを通した仲間づくりの機会を提供するため、苔玉作り講座とグラウンドゴルフ大会を開催した。苔玉作りは、コロナ禍開催での感染対策として受講者数を 10 人と少人数にして開催した。受講者は、ものづくりでリフレッシュでき、でき上がった作品を互いに鑑賞することで、交流につなげた。 グラウンドゴルフ大会は、地域の小学生と家族が、愛子・広瀬・錦ケ丘学区体育振興会の方々からプレイの仕方を教わった後に、大会を開催した。祖父母と孫の参加もあり、学区を越えた世代間交流を図ることができた。		

〔令和２年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
地域で伝える「平和学習」	管内 3 小学校への出前授業の予定だったが、愛子と広瀬の 2 校での開催になった。戦争当時子ども時代を過ごした地域の方が、当時の生活や気持ちを話し、平和の大切さを考える機会を提供した。事前にパネル展とオリエンテーションを開催した。	12 月 25 日～1 月 19 日	4	206
インリーダー研修会	感染状況を踏まえ、児童向けは、子ども会活動の意義とインリーダーの役割、世話人向けは、子ども会活動についてと世話人の役割についての研修を、資料配布により実施した。	1 月 16 日	1	26
ジュニアリーダー「くまっこ」と遊ぼう！	ジュニアリーダーが企画した、びゅんびゅんごま・輪投げＢＯＸの工作、手遊び、ゲーム、バルーンアートを行い、地域の子ども達同士の交流を深め、ジュニアリーダー自身のスキルアップを図った。	12 月 20 日	1	28

カッパダ川で地域交流	地域の自然の魅力を再確認することを目的に、自然観察をした後、リース作り講座を開催した。ダンス部の活動は定期的にダンス練習をし、動画をユーチュブに掲載し活動意欲を維持した。また、市民センターフェスティバル in あおばに出演しダンスを披露した。	7 月 18 日～ 3 月 7 日	7	66
老壮大学「若返り教室」	地域の高齢者を対象に、歴史、気象、健康、落語等の講座を開催した。感染対策として、部屋の定員の半数に受講してもらうため、希望をとり一人年間 4 回の受講とした。	9 月 24 日～ 3 月 4 日	6	233
【中止】 ひろせ地域防災講座	市内の感染状況を踏まえ、町内会役員だけのコロナ禍における避難所運営訓練だけが行われることとなり、市民センターが担当する予定だった児童向け講座は中止とした。	【中止】 10 月 31 日	－	－
三館共催事業 「ひろせ寄席」	感染状況を踏まえ、7 月開催を 11 月に延期し、文化センターホールで落語鑑賞会を開催した。文化センターは舞台演出を担当し、図書館は落語関連書籍の展示と講師交渉を担当、市民センターは来場者募集を担当し、三館それぞれの特性を活かし協力して 200 人以上の来場者に複合施設ならではの事業を提供できた。	11 月 1 日	1	213
【中止】 ひろせサマーナイトコンサート 2020＆民俗芸能フェスティバル	広瀬文化センターと検討し、感染状況を踏まえ、町内会のまつりなども中止となったため、中止の判断をした。	【中止】 8 月 2 日	－	－
【中止】 令和２年度生涯学習発表会「みやぎ学習フェア」	役員会で開催を検討し、市内の感染状況を踏まえ、中止とした。	【中止】 2 月 21 日	－	－
ひろせ懇話会	1 回のみの開催だったが、今年度初顔合わせの方々が多く、顔の見える関係をつくる機会となった。地域団体のコロナ禍の活動状況を情報共有できた。	2 月 19 日	1	11
【中止】 第 32 回広瀬市民センターまつり	市内の感染状況を踏まえ、中止とした。	【中止】 10 月 25 日	－	－
ひろせ魅力工房	地域の魅力や資源について見つめ直すことを目的に、諏訪神社までの散策と御殿山登山と同慶寺で座禅体験講座を開催した。	11 月 12 日 11 月 19 日	2	18
【中止】 市民企画会議	市内の感染状況を踏まえ、中止とした。	【中止】	－	－
【中止】 市民企画を経て実施する事業	市内の感染状況を踏まえ、中止とした。	【中止】	－	－
ひろせ 川柳講座	学びの場の提供し、生きがいとコミュニティを作る目的で、講座を開催した。受講後、新たにサークルが立ち上がり、13 人が継続して学習することになった。	11 月 25 日 12 月 2 日 12 月 9 日	3	43

〔令和２年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

ジュニアリーダー「くまっこ」の活動支援

ジュニアリーダー「くまっこ」は、令和 2 年度で 50 周年を迎える歴史あるサークルで、43 人が登録している。市民センターは、ジュニアリーダーの自主性や考えを尊重し、活動が先輩から後輩へスムーズに引き継がれるようにサポートしている。令和 2 年度はコロナ禍で要請が少なかったが、定例会で先輩が後輩に工作やバルーンアートを教え、ジュニアリーダー自身が企画運営する「くまっこまつり」講座を開催した。ジュニアリーダーは、参加者とのふれあいにより活動の意義を再確認して成長し、活動意欲を保つことができた。

宮城西市民センター

〔沿　革〕

宮城西市民センターは、昭和 51 年 4 月に宮城町西部地区公民館として開館した。その後、昭和 62 年 11 月 1 日宮城町が仙台市と合併して仙台市宮城西公民館となり、平成 2 年 4 月 1 日から仙台市宮城西市民センターと改称した。その後、施設の老朽化に伴い平成 22 年 8 月から一時休館して改築工事を行い、平成 24 年 7 月に新たに開館した。

当市民センターは、宮城地区西部の自然環境に恵まれた緑豊かな山間地に位置している。近年過疎化が進み、少子・高齢化の現状にあるが、地域の活性化を図るため町内会・老人クラブ等の各種団体と連携を密にして社会情勢の変化に伴う学習要望に応え、地域住民と共に歩む生涯学習を推進している。また、地域住民の自主活動の場、交流の場として広く利用されている。

［★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業］

〔特色ある事業〕

事業名	●大倉ダムの魅力発信事業「鯉のぼり×大倉ダム」		
参加者	大倉ダムの魅力発信実行委員会、上愛子小学校児童、広陵中学校生徒、ご来賓、地域内外からの観光客ほか	延参加者	812 人
開催日	全 17 回　平成 2 年 4 月 5 日(日)～令和 3 年 2 月 23 日(火)		
協力者・協力団体	宮城総合支所まちづくり推進課･ふるさと支援担当課、青葉区まちづくり推進部青葉区中央市民センター、管内各小中学校、大倉ふるさとセンター、宮城県大倉ダム管理事務所、ほか協賛各社		
ねらい	宮城西部地区にある“宝”ともいうべき大倉ダムとその周辺の魅力を広く発信し、人口減少の続くこの地域の交流人口の拡大を図る。また、小中学生が作った鯉のぼりとアマビエを大倉ダムに架けることによって児童生徒の郷土愛を育み、併せて五穀豊穣と疫病の早期終息を祈願する。		
概要・成果	第 2 回目となる令和 2 年度の事業は、コロナ禍のため、実行委員会で検討を重ねて 5 月の開催を見送り、9 月の 20 日から 22 日まで開催し、地域の小中学生が描いたアマビエと、イベントの趣旨に賛同して地域から提供された鯉のぼりなど、合わせて 36 本を大倉ダム左岸堤体に吊した。 令和元年度は、鯉のぼりの設置などを業者に委託したが、今回は全て実行委員会で実施し、さらに、来場者を安全に誘導するための自動信号機を導入したことによって、地域ボランティアの数を最小限に抑えながらも無事に終えることができたことは、今後、本事業を継続していくうえでの大きな自信となった。 三密を避けるため、事前告知等は一切行わなかったので、来場者数は前年より大幅に落ち込んだものの、イベントの後に地元の新聞社と市政だよりに記事として取り上げられたことで、多くの人に本事業を知ってもらうことができた。 また、地元の小中学生が全員で取り組んだアマビエ制作は、コロナ禍で様々な学校行事が中止となる中、子どもたちの良い思い出作りに寄与した。		

〔令和２年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日･期間	回数	延参加者
親子ふれあい教室	小学生以上の親子を対象に、門松作り体験、小正月行事だんごさし体験をした。第 1 回は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。第 2 回は悪天候により中止とした。	12 月 19 日 1 月 9 日	2	33
インリーダー研修会	感染拡大防止のため「対面開催」ではなく「紙面開催」で実施。子ども会リーダーの児童および世話人を対象に、子ども会活動についての知識や、必要な技術などの研修資料を提供した。	1 月 28 日	1	2

中学生のハローワーク	中学生に対して、身近な社会人より職業紹介をしてもらい、職業選択や人生についてのアドバイスを得る機会とした。令和2年度はグラフィックデザイナーと盲導犬協会の職員から職業についての講話を受けた。	8月20日	1	33
自然体験教室	豊かな自然等の地域資源を活かし、自然をまるごと体験し、自然保護の大切さ、里山と生活の関わり方の大切さを学ぶため、秋編として横川林道と豆沢川を散策した。コロナ禍のため春編2回は中止とした。	10月9日 10月30日	2	32
女性教養講座	地域の成人女性を対象に、陶芸、土人形絵付け体験、カローリング、手芸、ＵＶレジン講座を開催した。第1回は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止とした。	7月22日～ 2月10日	5	57
宮城西部地区今昔物語	大倉地域の大正、昭和の頃の地域の様子を聞き、地域にある風習・歴史・文化等の魅力を再発見する取組を通年で実施する予定であったが、コロナ禍のため現地調査のみ実施した。	11月25日	1	11
出前講座	町内会と連携を図り、地域住民に学習の場を提供し、生涯学習の振興や生活文化の向上を図り、引きこもり防止や安否確認につなげた。手作り講座と軽体操を実施。	12月8日 2月4日 2月26日	3	38
老壮学級	高齢者の生きがいづくりと交流を目的に開催。コロナ禍のため回数を減らし実施した。交通安全、川柳、健康づくり、暮らし等の講話や実技、新春初笑い等。	9月24日～ 1月21日	5	137
【中止】 福祉フォーラム	コロナ禍のため、高齢者の3密を回避できないということで中止した。	【中止】 10月	－	－
★自主防災活動を推進するための「防災・減災学び塾」	防災訓練は高齢者の参加が多く、避難所が密になるということで中止した。代わりに、コロナ対応を地域版避難所運営マニュアルに反映させる作業を広陵中学校、地元町内会、指定避難所担当課とともに行った。	2月17日	1	9
【中止】 宮城西市民まつり	新型コロナウイルスの感染拡大傾向が収まらないため、実行委員会において中止が決定された。	【中止】 11月23日	－	－
宮城西地域懇話会	コロナ禍で上愛子小全区懇談会と教育関係者情報交換会は中止し、利用者懇話会のみ実施した。	2月27日	1	8
【中止】 ゆかいな森の広場	新型コロナウイルス感染症収束の見通しが立たないため、中止を決定した。	【中止】 8月～1月	－	－
【中止】令和2年度生涯学習活動発表会「みやぎ学習フェア」	新型コロナウイルスの感染症収束の見通しが立たないため、役員会で中止を決定した。	【中止】 2月21日	－	－
ゆうゆうの森 プロジェクト	コロナ禍で、飲食を伴う「炭焼き＆ピザ焼き」と大勢が集まる「夏キャンプ」と「ゆうゆうの森の整備」は中止し、「ゆうゆうの森の植生観察」のみ実施した。	6月11日	1	61

〔令和２年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

作並・新川地区活性化連絡協議会への活動支援

平成29年度から立ち上がった標記協議会に、計画段階から参画し、令和2年度から実施に移していく各種事業についても活動の支援を行った。

宮城西市民センターは、協議会の「地域の魅力増進部会」のメンバーとして属し、作並･新川地域の明治以降の暮らしの様子をまとめた「作並･新川いまむかし」の出版に続き、「SAKUNAMI NIKKAWA Walk」という観光パンフレットの制作にも、企画段階から現地調査、レイアウト・デザイン、校正に至るまで関わり、地域の魅力を広く発信するための支援を行った。

大沢市民センター

〔沿　革〕

大沢市民センターは、平成２年５月、青葉区の西北部、田園地帯や緑多い丘陵地帯など豊かな自然環境の中に、児童館・コミュニティ防災センターを併設して開館した。平成 30 年度には大規模修繕を実施し、平成 31 年４月に再開した。

古い史跡が点在する歴史ある地域としても知られ、古くからの村落と成熟化が進行する団地、開発が進む新興団地が混在する中、若い世帯の増加が著しく更に発展が見込まれる。こうした地域状況を背景に市民センターとしての機能を活かし、地域住民の活動・交流の拠点として、社会変化に伴う市民のニーズに対応する生涯学習事業を展開している。

［★震災を踏まえた事業　●区役所との連携事業］

〔特色ある事業〕

事業名	大沢･川前地域交流ネット　あがれ！天旗		
参加者	地域住民	延参加者	164 人
開催日	全２回　令和２年 11 月 25 日(火)、令和３年１月 17 日(日)		
協力者・協力団体	大沢･川前地域交流ネット　あがれ！天旗実行委員会		
ねらい	「大沢・川前地域交流ネット　あがれ！天旗」の実行委員とともに、大沢地域と川前地域の交流と活気ある地域づくりを目指して、老若男女が気軽に参加でき、楽しく交流できるイベントとして、凧作り講座と凧あげ大会を実施する。		
概要・成果	コロナ禍のため例年行っていた凧作り講座は中止とし、代わりに 11 月 25 日(火)から凧作製キットを配布するとともに、凧の作り方動画を YouTube で配信した。キットの配布に伴い、大沢・川前両地域の住民によって構成されている実行委員全員で凧の作り方を確認するなど、活発な地域間交流が行われた。また、キットを使い親子で凧を作るという、親子のふれあいの機会にもなった。1 月 17 日(日)の凧あげ大会は感染症対策を講じたうえで実施し、自分で作った凧を持ち寄った参加者が、地域の方のご厚意でお借りした会場での凧あげを楽しむことができた。		

〔令和２年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日･期間	回数	延参加者
【中止】 （仮）親子のゆっくりタイム	連携予定としていた児童館との協議の結果、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止とした。	【中止】	－	－
子どもお楽しみ体験講座	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、回数を減らし、ベガ号による星を見る会を開催した。	９月 18 日	1	35
インリーダー研修会	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、インリーダーになる児童及び子ども会世話人へ資料配布による「紙面開催」とした。	２月６日	1	15
【中止】 地域の達人	新型コロナウイルス感染症の影響により、実施が難しいと判断し中止とした。	【中止】	－	－
大沢朗々学園	地域の高齢者を対象に、コロナ禍のため回数を減らして、様々なテーマで開催した。①開講式・災害の歴史、②芋沢の田植踊、③読み聞かせ、④大相撲について、⑤シルバー川柳、⑥閉講式・コンサート。	９月 17 日～ ３月４日	6	293
★大沢地域防災講座	地域で活発に活動している婦人防火クラブと連携しながら講座を開催した。①防災講話：自然災害を学び、備えについて考える「地形による災害について」②講話：それぞれの 10 年を思う（震災関連）	12 月１日 ３月 11 日	2	37

大沢地域出前講座	市民センターから距離があり、なかなか市民センターを利用しにくい地域の方たちを対象に、出前講座を開催した。コロナ禍のため、予定していたが開催を見送った地域もあった。①布ぞうり作り、②お正月のリース作り、③日常生活にとりいれやすい軽運動、④コンサート&マジックショーを開催。	7月14日 11月26日 2月20日 3月6日	4	113
【中止】 大沢市民まつり	新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、実行委員会で中止と決定した。	【中止】 10月18日	－	－
スポーツで地域交流「大沢・川前グラウンドゴルフ交流会」	グラウンドゴルフによる大沢・川前地域住民の交流会。	9月6日	1	47
【中止】 令和2年度生涯学習活動発表会みやぎ学習フェア	新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、役員会で中止とした。	【中止】 2月21日	－	－
大沢地域懇話会	市民センター、各児童館の学習の取組についての説明、事業についての要望や意見交換、地域課題や地域の学習ニーズについての情報交換、地域資源についての情報交換を行った。	2月18日	1	19
大沢農学校	土づくりから収穫まで、農作業について、座学と実習によって学んだ。	4月24日～ 3月12日	15	218
大沢地域サロンボランティアスキルアップ講座	傾聴についての研修会「心に寄り添う聴き方」を開催。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、ボランティア活動は休止した。	6月23日	1	12
読み聞かせボランティア養成講座	読み聞かせに興味をもった方等を対象に、養成講座を開催し、読み聞かせボランティアの増加を目指した。 講話と実技：①読み聞かせについて、②絵本の選び方について、③紙芝居の演じ方についてを開催。読み聞かせの実演は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止した。	7月1日 7月15日 8月5日	3	53
市民企画会議	講座に対する感想や企画員のニーズを聞き取り、講座開催に向けた話し合いをした。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、少人数で回数も減らして開催した。	11月19日 12月3日	2	4
【中止】 市民企画講座「市民企画会議を経て企画する事業」	新型コロナウイルス感染症拡大防止を考え、読み聞かせ関連の講座は難しいと判断し中止とした。	【中止】	－	－

〔令和３年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

写真ボランティア活動支援

平成29年度の大沢市民センターの講座『大沢写真講座「地域を写そう！」』受講生の中から、写真ボランティアとして市民センターの講座や地域のイベント等で活躍している方達がいる。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、大沢市民まつりや児童館まつり、地域の夏まつり等も中止となり活躍の場が減っていたが、「大沢・川前地域交流ネット あがれ！天旗」の凧あげのイベント開催に伴い、写真ボランティアの方に協力要請をしたところ、コロナ禍でも依頼に応えてくれた。市民センターでは写すことができない広角レンズを使用した写真を市民センターの事業報告にも活用させてもらうことで、ボランティアの方達自身の撮影技術の向上につながっているとともに、モチベーションアップに役立っている。

落合市民センター

〔沿　革〕

平成 6 年に開館した落合市民センターは、広瀬川、齊勝川、蕃山などの自然環境と、仙山線（陸前落合駅）、国道 48 号線仙台西バイパス、作並街道という交通環境に恵まれた地域にある。また、宮城県立こども病院をはじめとする医療機関、栗生小学校、宮城県宮城広瀬高等学校などの教育機関、宮城消防署などの公共施設、大型商業施設も整備され、さらに平成 27 年には復興公営住宅が完成し、人口が増加している地域でもある。

こうした地域環境の中で、当市民センターは開館以来、施設利用および生涯学習講座等を通じて、地域コミュニケーション活性化、まちづくり推進の拠点として広く地域住民の方々から愛され、利用されている。

［★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業］

〔特色ある事業〕

事業名	●ふるさと落合栗生地元塾		
参加者	地域住民	延参加者	93 人
開催日	全 8 回　令和 2 年 6 月 27 日(土)～ 12 月 20 日(土)		
協力者・協力団体	宮城総合支所まちづくり推進課		
ねらい	落合栗生地区の歴史的価値を、地域住民や他地区からの来訪者及び次世代に継承していくために案内板を設置し、よりよい地域づくりを目指す。 また、歴史継承のための人材育成を図る。		
概要･成果	平成 29 年度から地域探訪を行い、落合栗生の歴史や史跡の理解を深め、学びを通して「落合栗生地区歴史めぐり」運営委員会の立ち上げにつながった。 令和 2 年度は史跡の案内板を 3 箇所作成・設置し、チラシは地域町内会に全戸配布するなど地域内外に周知した。案内板づくりを通して、生まれ育った地域を深く知り、地域の魅力を発信する人材の育成につながった。 今後は更なる案内板の設置とともに、運営委員会メンバーが歴史案内ボランティアとしての活動を行っていくための育成支援に取り組む。		

〔令和２年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日･期間	回数	延参加者
●わくわく子育て	親子ふれあい遊びや軽運動、工作、食育などを講話と実技で学んだ。そのほか、保健師・保育士による育児相談タイムを設けた。	10 月 8 日 11 月 12 日 11 月 26 日 12 月 4 日	4	30
【中止】親子であ・そ・ぼ！	共催の児童館と協議を行い、感染対策が整わないため中止とした。	【中止】 6 月～2 月	－	－
仙台市子ども会インリーダー研修会	新型コロナウイルス感染症予防対策のため紙面開催に変更。参加児童、世話人に資料を配布した。	2 月 13 日	1	16
【中止】戦争の時代～広瀬村の子ども～	共催の学校から感染防止策を講じたうえでの講演依頼があった。語り部とともに開催の準備を進めていたが、新型コロナウイルス感染症の影響により中止とした。	【中止】 2 月	－	－

宮城広瀬高校連携事業「いってみよう！やってみよう！広高タイム」	新型コロナウイルス感染症の影響により、回数を減らして開催した。連携先である宮城県宮城広瀬高等学校の書道部・美術部・写真部の作品を落合市民センターロビーに展示した。	2月3日～ 2月25日	1	132
来たれ！男のまなび舎	自然の素材を使ったネイチャークラフトでストラップとランプシェードづくり。苔玉園芸と講話、新年を祝うミニ門松づくりを行った。	9月12日 10月3日 11月14日 12月12日	4	36
落合栗生実年学級	高齢者を対象に、郷土史の講話、介護予防講座、健康体操、日本茶の講話、寄せ植え、紙芝居などを実施した。	7月16日～ 2月18日	6	170
【中止】落合・栗生地区の七夕かざり	仙台伝統の七夕づくりや、七夕を通して地域の保育園園児との交流会等を考えていたが、日程調整ができなかったため開催中止とした。	【中止】 5月～7月	－	－
【中止】地域防災講座	市内の感染状況や十分な感染予防対策が整わないことから、共催先の消防署、町内会との協議の上、中止とした。	【中止】 7月～11月	－	－
【中止】落合・栗生地区まつり	実行委員長はじめ役員会・事務局で協議の結果、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止を決定した。	【中止】 10月	－	－
【中止】令和２年度生涯学習活動発表会「みやぎ学習フェア」	実行委員長はじめ役員会・事務局で協議の結果、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止を決定した。	【中止】 2月21日	－	－
地域懇話会	町内会や各地域施設、団体、利用者の方に市民センターの事業成果報告と情報交換会を行った。	12月11日 12月19日	2	29
【中止】囲碁愛好家交流会	共催である仙台みやぎ囲碁愛好会と囲碁を通した交流会の開催準備を進め、参加者募集まで終えていたが、市内の感染者増加の状況を鑑み、協議の末に急遽開催を中止とした。	【中止】 1月31日	－	－
落合栗生ふれあい工房	クラフトテープでおしゃれなカゴ、クリスマスリース作り。完成した作品を地域の福祉施設へ贈った。	10月14日 11月18日 12月9日	3	35

〔令和２年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

地域の小学校と読み聞かせボランティアのコーディネート

栗生小学校より朝の活動での読み聞かせボランティア支援について問い合わせがあり、当館で活動しているサークルと個人で紙芝居の読み聞かせをしている方を紹介した。ボランティアと学校との打ち合わせ等のサポートも行い、学校と地域住民とをつなぐ橋渡しの役割を担った。

吉成市民センター

〔沿　革〕

吉成市民センターは、仙台市北西部の吉成と南吉成の小学校区中間位置に、市内 51 番目の市民センターとして平成８年４月に、児童館及びコミュニティ防災センターを併設しオープンした。当該地区は住宅地と商店街が共存し、市内北部と西部を結ぶ交通の要衝となっている。

当市民センターは、吉成小学校区と南吉成小学校区の２連合町内会を対象地域としている。

［★震災を踏まえた事業　●区役所との連携事業］

〔特色ある事業〕

事業名	みんなのコンサート　VTR上映会		
参加者	地域にお住まいの方ならどなたでも	延参加者	25 人（2 日間）
開催日	全２回　令和３年２月 13 日(土)、2 月 14 日(日)		
協力者・協力団体	仙台青陵中等教育学校、吉成中学校、南吉成中学校		
ねらい	地域の繋がりを強化する行事として、小・中・中等教育学校・大学の吹奏楽部による合同演奏会を開催し、学校間および地域と学校の交流を図る。市民センターが地域と学校の橋渡し役として事業を実施することで、地域の方々の学校に対する関心を高める。		
概要・成果	令和２年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、地域交流をテーマにした事業の多くが中止となってしまった。しかし、学校関係者や演奏者達から地域の方を元気にしたいという声を頂いたことに加え、地域住民から開催を希望する声があがり、ＶＴＲで協力をいただけた学校の演奏会を上映することとなった。予想以上に反響が大きく、改めて地域交流や事業のあり方を再考する機会となった。		

〔令和２年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
【中止】 がんばるママのリフレッシュタイム	日程の変更も検討したが、感染者の増加に伴い、対象が親子ということも踏まえ、安心・安全を優先して中止を決定した。	【中止】 6 月 18 日 7 月 2 日	－	－
●共に考えよう、 地域の子育て！	研修会の開催は見合わせることとし、それに代わる情報誌の発行に取り組むこととした。各団体より活動状況・近況報告等の情報を寄せてもらい、取りまとめて各団体へ配布した。	7 月 7 日 7 月 30 日 10 月 23 日	3	20
【中止】 吉成チャイルドスクール	かねてより学校側と連絡を取り合い実施に向けて準備を重ねてきたが、運営において安心・安全に講座を実施できる体制を築くのに難航したため、関係者と協議の上、中止することとした。	【中止】 7 月 31 日 11 月 28 日	－	－
インリーダー研修会	市内の感染者が増加したため､紙面開催することとした。子ども会活動の充実を図るため、子ども会の次期リーダーとなる児童および世話人を対象に子ども会についての知識やレクリエーション・ゲーム等の情報を紙面で紹介した。	2 月 5 日	1	33

災害に備えて	連携団体と打合せを行い、非常時に役に立つ情報一覧を作成することとなった。避難所やＡＥＤ設置場所などの情報を盛り込んだ資料を作成し、対象区域に配布した。	9月10日 10月27日 12月16日	3	21
きらめきスクール	高齢者を対象に、介護予防、健康講座、芸術鑑賞等の講座を開催した。受講生が100名近く在籍していたため、密を避け、時間を短縮し前後半に分けて実施した。	10月9日～ 3月12日	12	326
【中止】 青陵の森を楽しもう～森の癒しの音楽祭～	かねてより学校側と連絡を取り合い実施に向けて準備を重ねてきたが、運営において安心・安全に講座を実施できる体制を築くのに難航したため、関係者と協議の上、中止することとした。	【中止】 5月9日	－	－
あなたの町の出前サロン～市民センターがおじゃまします～	南吉成町内会と国見ケ丘老人クラブかたくり会と共催し、コロナ禍における取り組みや沖縄文化、芸術鑑賞等を実施した。対象者に高齢者が多いため、感染対策に細心の注意を払い実施した。	11月30日 1月16日	2	35
【中止】 吉成市民センターまつり	実行委員会で開催を検討したが、感染状況を踏まえ、参加者の安全等を考慮したうえで、中止を決定した。	【中止】 10月16日 10月17日	－	－
地域懇話会	町内会関係者を対象に､コロナ禍での感染防止対策など、お互いに情報を共有した。また、市民センターが補助避難所としての機能を有すること、市民センターの役割などもご理解いただいた。	12月2日	1	5
よしなり企画会	地域にお住いの幅広い世代を対象に市民企画型の事業を実施するため会議を行う予定であったが、企画員2名と打ち合わせた結果、感染状況を考慮し、これ以降の企画会議および企画事業を中止することとした。	9月5日	1	3
●複数年事業企画「国見ケ丘・吉成・南吉成の魅力再発見」	地域内の自然をテーマに観察会を開催し、中山・芋沢両街道の歴史をテーマに学習会を実施した。また、コロナ禍ならではの取り組みとして、オンラインでの情報交換会を実施した。	7月16日～ 3月4日	6	42
【中止】 よしなり企画会を経て企画する事業	上記のとおり、感染状況を考慮し、市民企画会議を経て実施する事業は中止することとした。	【中止】	－	－

〔令和２年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

読み聞かせボランティア「どんぐりころころ」の活動支援

「どんぐりころころ」は、当市民センターの事業から立ち上がったボランティア団体である。コロナ禍で活動を自粛する団体が多い中、標記団体は「子どもと読書をつなぐ」をテーマに、感染対策を徹底しながら、読み聞かせ活動を展開してきた。コロナ禍でも、読み聞かせの魅力を「継続して伝えたい」というメンバーの強い思いが活動を後押ししている。

市民センターでは、継続して広報や活動の支援などを行っている。特に、会の活動の励みになるように、地域内外で幅広く活動の様子を知ってもらえるよう、力を入れて取り組んでいる。

宮城野区中央市民センター

〔沿　革〕

宮城野区中央市民センターは、平成 24 年 8 月、宮城野区役所やＪＲ陸前原ノ町駅に隣接する複合施設内に、市内 60 番目の市民センターとして開館した。同施設には、文化センター、図書館、児童館、情報センターが併設されており、交通の利便性も良く多くの市民に利用されている。

当センターの周辺は、古くから歌枕の地と知られる歴史をきざみ、近隣には原町商店街や陸上自衛隊仙台駐屯地などを擁しており、旧来の地元住民に加え転出入者も多い地域である。市民センターとしての歴史は浅いが充実した施設を活用して、様々な学びの機会を提供するとともに、地域情報の収集・提供に努め、地域の活動を担う人材の育成や交流拠点としての事業展開を図っている。

［★震災を踏まえた事業　●区役所との連携事業］

〔特色ある(地区館)事業〕

事業名	●Miyachu ギャラリー		
参加者	どなたでも	延参加者	2,980 人
開催日	全 9 回　令和 2 年 10 月 3 日(土)～令和 3 年 3 月 21 日(日)		
協力者・協力団体	宮城野区文化センター、宮城野区家庭健康課、宮城野原案内人の会		
ねらい	新型コロナウイルス感染症防止のため市民センターまつりが中止となり、学習成果の発表や発信の機会がなくなった地域団体などに発表の場を提供し、コロナ禍で様々な行事が縮小されている地域の活性化につなげていく。		
概要・成果	市民センターまつりを中止したことにより、学習成果発表の場を求める地域の声に応えて企画・実施したものであったが、コロナ禍で地域への発信が難しくなっていた団体や、展示を見た団体からの要望も出され、当初の予定より長い 10 月から 3 月までの 6 か月間で、11 団体が学習発表や情報発信を行った。 サークルの作品展やパネル展、小学校や高等学校の学習成果発表、区役所の情報発信など、多くの地域団体の学習活動の場として活用され、幅広い分野の学びを発信することができた。また、2 階・3 階の交流サロンの他に、1 階ロビーや階段、吹き抜け空間などのスペースも効果的に利用することにより、館全体を大きく活用する展示ができた。予想以上の来場者となったが、長期的な開催により見学者が分散され密を避けて、地域住民の緩やかな交流の場となった。		

〔令和２年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
【中止】 ●ウェルカムひろば	新型コロナウイルス感染状況から、共催７団体で協議の結果、乳幼児親子対象のため、安全等を考慮し中止とした。	【中止】 6 月～10 月	－	－
先生は高校生！	小学生が先生役の高校生から算数を楽しく学びながら異世代交流を図ることを目的に、「算数を使ってロボットを動かそう」を実施した。高校生にとっては、授業で学んだことを小学生に教えることで、自己の成長につながった。	11 月 7 日	1	9
【中止】 インリーダー研修会	宮城野区のインリーダー研修会は、感染症リスク回避のため令和 2 年度は実施せず、令和 3 年度の夏休み期間中に実施することとした。	【中止】 2 月 6 日	－	－
ジュニアリーダーとあそぼう！	ジュニアリーダー「WithUs 宮城野」がコロナ禍の中でもできる講座を企画し実践した。①ジュニアリーダーと水遊びしよう！、②1 日遅れのクリスマス、③ジュニアリーダーとあそぼう！in 原町児童館。	8 月 8 日 12 月 26 日 1 月 9 日	3	36

子ども参画型社会創造支援事業 「キッズもりあげ隊」	地域を盛り上げるために月 1 回の企画会議を行い、11 月には地域の小学校、児童館、お店などの協力を得て「ちいきスタンプラリーde ビンゴ」、3 月には小学生を対象に「キッズ学園 学園長からの挑戦状！」を開催した。	11 月 28 日～ 3 月 14 日	12	672
ちょっと寄り道＠原ノ町駅前	職場と自宅の往復のみで地域とのつながりの薄い現役世代の住民を対象に、気軽に参加できる初心者向けの夜間講座（女性対象ヨガ講座、マーシャルエクササイズ）を実施した。	9 月 25 日 10 月 23 日	2	21
みやぎの大学	高齢者対象の講座で、本来は通年で実施するところ、感染予防のため、当初の予定を変更して、音楽鑑賞 1 コマと軽体操 3 コマの特別講座を実施した。	12 月 17 日 2 月 3 日 2 月 9 日 2 月 19 日	4	104
すずむしの里 宮城野	仙台市の虫「スズムシ」への興味・関心を深め環境保全に関心を持ってもらうため、地域の小学校へ出前授業を実施した。コロナ禍で出前授業ができなかった小学校には、教員を対象に児童へ伝達してもらうための講習会を実施した。また、宮城野区文化センター入口で市民を対象にした「スズムシ配布会・交換会」を行った。	7 月 7 日 7 月 9 日 7 月 31 日 8 月 5 日	4	207
原町宮城野地元学	原町小 3、5、6 年と宮城野小 3 年を対象に、総合的な学習の授業として、昔の地域の話や戦中戦後の生活を地域講師から学ぶ機会を提供した。コロナ禍のため、対面学習ができない際には講師からリモートによる講話をしてもらった。また、リモートでの講話が難しかった際は、後日、講話を録画したＤＶＤを小学校へ提供した。	9 月 24 日 11 月 5 日 1 月 29 日 2 月 26 日	4	357
出前講座 こんにちは！宮中です	宮城野地域で活動する団体と共催し、高齢化社会に対応して、専門医から認知症について学んだ。会場周辺の近隣住民が多く受講できた。「認知症のこと知ろう！学ぼう！」（全 2 回）会場：宮城野コミュニティセンター	10 月 29 日 1 月 28 日	2	46
★みやぎの防災・減災ひろば	地域に密着し活動している「せんだい女性防災リーダーネットワーク宮城野」「わしん倶楽部」と連携し、宮城野区文化センター震災復興交流事業に参加して、防災減災のパネル展示とビデオの放映、体験ゲームを行った。	2 月 27 日～ 3 月 7 日	1	87
【中止】 宮城野区中央市民センターまつり Mフェス	まつり実行委員会三役と協議の結果、参加者の安全等を考慮し、今年度は中止とした。	【中止】 11 月 7 日	－	－
市民センター四季コンサート	コロナ禍でも地域住民が気軽に集い交流できる場所として、文化センター前芝生広場を会場に「秋のゴスペル野外コンサート」を実施した。	10 月 7 日	1	128
宮城野区中央市民センター 地域懇話会	町内会や管内学校、地域諸団体が一堂に会し、情報収集や意見交換を行い、地域とのつながりが強化できた。併せてセンター事業への意見提案も挙げられ、今後の事業運営に役立つ機会となった。	10 月 28 日 2 月 4 日	2	24
原町本通りに七夕を飾ろう！	仙台七夕まつりは中止となったが、地域住民から集めた折り鶴を七夕企画員がつなぎ、文化センターロビーを「七夕通り」として飾った。原町東部商工会とも連携し、原町本通りに小さな吹き流しを飾った。	6 月 11 日～ 8 月 20 日	6	40

〔令和２年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

「宮城野原案内人の会」の活動支援

ガイドボランティア「宮城野原案内人の会」は、地域の魅力を再発見するまち歩きを毎月開催していたが、4 年目となる令和 2 年度はコロナ禍のため 9 月まで活動を中止した。

10 月にまち歩きを再開するとともに、地域住民から提供された昔の仙石線の写真や街並みのデータをパネルにして「ＪＲ仙石線地下化 20 周年パネル展」を開催した。市民センターも講話「ＪＲ仙石線の思い出」を開催するなどタイアップした事業を行い、来場者が 500 人を超える企画展示となった。

2 月にはＪＲ仙石線の仙台ー陸前原ノ町駅間の名所や旧跡を巡る、「街歩きマップ『みんなで歩こう宮城野原』」を完成させ地域に配布し、好評を博している。市民センターは、マップの構成や挿絵などのアドバイス、人材の紹介などの支援を行った。また、地域の小学校から社会科授業の地元学講師としての依頼のコーディネートも行っている。

生涯学習支援センター

〔沿　革〕

仙台市の公民館は、昭和 21 年に在仙文化人有志による民間団体が主体となって設置されたのが始まりで、昭和 24 年に仙台市公民館条例が制定され、行政機関としての「仙台市公民館」が発足した。その後、各地域の公民館設置とともに、昭和 48 年には「仙台市公民館」を「中央公民館」と改称。昭和 58 年には榴岡図書館とともに現在地に開館し、平成元年には「中央市民センター・公民館」となり、翌年には「中央市民センター」と改称した。さらに平成 26 年 4 月より「生涯学習支援センター」と改称し、仙台市の生涯学習支援体制の充実・強化を図った。

当センターが位置する仙台駅東口周辺は、高い利便性を生かした企業や学校、マンションが混在するとともに、古い歴史ある地域としての顔も併せ持っている。こうした立地条件から、市内各方面からの利用者や夜間の利用頻度も高く、多様な学習活動、市民活動が活発な状況となっている。

なお、施設機能の見直しに伴い、当センターにおける地区館事業は、平成 26 年度より近接する榴ケ岡市民センターの出前講座として実施している。

〔令和 2 年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

市民への情報提供、併設施設との連携

仙台七夕まつりが中止になった中、7 月から 8 月にかけて併設の榴岡図書館との共催で開催した「たなばたさろん」では、仙台商工会議所から借用した昭和の七夕ポスターや風の時編集部から借用した仙台七夕の歴史写真パネル、吹き流しや七つ飾りなどを展示し、七夕の気分を少しでも市民に提供できるよう工夫した。

コロナ禍でサークル体験会も開催の目途が立たないため、「たなばたさろん」でサークル紹介の掲示を新たに設け、それを媒介にサークル活動に興味がある来館者をつなぐことができた。

また、「たなばたさろん」を準備する中で榴岡図書館とコロナ禍の対応について情報交換を行い、図書館主催のおはなし会について、より広い会場とすることで三密を避けることができるよう、当センターを利用して開催することとなった。

高砂市民センター

〔沿　革〕

高砂市民センターは昭和 43 年、高砂小学校校舎を改築し高砂公民館として発足した。昭和 53 年宮城県沖地震で建物が大破し隣接する前高砂小学校給食センターを改築、昭和 54 年に移転した。平成元年「高砂市民センター・公民館」、翌年「高砂市民センター」と改称、その後平成 6 年高砂地区の中心部に複合施設として新たに開館した。

この地区は、七北田川、貞山運河、蒲生干潟、そして南部には広い田園地帯が広がっている自然に恵まれた地域である。また、東北の海の玄関口、物流の拠点である仙台港を配し、背後地には大型商業施設等の進出も相次ぎ、急激な都市化が進んできたが、平成 23 年 3 月に発生した東日本大震災により、沿岸部が津波で甚大な被害を受け、中野地区は仙台市災害危険区域条例に基づき災害危険区域に指定され移転対象地区となった。地区内の 4 町内会は解散し、多くは田子、上岡田、南福室に移転した。

［★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業］

〔特色ある事業〕

事業名	たかさごKidsスクエア		
参加者	小学生とその保護者	延参加者	15 人
開催日	全 1 回　令和 2 年 9 月 12 日(土)		
協力者・協力団体	共催:仙台市環境局環境共生課　連携:高砂小学校、鶴巻小学校、高砂児童館		
ねらい	子育て世代の住民が増加している高砂地区において、核家族化や地域のつながりが希薄化し、子どもたちが地域から学びを得ることや、他世代との交流や様々な体験をする機会が減っている。 地域の団体・サークル・小中学校等との連携・協力のもと、子どもたちに様々な分野の学びを提供し、地域の他世代との交流や様々な体験を通じて子どもの社会性を育むことを目的とする。地域との連携により、地域の教育力向上と世代間交流を推進し、地域の子どもと大人の顔の見える環境づくりにつなげる。		
概要・成果	平成 16 年度より青少年事業を継続してきた。当初は 7 回の企画であったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため 1 回のみの開催となった。コロナ禍での開催のため、共催先である環境共生課との打ち合わせを綿密に行い、「虫の声を楽しむ会」を夜間開催した。公園に出かけて実際に虫の声を聞く予定だったが、雨天により実際に虫の声を聞くことができず、室内で高砂地域に生息している虫の種類や虫に関するお話を聞いた。また、虫の絵を自由に描いたりしての缶バッチづくりは、親子間だけではなく、参加者同士の交流が生まれ、異世代間交流が図られた。学校では体験できない学びを提供することで、子どもたちの社会性を育むことができた。		

〔令和２年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
【中止】 子育てママの応援講座	共催、連携団体とコロナ感染状況を踏まえ話し合いをした結果、中止とした。	【中止】 6 月 23 日 11 月 18 日	－	－
【中止】 インリーダー研修会	宮城野区のインリーダー研修会は、感染症リスク回避のため令和 2 年度は実施せず、令和 3 年度の夏休み期間中に実施することとした。	【中止】 1 月 30 日	－	－
高砂老壮大学	60 歳以上の高齢者を対象に、歴史、健康、軽体操、音楽などの講座を実施。新型コロナウイルス感染症の影響により、9 月開講となり、また、感染症対策として受講生 80 名を 2 班に分け、同日別時刻にて開催した。	9 月 16 日～ 2 月 17 日	12	337

地域で考える「みんなのBOSAI」	実行委員会と訓練、学習会を開催。例年地域住民を集めての大規模な避難所運営訓練を開催していたが、令和2年度は地域のリーダーを対象とした訓練と学習会を開催した。	10月15日 11月8日	2	17
高砂市民センター地域懇話会	例年2回開催しているが、少人数で1回のみの開催とした。市民センターをよくご利用いただく方々を対象に開催し、施設管理や開催講座についての意見を伺った。	5月16日	1	7
花咲く海辺づくりプロジェクト	令和元年度から岡田小で育てていた海浜植物の苗のポット上げ作業、植栽活動、令和3年度に向けての種まきを行った。岡田地区町内会やその他様々な団体と一緒に活動をした。	7月3日 10月20日 11月20日	3	192
高砂オープンカレッジ	誰でも参加可能な「学び」の講座として、「音楽を楽しむ講座」(連続4回)と「写真で地域を知る講座」(連続2回)を開催した。どちらの講座も多くの申込みがあり、受講生同士の交流も見られた。	10月8日～ 11月28日	6	72
中野ふるさと学校	旧中野、蒲生地区住民と地域住民が中心となり、地域の歴史の継承や新たな地域の魅力を発信するとともに、人々の再会の場づくりとなる事業を展開している。企画会議を経て、ダーツ交流会、自主学習会、公開授業、鶴巻小「蒲生干潟と日和山」などを実施した。	通年	20	337
【中止】 仙台蒲生日和山　山開き登山プロジェクト	不特定多数の参加者が集まる講座内容を鑑み、実行委員の話し合いにより講座は中止となった。しかし次年度の開催に向け、有志だけで実験的に山開き登山を開催した。	【中止】 7月5日	－	－
●出張！高砂市民センター	3回開催の予定であったが、コロナ禍のため1回のみの開催とした。新浜町内会婦人部と一緒に「クリスマスリース作り」と感染予防についての講話を開催した。	11月29日	1	18
高砂デ・アオーネ！	新型コロナウイルス感染症対策を踏まえ、申込を 50 人に制限したうえで、震災復興メモリアルコンサートを開催した。震災から 10 年目、バイオリンとピアノの演奏で癒しの機会となった。	1月31日	1	50
【中止】 高砂市民センターまつり	まつり実行委員会で開催を検討したが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止を決定した。	【中止】 10月25日	－	－

〔令和２年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

市民センター事業においてのコーディネート業務

市民センターでは学校や地域の各団体のニーズを拾い上げ、様々な交流をコーディネートする役割を担っている。

令和2年度は、岡田小学校との共催事業「花咲く海辺づくりプロジェクト」において、様々な団体との連携をコーディネートすることで、岡田地区各町内会、地域の自主活動団体、地域企業、せんだい3.11メモリアル交流館など多くの団体の活動参加へとつながった。

また、特に講座の中での地域講師役を初めて新浜町内会に依頼し、岡田小児童に地域の自然や歴史、町内会の取組などを紹介したまち歩きを開催してもらった。このことにより、ふるさとを知る機会を子どもたちに提供するとともに、世代間交流も図ることができた。

岩切市民センター

〔沿　革〕

岩切市民センターは昭和 56 年に開館した「岩切公民館」を前身とし、平成 2 年「仙台市市民センター条例」により「仙台市岩切市民センター」と改称された。平成 18 年 6 月から 12 月まで大規模改修が行われ現在に至っている。建物内部には市民センターのほかに、保健センター、老人憩の家、コミュニティ防災センター資機材倉庫が併設されており、さらに平成 22 年 3 月より岩切証明発行センターが併設された。

当地区は宮城野区の北東部に位置し、美しい田園風景が広がる。古からの歴史と文化を伝える神社、仏閣、遺跡が点在している。近年は岩切駅前地区の再開発により若い世代の人口増加が著しい。人々の学習意欲は高く、自主サークル活動が盛んに行われてきた地域である。

［★震災を踏まえた事業　●区役所との連携事業］

〔特色ある事業〕

事業名	すずむしリンリン講座		
参加者	出前授業：岩切小学校 4 年生 配布会：どなたでも 実験放虫：実行委員	延参加者	326 人
開催日	全 4 回　令和 2 年 6 月 12 日(金)、7 月 3 日(金)、8 月 1 日(土)、8 月 22 日(土)		
協力者・協力団体	すずむしの里づくり実行委員会、岩切小学校、まちづくり推進部宮城野区中央市民センター、岩切地区町内会連合会		
ねらい	都市化が進むことで失われつつある自然環境の中、仙台市の虫・スズムシを飼育し、自生させる活動を通して、多くの市民が自然に興味を持ち、人とスズムシが共存できる潤いのあるまちづくりを目指す。		
概要・成果	岩切小学校 4 年生を対象に毎年出前講座を行っているが、令和 2 年度はコロナ禍のため屋外で講話のみを行った。講師が児童の様々な反応に合わせ工夫を凝らして話をしてくれたことで、児童たちは熱心に話を聴くことができ、スズムシに興味を持って積極的に世話をしようという姿勢へとつながった。講話と併せて例年行っているスズムシの家づくりは、感染症予防対策としての密を避けることができないと判断し、先生を通して児童に伝えてもらう「伝達授業」とした。 また、スズムシの配布会は、感染防止対策に配慮しながら実施した。コロナ禍でも、例年と変わらない数の来場者があり、住民のスズムシに対する興味・関心が高いことがうかがえた。		

〔令和２年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
ママとキッズの Ｈａｐｐｙ　Ｔｉｍｅ	コロナ禍で託児付講座は見合わせることとし、親子で一緒に楽しく活動できる内容の講座を実施した。親子ビクス、バランスボール、絵本とわらべうたの内容で実施。親子でたくさんふれあい、充実した時間を過ごすことができた。	10 月 20 日 11 月 5 日 2 月 16 日	3	49
家庭教育地域交流会	岩切地域で小中学生の教育に関わっている 6 団体が、子どもたちに関する地域の課題について話し合い、コロナ禍での各団体の取組みの記録や小中学校保護者アンケート、学校や関係機関のメッセージを載せた冊子を作成した。	6 月 4 日～ 1 月 14 日	8	55

●岩切子育てネットワーク	岩切子育て情報リーフレット「IKoNet」を制作し、子育て世代への情報発信に取り組んだ。また、22団体からなる連携先がより強固な関係を築き、幅の広い事業を展開しやすいようにするために、令和3年度より子育てサークルを団体長とした地域の団体として組織化することにした。	6月10日～ 12月9日	16	189
【中止】 インリーダー研修会	宮城野区のインリーダー研修会は、感染症リスク回避のため令和2年度は実施せず、令和3年度の夏休み期間中に実施することとした。	【中止】 2月22日	－	－
あつまれ！岩切こどものマルシェ！×ジュニアリーダーとあそぼう！	「子どもの広場であそぼう！」にて魚釣りゲーム（バルーンアートの景品付き）コーナーをジュニアリーダーが主体的に企画運営した。参加児童や地域ボランティアと世代間交流を図り、地域活性化に繋げた。	10月31日	1	40
岩切小学校地元学連携講座	岩切地区に古くから自生するカラムシを題材に、地元の小学生が地域講師からその歴史や素材の活用方法などを学び、地域への興味と関心を高めた。感染対策のため、広い教室で行った。	7月15日 8月31日 9月1日 9月2日	4	408
岩切老壮大学	60歳以上の高齢者を対象に防犯講座や軽体操、健康講話、コンサート、歴史講座等定期的に学習の場を提供し、高齢者の身体や心の健康維持につとめた。	10月21日～ 3月17日	6	337
【中止】 ●みんなで踊ろう宮城野盆唄in岩切	開催に向けた事前準備を進めていたが、コロナ禍による地域行事の中止が相次いだこともあり、共催先と協議し中止の判断をした。	【中止】 6月～9月	－	－
【中止】岩切市民まつり	町内会のまつりと市民センターまつりを併せた初めての岩切市民まつりの実施を常任委員会で検討したが、来場者の安全を考慮し、中止を決定した。	【中止】 10月25日	－	－
岩切市民センター懇談会	地域課題や地域づくりについて、町内会をはじめ地域の諸団体や市民センターを利用している方々と情報交換を行い、事業に反映する方向性を見出す機会とした。	11月25日 2月18日	2	18
考えよう！岩切の防災	地震や水害に対する備えるため、防災学習を継続的に提供し、防災・減災についての知識や具体的な対処法を学ぶことで自助や共助の意識を高める機会とした。	10月3日 2月6日	2	31
子どもの広場（居場所）づくりボランティアの養成	毎月最終土曜日の午後、体育館を子どもの広場として開放し、子どもたちに様々な遊びを体験させ、それを見守るボランティアの養成につなげる講座を行った。感染対策として種目を厳選し、10月からの開催とした。	7月25日～ 1月30日	6	60

〔令和２年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

「ジュニアリーダー」への活動支援

岩切市民センターを拠点に活動するジュニアリーダーサークル「岩切ガンキリーズ」は子ども会や児童館、市民センターより継続的に要請を受け、地域の中高生ボランティア団体として浸透し始めている。市民センターではジュニアリーダーの育成支援として、月1回定例会を開催し、情報提供や活動に当たっての相談ができる場の提供、自主企画や運営といった活動支援を行った。令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により子ども会からの要請がなかったため、市民センターの主催事業の中で活動の機会を提供した。市民センター主催事業「子どもの広場（居場所）づくりボランティア養成講座」で開催している「子どもの広場であそぼう！」にて魚釣りゲーム（バルーンアートの景品付き）コーナーをジュニアリーダーが主体的に企画運営することで、参加児童や地域ボランティアと世代間交流を図り、地域活性化につなげることができた。

鶴ケ谷市民センター

〔沿　革〕

鶴ケ谷地区は、仙台市が大型モデル団地として開発し、昭和 43 年から入居を開始した住宅団地である。

鶴ケ谷市民センターは昭和 47 年 5 月 22 日、団地の完成とともに RC3 階建、温水プールを併設する施設として開館した。その後、地域住民から生涯学習への要望が高まり、昭和 59 年から岩切公民館の協力を得て、各種の講座を開始したが、本格的に生涯学習が展開されたのは、平成元年に市民センター・公民館として発足してからのことである。平成 4 年 4 月には児童館が併設され、地域の生涯学習・児童福祉・コミュニティづくりの拠点となった。

平成 23 年 3 月の東日本大震災により鶴ケ谷市民センターが被災し使用不能となったことから、平成 24 年 3 月から近傍に仮事務所を設け生涯学習事業を行ってきた。平成 28 年 4 月 2 日からは、第一市営住宅団地再整備地内に市民センター（単独館）を移転・新築して開館し、地域の生涯学習・交流・コミュニティづくりの拠点として多くの人々に利用されている。

［★震災を踏まえた事業　●区役所との連携事業］

〔特色ある事業〕

事業名	市民企画会議「女性のいきいきライフ in 鶴ケ谷」		
参加者	地域の成人女性	延参加者	44 人
開催日	全 9 回　令和 2 年 6 月 12 日（金）～12 月 24 日（木）		
協力者・協力団体	－		
ねらい	鶴ケ谷地域は高齢化率が仙台市の中でも高く超高齢社会となっており、一人暮らし高齢者の割合も増加している。さらに、新型コロナウイルス感染症の流行により外出に消極的にならざるを得ない状況となっている。そこで、地域の女性を企画委員として募集し、楽しく交流を深め、互いに協力しあえる仲間づくりを推進する。また、企画委員としての講座の企画・運営に携わる活動を通し、地域づくりの一翼を担う人材の発掘・育成を目指す。		
概要・成果	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、当初 5 月を予定していた初回の企画会議が、翌月に延期となったが、ひと月遅れの企画会議では委員全員が自ら企画を考えてきており、その後の講座の組み立てや広報もスムーズに進めることができた。 コロナ禍での企画講座に備えて、安心・安全な開催を第一に、会場レイアウトや感染予防対策、学習内容や情報の確実な提供のための実行方策や、交流会の進め方などの検討を重ねた。特に、第 2 回のスカーフ・ストールアレンジレッスンでは、講師の手元をカメラで映してスクリーンに投影するなどの工夫が功を奏し、受講生から好評が得られ、企画委員の励みや達成感につながった。講座実施時には、和気藹々と受講生同士が交流する光景が見られ、地域住民同士の連携を深めることができた。		

〔令和２年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
親子ではっぴぃ講座	コロナ禍で感染予防のため、参加人数の制限、検温等を行い、親子で参加するエアロビやリトミック等を開催した。自粛生活における親子での活動の機会を提供するとともに、講師から子育てアドバイスも伺う機会とすることができた。	7 月 7 日 9 月 29 日 12 月 9 日	3	54
● 鶴・燕・西子育て支援ネットワーク事業	毎年、地域 4 児童館と共催により乳幼児親子向けフェスタを開催していたが、コロナ禍のため変更し、子育て世代向けの児童館・市民センターの行事や取組などを紹介するリーフレットを作成、配布した。	12 月 1 日	1	147

≪宮城野区≫

【中止】 インリーダー研修会	宮城野区のインリーダー研修会は、感染症リスク回避のため令和2年度は実施せず、令和3年度の夏休み期間中に実施することとした。	【中止】 2月20日	－	－
鶴ケ谷キッズステーション	学校では体験できない酸アルカリ反応実験や魚の解剖、手芸作品作り、地域資産「ひょうたん沼」で解説付きで観察会などを開催し、探求心や創造性、学習意欲の向上を図り、自己肯定感を育んだ。	6月13日～ 3月13日	6	75
★ 君もプチレスキュー	中学生が災害時に地域の一員として避難所運営等に関われるようにするため、防災や救急救命法等の知識・技能の修得を目的として開催した。受講生が80名を超えたため、2会場に分けて開催した。	9月15日 11月10日	2	186
子ども参画型社会創支援事業「つるっこ画樹園！～実れ鶴心～」	中学生が地域の一員として「地域づくり」に関わるため、地域の魅力（自然・人・交流）を探り、美術展を企画・準備・開催し、地域に交流の場を提供するとともに、子ども達の企画力、コミュニケーション力を高め、自己有用感を育むことができた。	6月24日～ 3月23日	17	503
鶴ケ谷ことぶき大学	専門講師を招き、コミュニケーションのスキルアップ、芸術鑑賞、歴史、介護情報と健康実技、音楽療法、文学など様々な分野の学習機会を提供し、高齢者の生活の充実と生きがいづくりに貢献した。	9月16日～ 1月20日	6	268
つながれ すずむしの里	仙台市の虫「スズムシ」への理解を広め、郷土愛や自然愛護の心を育むため「すずむしの里づくり実行委員会」と連携して、地域住民へスズムシ配布会・交換会を行った。	8月4日	1	104
みんなで支え育もう！鶴ケ谷の心を！	地域ニーズに基づき小学生対象の読み聞かせボランティアのスキルアップと新たなボランティア人材の育成等のため、専門講師に発声発音の基礎・年齢別の本の選び方・読み方のコツ等を学んだ。	1月21日 2月4日 2月18日 3月4日	4	40
【中止】 鶴ケ谷市民センターまつり	実行委員会との協議により、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止とした。	【中止】 10月24日	－	－
鶴ケ谷市民センター懇話会	町内会をはじめ、地域諸団体、利用団体の参加を得て、市民センター事業の概要を説明するとともに地域課題や市民センターへの要望等を把握して事業へ反映するため開催した。市民センターまつりの開催の協議にあたり、懇話会での意見を反映した。	6月25日 2月26日	2	28
市民企画講座「女性のいきいきライフ in 鶴ケ谷」	市民企画員による栄養学講座、スカーフアレンジレッスン、歯科医師の医学講座、女性住職の法話と健康体操の4講座を開催するとともに、交流会を通して、受講生がいきいきと生活していくための知識を学んだ。	9月24日 10月29日 11月19日 12月3日	4	78

〔令和２年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

読み聞かせボランティア「ひょうたんの会」の活動支援

本センターの担当エリアの中の4小学校の学校支援地域本部より寄せられた要望を受けて「読み聞かせボランティア養成講座」を企画したところ、初心者・経験者16人が参加した。講座終了後、4小学校での読み聞かせボランティア登録を案内し、3 人が近隣の小学校でのボランティア活動を開始した。既に活動していた3人も講座で学んだスキルをそれぞれの場で実践している。

また、受講生によるサークル化に向け、定期的な学び合いの機会を提供した結果、10名によるサークル「ひょうたんの会」を発足するに至った。月4回のペースで活動を継続し、本センター主催事業「親子ではっぴぃ講座」で絵本読み聞かせボランティア活動を始め、小学校でのボランティア登録も視野に入れ、地域で活動を行う方向で準備をしている。

榴ケ岡市民センター

〔沿　革〕

榴ケ岡市民センターは、日本住宅公団の高層共同住宅の建設に伴い、一階・地階部分の一部を市民会館の分館として位置付け、昭和 48 年 6 月に開館した。平成元年 4 月には公民館が併設され、翌年 4 月に「榴ケ岡市民センター」に改称された。平成 24 年 7 月 31 日にはそれまでの本館を閉館し、同年 8 月 28 日に榴岡公園軽体育館の名称を「榴ケ岡市民センター」へ変更して現在に至っている。

当市民センターは、市民の憩いの場である榴岡公園に隣接し自然環境に恵まれ、近くには仙台市歴史民俗資料館、国の合同庁舎、楽天生命パーク宮城などがある。中心市街地として都市基盤整備が進み古くからの街並みが日々変化している中、新旧地元住民の交流の場として、また各種会合や生涯学習活動の場として多くの人々に利用されている。

［★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業］

〔特色ある事業〕

事業名	東口ゆうえんち		
参加者	小学校 1～3 年生	延参加者	62 人
開催日	全 9 回　令和 2 年 6 月 27 日(土)～令和 3 年 2 月 27 日(土)		
協力者・協力団体	－		
ねらい	現代の子どもたちは公園での遊びが制限されていたり習い事で忙しかったりと、大勢で一緒に遊ぶ機会が少なくなっている。そこで、学年や学校が異なる子どもたちが、ボランティアスタッフとの世代間交流を兼ねて一堂に会し楽しめる場として開催する。 また、学生や社会人企画員の企画と運営により、家庭や学校では経験できない学びや遊びをとおして、社会性や公共性を身につける機会とする。		
概要･成果	コロナ禍ではねらいにある「大勢で一緒に」というのは難しく、例年子どもたちに好評であった調理体験、巨大ダンボール迷路、お化け屋敷の実施はできなかったが、事前申込制や募集人数を少なくするなど様々な対策や工夫をして開催した。 講座内容も企画員が年齢や立場の違いを超えてアイディアを出し合い、コロナ禍を逆手に取った新たな取り組みとして「ウォーターバトル in 榴岡公園」や「アンブレラクリスマスを作ろう！」を実施した。 また、主催事業「地域をキラキラにする企画会」の企画員と合同で動画編集を学ぶ講座を開催し、令和 3 年度以降を見据えた新しい情報発信技術を修得する機会となった。		

〔令和２年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日･期間	回数	延参加者
【中止】 まごまごしない孫育て	開催時期を延期して実施する予定でいたが、インフルエンザ等の流行も鑑み、安全面を考慮し関係団体と協議の上、中止とした。	【中止】 6 月～7 月	－	－
【中止】 インリーダー研修会	宮城野区のインリーダー研修会は、感染症リスク回避のため令和 2 年度は実施せず、令和 3 年度の夏休み期間中に実施することとした。	【中止】 2 月 6 日	－	－
【中止】 つなげよう　平和のバトン	コロナ禍の状況を鑑み、講義形式の開催は中止とした。次世代へ平和の大切さを伝える小学校の平和学習に向けた足がかりはできたものの､実施までには至らなかった。	【中止】 6 月～10 月	－	－

【中止】 地域をキラキラにする企画会で企画した講座	令和2年度はコロナ禍の状況を踏まえ企画会としての活動を主にし、企画講座の開催までは至らなかった。	【中止】 5月～1月	－	－
気候変動に適応した暮らしと安全	気候変動による環境破壊が問題視されている中で、気候変動にどのように適応していくかを学ぶ必要性が出てきた。そこで、まずは身近な榴岡公園を散策し適応策を考える講座を開催した。	12月5日	1	24
東口ますます元気教室	高齢者自身が今の体力を維持していくための運動とし、集団体操、ノルディックウォーキング、ラジオ体操、筋トレなどを実施。バランスよく食べ抵抗力を保つ食事についての講話を聞いた。	9月16日～ 2月17日	6	63
榴ケ岡老壮大学	コロナ禍の中、受講生の安全を第一に考え、健康講座、地域の歴史などを資料により学んだ。閉講式と記念コンサートは市民センターを会場に開催した。	11月19日～ 3月4日	4	106
榴岡寺子屋	コロナ禍を考慮し、福祉編、歴史編及びまち歩きを中止し、防災編のみを実施した。	6月5日～ 3月19日	9	96
榴ケ岡市民センターまつり	榴ケ岡市民センターを拠点に活動している団体の成果発表・市民センター事業の紹介などを行った。コロナ禍を踏まえ、事前収録したものを上映するなど様々な対策を講じ開催した。	10月3日	1	112
サロン・ド・榴ケ岡～とっておきの時間～	共催先である地域包括支援センターの開催基準も考慮し、講座開催は中止。3月に今後実施可能な講座内容や参加方法等を話し合う企画会を開催した。	3月19日	1	2
地域懇談会	1回目は市民センター利用9団体、2回目は地域活動7団体との懇談を行い、市民センターの事業説明、地域課題の共有、施設利用の改善点などを確認した。	6月20日 11月20日	2	16
これからの動画活用講座	市民センターで活動する団体が、新たな形で情報発信できるよう、動画撮影と編集の基本の学習及び実習を行った。	9月17日 9月19日 10月3日	3	15
地域をキラキラにする企画会	コロナ禍により企画講座の実施が不確実であったため、市民センターまつりにて今までの活動紹介・写真の展示や、令和3年度に向けての話し合い、動画編集の勉強などを行った。	7月19日～ 3月17日	9	33

〔令和２年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

東口ガイドボランティア「宮城野さんぽみち」の活動支援

平成 25 年度の市民センターの養成講座から立ち上がった、東口ガイドボランティア「宮城野さんぽみち」は、毎月 28 日に開催しているまち歩きや小学校の総合学習、中学校の地域学習や主催講座の講師など、楽しみながら地域の歴史的資産や文化を伝える活動を行っている。

令和2年度はコロナ禍により多くの行事が中止、または延期となったが、外でのまち歩きが比較的感染対策が容易であることから秋ごろから依頼が増え、市民センターは、まち歩きを希望する団体との調整や主催事業との連携など、東口ガイドボランティア「宮城野さんぽみち」の活動の活性化につながる支援を行った。

また、市民センターのホームページにてまち歩きの日程や団体を紹介することにより、細やかな活動の広報や新たなガイドボランティアを増やすことなどへの支援にもつながっている。

東部市民センター

〔沿　革〕

東部市民センターは、昭和 47 年 5 月に旧保健所庁舎の一部を改装し開館した「東部市民福祉会館」を前身としている。昭和 58 年 4 月に改築され、平成に入り「東部市民センター」に改称、平成 5 年 4 月には「東部児童館」が併設されている。当市民センターの中学校区は東仙台中学校、小学校区は東仙台小学校・新田小学校が管轄である。

周辺には、ＪＲ苦竹駅・陸前原ノ町駅・小鶴新田駅・東仙台駅があり、仙石線、東北本線、貨物線、新幹線等が通る鉄道景観が見事に交錯する街並である。

さらに、当センターは宮城野区役所から北東へ約 0.7km の地点に位置し、南に国道 45 号線と北に利府街道、その中間を跨ぎ繋ぐ形で、通称「中原地区」といわれる住宅地にある。また、付近には、東仙台・苦竹・原町・自衛隊仙台駐屯地など、それぞれに歴史を持つ住宅地や商業地が広がっている。

［★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業］

〔特色ある事業〕

事業名	★市民企画会議「今だからこそ、地域防災を見直そう！」		
参加者	成人	延参加者	36 人
開催日	全 3 回　令和 2 年 10 月 31 日(土)、11 月 28 日(土)、12 月 12 日(土)		
協力者・協力団体	女性防災ネット宮城野		
ねらい	東日本大震災から 9 年、当時の記憶も徐々に薄らいできている。また、近年の台風による大雨災害、新型コロナウイルス感染予防などの災害に対する備えと対応を見直す話し合いを行い、講座を企画・開催し地域防災力の向上を図る。 女性防災ネット宮城野と連携することで、宮城野区内の現状と対策、女性の視点を参考にしながら話し合いを進めていく。		
概要･成果	宮城野区内の福住町・岩切・原町の現状と課題・対策を学び、東仙台・新田地区の地域防災力向上のための話し合いを行い、課題解決のための講座の企画会議を実施した。 成果として、コロナ禍における避難所運営に際してどのようなことに注意するべきなのかを共有することができた。 地域性の違いを理解し、東仙台・新田においての課題を把握することで講座企画へつなげることができ、地域防災力向上の第一歩となった。		

〔令和２年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日･期間	回数	延参加者
子育てママの元気のサプリ	コロナ禍で外で遊ぶ機会も減っていることから、親子のストレス発散を目的とした体操や工作を行った。第 1 回「親子でたのしむ！ウキウキ♪へんしん体操」、第 2 回「音あそび、かんたん工作でリフレッシュ！」。	11 月 20 日 11 月 27 日	2	10
キッズのいきいきタイム	小学生が地域への理解を深めることを目的として、地域にある施設などを題材に学習･体験を行った。第 1 回「ボルダリング・チャレンジ」、第 2 回「プログラミング体験」。	9 月 14 日 11 月 14 日	2	21
Let's enjoy!! ～子どものためのプログラム～	子どもたちが様々な世代と交流することで、子どもと大人の顔の見える関係づくりを図り、子どもの健全育成に役立てるために開催した。うち 3 回は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、例年より募集人数を減らして実施した。第 1 回「東仙台よろこびの会配食カード贈呈」、第 2 回「お手紙ワークショップ」、第 3 回「カレンダーをつくろう」、第 4 回「ひなまつりごっこ」を実施。	11 月 18 日 12 月 19 日 1 月 14 日 3 月　2 日	4	48

【中止】 インリーダー研修会	宮城野区のインリーダー研修会は、感染症リスク回避のため今年度は実施せず、令和3年度の夏休み期間中に実施することとした。	【中止】 2月13日	－	－
「東部スマートエイジングサロン」	シニア世代を対象に、講座を通して自分が興味あることの再発見や地域の中で活動することの楽しさなどを知り、自ら積極的に活動ができるようになることを目指して開催した。第1回:水墨画の特徴と簡単な歴史を学び、基本を練習。第2回:好きなテーマで自由に描写。	1月24日 1月31日	2	13
老壮大学 「東部いきいきスクール」	写真で振り返る仙台、健康講座、歴史講座、色彩講座、コンサート、食生活講座、歌って手遊びご健笑！を実施した。新型コロナウイルス感染症対策を行いながらバラエティに富んだ内容で実施した。	9月16日～ 3月3日	7	181
いきいき健康ライフ	コロナ禍で低下した体力を取り戻し、いきいきと健康に暮らすための運動方法を学んだ。第1回:「運動療法で体力低下を防ごう！」、第2回:「免疫力をアップしよう！」。	10月7日 10月14日	2	27
TOSEN COMMUNITY ～中学生と交流しよう～	東仙台中学校卓球部員と地域の卓球愛好者のクラブの方とで「地域卓球交流大会」を実施した。卓球を通して地域に住んでいる中学生と大人との顔の見える関係づくりのきっかけとなる良い機会となった。	12月5日	1	52
【中止】 東部ふれあいまつり	実行委員長と開催を検討したが、感染状況を踏まえ参加者の安全等を考慮し、中止を決定した。	【中止】 10月4日	－	－
東部ふれあいコンサート	地域の方が気軽に参加できるコンサート（フルート、チェロ、ピアノの三重奏）を開催し、音楽を楽しむ機会と住民同士が交流する場を提供した。	2月13日	1	15
東部市民センター地域懇話会	地域住民によるコミュニティづくりや、地域課題の共有を図るための情報交換や意見交換を行った。また、地域に開かれた市民センターとして、生涯学習や地域づくりに取り組んでいる状況について説明した。	7月10日 2月16日	2	23
【中止】 市民企画会議「今だからこそ、地域防災を見直そう！」を経て実施する事業	コロナ禍で市民企画会議の回数を十分に取ることができず、令和3年度に開催を延期した。	【中止】	－	－

〔令和２年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

地域をつなぐボランティア「東仙台よろこびの会」への活動支援

「東仙台よろこびの会」は、人と人とのふれあいの中に奉仕する喜びを見出したことからその名が付けられたボランティア団体である。単身高齢者だけでなく、地域の方々がいつまでも住み慣れたまちで自分らしい生活が続けられるようにと始めた活動は、令和2年で36年目を迎えた。

令和2年度、「東仙台よろこびの会」が例年行っている弁当の配食活動は、新型コロナウイルス感染症の影響により例年通り行うことが難しく、1回のみの実施となった。市民センターでは東部児童館と連携し、配食弁当に添えるカードを地元小学生に手書きで書いてもらうことで、子どもたちとボランティア団体をつなぐ橋渡し役を担った。また、コロナ禍で直接会うことのできない状況が続く中、配食弁当を受け取る地域の方々と子どもたちが、カードを通して関わりを持つことができた。

幸町市民センター

〔沿　革〕

幸町市民センターは、平成 5 年 4 月 20 日、幸町児童館及び幸町コミュニティ防災センターを併設した複合施設として開館した。令和元年度には大規模修繕を実施し、令和 2 年 4 月に再開した。

当市民センターがある幸町中学校区は、大型商業店舗の進出、民間マンションの建設などで町並みの変容著しい幸町・大梶地区と、与兵衛沼、枡江の森などの緑豊かな自然に恵まれた枡江地区からなる。仙台市ガス局や県・市障害福祉センターなどの公共施設や、きぼう園、いずみ授産所などの福祉施設とともに、国、県、市の公営住宅があり、民間も含めて集合住宅が多い地域でもある。また、平成 26 年度には復興公営住宅も完成した。高齢化が進む中、子育て中の世代や若年層の住民の増加もみられ、ここ数十年で地域の環境は大きく変化した。

［★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業］

〔特色ある事業〕

事業名	市民企画事業「枡江の森魅力発信プロジェクト」		
参加者	地域住民	延参加者	173 人
開催日	全 10 回　令和 2 年 7 月 4 日(土)～令和 3 年 3 月 6 日(土)		
協力者・協力団体	枡江学区町内会連合会、まちづくり推進部宮城野区中央市民センター、枡江小学校、仙台市百年の杜推進課、せんだい・市民の森を創る会		
ねらい	枡江小学校の敷地内にある「枡江の森」の活性化を目的とし、枡江小学校のスーパーバイザー等の学校関係者と情報交換しながら、森をより身近に感じられるよう企画を実施し、地域に向けて魅力を発信する。また、企画員と講座参加者が共に交流を深め、森を楽しむ時間を持つことで、地域に愛着を持ち「地域づくりにつながる人づくり」を図る。		
概要・成果	令和 2 年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、春に予定していたコンサートは中止としたが、市民企画員が地域住民を対象とした講座の企画・運営を行って、「枡江の森展示会」「クラフトワークショップ」「杜の都の緑・再発見～枡江の森編～」の 3 つの講座を開催した。企画員自らが「森の達人」を目指して学びを深めたことは、講座の企画に活かされただけでなく、枡江小学校の 5 年生の総合的な学習において、地域住民としての枡江の森への思いや学びの成果をゲストティーチャーとして話す機会を得ることにつながった。また、企画事業を通じて新たに企画員となった方もおり、より一層枡江の森の魅力を発信していきたいとの活気が生まれた。		

〔令和２年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
子育てママのリフレッシュ応援講座	ベビーマッサージやクラフトテープ手芸、親子防災、人形劇鑑賞などで、同じ環境の親子と交流し情報交換できる場となった。	11 月 25 日 12 月 11 日 1 月 22 日 2 月 26 日	4	42
さいわいどんぐりクラブ	地域講師と地域サポーターと協力し、伝統行事体験として、枡江小学校と幸町南小学校で「しめ縄づくり」を実施した。	12 月 13 日 12 月 16 日	2	101
【中止】 インリーダー研修会	宮城野区のインリーダー研修会は、感染症リスク回避のため令和 2 年度は実施せず、令和 3 年度の夏休み期間中に実施することとした。	【中止】 2 月 27 日	－	－

ジュニアリーダーとあそぼう	9月19日は幸町児童館の子どもたちを対象に、11月15日は枡江・幸町・幸町南の3小学校から参加者を募集して、手遊びやクラフトワークショップを行った。	9月19日 11月15日	2	13
幸町生涯大学	高齢者が孤立することなく社会とつながりを持ち続け、生き生きと安心して過ごせるための生涯学習の場を提供できた。地域内施設の見学、健康講座、歴史講座、コンサートなどを行った。	9月17日～ 2月18日	6	153
幸せ奏でるコンサート	秋編（11月）では、アニメ映画の曲からクラシックまで、フルート、ピアノ、クラリネットの演奏、春編（2月）ではクラシックの名曲を中心にヴァイオリンとチェロの演奏で実施した。	11月15日 2月11日	2	93
【中止】 災害への備えー安心して暮らせる町へー	コロナ禍のため、地域の状況に合わせて中止とした。	【中止】 8月～2月	－	－
【中止】 第23回幸町市民センターふれあいまつり	幸町市民センターふれあいまつり実行委員会役員との協議の結果、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止と決定した。	【中止】 11月15日	－	－
幸町市民センター地域懇談会	新型コロナウイルス感染症の影響で、4月の予定を延期し、11月に開催した。改修工事後初の懇談会として、センターの概要と令和2年度の事業計画を中心に報告した。	11月10日	1	13
【中止】 図書ボランティア養成講座	講師依頼の打診やボランティアメンバーと連絡を取るなどし講座開催を模索したが、児童館で図書室を親子向けに開放していたということもあり、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止とした。	【中止】 6月～2月	－	－
幸町ハッピーファーム	幸町児童館の子どもたちと一緒にセンター敷地内の畑の整備を行った。きれいになった畑にサツマイモの苗を植え、最終的に21本のサツマイモが収穫できた。	5月30日～ 10月24日	6	13

〔令和２年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

市民センターで活動しているサークルへの活動支援

令和元年度に改修工事が行われたことや、新型コロナウイルス感染症拡大防止のために幸町市民センターふれあいまつりが2年連続で中止となった。サークルの活動が自粛され、発表の場や機会も減っていたことから、文化系サークルの発表の場として館内に掲示スペースを設けた。

このスペースへ市民センターで活動している絵手紙サークルと折り紙サークルが自分たちの作品を展示したことで、興味を持った方が新たにサークルへ入会する等、サークル活動の活性化にもつなげることができた。また、四季折々の作品の展示により館内が明るい雰囲気となったと来館者からも好評を得ている。

田子市民センター

〔沿　革〕

田子市民センターは、平成 11 年 8 月、仙台市で 53 番目の市民センターとして開館し、児童館とコミュニティ防災センターを併設し、多目的ホール、会議室２室、和室２室、調理実習室、児童館図書室などを備えている。

当市民センターの位置する田子地域は仙台市東部に位置し、市中心部と直結する JR 仙石線（最寄駅:福田町駅）や国道 45 号線等に近い交通の利便性のよさから開発が進み、人口が増加している。半面、平成 27 年頃から 65 歳以上の高齢化率が緩やかに上昇してきている。幼稚園や小中学校、高校等の教育施設にも恵まれ、地域リーダーとして活躍する人材が豊かで、地域づくりに関する住民意識も高く、地域防災訓練等の特色ある活動が活発に行なわれている。当市民センターは、これらの立地条件を活かしながら、地域団体や学校との連携に努め、事業を展開している。

こうした中、平成 26 年度には田子西復興公営住宅に 160 世帯余りが入居し、田子西町内会が設立された。平成27年度は、田子西第二復興公営住宅への入居と集団移転用地への移住が開始され、平成28年4月、田子西こだま町内会、田子西中央町内会、田子西三丁目町内会が設立された。田子市民センターの管轄エリアは田子小学区 10 町内会、高砂小学区 4 町内会となった。

［★震災を踏まえた事業　●区役所との連携事業］

〔特色ある事業〕

事業名	複数年事業「田子今昔物語」		
参加者	田子小学校児童、その他どなたでも可	延参加者	514 人
開催日	全 23 回　令和 2 年 7 月 4 日（土）～令和 3 年 3 月 26 日（金）		
協力者・協力団体	まちづくり推進部宮城野区中央市民センター		
ねらい	田子は古歌にも詠まれ、また、福田足軽町を擁する歴史ある地域であり、郷土史や自分の先祖の来し方など身近な物事に関心を寄せる人も多い。また、昨今の新型コロナ禍の影響下で、外出や旅行など他地域への移動機会が減り、生涯学習の機会も減っている。そこで、身近な市民センターで地域の良さを学習することで、地域への関心を深め、学んだことを地域づくりや地域交流に活かすきっかけを作る。		
概要・成果	一般の方対象に 3 回、田子小学校の授業と連携して 5 回、まち歩きや地域についての講話を実施した。田子小学校 3 年生と一緒に田子の自然や歴史を伝えながらまち歩きができたことは、地域の良さを次世代に伝え、地域について学ぶきっかけになった。また、令和 2 年度は、新たに「田子今昔物語Ⅱ」のリーフレット作成に力を注いだ。その中に掲載した「高砂音頭（昭和 25 年作）」では、数少ない資料を探り、音源と踊りの記録にも取り組んだ。福田町界隈を取材したり、資料収集を図ったりと、地域の関係する方々の協力をいただきながらリーフレットを作成することで、まち歩きボランティアとしての参加者も増えた。本事業を通じて、多くの人に地域への関心を深めてもらうとともに、自ら学んだことを地域づくりや地域交流に活かすきっかけとすることができた。		

〔令和２年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
みんなニコニコ♪子育て広場	乳幼児親子を対象に、親子ヨガ 2 回、手形アート 2 回、チアダンスの講座を開催した。感染症対策のため託児は行わず、募集定員を少なくして実施した。	7 月 29 日～12 月 2 日	5	62
たごっ子塾	小学生を対象に、土曜日や夏休みに卓球や工作の講座を開催し、子どもたちと地域講師や高校生ボランティアとのふれあいを通じた交流を図った。	6 月 20 日 8 月 12 日	2	67

【中止】 インリーダー研修会	宮城野区のインリーダー研修会は、新型コロナウイルス感染症リスク回避のため令和２年度は実施せず、令和３年度の夏休み期間中に実施することとした。	【中止】 ２月 27 日	－	－
学びの一歩 サークル・ボランティア体験会	田子市民センターで活動する書道、軽運動、エアロビクス、すずめ踊りのサークル体験会を開催した。	９月 30 日 10 月 22 日 11 月 26 日 12 月 13 日	4	15
田子・歴史ゼミナール	田子地域の歴史についての講話を２回連続講座で実施した。	11 月 28 日 12 月 5 日	2	36
田子老壮大学	高齢者を対象に、コンサート２回、椅子ヨガ、歴史講話、健康講話を実施した。新型コロナウイルス感染症対策のため広いホールを会場とし、回数を例年の半数程度に減らした。	６月 24 日～ 12 月 9 日	5	162
みんなで学ぶ地域防災	全町内会合同での防災訓練は、実行委員会において新型コロナウイルス感染防止のため中止と決定。中学生と地域の方を対象に、自衛隊員による防災講話と土のう作りなどの講座を開催した。	９月 18 日	1	411
出前講座 ウェルカム！田子西	転入者の多い田子西地区４町内会への出前講座として、ウォーキング、ヨガ、刺し子の小物づくり、するめ天旗づくりの講座を開催した。	９月 18 日～ 12 月 19 日	7	68
たごの音楽会	シュタイヤー式ハーモニカ、オールディーズ、吹奏楽のコンサートを開催した。２月に予定していた箏のコンサートは新型コロナウイルス感染状況を考慮し中止した。	８月８日 ９月 26 日 10 月 18 日	3	112
田子市民センター懇話会	サークルなどの市民センター利用者、地域関係者の参加で、２回開催した。市民センターの運営状況や新型コロナウイルス感染症対策などについてご意見をいただき、情報交換を図った。	７月３日 11 月 27 日	2	31
【中止】 たごっ子まつり	実行委員会で開催を検討したが、コロナ禍の状況を踏まえ、中止を決定した。	【中止】 ２月 20 日	－	－

〔令和２年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

自主サークル「みどりのサークル」の支援

10 年以上前に講座参加者が集まり、立ち上がった「みどりのサークル」は、普段からサークル活動を通じて、少しでも地域へ還元したいという思いで緑化活動を行っている。

令和２年度は、併設児童館における栽培活動への協力について、市民センターがみどりのサークルへと依頼をし、児童館との橋渡し役を担った。

これにより、みどりのサークルと児童を結びつけることで互いの交流が深まり、植物の生長の様子から、喜びを共有する良い機会となった。

福室市民センター

〔沿　革〕

福室地区は西に七北田川、北は多賀城市に接し、南は仙台港背後地に囲まれた地域で、かつては豊かな田園地帯であった。昭和 30 年～40 年代にかけて住宅地や市営住宅が造成され、住環境が急速に整備された。国道 45 号線、JR 仙石線の沿線という利便性から、最近では仙台港背後地の開発や商業施設の増加に伴い、高層住宅、集合住宅が増え、人口は増加傾向にある。旧来の農地は激減したが、今も七北田川周辺の豊かな自然は健在である。

同地区に位置する福室市民センターは、中野中学校区を対象地域として平成 15 年 3 月に開館し、児童館、コミュニティ防災センターを併設している。年々利用者も増加し、地域住民の生涯学習の拠点として、広く親しまれ利用されている。

［★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業］

〔特色ある事業〕

事業名	市民センターの草木調べ隊		
参加者	地域住民	延参加者	47 名
開催日	全 3 回　令和 2 年 10 月 17 日(土)、10 月 24 日(土)、10 月 31 日(土)		
協力者・協力団体	－		
ねらい	当センターにはキンカン、ハナノキ、ジュウガツザクラ等、他の市民センターでは見られない珍しい樹木が多数植栽されている。開館当初、植栽マップを作成していたが、経年により植栽に変化が生じている。そこで、敷地内の樹木を調べ上げたうえで新たなマップを作成する。さらに樹木名の表示板を作成し樹木に取り付け、来館者が樹木に親しめるようにする。		
概要・成果	新型コロナウイルス感染症の影響により、当初予定していた春季開催を見送り、年度後半に回数を減らしたうえで開催せざるを得なかった。そのため令和 2 年度は植栽の調査、マップ作成の作業にとどまり、表示板作成には至らなかった。しかし、参加者は実際に植栽の調査を行うことでその種類の豊富さを実感し、そのことを地域の方に広く知ってもらうための表示板作成への意欲が高まった。令和 3 年度も引き続きマップ及び表示板の作成に取り組む予定としている。		

〔令和２年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
【中止】 インリーダー研修会	宮城野区のインリーダー研修会は、感染症リスク回避のため令和 2 年度は実施せず、令和 3 年度の夏休み期間中に実施することとした。	【中止】 2 月 13 日	－	－
地域で育む学びの芽	地域の資源や人材を活用して、子どもたちに様々な体験の機会を提供するために講座を実施した。 ①福室小 3 年生を対象とした歴史ウォーク、②移動天文台「ベガ号と星の世界＆ミニコンサート」、③街かどコンサート「弦楽アンサンブル・コンサート」	11 月 20 日 12 月 18 日 2 月 20 日	3	176
福室老壮大学	高齢者を対象に、歴史、健康講座、音楽鑑賞などの講座を開催した。受講者が 70 名を超えていたため、感染対策として、受講者を 2 班に分け、月 2 回の開催とした。	9 月 9 日～ 2 月 26 日	11	366

だれでもサロン“まざらいん”	誰でも自由に参加することができるサロンを開催し、地域住民の交流の機会を提供した。 実施内容：①小物づくり「手作りペンダントを作ろう」、②明治食育セミナー「チョコレートの世界へようこそ」、③福室縁芸場、④ホスピタルクラウンサーカス「小さなテントサーカスがやって来る」。	9月24日 10月29日 1月16日 3月11日	4	177
【中止】 第16回福室センターまつり	実行委員長、副実行委員長等で開催を検討したが、市内の感染状況を踏まえ、参加者の安全を考慮し、中止を決定した。	【中止】 11月7日	－	－
地域懇談会	市民センター事業を紹介しながら、運営方法等について、地域内の町内会や学校、諸団体などと広く意見交換の場を持った。	7月9日 2月18日	2	26
★ふくむろ防災塾 ２０２０	令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、予定していた 3 年に一度の総合防災訓練が中止となったが、コロナ禍における避難所運営についての確認等を行った。 実施内容：①「福室小避難所運営委員会」の組織内容等の検討、確認、②新型コロナウイルス感染拡大防止に対応した避難所のあり方。	8月29日 9月26日	2	75
みんなで支え合う地域づくり　～ふくむろ健康長寿ねっと～	高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らすために、介護予防講話や運動を学び、高齢者が自立し地域住民同士が支え合う地域づくりを目指す機会とした。実施内容：①認知症の予備知識、②身体を動かして健康寿命を延ばす、③コロナにまけないからだづくり。	9月6日 11月13日 3月3日	3	63
市民企画会～地域の魅力発見～	地元の歴史や地域資源など地域の魅力を話し合い、再発見する講座を企画員が企画、運営した。企画員の勉強会を公開講座の学習サロンとして実施した。	7月2日～ 3月4日	17	282
市民企画講座 「福室１００景　気になるところ」	平成30年度に市民企画会で作成した冊子「福室100景いいトコガイド」を活用して、地域資産を学ぶための講座を開催した。 実施内容：①テラリウム・コケモン、②③仙石線あれこれ④野鳥観察編	10月3日 11月5日 11月28日 12月5日	4	50

〔令和２年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

「高砂おたから探訪の会」へのコーディネート

「高砂おたから探訪の会」は、毎年地域の歴史事象の研究・研修に加えて、福室児童館の子どもたちと「カラムシ（麻）によるストラップづくり」を行っていた。茎の皮の繊維が丈夫なため、古代から衣類の原料として使われている植物であるカラムシは、七北田川河川敷に自生しており、それを福室市民センター敷地内にも移植して育てている。

しかし、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、児童館での体験活動が中止となり、例年のようなカラムシによる活動ができない状況になってしまった。そうした中、宮城野区中央市民センターから福室市民センターへ大学生の社会教育実習で行う体験プログラムについての照会があったため、カラムシ体験の紹介を行った。6 名の大学生は、1 日目に七北田川河川敷でカラムシの採集を、2日目には令和元年度採集のカラムシを利用しての編み上げ体験および作品づくりを行った。

このことにより、「高砂おたから探訪の会」の活動の継続と技術の伝承を図ることができ，社会教育実習の大学生に対しても有意義な実習体験の場を提供することができた。

若林区中央市民センター

〔沿　革〕

若林区中央市民センターは、昭和 53 年、当時の養種園の改築に伴い、養種園の複合施設として「南小泉市民福祉会館」の名称で開館し、その後、条例改正により「南小泉市民センター」と名称を変え、平成 5 年 9 月 28 日，若林区文化センターの新設に伴い移転して、現在の「若林区中央市民センター」となった。また平成 29 年には、若林区中央市民センター別棟が、南小泉児童館、社会福祉協議会、子育てふれあいプラザとの複合施設として移転・新築された。当市民センターを含む若林区文化センターは図書館・市政情報センターも併設されている複合施設である。こうした立地の下、当市民センターは地域の生涯学習活動の拠点として多くの区民に活用されている。

［★震災を踏まえた事業　●区役所との連携事業］

〔特色ある（地区館）事業〕

事業名	家族のための講座　もやもや＆イライラから学ぶ子育て快適生活		
参加者	学童期の保護者または興味のある方	延参加者	35 人
開催日	全 3 回　令和 2 年 11 月 20 日（金）、11 月 27 日（金）、12 月 4 日（金）		
協力者・協力団体	－		
ねらい	近年、子どもを取り巻く環境（親子関係、友達関係、子ども会など）は変化しつつあり、保護者が子育ての悩みを家庭内で解決しようとしても行き詰まってしまうことがある。 そこで、保護者が子どもを取り巻く現状を知り、孤立することなく子どもの成長にどのように関わっていけばいいのかを学ぶ機会を提供する。		
概要・成果	3 回連続講座で 1 回目「もやもや＆イライラから学ぶ快適生活～広がりゆく社会の中で～」、2 回目「イライラから学ぶ快適生活～怒りを知ってスッキリしよう～」、3 回目は「簡単 Xmas ツリー作り＆交流会」を開催した。 コロナ禍で外に出ることや会話する機会が少なかったことからか予想を上回る申し込みがあり、改めて交流の場の必要性を感じた。また、具体的な実例を交えた講話だったため、受講生にも理解のしやすさにつながり、積極的に学ぶ姿勢が感じられた。3 回目の交流会では、自分の思いを吐露する際や他の受講生の話に共感した際に、「もやもや・イライラを解消するためのグッズを箱に投げ入れる」というルールを取り入れたことで、笑いに包まれた交流会となりストレス解消効果が得られた。参加者同士が悩みを話す機会や疑問の解消にもつながり、孤立することのない子育ての一端を担うことができた。		

〔令和２年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
仙台市子ども会インリーダー研修会	子ども会リーダーを対象に子ども会活動についての知識やレクリエーションなどについての資料を配布し、子ども会活動の充実に役立てた。	1 月 8 日	1	54
【中止】 （仮）南小泉小学校連携講座「ユニバーサルスポーツを学ぼう！」	学校と話し合った結果、新型コロナウイルス感染拡大のため今年度は開催を見合わせたいとの申し出があり中止とした。	【中止】 7 月～9 月	－	－

ジュニアリーダーと遊ぼう	ジュニアリーダーとの遊びを通して、小学生の子ども達に異年齢交流や集団遊びの楽しさを体験する場を提供した。	11 月 28 日	1	15
【中止】 市民企画会議を経て実施する事業 「子ども相撲だよ！」	企画会の中止により開催に向けての内容等を決めることができなかった。また、身体をぶつけ合うことでの感染リスクを回避するため中止とした。	【中止】 8 月	－	－
【中止】 仙台七夕に願いを	コロナ禍で七夕制作のための受講生を募集できないため中止とした。	【中止】 6 月～8 月	－	－
南小泉老壮大学 教養コース	高齢者を対象に歴史、健康、文学、コンサート等、多岐にわたる講座内容を開催した。感染症対策として受講生を 2 班に分け、時短（1 時間）にして一日に 2 回（2 部制）開催した。	9 月 9 日～ 2 月 10 日	9	329
南小泉老壮大学 健康コース	高齢者を対象に歴史、健康、文学、コンサート等、多岐にわたる講座内容を開催した。感染症対策として受講生を 2 班に分け、時短（1 時間）にして一日に 2 回（2 部制）開催した。	9 月 30 日～ 2 月 17 日	9	247
★出前講座 こんにちは！市民センターです	令和 2 年度はコロナ禍のため、町内会等の地域へ出向いての講座実施が難しかった。そこで、防災講座の一環として避難所運営を行っている町内会と話合いの場を設けることで、情報の共有を図った。10 年前の大震災時に加え、コロナ禍での避難所運営について改めて確認し合い、今後の備えにつながるいいきっかけ作りとなった。	3 月 5 日	1	6
わかちゅう秋のミニコンサート	地域住民の誰もが気軽に参加でき、市民センター利用のきっかけとなる、クラシックギターコンサートを開催した。出演者は地域住民に依頼した。コロナ禍での開催のため事前申し込み制とした。	11 月 28 日	1	17
【中止】 若林区中央市民センター学習発表フェスタ 2020	令和元年度参加団体と検討し、市内の感染状況を踏まえ、不特定多数の参加者が見込まれることから中止とした。	【中止】 9 月 26 日	－	－
若林区中央市民センター 事業懇話会	地域のニーズの把握や市民センターを魅力あるものにするために地域住民や市民センター利用者から意見を伺う場を設けた。	9 月 5 日 2 月 18 日	2	21
ユニバーサルスポーツ・ボッチャ運営スタッフ育成講座	令和元年度の受講生を対象に、振り返りの学習と今後予想されるボランティア活動における課題等についての話合いを行った。	10 月 29 日～ 3 月 18 日	7	27
【中止】 市民企画会議 「子ども相撲を実施しよう」	新型コロナウイルス感染拡大中であったため、話合いが困難であると判断し、企画員の募集を中止した。	【中止】 5 月～9 月	－	－

〔令和 2 年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

<u>サークルおよびボランティア団体への活動支援</u>

「わかちゅうミニミニギャラリー」は、来館者の目を楽しませるだけでなく、日頃のサークル活動の成果を発表する場を提供するため、常設の展示コーナーとして設けている。折紙ボランティア「白い花の会」や「若菜俳句会」の作品を定期的に展示することで、サークルに興味を持った方からの見学や入会についての問い合わせがあり、サークルの会員の増加につなげることができた。

また、「おもちゃ病院ころころ」は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、これまで実施していた児童館での定期開催や各所での祭りの中止により活動の休止を余儀なくされていると聞いたため、市民センターでおもちゃ病院を開設することを検討した。その後、感染症拡大が再燃したことで、おもちゃ病院の開設は断念せざるを得なかったが、市民センターだよりでこれまでの活動を紹介することで支援を行った。

七郷市民センター

〔沿　革〕

七郷市民センターは、地元住民の要望により「七郷公民館」として昭和 58 年 4 月に保健センター・コミュニティ防災センターとの複合施設として開館し、平成元年には「七郷公民館・市民センター」となり、若林区の拠点館となった。平成 2 年には「七郷市民センター」と改称。平成 5 年 9 月には若林区中央市民センター開館に伴い、拠点館機能を移行した。平成 14 年 4 月児童館を併設、さらに平成 22 年 2 月に大規模改修工事を終え、七郷証明発行センターも併設された。

近年、七郷地区は、復興公営住宅や防災集団移転を含め土地区画整理事業が進展し、地下鉄東西線開業も相まって新しいまち並みが形成されており、今後のまちづくりに向けた市民センターが果たす役割は大きくなっている。区役所はじめ諸機関、地域団体との連携を深め、新旧住民がつながりを築き共に支え合うまちづくり、文化づくりを推進できるよう、組織的に事業を推進している。

［★震災を踏まえた事業　●区役所との連携事業］

〔特色ある事業〕

事業名	地域情報紙作成講座「七郷タウン情報紙をつくろう！」		
参加者	どなたでも	延参加者	61 人
開催日	全 18 回　令和 2 年 6 月 11 日(木)～令和 3 年 3 月 26 日(金)		
協力者・協力団体	七郷地区町内会連合会、若林消防団七郷分団、七郷小学校、蒲町小学校、荒井小学校、七郷中学校、蒲町中学校、七郷小学校社会学級、荒井小学校社会学級、まちづくり推進部若林区中央市民センター		
ねらい	七郷地区はもともと農村地帯で昔から地域の絆の強い地域であったが、土地区画整理事業の進展や東日本大震災からの復興、地下鉄東西線の開業等により地域が大きく変容し、人口も急増、既存の組織に加わらない住民も増えてきている。市民センターでは事業のお知らせとともに七郷の特色や継承してほしい事物、日々移り替わる新しい地域情報も発信しているが、すべてを網羅しているわけではない。また、多くは町内会を通して発信しており、加入していない住民には十分届いていない状況である。さらに、地域では様々な団体が「地域づくり」に取り組んでいるが、その情報も共有されていないところも見られる。そこで、広く地域住民に情報を発信するための情報紙を作成する。また、情報紙づくりを通し、各団体の持つ情報の共有、新しい情報の収集を図り、地域で主体的に活躍する「人づくり」につなげる。		
概要・成果	令和 2 年度は新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、予定していた年 2 回の情報紙発行を 1 回とし、令和 3 年 2 月に七郷地区の避難施設をまとめた特別号「七郷防災マップ」を発行した。この情報紙を作成するにあたり、七郷地区町内会連合会、若林消防団七郷分団、七郷小学校、荒井小学校、蒲町小学校、七郷中学校、蒲町中学校等の協力を得ることができたことによって、地域のネットワーク強化へとつながっている。特にこのコロナ禍で学校からの協力を得られたのは、小学校のスーパーバイザーの方が講座に参加してくださっていたことにより、学校との橋渡し役を務めていただいたことが大きい。また、これまで発行した 1～3 号と防災マップは、誰もが入手しやすいようにホームページからのダウンロードを可能とした。		

〔令和２年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
子育て交流講座「ママ友つくって毎日はっぴい」	親子参加型の健康講座を開催し、広い体育館でのびのびと体を動かしたり、親子で触れ合いながらコミュニケーションをとったりした。	10 月 6 日	1	9

【中止】七郷子どもクラブ	新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、関連団体との協議により中止を決定した。	【中止】	－	－
インリーダー研修会	小学校や区中央市民センターと協議し、各子ども会へ資料配布をもっての紙面研修となった。	1月14日	1	38
学ぼう！遊ぼう！食べよう！子どもすもう大会	新型コロナウイルス感染拡大に伴い､6月からホームページにて「楽しく学ぼう！すもうクイズ」コーナーを設けた。毎月1問出題し、全8問の更新を行った。	6月～2月	1	－
【中止】七郷防災キャンプ２０２０	新型コロナウイルス感染症拡大に伴い､「七郷小学校おやづの会」と小学校との協議により中止を決定した。	【中止】	－	－
七郷老壮大学	高齢者を対象とした通年講座。講話や実技、運営委員会自主企画など。童謡再発見、健康体操、脳トレ、映画鑑賞、井上ひさし、コンサート（フルート・チェロ・ピアノ）。各回とも受講者を2班に分け、同じ内容で開催した。	9月9日～3月17日	14	426
★七郷学びの応援隊	企画会メンバーで千羽鶴を制作し、近隣施設へ展示を行った。	10月15日～3月18日	8	76
【中止】七郷市民まつり	新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、七郷市民まつり実行委員会の判断により、まつりの中止を決定した。	【中止】	－	－
★交流ひろば	七郷写真ボランティア「定点観察　今と未来をつなぐ」の協力を得ながら、開催に向けての企画会を立ち上げ、「震災から10年－写真でつながろう」写真展を開催した。3月4日には展示会場内で荒浜交流会（お茶っこサロン）を行った。	2月20日～3月20日	5	150
七郷地域懇話会	町内会長などの地域関係者に市民センターの事業の説明を行うとともに、地域の現状や課題について意見交換をした。感染対策として、開催回数を減らす、出席者を絞る等の対応を行った。	3月2日	1	10
【中止】「七郷学びの応援隊」を経て企画する事業	企画員との話し合いの結果、新型コロナウイルス感染拡大の状況を鑑みて事業企画を中止した。	【中止】	－	－

〔令和２年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

七郷語り継ぎボランティア「未来へ―郷浜（さとはま）」の活動支援

七郷語り継ぎボランティア「未来へ―郷浜」は、平成25年度から3年に渡り実施した事業「未来への伝言―七郷を語り継ぐ」の参加者により平成27年12月に結成された。活動は6年目を迎え、七郷の歴史や伝統・風土、東日本大震災の記憶を後世に語り継ぐボランティアとして、全国各地から荒浜を訪れる方々に震災のことを伝えたり、七郷の見どころを案内したりする活動を行っている。令和2年度は、コロナ禍でボランティア活動が制限される中、仙台市内に絞り、震災に関しての学習・視察に訪れる学校・団体等からのボランティア派遣要請に応じた。市民センターでは、この要請の仲介を通して、語り継ぎボランティアとせんだい 3.11 メモリアル交流館や震災遺構荒浜小学校とのつながりをコーディネートし、ボランティアの活動を後押しした。

荒町市民センター

〔沿　革〕

荒町市民センターは、昭和 47 年に旧斎藤記念館を全面改築し、「荒町市民福祉会館」として昭和 48 年 5 月に開館した。昭和 58 年 4 月「荒町市民センター」と名称変更した。施設は、老朽化と機能拡充の必要性から現在地に建物を改築し、平成 22 年 2 月 2 日に開館した。

当市民センターが所在する荒町地区は、仙台市のほぼ中心部、昔からの商店街である荒町商店街の一角に位置しており、仙台藩の名残を今尚残している地域である。

地下鉄五橋駅から徒歩 5 分、JR 仙台駅から徒歩 20 分と交通の便に恵まれ地域の方をはじめ市内全域から多くの市民に利用されている当市民センターは、日中はもとより、夜間も仕事帰りの活動の場として、幅広い年齢層に活用されている。

［★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業 ◎地域力創造支援事業］

〔特色ある事業〕

事業名	地域みんなで災害に備えよう		
参加者	地域の方	延参加者	8 人
開催日	全 1 回　令和 2 年 12 月 12 日(土)		
協力者・協力団体	－		
ねらい	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、災害時に避難をする際にも三密を避けることが求められており、分散避難としての自宅避難が推奨されている。そこで、自宅避難をしなければならない状況に備えて、自宅で手軽にできるサバイバルメシとダンボールトイレの作り方を学ぶ。また、サバイバル飯作りの動画を作成し、調理実習の代替教材として活用するほか、市民センターに足を運べない方のためにインターネット上での公開を行う。		
概要・成果	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため調理実習ができない中、災害時自宅で身近なものを使って食事を作るヒントや作り方を動画で臨場感を持って学ぶことができた。休憩時間にも繰り返し再生したため、理解が深まったとの声があった。また、身近なダンボールで作るトイレやローリングストックの考え方、備えておくと便利なものなどを講師はもちろん、参加者同士の情報交換で共有することができた。講師は地域で活動する防災の団体だったのでこの地域のことにも詳しく、実情に即した内容となった。 作成した動画は調理実習ができないための代替として作成したが、講座に参加しなかった方にも見ていただくよう公開するとともに、センターの利用団体やサロン活動に提供する予定である。		

〔令和２年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日･期間	回数	延参加者
仙台市子ども会インリーダー研修会	市内の感染状況を踏まえ、参加児童と世話人の安全性を考慮したうえで紙面研修会へ変更。	1 月 8 日	1	97
【中止】こども相撲荒町場所	市内の感染状況を踏まえて検討した結果、参加児童の安全を考慮し、中止を決定した。	【中止】10 月 3 日	－	－
楽しく体験！異文化交流	新型コロナウイルス感染予防のため、計画していた調理･コンサートは中止し、代わりに日本人 2 名にタイ・インドネシアの文化について話してもらい、受講生に異文化への関心を持ってもらう機会とした。	1 月 29 日	1	5

Zoom 講習会	コロナ禍のため実際に集まっての会合が難しい状況の中で、注目を浴びているのがビデオ会議 Zoom であり、様々な活動を模索している人たちに現状で使える Zoom の知識を獲得してもらった。	7 月 11 日	2	14
あらまち町民大學シルバーセミナー	高齢者の学習と交流の場として、歴史や軽体操、健康、コンサート等を行った。運営委員会で意見を聞きながら参加者の協力を得て運営した。コロナの影響で、開講は 9 月に延期した。	7 月 15 日～ 3 月 3 日	10	301
スマホを持ってセンターへ行こう！ ～メールを送る・動画を観る編～	スマホを持つ 60 歳以上の高齢者を対象に、メールの送受信・動画の視聴の基本の操作方法を学ぶ機会を提供した。	3 月 16 日	1	8
伝統の仙台七夕飾りをつくろう	コロナ禍で集合しての講座開催はできなかったが、地域を元気づけ、七夕まつりへの関心を維持するために、七夕飾りの作り方や荒町の七夕まつりの歴史等の動画をつくり、YouTube で公開した。	5 月 13 日～ 7 月 5 日	7	26
荒町四季物語	新型コロナウイルス感染予防に配慮し、参加人数を減らし荒町公園のあじさいの剪定会・公園清掃、子ども対象のバルーンフェスタ、荒町の歴史をたどるまち歩きを開催した。	7 月 16 日～ 12 月 28 日	7	286
【中止】 複数年事業 “こども相撲荒町場所”応援隊	市内の感染状況を踏まえて検討した結果、参加児童の安全を考慮し、中止を決定した。	【中止】	－	－
【中止】 荒町市民センター・児童館フェスティバル	実行委員で開催を検討したが、市内の感染状況を踏まえ、参加者の安全等を考慮したうえで、中止を決定した。	【中止】 10 月 3 日 10 月 4 日	－	－
地域懇談会	例年センターフェスティバルに参加していた団体を対象にコロナ禍における活動について情報交換をするとともに、令和 3 年度のフェスティバル開催についての意見交換をした。	10 月 25 日	1	15
市民企画講座 なつかしの荒町「あの日、あの時」	市民企画委員がこれまでに撮りためた、昭和から平成はじめの荒町界隈の懐かしい写真を荒町通りの 8 店舗の窓に展示した。	2 月 9 日～ 2 月 21 日	1	100
市民企画会議 「荒町いきいき講座」	市民が毎日を生き生きと暮らす手助けとなるような事業を企画するための会議を開催し、なつかしの荒町「あの日、あの時」写真展を企画し実施した。	10 月 22 日～ 3 月 17 日	16	74

〔令和２年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

荒町地域リモート大合唱の活動支援

荒町小学校の子どもたちが歌詞を考えた「一人じゃできないから（荒町小 Ver)」をみんなで歌うプロジェクトが荒町商店街振興組合を中心に始まり、東北学院大学や五橋中学校などが協力して進んでいった。市民センターでは、自分の地域を大切に思う気持ちのこもった歌詞をみんなで歌うことで地域への思いを共有してほしいと考え、地元の住民や市民センターの利用者など、荒町に関わる人たちにも参加を呼びかけ、練習や収録の支援を行った。たくさんの団体の協力を得て、リモート大合唱の動画を YouTube で公開することができ、地域全体で達成感を味わうことができた。

六郷市民センター

〔沿　革〕

昭和 56 年、地域住民の福祉増進を目的に保健センターとの複合施設「六郷市民福祉会館」が開館し、昭和 58 年に「六郷市民センター」と名称を改め、地域の社会教育活動の場として定着した。平成元年には公民館としての機能が加わり、平成 2 年には「六郷児童館」を併設、さらに平成 22 年 12 月に大規模改修工事を終えて再開し、生涯学習の拠点として現在に至っている。

六郷地域は名取川と広瀬川の合流点を有し、美しい干潟や貞山堀運河、屋敷林の居久根など自然環境や歴史的遺産等に恵まれていた。しかし、平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災により、沿岸の六郷東部地区は住宅・学校・農地・事業所といった生活基盤のほとんどが壊滅的かつ甚大な被害を受け、地域が一変した。また平成 29 年 3 月末には東六郷小学校が六郷小学校と統合し閉校となった。

現在、六郷地区の再スタートということで、地域住民・町内会・各団体と連携を保ち、情報を共有しながら、地域を支えられる人材育成の推進と新たな地域の活性化に努めている。

［★震災を踏まえた事業　●区役所との連携事業］

〔特色ある事業〕

事業名	★黒潮太鼓応援隊養成講座		
参加者	六郷黒潮太鼓に関心のある方	延参加者	45 人
開催日	全4回　令和2年11月1日(日)、12月13日(日)、令和3年2月28日(日)、3月21日(日)		
協力者・協力団体	六郷小学校、まちづくり推進部若林区中央市民センター		
ねらい	黒潮太鼓の指導役を養成するための練習会を行い、六郷小学校児童へ指導役を派遣する。閉校した東六郷小学校から六郷小学校へ引き継がれた、地域のイベントに欠かせない存在である黒潮太鼓の継承を支援する応援隊を養成する。		
概要・成果	閉校した東六郷小学校から六郷小学校へ引き継がれた黒潮太鼓は、小学校だけで継承していくには厳しい状況にある。地域住民による継承を支援するために応援隊を養成し、地域イベントへの出演対応を可能にする活動を継続していく。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、年度末に出演予定であったイベントは中止となったが、活動への賛同者が増えており、今後の活動発展につなげることができた。		

〔令和２年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日･期間	回数	延参加者
出前のびすく　子育てサロン	子育て支援施設「のびすく若林」と連携し、気軽に参加できる講座としてヨガ・アロマ手芸をテーマに開催した。孤立しがちな乳幼児親子が、健やかに過ごせるよう働きかけることができた。	9 月 11 日 11 月 27 日	2	16
楽しく体験！六郷クラブ	小学生に学校の授業とは違った体験の場を提供した。仙台東高校の生徒や地域講師による体験学習を行った。小学生に高校生や地域の方々との世代間交流の場を設けることができた。	8 月 29 日 12 月 12 日 1 月 30 日 2 月 26 日	4	47
インリーダー研修会	子ども会のリーダーとなる児童と世話人を対象に、子ども会活動の意義や役割を学べるよう、書面による研修を行った。	1 月 8 日	1	-
六郷子ども相撲　あじさい場所	コロナ禍のため、身体接触を伴う取組ができなかった。その代替としてクイズ形式で相撲文化や相撲にまつわる地域の特性について親子で参加できるようにした。	6 月 2 日～ 8 月 30 日	1	25
●六郷あすなろ大学	地域の高齢者を対象に、通年で学習機会を提供した。実施内容:開講式・朗読劇、歴史講座、認知症について、バンドネオンとアルパコンサート、演芸ひとり座、健康体操、交通安全&防犯教室・閉講式。	9 月 17 日～ 3 月 4 日	7	327

六郷お月見会	季節の美しさが際立つ秋に、伝統行事を体験する機会としてお月見会を開催した。当日は天候が悪く、月を見ることは叶わなかったが、天体望遠鏡の体験会や工作、虫の観察・缶バッジ作りなどを楽しく行いながら、実行委員会メンバーである地域の方達と参加した多くの子どもたちとの異世代交流を図ることができた。	6月19日 8月27日 9月26日 11月6日	4	36
●六郷地域防災事業	コロナ禍における避難所運営のあり方を考えるため、避難所運営マニュアルの見直しを図るなど、地域のＳＢＬを中心とした事業展開を行うことができた。新型コロナウイルス感染症の研修会も行った。	6月3日～ 3月25日	11	238
【中止】 社会学級連携会議	六郷小学校社会学級とともに課題解決に向けた事業展開を図る予定だったが、連携先の当年度の活動が全面休止となり、市民センター単独で実施することは講座意義にそぐわないため中止した。	【中止】	－	－
ここ・そこ・どこでも「六郷ふるさと音頭」	コロナ対策として、練習会や町内会への出前講座、小学校への出張講座等は実施せず、町内会や小学校が自主的に練習できるように、ＤＶＤを制作し、YouTubeにも動画をアップした。	7月1日～ 9月2日	5	90
【中止】 令和2年度　六郷市民まつり	役員による実行委員会準備会において検討した結果、これまで通りの内容では三密を避けられないことから、参加者の安全を守るため中止とした。	【中止】 11月8日	－	－
●【中止】 市民センター懇談会	当地区の中堅層に集まってもらい、市民センターをハブとした市民活動を構築する話し合いを企画したが、震度5強の地震が開催予定日前日に起こり、余震の心配もあることから急きょ中止とした。	【中止】 3月21日	－	－
★市民企画会「わたしのふるさとプロジェクト」	令和2年度は、例年行ってきた夏まつりの開催は断念したが、冬の花火のイベントはテレビ番組で全国放送されるなど、震災10年目の活動としてはコロナ禍の中で精一杯できることを形にできた。また、地域学習会を行うなど新たな企画を実施することができた。	4月8日～ 3月17日	15	107
【中止】 六郷社会学級連携会議を経て企画する事業	「六郷社会学級連携会議」の中止に伴い、中止した。	【中止】	－	－
★市民企画講座「ふるさとにつどう　第6回鎮魂の花火」	これまでの「鎮魂の花火」で行ってきた交流会は、密を避けるために今回は開催を見送ることとしたが、地域からは花火の打ち上げを望む声が多かったため、震災で命を落とした方を偲び、震災を忘れない機会として花火の打ち上げのみを行った。	12月6日	1	100
「六郷昔物語」映像化プロジェクト	平成18年度主催講座により作成した「六郷に伝わるむかしばなし」を多くの人々に知ってもらうため，動画資料として再編し、ＤＶＤ配布やYouTube掲載を行った。	10月17日～ 2月3日	7	51
★震災10年目　追悼コンサート	東日本大震災から10年のこの日、震災で命を落とした方を偲び震災を忘れない機会として、吹奏楽によるミニコンサートを行い、14時46分には黙とうを捧げた。	3月11日	1	28

〔令和２年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

「地域の元気づくりを応援！」

令和 2 年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、「六郷市民まつり」を中止としたことにより、まつりに参加するはずだったサークル団体は活動発表の機会を失ってしまった。そこで、市民センターでは、サークルが自主的に発表する場を提供し、発表会開催に向けた支援を行った。5 つの団体が日頃の活動の成果を披露できたことで、サークル活動の活性化に寄与することができた。

コーディネート業務としては、コロナ禍でマスクの入手が困難な際に、六郷小学校ＰＴＡが小学校へのマスク提供を地域へ呼びかける取組に市民センターも賛同して協力を行った。これにより、市民センターではご協力いただいた方から、手作り品と市販品を合わせて約 4000 枚のマスクをお預かりし、小学校へ贈呈することができた。

若林市民センター

〔沿　革〕

若林市民センターは、平成 3 年 4 月に若林児童館、コミュニティ防災センターを併設して開館した。以来、地域の社会教育活動や福利厚生活動に活用され、親しまれて現在に至っている。令和元年度には大規模修繕を実施し、令和 2 年 4 月に再開した。

管内は藩政時代伊達政宗公ゆかりの史跡や広瀬川舟運、商人の町の歴史ある町名を残すとともに、広大な河川公園などがあり、自然に恵まれている。

［★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業］

〔特色ある事業〕

事業名	★防災講座「みんなで守ろう！若林」		
参加者	若林小学校 5 学年児童 若林児童館児童クラブ有志 さわやか会メンバー	延参加者	91 人
開催日	全 8 回　令和 2 年 7 月 22 日(水)～令和 3 年 1 月 4 日(月)		
協力者・協力団体	若林小学校、若林児童館、さわやか会、若林区中央市民センター		
ねらい	当館の担当エリアには、長町・利府断層による直下型地震や、広瀬川による洪水、低地の内水浸水等の災害が懸念される地域がある。本講座は、小学生や地域住民を対象に、受講者一人一人の防災・減災意識の醸成を図り、地域の災害対応力を高めることを目的とする。		
概要・成果	若林小学校 5 学年の防災学習で、災害時の対応を考える「クロスロードゲーム」を行った。災害時に起こり得る問題に対して、Yes か No かで自分の意見を考え発表するとともに、他の人の意見を聴くことでいろいろな考え方があることや災害時にどう対応したらよいのか認識を深める貴重な機会となった。 また、コロナ禍における新たな防災教材として、「歩一歩（ほいっぽ）たいそう」（生活の中にある災害や犯罪などの危機への備えをまとめた「歌＋健康体操」）のズーズー弁バージョンを YouTube「仙台市市民センターチャンネル」にアップロードすることを目指し、若林児童館児童クラブと地域で元気に活躍する健康体操サークルであるさわやか会に声を掛け、台風編と地震編の動画を作成した。出演者から「自分がどんな活動をしているのかを家族みんなで気軽に観ることができて良かった」などの声が聞かれ、地域住民の防災に関する意識の向上とともにその成果を広く発信することができた。		

〔令和２年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
●親子のすっきりタイム	親同士の交流や、子どもと一緒に楽しんでリフレッシュできるよう、育児相談、音楽遊び、体操を行った。託児付き講座として計画していたが、感染対策として託児は実施せず親子対象とした。	11 月 12 日 11 月 19 日 11 月 26 日	3	30
仙台市子ども会インリーダー研修会	市内での新型コロナウイルス感染症拡大が懸念されるため、内容を紙面研修会に変更。各小学校、地区子ども会世話人へ資料を配布した。	1 月 8 日	1	45
わかばやしチャレンジクラブ	ジュニアリーダーの支援によるバルーンアート体験、仙台市環境出前講座による電気の扱いを学ぶ体験学習を実施。感染対策として、参加者へ事前の検温を依頼したほか、座席配置を全員が正面を向く形とした。	12 月 5 日 1 月 30 日	2	34

若林小学校連携事業「わかばやし歴史探検！」	文化財課による地域の歴史講話、ブックトークの会コスモスによる若林の歴史に関する本の紹介、実際に若林城へ出向いての体験学習を実施。コロナ禍のため、クラス毎の講話とし、少人数での実施に配慮した。	9月17日 9月18日 9月30日	6	138
古城小学校連携事業「仙台まち再発見」	文化財課による地域の歴史講話、ブックトークの会コスモスによる伊達政宗等の地域の歴史や自然に関する本の紹介、実際に学校近郊にある史跡や歴史ある商店を訪れるまち歩きを行った。コロナ禍のため、各講話についてはクラス毎の実施とした。	10月29日 11月10日 11月19日	5	168
わかばやし出前講座	健康講座、仙臺風ミニ門松作り講座、映像鑑賞などの内容で、募集人数を絞り、地域に出向きコロナ禍でも安心して参加できる講座を開催した。併せて市民センターや施設利用サークルについて情報を提供した。	11月11日 12月23日 2月6日	3	29
若林ウィメンズオープンカフェ～みんなの笑顔のために～	ボランティア活動をしているサークルの方に講師を依頼し、活動の様子を学んだ。コロナ禍で話し合う時間を短縮し、受講生が学びたい内容の講座を考え、企画した。	10月24日 11月7日 11月21日 1月9日	4	26
若林老壮大学	高齢者を対象に、健康、教養、時事問題、コンサートなどの講座を開催した。新型コロナウイルス感染症対策のため、開講時期を遅らせ、会場を広いホールへ変更した。	9月11日～ 3月5日	7	321
【中止】 若林ふれあいまつり	町内連合会と話し合いの結果、市内の新型コロナウイルス感染状況を踏まえて、中止を決定した。	【中止】 9月6日	－	－
わかばやし気軽にコンサート	地域住民が気軽に音楽に親しみ、楽しさを共有する場を設けた。クラシックコンサートとボサノヴァコンサートを開催した。感染対策のため、事前申し込み制とし、定員を設けた。	12月12日 2月27日	2	25
地域懇話会	コロナ禍における活動状況を知ってもらうことのほか、参加団体の活動の様子をアンケートをもとに発表してもらい情報交換をした。	2月26日 3月2日	2	18
読み聞かせボランティア講座	おはなしサークルひつじの会とコロナ禍でも安心して参加できる講座を4回企画し、読み聞かせに必要な基礎知識を学ぶとともに表現力を身に着ける等レベルアップを図った。	10月27日 11月17日 12月1日 12月5日	4	60

〔令和２年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

ジュニアリーダー「若林にゃくりん」の活動支援

市民センターでは、月１回の定例会を開くなど、ジュニアリーダーの育成に努めてきたが、コロナ禍の令和２年度は定例会実施も従来通りとはいかない状況であった。そこで、定例会の実施が難しい場合にはメールなどでこれまで以上にこまめに情報の共有を図るように努め、定例会開催時には新しい生活様式で実施可能なレクリエーションゲームを考えるなど、できることを模索しながらの活動を支援した。また、メンバー募集を行った結果、コロナ禍の中、新たに２名を迎えることができた。

沖野市民センター

〔沿　革〕

沖野市民センターは、平成３年４月、児童館・老人福祉センター及びデイサービスセンターとの複合施設としてオープンした。東側に田園が広がり、西側はバイパスを境に住宅が密集している。多種の木々と、老人クラブや地域の方々が善意で植えてくださった花壇が、センター前広場に彩りを添えており、こうした花と緑豊かな広場を持つ当市民センターは、地域住民の憩いとふれあいの場所として利用されている。

地域住民の生涯学習活動に対する関心は高く、また自主サークル活動も盛んである。また、町内会や老人クラブの結束力が強く、活動も活発で、学校や他の公共施設等とも円滑な関係を保っている。様々な分野の達人も多く、地域人材も豊富な地域である。

［★震災を踏まえた事業　●区役所との連携事業］

〔特色ある事業〕

事業名	沖野地区市民活動発表会		
参加者	沖野地域町内会、沖野市民センター利用サークル、地域団体	延参加者	867 人
開催日	全５日　令和２年 10 月 29 日(木)～11 月３日(火) ※11 月２日(月)の市民センター休館日は除く		
協力者・協力団体	沖野地域町内会、沖野市民センター利用サークル、地域団体		
ねらい	・地域コミュニティの活動拠点として地域相互の融和・連携を促し、地域活性化を図る。 ・地域で様々な生涯学習活動を実施している人々に発表の場を提供し、更なる活動促進を図る。		
概要・成果	例年開催している沖野地区市民まつりを、開催期間を５日間とし、来館時の項目チェック、検温、マスク着用の徹底、動画による舞台発表等、万全のコロナ対策を講じて、沖野地区市民活動発表会として開催した。その他、震災コーナー、野菜販売、おもちゃ病院等新しい取り組みも行った。 コロナ禍のため様々な行事が中止となった中、参加者の発表の場と交流の場を提供するとともに、沖野地区のみならず六郷地区の方とも広く関係を深めることができた。		

〔令和２年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
●ママのリフレッシュ講座	母親自身がリフレッシュするとともに育児の楽しさや悩みを分かち合いながら交流できる場の提供を目的に開催した。第１回:講話「女性の健康について」。第２回:リフレッシュ体操「ヨガでリフレッシュ」。第３回:コンサート「音楽で楽しみましょう」。	９月 15 日 10 月１日 11 月 18 日	3	49
インリーダー研修会	コロナ禍のため、若林区中央市民センターより提供された資料を、学校を通じて子供会の児童と保護者へ配付し、紙面研修とした。	１月	1	44
集まれ！わんぱくキッズ！！	コロナ禍のため、従来とは形を変えながら親子が一緒になって楽しむことができる事業をおやじの会との連携により開催した。「わが町、沖野を歩こう」、スポーツチャンバラ講習会と錬成会、「レジン液を使ってストラップを作ろう」を開催。また、沖野地区市民活動発表会の一環として、ミニ四駆試走会、防災プチデイキャンプも開催した。	６月２日～ １月 24 日	6	181

【中止】 おきの学園～学びのスクール～	コロナ禍のため、連携先との協議の結果、中止とした。	【中止】	－	－
伝えよう仙台伝統七夕	沖野地区老人クラブ連合会、折り紙ボランティア養成講座受講生が仙台七夕の七つ飾りと笹竹を用意して、沖野小学校へ提供した。小学校へ搬入後に3年生児童と一緒に七夕飾りを取り付け、世代間交流を行った。	7月3日 7月9日 7月10日 7月14日	4	88
●沖野耕友大学	コロナ禍のため、9月開講とし、健康講座、芸術鑑賞講座、自主企画講座、お楽しみ講座などを実施した。高齢者の社会参画を促し、生きがいを醸成し、地域活性化につなげた。	9月11日～ 3月12日	7	362
みんなの力で地域を守るー災害弱者の守り方を考えるー	コロナ禍で沖野中学校区災害対策委員会にて、総合防災訓練の中止が決定。また、かわら版と連携したセミナー開催も不可能となり、令和3年度に向けてコロナ対策を盛り込んだ補助避難所運営マニュアル（案）を作成し、地域10町内会会長へ配布するにとどまった。	3月19日	1	10
沖野社会学級連携講座	コロナ禍のため、沖野東小学校のみと連携して沖野地域の歴史を学ぶ講座を実施。	5月29日 8月28日 10月6日	3	14
【中止】 沖野地区懇話会	コロナ禍のため、関係機関全体に集まっていただく従来の形では実施しなかった。代わりに、事業毎に事業関係者と直接意見交換を行った。	【中止】	－	－
市民企画事業 折り紙ボランティア養成講座 「折り紙で楽しもう！」	7月に沖野小学校への七夕飾り作成と飾り付けの協力。9月は地域講師による講座を2回。11月は受講生同士が話し合いながらの季節の折紙作成。最終回は季節の折り紙作成と令和3年度の話し合いを持った。	9月24日 10月22日 11月26日 2月4日	4	45

〔令和2年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

「おやじの会」活動支援

沖野地域では、沖野東小学校おやじの会「沖父ちゃん会」、沖野小学校おやじの会「親児の会」の2つのおやじの会が活動し、当市民センターの子ども健全育成に関わる事業にも深くかかわってもらっている。

令和2年度は両おやじの会と宮城県スポーツチャンバラ協会と連携して、おやじの会を対象にスポーツチャンバラの審判講習会を行った。以前からスポーツチャンバラに関心を抱いていたおやじの会が自主的に活動できるように支援することが目的であった。講習会後はおやじの会メンバーが自己研鑽に励み、実践の場として宮城県スポーツチャンバラ協会と共催した、子ども対象のスポーツチャンバラ錬成会で審判を務めた。

このことが両おやじの会メンバーの更なる交流と、おやじの会活動のモチベーション向上の一助となった。

太白区中央市民センター

〔沿　革〕

太白区中央市民センターは、平成 11 年 6 月長町商店街の中核をなす JR 長町駅前に開館した複合施設内にある。同施設には当市民センターの他、太白区文化センター、太白図書館、長町児童館及び太白区情報センターも設置されている。JR やバス、地下鉄などの公共交通機関の利便性に優れた立地のため、近隣の広い地域の生涯学習活動や交流の拠点として、多くの市民が利用している。

当市民センターの周辺は、昔から仙台市南部地域における商業の中心として活況を呈してきた歴史のある地域であるが、近年は地下鉄沿線・あすと長町地区での大規模小売店の進出やマンション建設等が進み、人口の増加が著しく、さらに復興公営住宅の完成や仙台市立病院の移転開院等、これまでにも増して多くの滞在人口がのぞめる地域となってきている。当市民センターではこうした状況を踏まえて、地域コミュニティの活性化にも積極的に取り組んでいる。

［★震災を踏まえた事業　●区役所との連携事業］

〔特色ある（地区館）事業〕

事業名	●わがまち防災・減災実践講座		
参加者	地域の方どなたでも	延参加者	78 人
開催日	全 4 回　令和 2 年 7 月 22 日(水)、10 月 1 日(木)、11 月 7 日(土)、12 月 5 日(土)		
協力者・協力団体	長町地区町内会連合会、太白区区民生活課、太白消防署等		
ねらい	地域の各団体と連携し、災害時に命を守るために必要な行動や防災・気象情報を取得する方法を学び、地域住民の自主防災意識を高めることを目的とする。		
概要・成果	コロナ禍での災害時避難所における感染症対策を学び、防災情報の入手法やラップを使った止血法など家庭でもできる防災訓練を行った。また「防災さんぽ」では、街歩きを行いながら狭い道など避難時の危険箇所の他、逆に防災倉庫など役に立つ箇所を確認することができた。「地名と災害リスク」の講話では，地名は先人たちが与えてくれた防災のヒントということを改めて考える良い機会となり、地域の実情に合わせた「マイタイムライン」も作成した。地域住民の防災・減災等に対する意識向上に寄与することができた。		

〔令和２年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
子育て MY STYLE	子育て中の保護者を対象に、マネー講座と健康管理講座を実施した。子育て世代の孤立感を軽減し、コロナ禍の日常生活をリフレッシュする機会となった。	9 月 30 日 11 月 12 日	2	18
インリーダー研修会	感染拡大防止のため、一堂に会しての研修は実施せず、ＤＶＤと冊子を各子ども会に配布し、自主研修とした。	資料配布日 12 月 22 日 12 月 23 日	1	－
【中止】 ながまちキッズくらぶ	学校、連携先（児童館）の行事・事業等が全て中止になっており、調整がつかず本事業も中止とした。	【中止】 7 月 29 日 8 月 6 日 8 月 19 日	－	－

≪太白区≫

みんなの元気講座	ニュースポーツ、有酸素運動、ピラティスなど全4回の連続講座を実施した。健康管理方法や運動の実践方法の知識を提供し、継続的な体力作りへの意欲向上につながった。	9月9日 9月16日 10月7日 10月14日	4	44
ながまち老壮大学いきいき教養コース	三密を回避するため、2つのグループに分けて9月から開講した。川柳の楽しみ方、健康講話など3回のみの開催となったが、内容を充実させることで、高齢者の学習意欲に応えた。	9月11日～ 2月26日	6	172
ながまち老壮大学ふるさと文化コース	高齢者を対象に、感染対策、軽体操、歴史等の講座を開催した。様々なジャンルを行うことで興味が広がり、生活を豊かにしていく一助となった。	9月18日～ 2月19日	6	150
ミニギャラリー特別展示	太白区文化センターの掲示板を活用し、地域内3小学校の児童作品の展示、サークル団体の作品展示をそれぞれ行った。賑わいの創出、地域内及び参加者相互の交流の活性化につなげた。	10月16日～ 11月11日	2	1000
太中ふれあいサロン	感染対策を講じ、事前申込制で「オルゴール鑑賞会」「紋切型体験」「折り紙体験」の体験・実技型講座を開催。手元拡大カメラ等の機器を活用し、安全・安心の環境づくりに努めた。	8月27日 9月24日 11月26日	3	29
【中止】 太白区中央市民センターまつり ながまち交流フェスタ2020	企画部会（役員会）で開催を検討したが、感染状況を踏まえ、参加者の安全等を考慮し中止を決定した。	【中止】 10月24日	－	－
太白区中央市民センター地域懇話会	コロナ禍におけるこれからの地域活動の進め方について、町内会、学校関係者、商店街、諸団体等と意見交換を行い、情報収集、共通認識を得ることができた。	10月28日	1	19
【中止】市民企画会議「きらりん長町」	コロナ禍による環境変化等により、これまでの企画員の参集や改めての企画員募集が困難となったため、開催を中止とした。	【中止】	－	－
【中止】市民企画講座「きらりん長町」	上記企画会議中止による。	【中止】	－	－

〔令和２年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

「地域ボランティアサークル」と「サークル活動」の支援

令和2年度はコロナ禍の影響でいつも通りの活動支援は難しかったが、主催講座「太中ふれあいサロン」で「折り紙ボランティア折々の会」に講師依頼を行うなど活動機会の提供に努めた。また、各サークルの活動の際には、できるだけ声掛けなどの働きかけを行い、館内の展示スペースを利用して「作品発表」する場を設けるなどして支援を行った。思うように活動ができないなか、各サークルの活動の活性化に繋がる一助となった。

生出市民センター

〔沿　革〕

生出市民センターは、昭和 24 年 4 月生出村公民館として発足し、生出小学校の一隅で公民館活動を行なってきた。昭和 31 年には仙台市との合併により「仙台市公民館生出分館」と改称された。地域住民の強い要望から昭和 42 年 4 月、地域社会教育の拠点として、現在地に「生出公民館」が建設された。

その後昭和 55 年 5 月には、地域住民から自由に利用できる体育館を併設した公民館の新設が要望され、公民館・診療所・保健センターが一体となった複合施設として開館した。後に、敷地内に調剤薬局・証明発行センターが開設され、同年の 10 月に第 1 回生出コミュニティまつりが開催され今日に至っている。

平成 2 年には「仙台市生出市民センター」に改称され、市民相互の交流と地域活動振興の拠点、また地域づくりの拠点として利用されている。

［★震災を踏まえた事業　●区役所との連携事業］

〔特色ある事業〕

事業名	**生出発！食の魅力**		
参加者	どなたでも	**延参加者**	20 人
開催日	全 2 回　令和 2 年 10 月 10 日(土)、令和 3 年 2 月 3 日(水)		
協力者・協力団体	菜援隊、坪沼ベジ・クラブ		
ねらい	生出地域の坪沼・赤石地区は田畑が広がり里山の風景と生活が残っている。この豊かな自然を生かした農作物の調理や農産加工の技術を体験する機会を提供することで、新鮮な農作物の魅力や食の大切さを伝えていくことを目的とする。また、講座から発足した「坪沼ベジ・クラブ」や地域振興のために活動している団体、個人と連携し、農作物を通じて地域交流を図りながら生出の魅力を内外へ発信する。		
概要・成果	第 1 回目は、生出地区でも近年積極的に栽培している「ジャンボ落花生 おおまさり」を地域講師指導のもと生出坪沼の畑で収穫体験し、坪沼コミュニティセンターで調理法を学んだ。広い会場で講師との活発な質疑応答が行われ参加者が積極的に学び、交流を深めた。第 2 回目は、生出坪沼産大豆で豆腐作りを行った。ＪＡ仙台から講師に来ていただき、生出野菜の特色を学び、地元農家が作付けした大豆を使って豆腐づくりとおからのレシピを学んだ。新型コロナウイルス感染防止のためいずれの講座も実食はできなかったが、後日協力団体に入会する受講生もおり、地域への深い理解につながった。		

〔令和２年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
めんこいサロンにおいでよ！	幼児・小学生親子を対象とした小正月の伝統行事「だんごさし」の講座を開催。感染防止対策のため全 2 回のうち 1 回は中止し、参加人数を絞って実施した。	1 月 9 日	1	15
おいでわんぱく広場	近隣の小・中学生を対象として、体育館を開放して行ったプレーパーク、い草を使った工作、移動天文台、ジュニアリーダーと一緒に遊ぶ講座をそれぞれ開催。その他に計画していた 6 回は、感染症の影響で中止した。	7 月 11 日 9 月 19 日 10 月 9 日 12 月 12 日	4	61
仙台市子ども会インリーダー研修会	児童と世話人が一堂に会しての研修会は実施せず、地区内の 6 子ども会向けに自主研修用のＤＶＤと資料を配布した。	12 月	1	11

生出学　歴史講座	生出地域の歴史や文化、民俗などを、旧石器時代から明治時代まで詳細に学ぶ講座を3回にわたり開催し、先人たちの功績や地域資源の再発見につなげた。	10月11日 12月11日 2月28日	3	50
生出朗壮大学	高齢者の課題に適したプログラムを選定し、音楽鑑賞会、介護予防、ものづくり体験、観劇等の講座を開催。開講を延期し6回の開催となったが、コロナ禍に対応した内容も取り入れた学習を実施した。	9月18日～ 2月19日	6	132
【中止】出前講座	連携団体である 9 町内会の婦人部とそれぞれ協議を重ねてきたが、感染症の収束が見えないことから、参加者の安全を考慮し全ての町内会で中止と決定した。	【中止】	－	－
生出地区防災講座	地域の小・中学校と町内会代表者を対象として、大雨災害時の避難とコロナ禍の避難所運営について学習した。各指定避難所担当課の職員を加えての討議も行い、地域防災力の強化を図った。	9月13日	1	16
生出かかしまつり・コンテスト	団体毎に製作していたかかしに代わり、かかしの絵と交通安全標語を小中学生個人より募集し、コンテストを行った。作品約300点の展示も行い、感染症対策を講じて例年とは形態を変えたまつりを開催した。	9月25日	1	160
【中止】第 32 回「蛍と平家琵琶の夕べ」	共催団体が協議を行い、市内の感染状況を踏まえ、対応を検討したが、会場での密集・密接を回避できないことから中止を決定した。	【中止】 6月27日	－	－
【中止】第 41 回　生出コミュニティまつり	共催団体と協議した結果、多くの方々が関わる開催までの準備や、当日の会場での密集・密接を回避できないことから、来場者・関係者の安全を考慮し、開催中止を決定した。	【中止】 10月25日	－	－
生出市民センター運営懇話会	地域団体の代表者との懇談を通し、市民センターの事業運営に対し理解と協力を得て、より良い地域づくりを行うために地域課題や情報の共有を図った。	3月6日	1	16
ホタルの里・坪沼プロジェクト	ホタル飼育施設や生息地の環境整備、幼虫や幼虫の餌となるカワニナ飼育等の活動を行い、飼育のための研修会も実施した。ホタル鑑賞会は、時期が感染症の流行と重なり中止した。	5月24日～ 3月16日	5	60
市民企画会議「おいで里ネット委員会」	ＰＴＡやそのＯＢ、地域連携担当教諭等の企画員に中学生ジュニアリーダーも加わって、小・中学生向け講座を企画し、講座開催に向けて調整を進めていたが、感染症拡大の影響を受けて講座の開催を中止した。	6月10日 10月13日 1月29日	3	18
【中止】市民企画会議「おいで里ネット委員会」を経て実施する講座	おいで里ネット委員会で企画した講座を 3 月に開催の予定で準備を進めていたが、市内の感染状況を踏まえ、児童・生徒の安全に配慮し中止を決定した。	【中止】	－	－

〔令和２年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

ジュニアリーダー「おいでもん」の活動支援

中学生・高校生によるボランティアサークル「おいでもん」は、近年登録者がいなかったが、令和元年度末に新たに中学生７人の加入があった。市民センターでは、これからのジュニアリーダーとしての活動に必要な知識や技能を身につけることができるよう、他のジュニアリーダーサークルの先輩を招いての研修会や活動見学の機会を設ける等の支援を行っている。

市民センター主催講座「ジュニアリーダーと遊ぼう」では、すでに活躍している他サークルの高校生ジュニアリーダーと一緒に、レクリエーションゲームの進行役を務め、地域での活躍の場を提供することができた。今後もジュニアリーダーとしての経験を積むことで自主性を高め、様々な要請にも応えることができるよう支援を継続していきたい。

中田市民センター

〔沿　革〕

中田市民センターは、昭和 44 年 10 月、仙台市で 5 番目の公民館「中田公民館」として、中田中学校跡地に同校の旧体育館と旧校舎の一部を改築して開館した。昭和 56 年 3 月に本館を鉄筋コンクリート二階建てとして新築し、平成 2 年 4 月には「中田市民センター」と改称。平成 19 年 7 月からの大規模改修工事を経て、平成 20 年 1 月に再開し、現在に至っている。

平成元年度から平成 11 年 6 月まで、太白区内市民センター13 館の拠点館として太白区全体の生涯学習推進を担っていたが、現在は、主として中田中学校区を担当する地区館として事業を展開している。

また、町内会連合会と地域関係団体とで「中田公民館運営協力委員会」が組織されており、「中田まつり」や「篝火コンサート」など、市民センター事業や地域の行事に大きな支援を行っている。近年、宅地開発が進み、戸建てやマンション、アパート建設などにより若い世代の転入者が増加している。

［★震災を踏まえた事業　●区役所との連携事業］

〔特色ある事業〕

事業名	●「中田の魅力伝えたい」養成講座		
参加者	中田地域住民	延参加者	45 名
開催日	全 8 回　令和 2 年 7 月 11 日(土)～令和 3 年 3 月 19 日(土)		
協力者・協力団体	太白区まちづくり推進課、中田公民館運営協力委員会		
ねらい	これまでの事業の中で、「中田の魅力探訪」「お宝マップ」の 2 つの地域資料を完成させ、それらを活用したまち歩き講座や出前講座を開催し、地域に情報を発信してきた。 令和元年度の企画会で、「地域に貢献した人物やその偉業を語り継いでいくことも大切である」との意見が出されたことにより、新たな資料作りを行うこととした。 令和 2 年度は、令和元年度に引き続き、より具体的な資料作りに取り組み、冊子の完成を目指す。また、今後、複数年かけて、小中学生や幅広い世代に地域の魅力を伝えていく事業を通して、人材育成を目指す。		
概要・成果	地域の偉人である川村幸八にスポットをあて、冊子化に向けて講座を進めた。「太白区区民協働まちづくり事業　太白区まち物語」事業の助成を受け、複数の企画会や編集会議を実施し、『みんなの住んでる中田のおはなし　―仙台にサツマイモを伝えた人　甘藷翁　川村幸八さんものがたり―』を完成させた。町内会はじめ小中学校、仙台市各公所に配布することができ、地域の歴史をつなぐ有意義な事業となった。子どもたちにもわかりやすいおはなしであり、地域の歴史を伝承する人材育成にもつながった。		

〔令和２年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
【中止】 中田はじめてママ講座	地域の子育て支援を行う講座を企画した。募集開始直前で、新型コロナウイルス感染拡大の状況となり、託児を伴うなど三密が避けられない内容であるため中止とした。	【中止】 5 月～6 月	－	－
なかだ親子体験クラブ	第 1 回は天体観望(室内プログラムと移動天文車の見学)を中田児童館と共催した。第 2 回は気象について実験や工作を行った。	9 月 11 日 11 月 28 日	2	38
インリーダー研修会	小学校を通し対象者に関係資料を配布し自主学習を行った。	12 月 23 日 1 月 8 日	2	36

【中止】 ジュニアリーダーとあそぼう	地域の子どもたちが遊びを通して年齢を超えた交流の機会を持ち、地域社会への関心や社会性を高めるきっかけづくりとするよう企画したが、新型コロナウイルス感染拡大のため関係各所協議の上中止とした。	【中止】 10月～2月	0	0
中学生企画「中田地域を考える絆」講座	中学生による企画会。「地域を元気にしたい」との思いからミニ七夕飾りを制作して、小学校に寄贈した。また、小学生が作った吹き流しと中学生がデザインしたくす玉・メッセージ付きの吹き流しとを合わせて飾りを作成し、地元商店街、郵便局、消防署などに飾った。後半は、アマビエオブジェ作り活動も行った。	7月15日～ 2月25日	10	500
中田老壮大学	毎月1回の開催であるが、感染予防のため、参加者を2班に分けて、同内容を2回開催した。開講も5月から10月に延期し、古典民謡コンサート、健康体操、「懐かしの昭和」、「慶長使節の歴史」、「特殊詐欺」についての講座を実施した。	10月8日～ 2月25日	10	326
地域で取り組む中田の防災	町内会連合会との共催により、中田地区総合防災訓練を行い、市民センターだよりを利用した町内会連合会防災関連記事を3回連載した。また中田小避難所運営連絡会2回開催。	10月4日～ 11月13日	6	82
地域で作ろう！伝えよう！　中田の七夕	中田中学校の生徒による七夕飾り制作と地域展示、小学生に向けた応援ミニ七夕制作と寄贈、小学生による吹き流し制作。	7月7日～ 7月27日	6	790
【中止】 中田まつり	第1回まつり実行委員会で、来場者、参加者、学校関係者、スタッフ等の安全を考慮し、中止を決定した。	【中止】 10月25日	－	－
【中止】 なかだ篝火コンサート	屋外の開催であったが、不特定多数の来場者が多いことや、スタッフの作業場で三密を防げないことから、共催の公民館運営協力委員会と協議の上、中止を決定した。	【中止】 9月5日	－	－
中田市民センター「気軽に話し合う会」	第1回地域事情意見交換会（出席者:中田公民館運営協力委員会他）。第2回「洪水時の避難について」（出席者:保育所、近隣の施設、連合町内会役員）。第3回「地域連携行事に関する情報交換会」（出席者:近隣学校、各施設等）。	10月6日 10月8日 2月26日	3	30
【中止】 地域で支える「なかだニコニコカフェ」	参加者が高齢者で飲食を伴うことで、新型コロナウイルス感染症のリスクが高いことから、共催団体から中止の申し入れがあった。	【中止】 6月～2月	－	－

〔令和２年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

「中田公民館運営協力委員会」の活動支援

中田市民センターには、中田公民館時代から公民館運営協力委員会(構成団体：町内会連合会・各種地域団体・小中学校・市民センター等)が存在し、令和元年度に、設立50周年を迎えた。それを記念し、昭和46年から発行している「広報なかだ」全432号（令和元年9月号まで）と、前身である中田村広報誌（大正15年～昭和5年発行）をすべてデータ化し、1冊に冊子化する事業の支援を行った。「広報なかだ」は、中田地域の情報を発信するものとして長くその役割を担っており、新たな住民が増加しつつある中田において、地域理解のための貴重な資料となっている。また、冊子とデータは仙台市の図書館に寄贈した。

令和2年度は、地域住民が主体的に行う「中田まつり」や「篝火コンサート」などの地域行事が中止や縮小したなかでも、「広報なかだ」の発行を支援し、地域情報を発信し続けた。また市民センターでは、事務局として、定期的に「中田公民館運営協力委員会」を開催し、町内会はじめ地域情報の共有に努めるなど、令和3年度の活動に備えての必要な支援を行った。

西多賀市民センター

〔沿　革〕

西多賀地区は、桜で有名な三神峯公園や富沢遺跡があり、仙台でも暖かく環境に恵まれた、住みやすい土地である。昭和 50 年代、福祉に対する住民の要望が多様化し、自らが福祉活動に参加する傾向が現れてきた。そのため、活動拠点となる地域の施設を求める要望が高まったことから、昭和 53 年、仙台市として 5 番目の福祉会館として本施設が開設された。昭和 58 年、地域住民のより幅の広い利用を可能にするため、名称を市民センターと改めた。平成元年、政令指定都市移行に伴い地域の社会教育の充実のために公民館機能が組み込まれ、生涯学習の拠点として活用されている。

平成 3 年に児童館が併設され、平成 30 年 11 月には新館が開館した。現在は、子どもから高齢者まで誰でも気軽に利用できる市民センターとして親しまれている。

［★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業］

〔特色ある事業〕

事業名	にしたがキッズ情報局 2020		
参加者	地域の小学 5・6 年生	延参加者	30 人
開催日	全 8 回　令和 2 年 9 月 12 日(土)～10 月 24 日(土)		
協力者・協力団体	西多賀小学校、金剛沢小学校、芦口小学校、太白区中央市民センター、エフエムたいはく		
ねらい	子どもたちが自分の住む地域に愛着を持ち、地域に貢献できる人材を育成していくために、コミュニケーション力や情報収集力を身につけ、学びを経験する場を提供する。活動の中で多くの大人と関わり、自分の住む地域の良さをラジオで発信することで、社会に参画する意識を育む。		
概要・成果	令和 2 年度は、新型コロナウイルス感染防止のため参加人数を 5 人に限定し短期間での活動となった。 参加児童は、地元在住のフリーアナウンサーから取材方法やアナウンスの仕方を学び、地域の学習として「多賀神社」を取り上げ取材活動を行った。また、自分たちの通う小学校の先生にインタビューを行い、学校や先生の自慢できるところを取材した。インタビューの内容は 30 分のラジオ番組にまとめ「エフエムたいはく」で放送。参加した児童は取材を通して地域の良さを改めて知り、学校や世代を越えた交流ができた。また、自分たちで考え完成できた体験により、参加した児童には大きな自信となった。		

〔令和２年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
●ニコニコ子育て	第 1 子が 1 歳 6 ケ月未満の母親を対象に、太白区家庭健康課職員の講話「みつけよう！イヤイヤ期をのりきるヒント」、児童館職員による大型絵本の読み聞かせと親子遊びを実施した。	11 月 20 日	1	8
インリーダー研修会	市民センターを会場とする研修会については中止。管内 3 小学校の子ども会に太白区中央市民センターが作成した資料を提供した。	12 月 24 日	1	－
西多賀今昔かるた大会	西多賀検定委員会作成の「西多賀今昔かるた」の大判かるたを利用し、遊びながら地域のことを学び、交流を図った。	1 月 7 日	1	30

【中止】 ジュニアリーダーとあそぼう！	新型コロナウイルス感染防止のため、夏休み中実施予定のものは中止。秋まつり、ふれあいまつりでの活動も、まつり自体が中止のため実施不可。12 月は学校の休み期間が合わず中止した。	【中止】 7 月～12 月	－	－
●中学生が考える地域交流会	感染対策として地域交流会は中止としたが、中学校や多くの地域団体、区役所が連携し、中学生が地域住民とともに三神峯公園の清掃活動を行った。このことを通して、中学生が地域の環境を考えながら地域住民との交流を持つ機会となった。	11 月 7 日	1	155
西多賀今昔まち歩き	地域誌「西多賀まち物語」を教材とし、講話「多賀神社と水路の歴史を探る」、まち歩き「多賀神社・木流堀・笊川周辺」を実施し、地域への理解を深めた。	9 月 27 日 10 月 4 日	2	27
西多賀寿大学	新型コロナウイルス感染症の影響により開講を 5 月から 10 月に延期し、高齢者の生きがいづくりのため、朗読、食事による健康づくり、コンサート、川柳、食文化の歴史をテーマに 5 回の講座を開催した。	10 月 28 日～ 2 月 17 日	5	207
★手をつないで考えよう　減災・防災	9 月の避難所運営訓練は役員による避難所の確認作業として実施。11～12 月に児童向け防災クイズ、12 月にクロスロードゲーム講座を実施し、地域防災意識の向上を図った。	9 月 15 日～ 12 月 9 日	3	166
●天沼公園から地域環境を知ろう	公園愛護協力会との共催で、中学校で飼育したホタルの幼虫を 4 月に放流し、5 月には福祉施設や児童館、地域の方と協力して清掃活動を行った。これらの活動を通して、地域環境への関心が高まった。	4 月 11 日 5 月 9 日	2	34
広げよう福祉の輪	11 月に開催予定であった「福祉のつどい in 西多賀」は、新型コロナウイルス感染症の影響により紙面開催とし、資料の全戸配布により「西多賀地区福祉団体連携会議」の活動について広くアピールすることができた。年間 2 回を予定していた「ゴミ出しボランティア講座」は、コロナ禍により 2 月に 1 回のみの開催となったが、各町内会にも参加を呼びかけ西多賀地域全体で高齢者や弱者に手を差し伸べていこうとする取り組みを再認識することができた。	2 月 19 日	1	53
【中止】 西多賀ふれあいまつり	6 月 19 日に「西多賀ふれあいまつり実行委員会」を開催し、新型コロナウイルス感染防止のため、令和 2 年度西多賀ふれあいまつりの中止を決定した。	【中止】 10 月 25 日	－	－
西多賀地域懇談会	管内各町内会、社会福祉協議会、老人クラブなどの地域団体と小中学校、地域包括支援センターの出席で開催し、コロナ禍における諸団体の取り組みを知ることができた。	1 月 27 日	1	22

〔令和２年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

「西多賀地区福祉団体連携会議」の活動支援

西多賀市民センターは、地域の福祉団体である西多賀地区社会福祉協議会、西多賀地区民生委員児童委員協議会、西多賀・八木山地域包括支援センター、西多賀地区町内会連合会、西多賀赤十字奉仕団と、2 か月に 1 回、市民センターを会場に「西多賀地区福祉団体連携会議」を開催し、地域課題や各団体の活動について情報を共有し、問題解決に向けた意見交換を行っている。

例年、この会議により地域住民との交流会「福祉のつどい in 西多賀」を開催していたが、令和 2 年度は新型コロナウイルス感染防止のため、一堂に会する代わりに「福祉のつどい in 西多賀・紙面版」を発行し各戸に配布。日頃の各団体や個人の活動を紙面で紹介することで、福祉活動への関心を高め、より積極的な参加を呼び掛けることができた。

八本松市民センター

〔沿　革〕

八本松市民センターは、八本松地区の国有地を取得し、昭和 60 年 5 月に、コミュニティ防災センターを併設した複合施設として開館した。さらに平成 20 年 4 月には、八本松児童館が新たに併設された。平成 26 年度に大規模修繕を実施し、平成 27 年 4 月に再開した。

近辺には広瀬川が流れ豊かな自然環境に恵まれ、史跡として国指定を受けた郡山遺跡、北目城跡がある。長町副都心長町駅東再開発が行われ、歴史的情緒を持ち合わせつつ、近代的な街並みを呈した地域である。

建物は八本松公園と隣接しており、町内会の集会や文化活動、レクリエーション、スポーツにと、子供から高齢者まで誰もが気軽に利用できる市民センターとして、地域住民に親しまれている。

［★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業］

〔特色ある事業〕

事業名	AK2H地域防災講座		
参加者	地域住民	延参加者	35 人
開催日	全 2 回　令和 2 年 10 月 17 日(土)、12 月 12 日(土)		
協力者・協力団体	八本松連合町内会		
ねらい	東日本大震災後、八本松地域合同の防災会議や防災訓練等を継続して行ってきた。震災から 9 年が経過し、地域住民の防災意識が次第に薄れつつある中、いざというときに役立つ学びの場を継続してもつことが重要である。そこで、防災の基本である「自助」にポイントを当て、気軽に参加できる講座を開催し、個人個人が正しい防災・減災の知識を学ぶことを目的とする。		
概要・成果	第 1 回目は、「東日本大震災を経験して思うこと～すべては大切な命のために～」と題し、閑上で実際に震災を体験した方のお話を聴いた。参加者にとって、津波の怖さと避難行動の大切さ、自助の重要性を再確認する貴重な機会となった。 第 2 回目の「親子防災体験教室」では、家族で作る防災マニュアルと非常時の持ち出し品についての確認、非常用ほのぼの灯りの作成を親子で行った。活発な意見交換がなされ、各家庭での防災対策について意識の向上が図られた。		

〔令和２年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
八本松子育てサロン おやこのまったりひろば	ミュージックベルと絵本の読み聞かせを行うクリスマス会や、親子体操等を実施した。10 月に予定した親子ヨガについては、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止とした。	9 月 17 日 12 月 18 日 1 月 14 日	3	8
親子のわくわくぼうけんタイム	小学生親子を対象に「虫の声を楽しむ会」、「広瀬川の生き物を知ろう！」、「親子でレッツ！面白実験&簡単工作」を実施した。学校の授業では体験できない機会を提供するとともに、親子同士の交流の機会とした。	8 月 29 日 9 月 13 日 11 月 14 日	3	71
【中止】 秋休みドッジボール大会	八本松・郡山・東長町の 3 小学校の児童が、校区を越えてスポーツを通して交流できるよう、秋休みを利用して 3 児童館と共催で実施する計画であったが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止とした。	【中止】	－	－

仙台市子ども会インリーダー研修会	子ども会活動の推進及び活性化を図るために、子ども会のリーダーとなる児童及び世話人を対象に子ども会についての知識や技術を習得するための研修会を実施する予定だったが、コロナのため資料配布にとどまった。	12月22日	1	－
うぶすなスクールコネクト	郡山中学校1年生に対して八本松・郡山地域研究会の有志4人が郡山遺跡と昔の町・今の町について授業を行う予定だったが、感染リスクを回避するため、中学校と調整の上、資料提供のみとすることとなった。	4月24日 6月18日 9月11日 11月25日	4	15
八本松寿大学	高齢者が、主体的に健康で豊かな生活を送れるよう、居場所作りや仲間作りの場を提供した。例年のように近隣の聴覚支援学校と連携し、地域に根差した学習や異世代交流も取り入れていく計画だったが、コロナ禍のため実施を見送った。	9月24日～ 2月25日	6	251
【中止】(複数年事業) 八本松市民センター出前講座	会場に予定していた郡山地域のコミュニティセンター市民委員会の委員長に相談した結果、感染リスクを回避するため中止とした。	【中止】	－	－
八本松スマイルコンサート	近隣の住民が気軽に参加できるコンサートを開催し、幅広い年代・地域の住民がともに集う場を提供することができた。1回目は「クリスマスコンサート」と題しハンドベルのコンサートを開催、2回目は八本松児童館、コスモス〆木保育園との3館共催で吹奏楽のコンサートを開催した。	12月19日 3月13日	2	62
【中止】 令和2年度　八本松市民センターまつり第24回うぶすなフェスティバル	コロナ感染症拡大の影響により、実行委員長をはじめとする三役会で、6月5日に協議し、中止を決定した。	【中止】 11月3日	－	－
八本松市民センター懇話会	1回目は6月開催予定を9月に延期し、利用サークルとの情報交換を行った。2回目は2月に実施して、町内会や地域諸団体との情報交換会を実施した。	9月15日 2月9日	2	31
市民企画講座 地域の食材で広げる～地域の和　輪　笑～「寒締め仙台伝統野菜LABO」	地域で古くから守り受け継ぎ生産している伝統野菜を「作り」「育てる」ことを体験し、生産すること、収穫の喜び、食べ物の大切さを学んだ。	9月5日 10月3日 1月23日	3	21
市民企画会 地域の食材で広げる～地域の和　輪　笑～	地域の伝統野菜をテーマに参加者が地域を知り、交流を図ることを目的に「寒締め仙台伝統野菜LABO」を企画、開催した。	4月9日～ 1月23日	9	18

〔令和２年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

郡山中学校「職場体験」への活動支援

八本松市民センターでは、毎年郡山中学校から「職場体験学習」を受け入れている。令和2年度は、10月27日～28日の間、4名の生徒が市民センターでの職場体験を行った。施設管理業務の体験では、例年同様の窓口での接客体験に加え、新型コロナウイルス感染症予防のために施設内の消毒作業体験も行った。生涯学習事業に関する学習では、独自の講座を企画・発表し、チラシを作成するというワークショップを行った。また、市民センターを利用するサークルや地域団体の活動に参加し、地域住民と交流を図りながら生涯学習活動についての理解を深めた。市民センターと学校の連携により、地域ぐるみで青少年の健全育成に寄与することができた。

八木山市民センター

〔沿　革〕

八木山市民センターは、仙台市南西部に位置し昭和 30 年代後半～40 年代中頃にかけて整備・開発された、豊かな自然が残る調和の取れた住宅地である八木山地区に、昭和 62 年 4 月 6 日開館した。平成 20 年 11 月には新しい体育館を増設、平成 25 年度から 26 年度にかけては大規模修繕を実施し、平成 27 年 4 月に再開した。

当市民センター周辺は、八木山動物公園や八木山ベニーランドなどのレクリエーション施設をはじめ、大学、放送局、総合病院など学術・文化・医療の施設等が揃い、地域住民ばかりでなく広く仙台市民に親しまれている地域である。また、センター隣接地が平成 27 年 12 月に開業した地下鉄東西線の西の起点駅（八木山動物公園駅）となり、交通利便性向上となったことから、新たに住民も増加し地域全体でも人口増となり、新しい街づくりが進んでいる。

［★震災を踏まえた事業　●区役所との連携事業］

〔特色ある事業〕

事業名	**恐竜山･金剛沢「遊･歩･導」**		
参加者	地域の小学生児童とその保護者	**延参加者**	52 人
開催日	全 1 回　令和 2 年 11 月 15 日(日)		
協力者・協力団体	金剛沢緑地愛護協力会、青葉山･八木山フットパスの会、宮城県森林インストラクター協会、八木山おやじの会、八木山地区まちづくり研究会		
ねらい	地域の自然資産の一つである金剛沢緑地の魅力を地域の小学生･保護者に感じてもらうとともに参加者同士の交流の機会を設ける。 また、参画団体のネットワーク化を通じ、各団体・組織が連携し、将来的には地域の各種団体が参画し、新たに拠点づくりを行っている「八木山テラス」をはじめとする金剛沢緑地の魅力発信の地域イベントにつながり、定着していくことを目指す。		
概要・成果	ウォークラリー実施の前に、金剛沢緑地愛護協力会の全面協力のもと、地域の資産である金剛沢緑地散策コースの整備を行った。ウォークラリーの開催にあたっては、コロナ禍のため、各小学校と相談を重ね、感染防止策を十分に講じたうえで、実施した。この講座を通して、参加した多くの方に恐竜山・金剛沢緑地の魅力を体感してもらいながら、コロナ禍で可能な限りの交流を図ることができた。		

〔令和２年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日･期間	回数	延参加者
仙台市子ども会インリーダー研修会	子ども会活動やインリーダーについての講話・実習を行う予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、小学校を通じ、子ども会毎にＤＶＤを配布、収録動画より自主学習する形での開催とした。	2 月	1	－
広げよう八木山防災の輪	防災意識の更なる向上を目指し、消防関係者が小中学校で、また、中学生が保育園で防災教育の出前講座を行う予定であったが、コロナ禍のため、地域で活躍する団体の紹介を行う会を中学生向けに開催するにとどめた。	11 月 6 日	1	133
地域の絆プロジェクト「動物公園の壁に絵を描こう」	小中学生を対象に、大学生や地域の方と交流を図りながら動物公園の擁壁に絵を描く講座を開催した。コロナ禍であるため、受講生を 2 つに分け午前・午後の開催とした。	10 月 31 日	2	20

在仙外国人向け日本語講座「日本語ティールーム」	外国人を対象に日本語や日本文化・生活習慣を知る行事体験をする講座を開催した。コロナ感染拡大を受け前期はすべての授業を中止、後期は9月より開催。うち10月の1か月間は臨時休校としオンライン開催とした。	9月2日～3月12日	36	304
やぎやまシニア大学	地域の高齢者を対象に文化、科学、現代社会、健康など多岐にわたるテーマの講座を開催した。コロナウイルス感染症拡大を受け、冊子「シニア大学通信」にて自主学習していただく形での開催を6月のシニア大学運営委員会で決定。通信方式での開催とした。	6月23日～3月3日	5	500
地域防災シンポジウム in 八木山	世代間交流と地域の防災力の向上を目指し、地域の方を対象に、防災に関する取り組み・研究発表とグループ討議を行う講座。仙台八木山防災連絡会と協議し、コロナ禍に対応してオンラインでの開催とした。	11月28日～12月28日	1	340
【中止】 八木山小学校社会学級連携事業（仮）秋のふれあいコンサート	八木山小学校社会学級と連携してコンサートを開催予定であったが、年度初めに社会学級自体の活動中止が決定されたため、本講座も中止とした。	【中止】 11月	－	－
【中止】 第32回　八木山市民センターまつり	八木山市民センターや地域で活動している諸団体・学校・サークルによるステージ発表、作品展示、体験会等を行う予定であったが、感染状況を鑑み、参加者安全を最優先とし、実行委員会で中止を決定した。	【中止】 10月10日 10月11日	－	－
【中止】 第15回　秋の八木山フェスタ	八木山ベニーランド、八木山動物公園、東北工業大学とイベントを共催し、全市へ向けて八木山地区の魅力を発信、まちづくりの活性化、地域を担う人づくりを図る企画であったが、参加者の安全を考え、実行委員会で中止を決定した。	【中止】 11月3日	－	－
八木山気軽に懇話会	より良い市民センター運営を図り、今後の事業展開につなげるべく、市民センター利用団体・サークル、八木山・八木山南地区町内会、学校関係者、地域団体等との懇話会を実施した。	11月27日 11月28日 12月15日	3	36
【中止】 市民企画会議「子育てママの企画会議」	子育て世代に講座を企画・運営してもらう企画。八木山児童館に来館する方をターゲットとしていたが、児童館がコロナ感染拡大を受け一時閉館する等、講座運営が難しいと判断し中止とした。	【中止】 5月～2月	－	－
【中止】 市民企画会議を経て実施する事業	児童館来館者をターゲットにしていたが、コロナ感染拡大を受け中止とした。	【中止】	－	－
八木山の豊かな自然を散策しよう	八木山の自然の魅力を感じ取ってもらう散策を行いながら、講師による自然・歴史・地質の解説を受ける講座を、年央に企画して実施した。	10月24日 11月7日	2	15

〔令和２年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

仙台八木山防災連絡会の活動支援

仙台八木山防災連絡会は、“八木山の住民が、地震に対して安心して生活できるよう、八木山の住民の幸せを支援すること”を目的とし、2008年4月に設立された団体で、地域住民・学校・行政関係・企業等から構成され、地域一体となって防災力の向上に努めている。偶数月は役員会、奇数月は例会、年一回の総会などを開催。市民センターは事務局として会議開催準備、調整、資料作成、会計、外部団体との窓口・連絡調整等幅広く活動支援業務を行っている。市民センターまつりが中止になるなど、コロナ禍で活動が大幅に制約される中、八木山中学校の防災授業では、中学校のニーズを踏まえたうえで、市民センターが防災連絡会助け合い部会、消防署、消防団、婦人防火クラブをコーディネートする役割を担った。また、「地域防災シンポジウム in 八木山」では防災連絡会若者部会との共催でオンラインにて開催し、地域防災意識の醸成を図った。

山田市民センター

〔沿　革〕

山田市民センターは、昭和 62 年 4 月 17 日、旧笹谷街道沿いに戦後住宅街として開発され発展してきた山田地区に、コミュニティ防災センターを併設して開館した。平成 29 年度には大規模修繕を実施し、平成 30 年 4 月に再開した。

当市民センターは縄文遺跡や鹿除土手などの歴史遺産や昔ながらの自然を残す恵まれた環境の中にあり、太白消防署、鈎取郵便局、鈎取球場、縄文の森広場などの公所・施設や小中学校、大学などの教育機関も多く立地している。また、国道 286 号線沿いには大型商業施設が立ち並び、高い集客力を有している。

こうした環境の中、当市民センターは地域の生涯学習や地域コミュニティづくり、交流の場として地域住民に広く活用されている。

［★震災を踏まえた事業　●区役所との連携事業］

〔特色ある事業〕

事業名	住民参画型事業「楽元の森プロジェクト」企画会		
参加者	地域の方どなたでも	延参加者	15 人
開催日	全 4 回　令和 2 年 7 月 18 日(土)、8 月 22 日(土)、9 月 26 日(土)、令和 3 年 2 月 6 日(土)		
協力者・協力団体	まちづくり推進部太白区中央市民センター、山田鈎取地域町内会連合会、上野山小学校、上小会		
ねらい	山田地域は、地域活動を担う人材不足が課題となっている。そこで地域資源である楽元の森の整備・活用等を通して人材発掘と育成を図り、自主運営委員会を立ち上げ、活動範囲を広げ地域づくりに繋がる人づくりを目指す。また、多くの団体と共催、連携することで協力体制が深まり円滑な活動が推進される。		
概要･成果	15 名の地域の方が、令和元年度から継続して企画委員として参加し、令和 2 年度に開催する上野山小学校に隣接する楽元の森を活用した講座の企画・運営についての話し合いを行った。第 1 回目の企画会の際は、話し合いのほかにアウトドアの基本を学ぶための研修会を実施して、森の活用のためのスキルアップを図った。 令和 2 年度は、全 4 回の講座を企画し開催した。講座開催の前には企画会を開催し、当日の流れ・準備物・役割・担当等を決め講座に臨んだ。企画委員は相互の繋がりを深め、意見交換をしながら楽元の森の魅力と有用性を十分に理解し、講座では地域住民や子どもたちにその魅力と活用の術を伝えた。また講座のチラシ作成や進行を担当する等の様々な活動をする中で、スキルを向上させ地域づくりに意欲的かつ楽しみながら取り組み、地域づくりの担い手として活躍した。 年度末には、子どもたちの健やかな成長と地元愛の深まり、地域住民のネットワークづくり、地域づくりを目標に企画委員による自主運営委員会「楽元の森運営委員会」が立ち上がった。		

〔令和２年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日･期間	回数	延参加者
サマースクール山田	新型コロナウイルス感染症の影響による小学校の夏休み期間の短縮を受け、回数を 6 回から 2 回に減らして実施した。住職を講師に迎えた坐禅体験と、エアロビクスの講師による運動・ダンスを実施した。	8 月 1 日 8 月 8 日	2	18
インリーダー研修会	新型コロナウイルス感染症の影響により、小学校を通じて全子ども会へ資料を配布しての自主研修とした。	12 月 24 日	1	38

山田かがやき隊	花壇ボランティアのスキルアップと仲間募集を兼ねて①花壇づくりの基本についての講話、②作業体験を連続講座で実施した。また、ミニ畳づくりでは感染症対策に配慮しながら、講師である畳職人の指導を受けて作成した。	10月28日 11月12日 12月5日	3	33
【中止】 山田豊齢大学	新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、受講生の健康と安全の確保が難しいと判断し、中止とした	【中止】 5月～3月	－	－
【中止】 福祉フォーラム	共催する山田鈎取地域社会福祉協議会と6月と11月の2度に渡り協議の結果、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、中止とすることにした。	【中止】 9月～2月	－	－
山田鈎取まち巡り	太白区まちづくり推進協議会から助成を得て「山田・鈎取まち巡りマップ」を作成した。共催相手のまち物語管理運営委員会と打合せをしながら地域の歴史や自然を紹介するため、まち巡りを実施した。まち物語管理運営委員会メンバーが上野山小学校でゲストティーチャーとして史跡等の講話をした。	6月27日～ 1月20日	8	85
●山田鈎取地域防災訓練	代表者による会議を2回行い検討したが、市内の新型コロナウイルス感染状況を踏まえ、10月24日に予定していた防災訓練の中止を決定した。防災訓練は中止としたが、仙台市避難所担当課を招いて避難所運営委員会役員会を実施し、避難所開設時における新型コロナウイルス感染症対策等について協議を行った。	5月27日 8月18日 10月2日	3	36
【中止】第23回山田ふれあいまつり	実行委員会三役との協議の結果、新型コロナウイルス感染症対策に対する参加者及び来場者への安心・安全の確保が難しいと判断し、中止とした。	【中止】 11月	－	－
【中止】 地域懇話会	地域の教育関係者や市民センター利用者との意見交換会を企画した。市内のコロナウイルス感染状況を踏まえ、参加者の安全等を考慮し中止を決定した。	【中止】 4月～12月	－	－
市民企画講座 「山田のスマイル企画会」	市民企画員とともに「音楽や運動を通して地域住民を元気にする」ことを目的とした講座を企画するための会議を実施した。新型コロナウイルス感染症の影響により、企画員の募集が遅れたため、令和2年度の企画会は1回のみの開催となり、令和3年度の講座実施に向けたスケジュールの確認等を行った。	2月2日	1	3
【中止】 市民企画講座 「山田のスマイル企画会」で企画した講座	新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、令和2年度における講座の実施は見送りとした。	【中止】	－	－
住民参画型事業 「楽元の森プロジェクト」企画会で企画した講座～森で楽しく遊ぼう	コロナ禍にあって、外で遊ぶ機会が減ってしまった子どもたちに遊びの場を提供した。クラフト作成等の6つのブースを回るスタンプラリー、親子で巣箱を作成・楽元の森の木に取付、ピカボードの作成、森でのピカボード展示・点灯と、地域団体による演奏会を実施した。	8月29日 10月10日 11月7日 11月14日	4	205

〔令和２年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

おはなしサークル「あめんぼの会」の活動支援

平成 17 年度に、山田市民センターの主催講座から発足した「あめんぼの会」は、地域の小学校や児童館、グループホームで読み聞かせやお話会を開催しているボランティアサークルである。読み聞かせやお話会において、参加者が目を輝かせるようなお話の世界を提供してくれているが、団体所有の蔵書・備品がなく私物や借用がほとんどであるため、充分な練習ができない状況だった。そこで市民センターでは、サークルに対し子ども達への読書推進活動を行っている団体への助成事業の案内をするとともに、申請に係る支援を行い、無事に助成を受ける運びとなった。令和2年度はコロナ禍にあって活動が縮小されたが、令和3年度は、この助成によりさらに活動を充実させ、今まで以上に夢や希望のあるお話会を開催したいと意気込んでいる。

茂庭台市民センター

〔沿　革〕

茂庭台地区は仙台市西部に位置し、市内中心部から約 20 分の距離にあり、古くからの梨野地区と住宅が多く建ち並ぶ茂庭台地区からなっており、豊かな自然環境に恵まれている。

茂庭台市民センターは、昭和 63 年 4 月にコミュニティ防災センターを併設して開館し、平成元年 4 月から地域社会教育の拠点として公民館事業を開始した。平成 2 年には児童館が併設された。平成 30 年度には大規模修繕を実施し、平成 31 年 4 月に再開した。

近隣には市営住宅や多くの福祉施設があり、高齢者、子ども、福祉施設の方々や外国人居住者の利用も多く、当市民センターは地域コミュニティの交流の場となっている。また、コミュニティ活性化に向けて連合町内会による地域活動が積極的に進められている。地域ニーズ、課題解決を図るため「市民本位の生涯学習拠点」「市民が主役の交流拠点」「市民参画による地域づくりの拠点」として、より多くの利用者に気軽に足を運んでもらえる様な事業を実施するとともに、地域課題解決のもとに集まれるネットワーク拠点としての機能が持てるようなセンター運営を行っている。

［★震災を踏まえた事業　●区役所との連携事業］

〔特色ある事業〕

事業名	住民参画型事業・複数年事業「みんなの広場」プロジェクト		
参加者	地域住民	延参加者	54 人
開催日	全 6 回　令和 2 年 8 月 2 日(日)～令和 3 年 2 月 6 日(土)		
協力者・協力団体	まちづくり推進部太白区中央市民センター		
ねらい	広場を活用した地域コミュニティ活性化に向け、地域人材の発掘・育成、地域情報の共有、地域資源の有効活用、事業の企画・実施、地域活性化の理念共有を基に令和 2 年度は複数年事業の 3 年目として企画していく。また企画員を通して地域住民同士の「顔の見える関係づくり」強化を目指す。		
概要・成果	市民企画員による会議を経て広場コンサートを企画実施した。令和 2 年度は新型コロナウイルス感染症の影響下であることから、広場コンサートを実施するために必要なことは何なのかを全員で議論した結果、仙台市のガイドラインに則った茂庭台独自の新型コロナウイルス感染症対策マニュアルを作成することになった。「コロナ禍の中でもできること」を合言葉に企画運営を行った結果、緊急時等に対応するためのスキル向上につなげることができた。 これにより、コロナ禍の中でも地域の方に安心して参加し、喜んでいただけるイベントを開催することができた。		

〔令和２年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
もにママサロン	茂庭台児童館と共催し、子育て世代を対象に軽体操やふれあい遊びを通して、受講生同士が気軽に集い交流する場を提供した。	9 月 27 日 11 月 27 日 12 月 11 日	3	84
もに輪っ子体験クラブ	新型コロナウイルス感染症の影響により、子どもたちを対象に卓球体験を 1 回のみ開催した。学校や家庭では得られない体験学習の場を提供し異年齢間の交流も促進する機会となった。	11 月 14 日	1	6
ジュニアリーダーとあそぼう	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため開催時期を 12 月に変更して、小学生を対象にレクリエーションを行った。内容はジュニアリーダーが自ら考え、学校外の集団活動を体験する機会とすることができた。	12 月 12 日	1	8

インリーダー研修会	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、各子ども会に研修資料（ＤＶＤと冊子）を配布し、自主学習とした。	12 月 22 日	1	－
男の休日倶楽部	苔玉作り、苔玉の育成観察と山野草についての講話、和柄の模様が入った布を使った染物体験を実施。地域在住の男性同士の交流が図られた。	8 月 6 日 9 月 17 日 9 月 24 日	3	14
茂庭台大学	地域の高齢者が心身ともに健康で生きがいのある社会生活を送れるよう、生涯学習の機会や交流の場を提供した。介護予防講座、音楽鑑賞、暮らしに関する講座などを実施した。	10 月 16 日～ 3 月 5 日	6	182
【中止】地域懇話会	市内の感染状況等を考慮し、中止を決定した。	【中止】 7 月 3 日		
地域防災講座	事前に行政、地域団体、施設管理者の協議により作成した『地域版避難所運営マニュアル』を活用しながら、地域の組織力を生かし、地域団体が中心となって運営の各種活動を行う必要性を確認できた。	10 月 8 日	1	19
もにわだいを楽しく歩こう	当初は、茂庭台地域の案内をする予定だったが、新型コロナウイルス感染症の影響により、内容をマップ作成へと変更した。受講生からは、マップ作成への熱意が感じられ、今まで歩いてきたコースの集大成となる地図を完成することができた。	10 月 24 日 11 月 28 日	2	7
【中止】茂庭台地区市民文化祭	まつり参加者を募り、実行委員会設立準備会を開催したが、市内の感染状況や区民まつり中止の発表等を考慮し、中止を決定した。	【中止】 10 月 4 日		
出前講座 茂庭台市民センターがおじゃまします	めぶき町内会集会所を会場に健康講座を開催した。新型コロナウイルス感染症対策を行いながらの開催となったが、入居者同士の関係を深める機会となった。	12 月 4 日	1	12
読み聞かせボランティア養成講座	おはなし会を行う際に必要な知識と技能の習得の機会を提供し、読み聞かせボランティアの学び直し・資質向上につなげることができた。	11 月～3 月	8	40
天空の広場盛り上げ隊	広場コンサートは、茂庭台独自に作成した感染対策マニュアルのもと、徹底した感染対策を施して開催し、様々な音楽で茂庭台地区住民に楽しんでもらうことができた。2 月 13 日には凧揚げを計画していたが、感染拡大の状況を踏まえ、中止とした。	10 月 4 日	1	82

〔令和２年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

水道山整備ボランティアの活動支援

団地内にある茂庭台緑地は、地域住民から「水道山」と呼ばれている。以前は草木が鬱蒼と生い茂り倒木が多く、危険な場所とされていた。植生が豊かだった頃の姿に戻したいとの声が市民センターに寄せられ、平成 21 年度に市民センターが企画講座を実施し、水道山整備に取り組んだ。その時の企画員 6 名が中心となり、水道山整備ボランティアを結成。平成 23 年度から自主的に活動し、平成 29 年度には太白区まちづくり活動賞を受賞した。

令和 2 年度には遊歩道の整備、枯損木の伐採、地域住民からの情報提供によりスズメバチの注意喚起について市へ要請を行う等、地域資源の保全活動に取り組んだ。市民センターでは、まち歩きマップの行程に取り入れるといった地域資源活用にも取り組んでいる。その他、整備活動にあたる上で必要な各種手続きや活動記録作成、ボランティアからの相談受付や情報提供等、広くサポートも行っている。

東中田市民センター

〔沿　革〕

東中田市民センターは、平成元年 4 月に児童館、保健センター、コミュニティ防災センターを含む複合施設として開館した。令和 2 年 12 月から大規模修繕を実施している（令和 4 年 2 月頃までの予定）。

当市民センターが位置する東中田地区は、仙台市太白区の東南端・名取川下流域にあり、名取川と広瀬川の合流点にも近く、素晴らしい自然環境に恵まれ、古墳や寺社仏閣などの歴史的資産を有している。

農村であったこの地域に、近年は高層の市営住宅や高齢者福祉関連施設、ミニ開発による一戸建て住宅が次々に建設され、商業の発展も著しい。新旧住民が混在し、急速に発展している地域環境に対応した地域コミュニティの確立が望まれている。

［★震災を踏まえた事業　●区役所との連携事業］

〔特色ある事業〕

事業名	防災・減災学びの学校		
参加者	地域住民	延参加者	65 人
開催日	全 1 回　令和 2 年 9 月 12 日(土)		
協力者・協力団体	東中田町内会連合会、中田中部町内会連合会		
ねらい	東中田地域は、地域に川が流れ海に近く低地にあるという特性から、災害においては水害が地域課題となっている。地震による津波の被害のみならず、近年の異常気象による大雨等の被害拡大もあることから、地域住民が水害に特化した災害について複数年による段階を経て学習し、水害に対する意識をより高める機会とすると共に、地域の防災力向上を図る。		
概要・成果	防災意識を高めるため、地域課題である水害等について学ぶ講座を 3 年連続で開催している。令和 2 年度は、コロナ禍のため午前・午後に同じ内容での開催とし、国土交通省仙台河川国道事務所の方より、河川増水被害について学んだ。参加者からは「このような講演会を継続的、定期的に開催してほしい」との声が寄せられている。近年の異常気象による大雨被害、令和元年度の台風 15、19 号により各地で堤防決壊や洪水被害が相次いだことで、かつて「あばれ川」と呼ばれた名取川への警戒心から、地域住民の国交省の治水対策への関心は特に高かった。避難準備・避難勧告・避難指示の避難情報を改めて学び、確認することができ、有意義な講演となった。 「海から」「空から」「川から」と 3 年連続の水害の講座に、延べ 325 人が足を運んでおり、3 年間のアンケートを分析したところ、地域住民の共助意識が高く、近所への避難の呼びかけ、災害弱者への支援や助け合う訓練の必要性と重要性を認識していることが明らかとなり、今後の事業企画の参考にもなった。		

〔令和２年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
インリーダー研修会	新型コロナウイルスの感染症対策のため、研修資料（冊子とＤＶＤ）を各子ども会に配布して自主研修をしてもらい、子ども会活動の理解促進を図った。	12 月 18 日	1	－
東中田わくわくタイム	小学生を対象に、切り絵、ニュースポーツ等の講座を開催し、地域講師との世代間交流、小学生同士の異年齢交流を図った。調理に関連する講座も 2 回予定していたが、新型コロナウイルス感染症予防のため中止とした。	8 月 8 日 9 月 5 日	2	19
東中田いきいきタイム	市民センターで活動しているサークルや地域で活躍している方の指導のもと、指ヨガ、ラベンダーで小物づくり、フレイル予防、ロコモ予防体操を行った。	6 月 10 日～ 10 月 24 日	6	62

東中田老壮大学	60 歳以上の地域住民を対象に、消費者啓発講座、健康講座等の講座を開催した。新型コロナウイルス感染症対策として、全 4 回の開催予定のうち 5 月の講座を中止するとともに、受講生 59 名を午前午後の 2 班に分けて開催した。	6 月 17 日 7 月 15 日 9 月 16 日	6	154
ほっこりサロンボランティア養成講座	新型コロナウイルス感染症対策のため、タッピングタッチやハンドマッサージの講座は中止としたが、現ボランティア対象のスキルアップとして「傾聴の基本」を学んだ。	8 月 4 日 9 月 24 日 10 月 20 日	3	19
【中止】 東中田市民まつり	実行委員会を 5 月に書面で行い開催を検討したが、7 月の臨時役員会にて、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止を決定した。	【中止】	－	－
テクテクまち歩き	これまで地域の歴史や名所旧跡を学ぶことを主に実施してきたまち歩きに、ウォーキングについての学習を加えた。コロナ禍でも一人でウォーキングをしながら名所をめぐることを、参加者に提案した。	6 月 6 日 6 月 29 日 10 月 10 日 10 月 17 日	4	28
【中止】 東中田将棋大会	例年、市民センター利用の東中田将棋愛好会の方々と共催してきた将棋大会を、夏休みに開催することで調整していたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、開催を断念した。	【中止】	－	－
みんなのコンサート	コロナ禍で 1 回のみの開催となった。新型コロナウイルス感染症対策に配慮しながら、往復はがきによる事前申込制として実施した。参加者は、身近な施設でクラシック音楽をゆったりと聴き、充実した時間を共有した。	2 月 6 日	1	26
紙しばいで知ろう 四郎丸	紙しばい「四郎丸とかにの観音様」（平成 29 年度に袋原中学校と共同制作）や、かつての「落合の渡し」や仙台伊達藩「杉苗守」の方のお話を聴き、参加者が自分の住む地域の歴史を学んだ。	9 月 10 日 2 月 20 日	2	18
東中田地域コミュニティ懇話会	市民センターの事業を多くの方に紹介し、センターの機能等について理解を得るよう努めた。また、変化していく管轄地域の地域課題や地域資源について、出席者から意見や情報をいただいた。	6 月 18 日 1 月 28 日	2	23

〔令和２年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

語り手ボランティア「かにっこ語りの会」の活動支援

平成 26 年度の市民センター事業から立ち上がった語り手ボランティア「かにっこ語りの会」は、地域に伝わる「かに伝説」の伝承を軸に、地域の名所・旧跡等の解説や歴史を伝える役割を担っている。令和 2 年度は、コロナ禍で、時期を変え縮小しながらも、四郎丸小学校 3 年生総合学習への協力依頼があり、体育館で感染対策を取りながら落合観音（県重要指定文化財）や名取川の解説を行った。当日は、市民センター職員が同行し、スムーズな進行のため掲示物や紙しばい等の準備を支援した。

また、市民センターでは、市民センター事業「テクテクまち歩き」での地域の名所・旧跡を紹介するまち歩きや「紙しばいで知ろう四郎丸」でのかに伝説の紙しばい上演と地域について解説等の講師を依頼し、サークルの活躍の機会とサークル活動紹介の場の提供に努めた。特に「紙しばいで知ろう四郎丸」では、東四郎丸コミュニティセンターへの出前講座としたことで、市民センター講座に参加したことのなかった地域住民にサークルの活動や地域のことを紹介することができ、日頃の学習成果の発表や活動継続へのモチベーションアップを図ることができた。

柳生市民センター

〔沿　革〕

柳生市民センターは、平成 9 年 4 月に、市内 52 番目の市民センターとして児童館・コミュニティ防災センターを併設して開設された。

当市民センターが位置する柳生地区は仙台市南端に位置し、住宅地・商業地として発展している。また自然環境に恵まれ、柳生和紙など伝統工芸も残されている。マンション等の建設に伴い、他地域からの転入者も多く、若年層の世帯が比較的多い地域である。

このような地域特性と地域資源を活かし、多様化する住民の要望等に対応しながら生涯学習の地域拠点として各種事業を展開し、地域コミュニティの形成・住民の自主的活動の場としての役割を担っている。

［★震災を踏まえた事業　●区役所との連携事業］

〔特色ある事業〕

事業名	柳生季節のコンサート		
参加者	どなたでも	延参加者	114 人
開催日	全 2 回　令和 2 年 11 月 14 日(土)、令和 3 年 2 月 27 日(土)		
協力者・協力団体	西中田こみこみスクール(学校支援地域本部)		
ねらい	地域住民が気軽に参加できるコンサートを四季折々に開催することで、地域住民の交流促進につなげ、顔が見えるまちづくりの一助とする。また、市民センターへ気軽に来館してもらうことで、市民センターの講座や利用方法、地域行事を知ってもらい、生涯学習を身近に感じてもらうきっかけとする。		
概要・成果	コロナ禍においても、安心・安全なコンサートを開催するため、様々な対策を行った。例年は申し込み不要なところを、今年は事前申し込み制で定員 50 名とした。さらに、来場者に検温や手指の消毒を行ってもらい、会場のイスの間隔を十分に取り設置した。その結果、小中学生、目の不自由な方（盲導犬同伴）から高齢者まで、幅広い年齢層が安心してコンサートに参加することができた。 令和 2 年度は、①「トロンボーンアンサンブルの調べ」②「馬頭琴の調べ」の 2 つのコンサートを実施した。特に②では西中田こみこみスクール（学校支援地域本部）と共催し、西中田小学校で出前コンサートとして実施した。その結果、当館から離れた西中田地域の住民に柳生市民センターを知ってもらうよい機会となった。また、オープニングパフォーマンスとして参加した、西中田こみこみスクールお箏教室の児童にとっては、コロナ禍での数少ない発表の場となり、また今後の励みにもなった。		

〔令和２年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
●柳生子育てサロン	乳幼児親子が季節行事を体験し、子育て期間中の仲間づくりの場とした。親子リトミック、子育て講話、ちびっこハロウィン、柳生和紙で風車作り、クリスマスお楽しみ会を実施した。	9 月 10 日～ 12 月 11 日	5	102
柳生キッズあそび隊	児童たちが、異学年・他校の児童と交流しつつ、新たな分野に興味をもつことを目的に実施した。実施内容:「ジャグリング体験」、「ニュースポーツ体験」、柳生中学校共催「科学実験」、仙台市環境共生課共催「工作講座」。	10 月 3 日 10 月 24 日 12 月 19 日 1 月 23 日	4	59

仙台市子ども会インリーダー研修会	新型コロナ感染症感染防止のため、資料配付による開催とした。内容は、世話人向けには「子ども会活動についてと世話人の役割について」、児童向けには「子ども会活動の意義とインリーダーの役割について」。	1月6日	1	－
柳生シニアスクール	高齢者が多くの人との関わりを通して、親睦を深め、自主的に学習に参加し学ぶことを目的に、地域の歴史、防災、健康、運動、コンサートなど、運営委員会自主企画の講座等を実施した。	9月16日～3月17日	7	341
【中止】 柳生地域防災講座	「救急救命講習会」の講座を計画していたが、コロナ禍のため中止とした。講座としては中止したが、市民センター・児童館職員のみで心肺蘇生法とＡＥＤ取扱い訓練を実施した。	【中止】	－	－
柳生いきいき健康サポート	健康寿命を延ばすこと（自助）と活動の運営に携わること（共助）を目指し、「交流ボッチャクラブ」を実施した。地域の方々が交流しながらボッチャのルールを理解しゲームを楽しんだ。また、ボッチャサポーターが運営に携わった。	9月17日 10月15日 11月19日 1月21日	4	42
【中止】 第１６回 柳生市民センター・児童館まつり	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、実行委員会で協議し、中止を決定した。	【中止】 9月26日	－	－
柳生・西中田地域懇話会	柳生市民センター・児童館の令和元年度の事業実績と令和2年度の事業計画の説明を行った。また、地域内の他児童館の状況や地域の方々の市民センターに対する要望などについて情報交換ができた。	6月19日	1	26
市民企画会議 柳生おとなの学校	新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあり、開催は12月にずれこんだ。そのため、企画会では令和2年度の講座実施は難しいという判断となり、令和3年度に向けての話し合いを行った。	12月16日	1	2
【中止】 市民企画会議「柳生おとなの学校」を経て企画する事業	新型コロナウイルス感染拡大の状況を考慮し、企画会の開催を遅らせたため令和2年度の講座実施を見送った。	【中止】	－	－

〔令和２年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

「中田西部地区の未来を育むプロジェクト」への支援

「中田西部地区の未来を育むプロジェクト」は、将来の柳生を担う子ども達の健やかな育ちを支えるため、町内会や学校支援地域本部など地域の諸団体で構成された団体で、令和2年度は「柳生・西中田キャンドルナイト＆ミニ Xmas コンサート 2020」を開催し、多世代での交流や近隣地区の住民との交流を通して魅力ある地域コミュニティの構築に取り組んだ。市民センターでは、この運営に係る助言や活動の場の提供、広報、団体間の連絡調整等の活動支援を行った。

このプロジェクトは学びの環境づくりを推進する「太白区内地域連携ネットワーク事業」の1事業で、このイベントでは前回より連携団体が増え、多様多彩のキャンドルアートを飾ることができ、また前回より多数の来場者もあり好評をいただいた。また、参加者の誘導や会場の見回りを、地元の防犯協会やＰＴＡ、小学校の「おやじの会」が担当するなど、安全・安心なまちづくりにも取り組み、団体の枠組みを越えた協力体制がより強固になっている。

富沢市民センター

〔沿　革〕

富沢市民センターは、平成 13 年 11 月、地下鉄南北線富沢駅近くにコミュニティ防災センターを併設して開館した。

当市民センターの位置する富沢地区は、一級河川名取川・ＪＲ東北本線・国道 286 号に囲まれた地域で、中央部を笊川が流れ、かつては富沢・大野田遺跡のある田園地帯であった。地下鉄南北線開業以来、交通の利便性から宅地化が急速に進み、高層マンションと昔ながらの農地が混在する地域に変貌した。当地区は、単身・核家族世帯が多く、住民の転出入の頻度も高い。

当市民センターは、市民が気軽に利用できる共有スペースとして親子室・娯楽室・図書室やラウンジを有し、年間を通し多くの地域住民が来館し、憩いの場や生涯学習の拠点として活用されている。

［★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業］

〔特色ある事業〕

事業名	●地域の子育て応援隊企画会～スマイル広場・ほっと in とみざわ～		
参加者	子育て支援団体	延参加者	41 人
開催日	全 6 回　令和 2 年 7 月 10 日(金)～令和 3 年 3 月 5 日(金)		
協力者・協力団体	太白区家庭健康課、富沢地区民生委員児童委員協議会、富沢地区社会福祉協議会、富沢児童館、大野田児童館、児童発達支援センター仙台市大野田たんぽぽホーム、太白区育児サークル応援隊たい子さん、子育てふれあいプラザ長町南「のびすく長町南」、市民ボランティア		
ねらい	地域の子育て支援団体が、連携して乳幼児親子向けのイベントを開催することにより、親子が子育て支援情報を知り、活用できるよう促す。また、子育て支援団体に情報交換の場を提供し、連携を強化するとともに、地域の子育て環境の整備につなげる。		
概要・成果	富沢地域は宅地整備により人口増加が顕著であり、他地域からの転入により新たな育児環境になじめていない乳幼児親子も多い。このため、区家庭健康課や児童館など子育て支援団体と連携して、当地域における子育て支援情報の発信を目的としたイベントを企画、開催する予定であったが、コロナ禍によりイベントの開催は中止した。 イベントは中止したが、何か情報発信ができないか企画会で検討を重ね、11 月末に富沢市民センターホームページ内に「つながる地域の子育て応援隊ホームページ」を公開した。ホームページでは、地域の子育て支援団体（連携団体）の紹介を掲載しているほか、市民ボランティアの協力を得て、乳幼児親子が安心して遊べるオモチャの作り方を掲載している。今後も適宜情報を更新するほか、講座と連動した活用についても予定している。 企画会は子育て支援団体が集い、協議や情報交換を通して互いに理解を深める機会となった。このことは、団体間の連携や地域の子育て支援の輪の強化につながっている。		

〔令和２年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
おはなしの部屋	乳幼児親子を対象とし、本の読み聞かせや親子のふれあい遊び、紙芝居などを行うおはなし会を開催した。気軽な参加を促すために申込不要の講座として企画していたが、感染対策のため申込制とし、定員を設けて実施した。	7 月 8 日～3 月 10 日	8	114
みんな de 防災	親子を対象とし、工作を楽しみながら災害について学び、防災力の向上を図る講座を開催した。親子で学ぶ防災クッキングの講座を 12 月に予定していたが、感染拡大を受け中止した。	7 月 23 日	1	33

とみざわ子どもの広場	小学生を対象に、地域資源である笊川の自然観察会を行った。感染症流行の動向を踏まえ、回数を減らして実施した。	9月5日	1	23
インリーダー研修会	子ども会活動の充実と活性化を図ることを目的として、児童及び世話人を対象とする研修会を開催した。感染防止のため資料配布による研修とした。	12月23日	1	22
富沢小学校連携事業	小学3年生を対象として、地域の歴史や町内会について学ぶ授業や、富沢の未来を考える授業、学習成果発表会などを行った。歴史を学ぶまちあるきは、動画での史跡紹介に変更した。	7月3日 1月14日 1月20日 3月5日	4	385
きらやか女性サロン	地域の女性の交流を促進し、孤立の不安を解消することを目的として、音楽鑑賞、文学講話、工作の講座を開催した。感染症流行の動向を踏まえ、回数を減らして実施した。	2月25日 3月4日 3月11日	3	50
富沢シニアクラブ	シニア世代を対象に、防災学習、歴史講話、音楽鑑賞の講座を開催した。感染対策のため受講生80人を2グループに分けて、同じ内容の講座を2回ずつ行った。	9月17日～ 2月18日	6	145
パワフルとみざわネットワーク	町内会やおやじの会、社会学級など幅広い年代の地域関係団体とともに、地域交流イベントを実施するための企画検討会議を行った。感染対策のためイベントを中止したが、次年度に向けた検討を行った。	6月20日 8月8日 10月10日 2月13日	4	56
【中止】（仮）富沢まつり	市内の感染状況を踏まえ、実行委員長と副委員長、事務局で協議した。参加者の安全を考慮し、中止を決定した。	【中止】 10月4日	－	－
富沢市民センター懇話会	地域ニーズや課題を把握して、市民センター事業に反映させることを目的として、地域内の各町内会長及び市民センター利用サークルの代表者を招き懇談を行った。	7月4日 12月4日	2	16
おりがみボランティア養成講座	おりがみボランティアサークルが地域で活躍するためのスキルアップ講座と、作品展示を行った。感染症流行の動向を踏まえて回数を減らして実施した。	7月17日～ 2月26日	7	62

〔令和２年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

おりがみボランティア「和の折り富沢」の活動支援

富沢市民センターで育成している「おりがみボランティア『和の折り富沢』」は、令和2年度から地域の公共施設でのボランティア活動を予定していたが、活動先の方針により、新型コロナウィルス感染症拡大防止のため中止となった。これを受けて当市民センターでは館内に常設展示スペースを新たに設け、活動成果発表の場として提供した。また、展示方法についての相談や助言も実施し、円滑に活動できるよう支援を行った。これにより、サークルが自ら展示を企画して作品を製作する経験を複数回積むことができ、活動への意欲と自主性を育むことにつながった。常設展示スペースは、施設の利用者へサークルのボランティア活動について発信する場にもなっている。

秋保市民センター・馬場市民センター・湯元市民センター

〔沿　革〕

秋保市民センターは、昭和 26 年 4 月「秋保村公民館」が設置されたのが始まりで、昭和 42 年 4 月町制施行に伴い「秋保町公民館」、昭和 63 年 3 月仙台市と秋保町の合併により「秋保公民館」、平成元年 4 月には「秋保市民センター」と改称された。平成 25 年 5 月には移転改築の上、現在の施設がオープンした。

馬場市民センターは、昭和 52 年 3 月、旧秋保町時代に開設され昭和 63 年 3 月仙台市と秋保町の合併により「馬場公民館」、平成元年 4 月に「馬場市民センター」と改称された。平成 29 年度には大規模修繕を実施し、平成 30 年 4 月に再開した。

湯元市民センターは、昭和 53 年 3 月、旧秋保町時代に開設され、昭和 63 年 3 月仙台市と秋保町の合併により「湯元公民館」、平成元年 4 月に「湯元市民センター」と改称され現在に至っている。

［★震災を踏まえた事業　●区役所との連携事業］

〔特色ある事業〕

事業名	秋保自然紀行「里山トレッキング」		
参加者	成人	延参加者	46 人
開催日	全 2 回　令和 2 年 11 月 11 日(水)、12 月 2 日(水)		
協力者・協力団体	－		
ねらい	秋保地域には四季折々で自然に親しむことのできる里山や林道が多くある。秋保ならではの植生や地域との関わりを学ぶ貴重な地域資源である。しかしながら、登山口や道順はわかりにくいこともあり、個人で歩くには難しい。そこでインストラクターのもと安全な山歩きや楽しみ方を学び、秋保の自然の魅力を知ってもらう機会とする。		
概要・成果	4 月に受講者は決定していたが、新型コロナウイルス感染症予防の観点から 5 月と 6 月の回は中止し、11 月 11 日に野尻地区にある秋葉神社とその周辺、12 月 2 日には白沢にある箱倉山を中心とした里山でのトレッキングを実施した。受講生は、自然を五感で感じながら、秋冬の里山ならではの紅葉や植物の冬芽を観察し、里山の魅力を満喫することができた。		

〔令和２年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
【中止】 あきう子育て広場	新型コロナウイルス感染症が流行する中、親子講座という性格も考慮し、共催の湯元児童館と協議した結果、令和 2 年度の講座は断念した。	【中止】 5 月～7 月	－	－
あきうサマースクール	コロナ禍のため湯元小での開催は中止となったが､｢ボンクラーズショー｣｢英語落語｣｢お天気教室｣を馬場小・秋保小にて実施し、子どもたちにとって貴重な体験となる機会を提供した。	8 月 19 日 8 月 20 日	3	64
【中止】 がんばれ秋保っ子スポーツ大会	コロナ禍でのスポーツ大会開催は難しく、新型コロナウイルス感染症の影響により日程調整が困難であるとの意見があったことから、連携先と書面決議にて中止を決定した。	【中止】 10 月	－	－

秋保手づくり倶楽部	地域の方を対象に、クラフト作りを通じて絆を深め仲間作りの機会を提供することを目的に開催した。消しゴムハンコづくりとランプシェードづくりの回では、講師の手元をビデオカメラで映し、離れたところからでも見えるように工夫する等の新型コロナウイルス感染症対策を施した。ランプシェードは「秋保ふるさと展示会」に展示し、高評価を得た。門松づくりでは、由来等も学びながら、交流する姿も見られた。	6月26日 7月31日 12月11日	3	41
あきう熟年のひろば	高齢者の生きがいづくりのために、「健腸生活」「エンディングノート」「絵手紙」「ギターコンサート」「介護予防」「民話」「感染症予防と笑いの効用」を実施。感染対策として開講を7月に、会場をホールに変更して実施した。	7月16日～ 2月18日	7	192
【中止】 秋保郷土かるた大会	新型コロナウイルス感染症のリスクを抑えることが難しいという判断から、秋保学びのコミュニティ「がんばれ秋保っ子」推進委員会の書面決議にて令和2年度の中止を決定した。	【中止】 1月16日	－	－
秋保地域出前講座	地域の集会所等を会場に「タイルコースター作り」「笑って歌ってご健笑！」「スプリングコンサート」の3回を開催した。実施に際しては感染症対策を徹底し、コロナ禍の中で参加者が交流する場として貴重な講座となった。	8月27日 9月16日 3月14日	3	65
地域防災力の向上	指定避難所となる秋保中学校と町内会長宅および市民センターにおいて、ズームによる災害時の連絡網確認・安否確認を実施して、地域の防災・減災の意識向上を図った。	6月28日	1	6
【中止】 秋保ふるさと文化祭	6月13日に実行委員会を開催し、協議の結果、令和2年度は中止と決定した。新型コロナウイルス感染症予防と来場者、出演出展者の安全を考え、中止はやむを得ないと判断した。	【中止】 9月26日 9月27日	－	－
里山保全市民企画会議	企画講座の実施に向けて3回の企画会議を行った。地域情報を交換しつつ、馬場地区にある旧小滝沢橋（めがね橋）の環境整備を通して、環境保全について学ぶ講座を企画した。	8月22日 11月28日 1月30日	3	11
市民企画講座 旧小滝沢橋（めがね橋）を未来につなげよう	旧小滝沢橋（めがね橋）の環境整備を通して、地域の財産を保全していく大切さとともに、その周辺に育つ草木や樹木などの自然環境についても学ぶ機会になった。	2月20日 3月6日	2	10

〔令和２年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

いってみっぺ秋保（地域資源活用委員会）の活動支援

「いってみっぺ秋保」は平成 24 年度に市民センター講座から立ち上がった団体で、秋保の魅力を発信する活動に積極的に取り組んでいる。

令和2年度の「いってみっぺ秋保」は、地域資源をテーマごとにまとめたパンフレット作成を主な活動として取り組んだ。これまで 36 種類のパンフレットが完成している（令和 2 年度は 5 テーマと No.1～35 の総合版 1 冊を作成）。このパンフレットは地域情報を発信する媒体として広く浸透し始めている。

市民センターでは、定例会の準備、他地域で同様の活動をしている団体との連絡調整やパンフレット作成のための調査や取材に同行するなどの支援を行った。

泉区中央市民センター

〔沿　革〕

泉区中央市民センターは、昭和22年9月、七北田中学校内に七北田公民館として開設された。昭和43年7月に市名坂字東裏の現在地に移転。平成16年1月には、施設の老朽化と機能拡充の必要性から改築され新館として開館した。今日まで泉区の生涯学習の拠点として、その役割を担ってきている。

本地域は従来の歴史的・文化的要素が残されている七北田地区と急速に発展した泉中央地区を包含し、住民を取り巻く社会環境は大きく変化しつつある。このような状況の中、現代社会に対応した生涯学習事業の展開を図っている。

［★震災を踏まえた事業　●区役所との連携事業］

〔特色ある（地区館）事業〕

事業名	泉中央みんなの交流サロン		
参加者	成人	延参加者	13人
開催日	全1回　令和2年12月3日（木）		
協力者・協力団体	泉中央地区民生委員児童委員		
ねらい	地域懇話会やお茶っこサロンで、市民センターについて知らない人が多く、市民センターがどんな施設で、どのように利用できるのかを地域の方に広報してほしいという要望が出された。そこで、気軽に参加できる講座を開催し、地域の公共施設としての市民センターを知ってもらうとともに、新しく何かを始めたいと思っている方へ、仲間づくりや学習の機会を提供する。		
概要・成果	気軽に参加できる内容での開催とするため、「クリスマスの折り紙」をテーマに、卓上用のクリスマスツリーを制作した。誰もが馴染みのある「折り紙」を取り上げ「クリスマス」といった季節感のあるテーマにしたことで参加しやすさにつながった。 市民センターの講座に初めて参加した方が4名おり、講座を通して市民センター事業やサークル活動支援について紹介できたことは大きな成果となった。 講座後には、感染防止に配慮しながら「お茶っこサロン」の場を設けたことで、講座の感想や参加者からの市民センターに対する希望などを聞くことができた。		

〔令和２年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
●泉中央ルンルン子育て	密を避けて、少人数で間隔を空けて開催。手遊び、絵本の読み聞かせ、わらべ歌を乳幼児と保護者の参加型で行った。	11月10日	1	8
【中止】 泉中央ふぁんふぁんフェスタ	乳幼児親子が安心して遊べる参加型のイベントを計画していたが、連携先と検討した結果、コロナウイルス感染状況を踏まえ参加者の安全性を考慮した上で、中止を決定した。	【中止】	－	－
元気な泉中央キッズ	少人数で間隔を空けて開催。小学生がハンダごてを使い、モーターの振動を利用して動くおもちゃを制作した。	11月28日	1	13
心も身体もリフレッシュ	自宅でも継続できるストレッチ体操や簡単なラインダンス、膝痛腰痛予防や食育、脳トレについて、座学と実技から学習した。	9月16日～ 1月13日	5	94

老壮大学「泉シニア塾」	川柳、軽運動、コンサートは90名の受講生を2班に分けて、同日に開催した。また「泉シニア塾通信」を2回発行し、地域の施設紹介や講話、脳トレクイズ、書籍紹介などを掲載し、全員に郵送した。	9月9日～2月10日	8	335
【中止】 泉中央減災講座	新型コロナウイルス感染状況を踏まえ、連携先と協議を重ねた結果、参加者の安全を考慮して、中止を決定した。	【中止】	－	－
【中止】 いずちゅうコンサート	年度内の開催を予定していたが、コロナウイルス感染状況により、参加者と出演者の安全を考慮して中止を決定した。	【中止】	－	－
【中止】 まつりだよ！泉区中央！	実行委員会代表者と協議を重ねた結果、来館者および参加者の安全を考慮して、中止を決定した。	【中止】	－	－
泉区中央市民センター地域懇話会	市民センター利用団体やサークル等の関係者による意見交換、学校関係者、各種団体、町内会関係者による情報交換、意見交換会を開催した。	6月30日 7月31日	2	23
七北田の郷土を紡ぐ食と暮らし	昭和30年代の地域農民の暮らしを描いた作品を数多く収蔵する「斎藤産土美術館」を訪ね、農業を生業の主としていた当時の生活や年中行事について学んだ。	10月3日	1	6
【中止】 泉中央地区つなぐ企画会議	企画員と検討した結果､安全を考慮して中止を決定した。	【中止】	－	－
「いずみ探訪」－地域案内人養成講座－	コロナウイルス感染拡大予防のため開催時期を変更した。地域の歴史・文化を学ぶ座学2回、七北田宿上町・下町のまち歩きを2回行った。その他に講師・受講生からの要望があり、2回の史跡巡りと座学を行った。	9月4日～3月5日	6	46

〔令和２年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

「七北田ジュニアリーダーサークルありす」の活動支援

中学生・高校生のボランティアサークル「七北田ジュニアリーダーサークルありす」は毎月1回定例研修会を開催し、地域団体や子ども会からの要請や連絡事項の確認のほか、自主的にメンバーの技術向上を図っている。市民センターでは、地域団体等からの依頼や問合せ等をジュニアリーダーにつなぎ、習得した技術を実践で活用できる場を提供することでジュニアリーダーの活動を支援しているが、令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響で、全ての要請が中止となった。また、学校への訪問もままならず新規メンバー獲得へのＰＲ活動ができなかったが、既存メンバーの声がけ等により新規メンバー７人が加入した。

新規メンバーが多数加入したこともあり、市民センターでは先輩メンバーが指導する機会を作るための自主研修会や卒業したメンバーを招いての勉強会を企画し、モチベーションが下がらないように工夫して支援を行った。また、卒業するメンバーを送るために Zoom を使用して三送会を開催し、間接的ではあったが、久しぶりにメンバーが顔を合わせて交流する機会を作った。

根白石市民センター

〔沿　革〕

根白石市民センターは、昭和21年11月、根白石小学校内に設置され、昭和23年役場の移転に伴い独立した施設としての活動が始まった。旧泉市で昭和28年に公民館新築促進が決議されてから10年の経過を経て、和38年7月、待望の公民館が移転新築された。以来20年余、根白石唯一の社会教育施設として活動を続けてきたが、老朽化により昭和63年4月、根白石字杉下前に新築移転し開館した。館の特色として、299席の移動式観覧席を備えた多目的ホールを有している。

当市民センターは泉区西部に位置し泉ヶ岳を背景にした豊かな自然環境に恵まれている。周辺は田園地帯と近年の開発による住宅地からなり、多様な住民構成の生涯学習の場として、また、スポーツ、コミュニティ、自主学習の場として広く利用されている。

平成28年度に大規模修繕工事を行い、建物の耐久性の向上とともに内外装の一新、各部屋の照明LED化や空調機の更新による省エネ化、トイレの洋式化や外靴のままで入館できるようになった等、利便性が向上した。

［★震災を踏まえた事業　●区役所との連携事業］

〔特色ある事業〕

事業名	市民企画会議「かむりの里いきいきプロジェクト」		
参加者	地域団体、地域住民	延参加者	57人
開催日	全11回　令和2年9月16日(水)～令和3年2月20日(土)		
協力者・協力団体	泉西部地区連合町内会、ふるさと会、根白石商店会、管内小・中学校とPTA、子ども会育成会、児童館、児童センター、根白石温水プール、泉かむりの里観光協会、まちづくり推進部泉区中央市民センター		
ねらい	昔から地域に受け継がれてきた風習、食文化、伝統行事などにスポットをあて、「地域資源の蓄積力」「地域への関心力」を高めていく取り組みとして、若い世代にも興味を持ってもらえるような事業を企画・実施する。また、高齢化が顕著な地域において、地域の良さを再認識し、その良さを発信できる若い人材の育成を目的とする。		
概要・成果	若い世代の企画員が話し合いを重ね、令和2年度の新たな取り組みとして、「根白石村民歌」を復活させた動画の発表会を実施した。動画の作成やYouTubeへの掲載を通して若い世代が活躍し、地域の歴史を振り返る機会となった。もう一つの企画の「凧揚げフェスタ」は、学校・ＰＴＡ・育成会等多くの地域団体からなる「凧揚げフェスタ実行委員会」と協働し、伝統文化の継承と世代間交流につながった。事業を通して、企画員同士の交流が進み、地域について考える若い世代のコミュニティが広がっている。		

〔令和２年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
根白石の正月行事～いっしょに作ろう～	根白石地域に昔から伝わる習わしについて学び、体験することで伝統文化を見直し理解を深めた。住吉台小学校と連携し、6年生を対象に地域の方から指導を受け、小正月行事のだんごさしを体験した。新型コロナウイルス感染症拡大により、松飾り作りは中止とした。	1月11日 1月15日	2	79
あつまれ！元気キッズ	福岡小学校と実沢小学校に出向き、学年の枠を越えて楽しみながら工作し、作ったもので遊ぶ機会を提供し、異年齢交流を始め多様な体験を通じて子ども達の成長を支援した。作った物を子どもが家庭に持ち帰り家族に披露するなど、見守り育てる地域の連携を深めた。	10月21日 10月28日	2	33
【中止】４校区合同インリーダー研修会	新型コロナウイルス感染症の影響により、子ども会育成会と内容等を協議した結果、中止することとした。	【中止】 11月28日	－	－

【中止】ジュニアリーダーと遊ぼう！	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、学校間交流行事等の自粛要請があり中止した。	【中止】 2月11日	－	－
凧作り教室	地域の伝統凧「するめ天旗」作りや凧揚げを通して、昔の人々の暮らしや工夫に思いをはせ、楽しく活動しながら伝統文化に親しむことを目的に、児童館・児童センター・小学校児童を対象に凧作り教室の実施または材料の提供をした。地域の物産イベント「おもしろ市」会場で凧作りワークショップを開催し好評を得ることができた。	10月17日 11月21日 11月25日	3	162
小学校社会学級連携事業 「かむりの里の魅力探訪」	小学校社会学級との共催により、若い世代も取り込み、地域への興味関心を引き出すことを目的として、感染症対策に配慮しながら開催した。第1回目は、地域内に古くからある地元の酒造店の方より酒粕の効用や使い方について学び、第2回目は地元の方から地域の伝統である正月飾りづくりについて学んだ。	9月25日 12月23日	2	24
さわやか大学	新型コロナウイルス感染拡大により開催を9月～2月に変更して、高齢者の生きがいづくりのため、健康講話、運動、交通安全講話、朗読会など6回の講座を開催した。	9月17日～ 2月18日	6	226
出前講座	地域の集会所や老人憩の家において、交通手段が少なく来館が困難な地域の高齢者を対象にマジックショーを実施した。コロナ禍により外出する機会が減っている中、交流を深める貴重な機会となった。新型コロナウイルス感染症の影響により､開催を2回に減らし実施した。	8月26日 10月18日	2	27
【中止】冠のふるさと伝承まつり	冠のふるさと伝承まつり実行委員会との協議の結果、新型コロナウイルス感染症の影響により実施は困難と判断し、中止とした。	【中止】 11月21日	－	－
【中止】ふれあいウォーキング～共助のまち・根白石～	町内会と協議をした結果、新型コロナウイルス感染症の影響により実施は困難と判断し、中止とした。	【中止】 11月3日	－	－
【中止】根白石市民センターまつり	参加予定団体へのアンケート実施の結果を受けて、実行委員会役員との協議した結果、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止を決定した。	【中止】 11月21日	－	－
地域懇話会	地域で活動している町内会や団体、市民センターを利用している地域住民が広く意見を交換し、地域課題や解決策を共有することを目的に開催した。また、参加者に市民センター事業等への理解を深めてもらうとともに、参加者から伺った意見を今後の事業展開へ繋げるための情報交換を行った。	7月9日 11月20日	2	20
市民企画講座「かむりの里いきいきプロジェクト」	地域関連団体と若い世代の企画員との協働で､12月にコロナ対策をとり屋外で「凧揚げ大会」を実施。また2月には根白石村民歌を復活させたミニ音楽発表会を実施した。	12月5日 2月7日	2	142

〔令和２年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

「根白石ガイドボランティア」の活動支援

根白石ガイドボランティアは、テーマに沿った歴史の勉強会や実地調査等の学習会を定期的に月 2 回継続して実施している。令和 2 年度は、その学習成果をまとめた 4 冊目となる冊子「歴史の宝庫 根白石４」を制作するとともに（令和 3 年 6 月に発刊)、感染対策に配慮しながら地域内外からの様々な依頼に応じて根白石のガイドを行った。

市民センターではボランティアガイドの活動を記録し、活動に関するさまざまな情報の提供や相談に応じたりするなど、積極的にその活動を支援している。

南光台市民センター

〔沿　革〕

南光台市民センターは、昭和 52 年 4 月、「南光台公民館」として開館し、昭和 62 年 8 月に泉図書館南光台分室が併設された。その後、平成 2 年 4 月に「南光台市民センター」と改称され、地域住民の交流の場・生涯学習の場として、その役割を担ってきた。

平成 23 年 3 月の東日本大震災により建物が全壊したが、元の場所に鉄筋コンクリート造 2 階建管理棟及び多目的ホールが新築され、平成 27 年 3 月 28 日に再開館した。

［★震災を踏まえた事業　●区役所との連携事業］

〔特色ある事業〕

事業名	子ども参画型社会創造支援事業「南光台をもっと元気に委員会 2」		
参加者	中学生	延参加者	75 名
開催日	全 15 回　令和 2 年 8 月 1 日(火)～令和 3 年 3 月 7 日(土)		
協力者・協力団体	南光台小学校、南光台中学校、南光台東小学校、南光台東中学校、八乙女小学校、八乙女中学校、浦田と南光台を学ぶ会		
ねらい	子どもたち（小学生、中学生、高校生）が、地域の中で役割を持ち、社会の構成員として積極的にまちづくりに参加し、自分たちの地域の課題に気付き、地域・社会の一員として行動する視点を持つことで、将来的に地域や社会で主体的に活躍できるようになることを目指した「人づくり」を行う。青少年が地域づくりに関わることへの地域住民の期待を踏まえ、地域の未来を担う次世代を育成していく。		
概要・成果	平成 30 年度からの企画員を含め 8 名の中学生が企画員となり、地域活性化に生かそうと南光台地域の魅力を発信する「かるた」を制作した。新型コロナウイルスの影響で、企画会議のスタートが予定よりもかなり遅れたため、7 か月という短期間で多数回の会議を重ね、企画員が互いに協力しながら、地域の中の「名所旧跡、人、良さ」などを題材に読み札を考えたり、絵札に使用する写真を撮影したりして「南光台＆八乙女ものしりかるた」を完成させた。さらに、かるたの拡大版を作り、地域住民同士の交流を図る「巨大かるた大会」も企画した。かるたの制作にあたっては、企画員も地域をより深く知る機会となった。 巨大かるた大会は、コロナ禍での実施となったが、企画員が知恵を出し合い、コロナ対策を十分に盛り込んだ『３密を避けながら地域の子どもや大人が楽しく安全に交流できるかるた大会』を開催することができた。寒い中でのかるた大会で、企画員の中の 5 名のジュニアリーダーが機転を利かせて、プログラムにはなかったゲームで場をつなぎ、参加者や見学者を和ませるなどした。企画員の一人ひとりがこれまでの経験を活かし、積極的に行動できるまで成長したのは大きな成果であり、今後の地域貢献へつながることを期待したい。		

〔令和２年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日･期間	回数	延参加者
こどもチャレンジクラブ	気象に関する実験、フラワーアレンジメント、絵手紙の年賀状制作、地域の方も参加しての音楽鑑賞、親子参加の移動天文台ベガ号による星空観察を実施した。	7 月 25 日～2 月 23 日	8	173
南光台巨大かるた大会	「南光台もっと元気に委員会 2」で作成したかるたを拡大して「巨大かるた」とし、感染症対策を十分に図りながら大会を開催した。小学生の部、中学生の部、一般の部の 3 部門で競い合った。	2 月 27 日	1	37
複数年事業 みせましょう！おやじの力	南光台おやじの会のメンバーが月 1 回の会議で小学生対象の昔あそびの会とフットゴルフ大会を企画し、実施した。そのほかにも、市民センターまつりでは出店部門で参加した。	6 月 20 日～3 月 27 日	13	89

≪泉区≫

みんなの学びカフェ	誰もが気軽につどい学べる場を提供するため、地域住民を対象に絵手紙、伊達家紋切り、川柳、朗読、健康体操を開催した。	8月7日～ 2月16日	5	50
南光台学院	地域の高齢者を対象に、医療、食、歴史、終活、消費トラブルの講話を行った。また、公開講座として12月に語り芝居を実施した。	7月17日～ 2月19日	9	469
市民センターの出前サロン	腹話術と落語の寄席、クラシックギターコンサート、チェアヨガをそれぞれ南光台地域のコミュニティセンターや集会所を会場に開催した。	11月29日 1月20日 2月26日 3月4日	4	116
南光台市民センターまつり	コロナ感染拡大防止対策のガイドラインに沿った予防対策をしながら、開催方法を変更し、日数を増やして開催した。ステージ発表上映会・作品展示・出店を行った。	1月28日 1月29日 1月30日 1月31日	4	578
南光台地域防災講座	南光台中学校との共催により中学校3年生対象として開催予定だった防災講座は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、実施できなかった。 3月には、少人数の参加ではあったが、地域の方を対象に救命救急講習会を開催した。	10月31日 3月20日	2	60
南光台団地今昔物語	地域の写真を収集し、公募で集まった4名のメンバーとともにアーカイブ活動を行った。概ね月1回の定例会でまとめ方について話し合い、写真の検索ができるデータベースを作成した。	6月24日～ 3月24日	11	34
南光台市民センター地域懇談会	担当エリア内の町内会、学校、地域の団体や主な利用団体との話合いの場で、市民センターについての説明と地域課題や地域ニーズを伺う機会を2回に分けて設けた。	10月22日 10月29日	2	35

〔令和２年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

「南光台おやじの会」の活動支援

「南光台おやじの会」は、平成30年度の複数年事業「ミドルエイジからの地域デビュー」から発足した南光台地域で活動するボランティア団体である。

令和2年度はコロナ禍の中でもできることを模索し、小学生向けのイベントとして「ちゃれんじ！むかしあそび」「フットゴルフ大会」の2事業を市民センター・おやじの会共催で企画・実施した。その中で市民センターは、地域や学校への協力依頼など、運営面でサポートすることができた。

様々なイベントが中止となり地域のつながりが希薄になる中、子どもたちの遊びの場を提供するとともに、おやじの会の活躍の場も増やすことができた。イベント開催時の感染症対策については、おやじの会のアイディアと市民センターが蓄積してきたノウハウを合わせ、安心・安全で楽しめる事業を実施することができた。

黒松市民センター

〔沿　革〕

黒松市民センターは、昭和 47 年 4 月に開館した八乙女公民館を前身とし、平成 4 年 10 月に現在地に新築移転され開館した。

当市民センターは、地域における生涯学習及びスポーツやサークル活動などの交流の場として活用されている。また、地下鉄南北線黒松駅に隣接しており、交通の利便性が良いことから、利用者は広域にわたっている。

［★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業］

〔特色ある事業〕

事業名	読み聞かせボランティア活動者育成支援事業		
参加者	地域住民	延参加者	34 人
開催日	全 3 回　令和 2 年 10 月 22 日(木)～令和 3 年 3 月 11 日(木)		
協力者・協力団体	めだかのがっこう		
ねらい	黒松小学校では朝の読書活動を実施する学年を増やしたいという要望があったが、地域の読み聞かせボランティアサークル「めだかのがっこう」では人員不足により要望に応えることができないでいた。そこで、新たなボランティア募集と既存のメンバーのスキルアップを図ることで学校と地域の繋がりを深めるとともに、地域児童の育成支援に繋げる。		
概要・成果	黒松小学校の朝の読書会に参加できる方を対象に募集し、既存のボランティアとともに講師から読み聞かせの基本や選書について学ぶとともに、実際に活動している先輩メンバーから活動事例等について話を聞いた。講座開始時は、参加者の多くが自信のない様子だったものの、受講をするにつれて、講師の細やかな指導や先輩ボランティアからのアドバイスを受けて徐々に意識が変わっていく様子が見られた。 また、先輩ボランティアにとっても新たな人材を迎えるためのスキルアップ向上の意識が高まり、双方にとってよい効果が生まれた。 今回の受講者のうち、5 名が「めだかのがっこう」に新規登録を行ったことで、黒松小学校の読書活動推進へと寄与できたとともに、これにより地域で活躍する人材を増やすことで黒松地域の活性化につなげていきたい。今回の 3 回の講座だけでは読み聞かせ活動に入るには不十分なため、令和 3 年度も引き続き学習を続ける予定である。		

〔令和２年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
【中止】 ●（仮）子育て中のママたちへ～怒鳴らないで子育てしたい～	子育て中の母親を対象とした怒鳴らない子育て講習を通して、子育ての不安解消や仲間づくりを目的に企画した。新型コロナウイルス感染症の影響により、講師との日程調整がつかず、やむを得ず中止とした。	【中止】 7 月 1 日 7 月 8 日 7 月 15 日 7 月 22 日	－	－
わくわく子どもの時間	小学生全学年を対象に、「ジュニアリーダーとあそぼう」を開催した。令和 2 年度活動する機会がほとんどなかったジュニアリーダーに活動の場を提供し、学年を超えた交流を図った。	1 月 9 日	1	6
【中止】 （仮）ＡＫＤドッジボール地下鉄リーグ決定戦	共催先である近隣児童館と協議した結果、新型コロナウイルス感染症の影響により中止を決定した。	【中止】 11 月 21 日	－	－

黒松寿大学	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、例年のような黒松市民センターを会場とする老壮大学を開催せず、「黒松寿大学だより」を発行し受講生に郵送した。	10 月 23 日 12 月 27 日	2	144
元気アップ生活～ボッチャで健康～	コロナ禍の影響により当初予定していたボッチャの開催が難しくなったため、高齢者の健康維持を第一目的とした「ノルディックウォーキングとストレッチ」の内容で開催した。	10 月 29 日	1	9
【中止】 地域防災講座	講座開催案内の段取りまで進めていたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、連携先とも協議の結果、中止とした。	【中止】 6 月 6 日 7 月 11 日	－	－
真美沢公園元気プロジェクト	令和 2 年度は、予定していたイベントは中止としたが、定例会を 1 回と環境整備活動の一環として公園内散策路の看板製作を 2 回行った。	10 月 17 日 1 月 16 日 3 月 20 日	3	24
【中止】 2020 年　黒松市民センター・黒松児童館まつり	共催先である児童館および実行委員会との協議の結果、市内の新型コロナウイルス感染状況を踏まえ、参加者の安全等を考慮したうえで、中止を決定した。	【中止】 9 月 26 日	－	－
地域懇話会	新型コロナウイルス感染症への不安から、当初予定していた形ではなく、老壮大学の運営委員会・町内会連合会の定例会の場を借りて実施した。	10 月 1 日 12 月 1 日	2	22
地域の課題を考える市民企画会議	コロナ禍の影響で遅れたが、2 月と 3 月に企画会を開催し、令和元年度からの課題「地域の買い物難民」についての取組と次年度に取組む新たな課題についての意見交換を行った。	2 月 9 日 3 月 16 日	2	12
【中止】 （仮）地域の課題を考える市民企画会議を経て企画する事業	新型コロナウイルス感染症の影響により、企画会を開催した時期が遅かったため、会議を経て企画するまでには至らなかった。	【中止】 通年	－	－
いろどり工房～もの作りボランティア養成講座～	手芸や工芸などの学びを通して誰でも気軽に集える場の提供、および参加者が地域においてボランティアとして活躍できるよう、折り紙、一貫張りなどの実技研修を行った。	11 月 19 日 12 月 17 日 1 月 21 日	3	16

〔令和２年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

くろまつミニギャラリー（作品展示）を通した活動支援

例年開催していた「市民センターまつり」がコロナ禍により中止となったことを受け、11 月～3 月に文化系サークルの活動支援をねらいとした「くろまつミニギャラリー」を市民センターロビーにて開催した。1 団体 1 週間程度の期間で文化系サークル４団体と児童館や主催事業の展示を企画したところ、地域の個人の方 9 名からも作品を展示したいという申し込みがあり、合計 15 の企画展示となった。

サークルメンバーの減少や活動自体がコロナ禍の影響を受けて不活発化している中で、このミニギャラリー開催でサークルに興味を持つ人や、新たな地域講師になれる人材を発掘できるなどの成果があった。

将監市民センター

〔沿　革〕

将監市民センターは、昭和 47 年 11 月、将監団地の開発・発展を背景に地域住民の交流の場として開館した「将監会館」が始まりで、昭和 53 年 4 月、新たに地域生涯学習の拠点施設として名称を「将監公民館」に改め、昭和 54 年 6 月には研修室棟も竣工し施設の拡充が図られた。その後、仙台市との合併に伴い、平成元年 4 月から「将監公民館・将監市民センター」となり、翌年 4 月には「将監市民センター」と改称された。

平成 3 年度には、施設の大規模な改築が行われ、平成 4 年 4 月に再開し現在に至っている。当市民センターは、軽スポーツ活動が可能なホールを有し、多くの人々に利用されている。

［★震災を踏まえた事業　●区役所との連携事業］

〔特色ある事業〕

事業名	将監「ふるさと」づくりプロジェクト～将監沼を楽しもう～		
参加者	小学生親子	延参加者	24 人
開催日	全 3 回　令和 2 年 10 月 3 日（土）、10 月 10 日（土）、10 月 17 日（土）		
協力者・協力団体	将監沼育林ボランティア		
ねらい	将監地域は、昭和 45 年に入居が始まったが、住民の中には将監で生まれ育ち、現在も生活している人々も多い一方、マンション等の建設により新規入居者も多くなってきており、地域名の由来である将監沼のことをよく知らない住民も増えている。 そこで、地域資源である将監沼を次世代へ引継ぎ親しみをもってもらうため、子どもから大人まで幅広い世代に将監沼の活用を促進するとともに、「将監沼育林ボランティア」が中心となり将監沼の自然を活かした取り組みを実施できる環境づくりを目指す。		
概要・成果	複数年事業の最終年度として実施。過去 2 年の活動は、将監沼にカブトムシの養殖床を整備しカブトムシを将監沼の自然の中に帰すことで、生きものを大切にする心や将監沼に親しむきっかけをつくってきた。 令和 2 年度は将監沼の自然を活かした取り組みのまとめとして、将監沼の木々の名前を学び、樹名板を作成・設置した。将監沼の整備に関わる将監沼育林ボランティアと作業することで子どもたちと育林ボランティアとの交流が生まれ、保護者には自然保護や育林ボランティアの活動への理解を深めてもらえた。また、このプロジェクトで設置した樹名板は、学びのコミュニティ推進事業「将監こども楽校」の主催イベントである将監沼ウォークラリーにも活用してもらうことができた。 この複数年事業での取り組みを通して、地域の親子が地域資源である将監沼に興味を持ち、「ふるさと将監」を思う気持ちを育むことにつながる事業ができた。		

〔令和２年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
子どもチャレンジ	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、地域の児童館・児童センター・小学校等と連携で当初計画していた内容はすべて中止。小学生対象に自然素材を用いた「クリスマスリースづくり」を開催した。	11 月 28 日	1	17
将監寿大学	高齢者を対象に健康講話、歴史講話、演芸会等の講座を開催した。感染対策として開催時期を遅らせて、広い会場での開催とした。	10 月 9 日～ 2 月 19 日	5	204
みんななかよくグラウンドゴルフ大会	開催に向けて企画会議を 2 回行い、各館の役割分担、大会当日の運営について話し合った。その後共催先の児童館、児童センターと協議の結果、大会中止を決定した。	6 月 3 日 6 月 10 日	2	12

将監地域防災講座 ～拡げ、つなげ防災の輪～	地域住民を対象に泉消防署職員を講師に招き、コロナ禍における救命活動の現状の話を聞き、救命救急講習を行った。	1月23日	1	14
出前講座「なごみサロン」	地域の方から「新型コロナウイルス感染症による自粛生活が長引き外出機会が減ったことで運動不足になった高齢者が増えてきている」との声を受け、内容を軽体操の講座に変更して3回実施した。	7月16日 9月25日 10月7日	3	64
みんなの居場所をつくろう	情報交換を目的とした定例会を3回実施。最終回は講師を招き「企画員の学びにつながる勉強会」並びに「コロナ禍でできる集いの場」について話し合った。	7月17日 9月18日 11月28日 1月22日	4	51
【中止】 将監ふれあいコンサート	共催団体と協議を重ねた結果、市内の感染状況を踏まえ、参加者やスタッフの安全を考慮し、中止を決定した。	【中止】	－	－
【中止】 将監市民センターまつり	実行委員会の開催、まつりの準備及び実施当日における観客・出演者・スタッフの新型コロナウイルス感染防止の観点から中止を決定した。	【中止】 10月3日 10月4日	－	－
【中止】 将監交流ひろば(仮)	三密を伴う地域住民の交流の場を設ける状態になく、また利用を予定していた「みんなのサロン」の使用もできないことから中止を決定した。	【中止】	－	－
将監地域懇談会	地域の学校ＰＴＡ関係者を対象にコロナ禍における活動状況や課題について話し合いを行った。	1月30日	1	5

〔令和２年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

「将監中央将寿会」の活動支援

将監中央町内会の老人会である将監中央将寿会は、会員が保有している様々なお宝を持ち寄り、将監中央町内会の集会所や将監老人憩の家等で「珍品・秘蔵品・作品展示会」を開催したが、なかなか人が集まらず、交流もままならない状況であるとの話があった。

そこで市民センターでは、会場として将監市民センターを利用することを提案し、年度早々に市民センターだより等にて地域へ開催情報を提供する支援を行った。

その結果、コロナ禍にもかかわらず、例年以上の見学者が訪れ、来訪された方々との交流が深められたとの言葉を多くの会員の方からいただくことができた。

加茂市民センター

≪泉区≫

〔沿　革〕

加茂市民センターは、昭和 58 年 4 月、加茂公民館として開館した後、仙台市と泉市の合併や公民館と市民センターの併設を経て、平成 2 年に現施設名に改称された。平成 10 年には併設されていた加茂体育館が編入され、現在に至っている。開館当時は長命ケ丘・泉中山の区域まで対象としていたが、平成 5 年 4 月の長命ケ丘市民センター開館に伴い、現在は加茂・虹の丘・上谷刈・みずほ台を対象としている。

当市民センター周辺地区は、賀茂神社や古内志摩の墓、中世の館跡である長命館公園などが点在しているほか、七北田川や丸田沢堤・三共堤がある水の森公園などの自然環境にも恵まれている。

［★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業］

〔特色ある事業〕

事業名	★災害から身を守るために「避難所運営における新型コロナ感染対策」		
参加者	地域の方	延参加者	21 人
開催日	全 1 回　令和 2 年 11 月 28 日(土)		
協力者・協力団体	加茂連合町内会、加茂地域防災協議会、仙台市危機管理室減災推進課、仙台市百年の杜推進部百年の杜推進課・公園課		
ねらい	令和 2 年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、年度当初に計画していた 2 コマの防災講座や地域の防災訓練は中止となり、また、新型コロナウイルス感染症流行下での避難所運営は地域でも課題になっている。 そこで、避難所における新型コロナウイルス感染症対策を学ぶ機会を設け、地域の防災・減災力向上の一助とする。		
概要・成果	加茂連合町内会及び加茂地域防災協議会と共催で仙台市危機管理室減災推進課の職員を講師に招いて防災講座を行い、「避難所運営における新型コロナ感染対策」について学んだ。令和 2 年度は、地域の総合防災訓練等が中止になるなか、地域住民にとって興味関心の高い内容の講座となった。 また、新型コロナウイルス感染症対策として市民センターに納入されたプラスチックダンボール製パーテーション、受付用パーテーションや従来から備蓄している発電機、ＬＥＤ投光器などの現物確認、取り扱いなどについても学び、地域の防災・減災力の向上の一助とした。		

〔令和２年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
加茂すくすく子育てひろば	加茂児童センターとの連携開催が中止になり、市民センター単独で 11 月 12 日に「わらべうたベビーキッズマッサージ」を開催した。また、虹の丘児童センターとの連携開催は 1 回目が中止となり、2 回目は 12 月 22 日に「クリスマス親子リトミック」を開催した。	11 月 12 日 12 月 22 日	2	28
まるごとチャレンジキッズ	ガラスタイルを材料としたフォトスタンド制作を行った。またトンボ研究会の講話と、生きた昆虫と標本の観察を行った。感染予防対策のため加茂、虹の丘児童センターとの連携講座は中止となった。	9 月 19 日 11 月 15 日	2	27
市民企画講座「秋の水の森公園をあるこう！」	自然観察会として秋の水の森公園を散策し、身近な地域の野鳥や植物を観察し自然の豊かさを知ることができた。感染予防対策のため散策講座 1 回と調理講座は中止とした。	10 月 29 日	1	13

ワイワイ若がえり塾	予定していたうち5月～7月を中止。9月～翌年2月までは、会場を体育館に変更し、内容も館外学習や交流会を座学に変更して実施。健康講話（2 回）、文学講話、軽体操、朗読鑑賞劇、笑い学会による講話を実施した。	9月17日～ 2月18日	6	312
はつらつ加茂	高齢者を対象に新聞を使ったちぎり絵作成、トーンチャイム体験（2 回）、軽体操、除菌もできるアロマスプレー作成を行った。	9月9日～ 1月13日	5	77
寄り道サロン	11月20日に虹の丘コミュニティーセンターとの連携講座「新聞ちぎり絵づくり体験」を開催した。なお、泉中央南・上谷刈地区連絡会及び泉区家庭健康課との連携講座「そばうち体験会」2回はコロナ感染拡大のため中止となった。	11月20日	1	14
【中止】 加茂市民センターまつり	関係3部門代表と検討し、市内感染状況を踏まえ運営全体の安全性を考慮し中止を決定した。地域にはセンターだより・ホームページ等で、また関係団体には「市民センターまつり中止のお知らせ」を配布して周知し、理解を得た。	【中止】 10月17日 10月18日	－	－
地域懇談会	1月23日に加茂・上谷刈地区、2月20日に虹の丘・みずほ台地区の地域諸団体等の方との懇談会を実施し、市民センターや地域の情報・課題等について情報共有を図った。	1月23日 2月20日	2	35
市民企画会議「エンジョイ加茂ン」	感染予防対策のため6月スタートとなった。加茂地域の魅力再発見をテーマに会議を行い、企画員が講座を企画し、写真展開催やリーフレット作成の準備を行った。	6月25日～ 2月25日	10	40

〔令和２年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

「加茂地域歴史ガイドボランティア」の活動支援

加茂三丁目の北西に、伊達騒動でただ一人生き残り、仙台藩を取り潰しから救ったとされる家臣古内志摩義如の墓がある。近くにお住まいの末裔の方が墓の管理をしているが、市民センターの養成講座から立ち上がった「加茂地域歴史ガイドボランティア」が声がけして年2回清掃奉仕活動をしている。

加茂市民センターでは、奉仕活動参加者募集や活動状況を市民センターだより、チラシ、ホームページで広報するなど、清掃奉仕活動等にかかる様々な支援を行い、ボランティア活動の活性化を図っている。

高森市民センター

〔沿　革〕

高森市民センターは、地域住民の生涯学習活動の中心的施設として、平成元年 4 月「高森公民館」として開館した。その後、機構改革に伴い「高森市民センター」と改称された。

高森地区は、昭和 40 年代後期から、民間企業によって開発された地域で、閑静な住宅地のほか、高森東公園や高森西公園など豊富な緑地が残され、自然と調和した美しい街区が特徴的な地域である。

地域では町内会や地域ボランティア団体が中心となり、四季を通じたイベント等を行い、地域活性化の推進に取り組んでいる。その中で、当市民センターは、地域への愛着心を育む交流の場として、多くの地域住民に利用されている。

［★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業］

〔特色ある事業〕

事業名	市民企画講座「魅力あふれる高森をめざして」		
参加者	地域住民	延参加者	130 人
開催日	全 4 回　令和 2 年 12 月 5 日(土)、令和 3 年 1 月 16 日(土)、2 月 16 日(火)、2 月 27 日(土)		
協力者・協力団体	結いの会・高森東		
ねらい	コロナ禍という、今までとは違う窮屈な生活の中でも住民が孤立することなく、前向きに笑顔で心穏やかな生活を送れるよう、様々な切り口から学びの機会を提供する。また、地域のボランティア団体と共催することで幅広く広報し、市民センター事業とボランティア活動を知ってもらう機会とする。		
概要・成果	地域の方がコロナ禍でも笑顔で穏やかな生活が送れるように、公募の市民企画員が地域ボランティア団体「結いの会・高森東」の協力のもと 4 回の講座を企画・実施した。 《内容》 第 1 回　講話「新型コロナウイルスと季節性インフルエンザの特徴と感染予防」 第 2 回　「Zoom の使い方」 第 3 回　「冬のあったか朗読会」 第 4 回　「絵本の朗読と弦楽器の音色に包まれて」 《成果》 第 1 回の講話は、企画員のほか共催した地域ボランティア団体のつながりにより、広報や資料印刷など多くの地域の方の協力をいただいた。また、地域住民に講師をしていただいたため、その後の社会学級主催講座や近隣の大学の講演へとつながった。 「冬のあったか朗読会」では、受講者の中に近隣地域の朗読サークルのメンバーがいたこともあり、サークル活動再開のきっかけとなった。 また、「絵本の朗読と弦楽器の音色に包まれて」では、コロナ禍で活動の場がなかった地域の高校の弦楽アンサンブルを呼ぶことで、高校生たちに演奏する機会を提供することができた。 コロナ禍でなかなか交流ができずにいた地域の方々に、久しぶりに顔を合わせる機会を提供するとともに、新しい「コロナ禍での交流のあり方」も提案することができた。		

〔令和２年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
高森地域子育て支援講座	6 月に託児付きで開催予定だったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため延期した。その後託児ボランティア、児童センターと協議の上、託児を取りやめ市民センター単独で開催した。	10 月 14 日 10 月 21 日 10 月 28 日	3	31

虫の声を楽しむ会（生物多様性保全推進事業）共催事業　高森「虫の声を楽しもう」	地域資源である高森東公園の自然や環境保護の大切さを理解するため、身近な昆虫の生態や虫の声など、夜間の観察会を行った。	9月5日	1	21
【中止】 インリーダー研修会	次年度に子ども会のリーダーとなる小学校5年生児童と保護者(世話人)を対象に、子ども会活動の意義やリーダーとしての心構えを学ぶ機会を提供する予定だったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、子ども会育成会から要望があり中止とした。	【中止】 8月22日	－	－
【中止】 高森きっずチャレンジ	感染リスクを考慮し、予定していた1、2月の調理実習は中止。3月の「ジュニアリーダーとあそぼう！」の開催に向け準備を進めていたが、新型コロナウイルス感染症拡大状況を鑑み、参加児童およびジュニアリーダーの安全を第一に考え、やむを得ず中止とした。	【中止】 1月30日 2月10日 3月13日	－	－
【中止】 高森野鳥の森を育てよう	高森地域の自然環境に興味を持たせることを目標に、子ども対象に季節ごとの野鳥観察会等を予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止とした。	【中止】	－	－
高森塾（老壮大学）	コロナ禍で家にこもりがちな高齢者が、楽しみながら学べる機会を提供した。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため､当初予定していた9回実施予定を4回に変更。そのうち1回は資料を全員に郵送し、受講生の自宅での学習を促した。	7月21日 9月25日 10月23日 11月27日	4	197
【中止】 ウェルカム世代間交流	高森地区および高森東地区の社会福祉協議会と市民センター、地域の諸団体が協力して、交流会を開催する予定だったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴い、中止とした。	【中止】 11月21日	－	－
みんなで学ぶ地域防災	地域の連合町内会が実施する防災会議に出席、防災訓練で補助避難所としての市民センターの役割を学習、共有した。	8月6日～ 10月22日	6	288
【中止】 高森市民センターまつり	新型コロナウイルス感染症の影響によるサークルの活動自粛、3密が避けられない状況等をふまえ、中止を決定した。活動発表を希望するサークルのＰＲや館内ギャラリーでの作品展示等の支援を行った。	【中止】 9月19日	－	－
高森絆コンサート	7月及び11月のコンサートは､新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、出演者である児童・園児の安全を考慮し、中止とした。12月に、感染症対策を講じた上で、市民センター利用団体であるジャズバンドによるコンサートを開催した。	12月12日	1	39
高森地域懇談会	地域の課題やニーズを把握し、市民センターの運営に生かすことを目的に、懇談会を行った。	10月22日 11月28日 2月27日	3	27
複数年度事業　市民企画会議「魅力あふれる高森をめざして」	公募の市民企画員が、地域の方がコロナ禍でも笑顔で穏やかな生活が送れるような講座を実施するため、企画会議と4回の講座を企画・実施した。	9月1日～ 2月27日	9	34

〔令和２年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

「高森学童農園支援ボランティア」の活動支援

高森学童農園支援ボランティアは、市民センターのボランティア養成講座から立ち上がった団体で、地域の小学校・幼稚園が、教育の一環として行う「学童農園」において、子どもたちの学びを支える活動を行っている。市民センターでは、コロナ禍で活動自粛が続く中、会員の募集活動や教育施設との連絡調整を行うなど、教育施設とボランティアをコーディネートし、支援を行っている。

松陵市民センター

〔沿　革〕

松陵市民センターは、平成 2 年、泉区の北東に位置する松陵ニュータウンの住宅地に開館した。松陵・永和台・歩坂町・山の寺・向陽台・明石南の 6 つの町を担当エリアとし、県民の森をはじめ、豊かな自然と緑に恵まれた地域に立地している。子どもの減少により、松陵地区では平成 25 年に 2 つの小学校が統合されるなど全般的に少子高齢化が進んでいる地域であるが、当市民センターは地域における生涯学習の拠点として市民に親しまれる事業を展開し、地域コミュニティづくり、交流の場として地域住民に広く活用されている。

［★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業］

〔特色ある事業〕

事業名	みんなで創る紙芝居講座		
参加者	地域住民	延参加者	32 名
開催日	全 8 回　令和 2 年 7 月 30 日(木)～令和 3 年 2 月 25 日(木)		
協力者・協力団体	まちづくり推進部泉区中央市民センター		
ねらい	地域にちなんだ紙芝居を物語から創作し、図書室や学校など地域で活用してもらう場を広げていくことを通して受講生が地域活動に関わるきっかけを作る。また、継続することや発表する場を設けることで学習意欲を高め、生きがいづくり、生活の質の向上と充実につなげていく。		
概要・成果	複数年事業 3 年目、最終年である令和 2 年度は、コロナ禍で予定していた紙芝居創作の活動と発表の場は制限されたが、受講生と講師、受講生同士はもちろんのこと観客とも交流する場面が見られた。また、受講していく中で、紙芝居作品の質や演じるスキルを高めたいという気持ちが高まることで、受講生たちのさらなる学習意欲や地域に対する興味関心へとつながり、この講座が生きがいづくりの一助となった。		

〔令和２年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
子どもゼミナール	小・中学生の遊びの場の提供として、1 回目は「天文台職員による星の講話」、2 回目は「陶芸作品に挑戦」、3 回目は「バルーンアート作品に挑戦」を実施した。	10 月 16 日 11 月 21 日 2 月 27 日	3	50
ゆったり学びカフェ	地域住民が参加しやすく気軽に仲間づくりができる機会を提供するため、1～3 回目は切り絵講座、4 回目は植物の力で身体を整える「腸活について」、5 回目は植物の力で身体を整える「温活について」、6 回目はポチ袋講座を実施した。	9 月 2 日～ 11 月 18 日	6	55
●さくっと！まるごと健康生活	長く健康を保ち自立した生活を送ることを目指し、1 回目はリンパマッサージ、2 回目は膝痛腰痛予防、3 回目、4 回目は健康リズム体操、5 回目は泉区家庭健康課の健康講話と仙台市健康増進センターによる軽運動を実施した。	11 月 6 日～ 12 月 11 日	5	92
泉松陵小学校社会学級共催講座「障がい者福祉を学ぶ」	地域に開校して3年目となる小松島支援学校松陵校とのゆるやかな交流を通して福祉と子育てを学ぶことを目的に、1 回目は仙台ローズガーデンでボランティア活動、2 回目は障がいのある笙演奏家の演奏会を実施した。	11 月 19 日 1 月 23 日	2	65
松陵シニアカレッジ	高齢者の生きがいづくりとして、1 回目は仙台藩の歴史講話、2 回目はコミュニケーション講話、3 回目は川柳の制作、4 回目は高齢者施設の講話、5 回目は朗読、ギター、歌のコンサートを実施した。	10 月 23 日～ 2 月 26 日	5	405

【中止】 第 29 回松陵ふれあいコンサート	実行委員会で開催を検討したが、市内の感染状況を踏まえ、参加者の安全等を考慮し、中止を決定した。	【中止】 10 月 25 日	－	－
【中止】 松陵ふれあい合唱	松陵ふれあいコンサートの中止を決定したことに伴い、参加者の安全を考慮し、中止を決定した。	【中止】 9 月 12 日～ 10 月 24 日	－	－
【中止】 みんなの力で地域防災・減災	新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止を決定した。	【中止】	－	－
【中止】 第 31 回松陵市民センターまつり	実行委員役員で開催を検討したが、市内の感染状況を踏まえ、参加者の安全等を考慮し、中止を決定した。	【中止】 11 月 8 日	－	－
地域懇談会	管轄の 2 地区で実施予定だったが、向陽台地区は中止、松陵地区は規模を縮小して実施した。	11 月 20 日	1	3
市民企画会議「市民センターの講座を企画しませんか？」	感染予防対策を講じながら会議を開催。感染予防対策のため令和 2 年度内での企画事業開催は中止し、令和 3 年度の開催に向けて話し合いを行った。	1 月 14 日	1	4
【中止】 市民企画会議を経て企画する事業	企画会議で開催を検討したが、市内の感染状況を踏まえ、参加者の安全等を考慮し、中止を決定した。	【中止】	－	－

〔令和２年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

ジュニアリーダー「みちのく松陵」への活動支援

令和元年度末から蔓延しだした新型コロナウイルス感染症により、地域活動の多くが活動を停止せざるを得なくなり、令和 2 年度当初から活動が制限される事態となった。松陵市民センター所属のジュニアリーダー「みちのく松陵」のメンバーたちも、学校への通学が制限され、月 1 度の市民センターでの定例会も開催ができなくなった。そうした状況の中、市民センターではジュニアリーダーメンバーへ個別に連絡を取り続け、定例会に代わる支援をリモートで行った。具体的にはゲームや自主的な企画運営をシミュレーションするような提案を行った。これらの活動支援により定例会ができるようになった時期に、ジュニアリーダーの技量が見違えるように上がっていた。その後もコロナの蔓延に伴い、度々、定例会の中止を余儀なくされたが、リモートでの支援を引き続き行った。定例会の実施回数自体は、例年より若干少なかったものの、概ね満足のいく活動内容とすることができた。

寺岡市民センター

〔沿　革〕

寺岡市民センターは、泉区北西部の大規模団地「泉パークタウン」の西部に位置し、緑豊かな自然が残る寺岡・紫山地区が担当地域である。

寺岡地区は、昭和 53 年より宅地造成され、団地としては成熟しており、高齢化が進んでいる。一方、紫山地区は、平成 6 年より宅地造成され、若い世代を中心に住民も年々増加しており、寺岡地区とは対照的な年齢構成になっている。団地周辺には宮城県図書館をはじめ、宮城大学や仙台白百合学園などの文教施設があるほか、平成 20 年には大型商業施設がオープンし、週末や休日には遠方からも人々が集まり賑わっている。また、紫山地域や第 6 期宅地の開発が更に進み住宅地が広がっていることから、今後もますます発展と活性化が期待される地域である。

［★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業］

〔特色ある事業〕

事業名	市民企画講座「今、思っていることを聞かせて！」		
参加者	地域住民	延参加者	150 人
開催日	全 1 回　令和 2 年 12 月 16 日(水)～12 月 20 日(日)		
協力者・協力団体	－		
ねらい	コロナウイルスの感染防止対策のため、移動や世の中のイベントの開催が制限されるなどの状況が続いている。そのような状況下で人が一度に大勢集まる状態となる３密を避けながら、「心の引きこもり」とならないために「心の声」を共有し、共感することで地域住民の心の交流につなげることを目的とする。		
概要・成果	「市民センターの講座を企画しよう！」企画会議の中で、企画員たちはコロナ禍の中、講座を実施するべきかの検討を行い、こんな状況だからこそできることからやるべきであるとの結論に至った。 そこで、地域住民から事前にメッセージを募集する形をとり、寄せられたメッセージを長期間展示することとした。コロナ禍で、直接人と交流する機会が少ないために吐き出す場のない「心の声」を展示して発表することで、参加者のストレスの軽減を図るとともに、展示期間中、メッセージに共感した観覧者が、「いいね!!」や「Me Too!!」の付箋を貼り付けることで、発表者との間接的な心の交流へとつながった。		

〔令和２年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
【中止】親子の広場	共催先の寺岡児童センターと協議を重ね、2 月のサッカー教室開催へ向け準備し参加者募集まで終了していたが、県内の感染状況が悪化したため、急遽中止とした。	【中止】 2 月 19 日	－	－
子ども体験塾	小学生を対象に、おもちゃを使用した疑似体験、布マスク・マスクケースづくりを実施した。当初予定していた調理を行う講座は感染対策の観点から中止した。	9 月 21 日 11 月 28 日	2	6
ふるさとカフェ	東北・東日本地区についての記事を募集しまとめた「ふるさと新聞」の発行を行った。共催先の寺岡地域包括支援センターと協議し、当初予定していた交流会は感染症対策のため中止とした。	7 月～1 月	2	11
老壮大学「多聞塾」	新型コロナウイルス感染症の影響を受け、自粛期間を経て 10 月から開催した。健康や社会問題に関すること、コンサートなどの内容で実施した。	10 月 1 日～ 2 月 18 日	7	219

ぼうたくんといっしょ。 ～紫山防災訓練編～	紫山連合町内会防災訓練で、仙台市危機管理室減災推進課と連携し、防災意識啓発のため、備蓄食料の目安や備蓄方法についての学習コーナーを運営した。	9月26日	1	50
寺岡・紫山地域魅力づくりプロジェクト『めざせ！みんなが楽しい街づくり2020』	地域諸団体と連携し、地域人材の協力を得て、地域内の交流を深めるための、出前講座と作品展を実施。	11月14日～ 12月20日	8	200
【中止】（仮）寺岡小学校社会学級共催事業	共催先の寺岡小学校社会学級と協議の上、新型コロナウイルス感染症拡大防止を優先するため令和2年度は中止し、令和3年度に改めて開催することとした。	【中止】 9月	－	－
【中止】（仮）寺岡・紫山ふれあい絆コンサート	連携先の宮城大学と協議の上、開催時期を変更し開催を目指したが、新型コロナウイルス感染症が再拡大したため令和2年度は中止し、令和3年度に改めて開催することとした。	【中止】 11月1日	－	－
【中止】寺岡・紫山市民文化祭	実行委員長及び副実行委員長と協議し、開催場所では新型コロナウイルス感染症の発生条件が成立する可能性が高く、来場者の安全を確保することが困難であると判断したため中止とした。	【中止】 10月3日 10月4日	－	－
寺岡・紫山地域懇談会	市民センターの運営や事業に反映させるために懇談会を実施し、地域住民や利用者の意見・評価・要望などを確認した。	9月6日	1	25
市民企画会議「市民センターの講座を企画しよう！」	感染対策のため開始時期を遅らせ9月より会議を進めた。コロナ禍でも開催可能な形態を模索しながら講座の企画・運営を行った。	9月8日～ 2月14日	8	21

〔令和２年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

地域情報パネルの設置

寺岡市民センター周辺は教育施設が多い地域である。新型コロナウイルス感染症の影響で教育施設が行事を自粛する世情を鑑み、作成物やお知らせなどを展示することのできる「地域情報パネル」をロビーに新設した。このパネルは地域の小・中・高等学校、幼稚園、こども園、保育園、児童センターが利用している。掲示物を貼り替えの際に事務室に顔を出される教育施設職員も多く、教員と市民センター職員との顔の見える関係づくりに繋がっている。さらに、教育施設からは地域住民との交流が難しい状況でこのような機会をもらえることはありがたいといった声をいただいている。

また市民センター来館者も地元教育施設の情報を得て、子どもたちの作成物を見たりすることで、教育施設への理解を深めている様子が見受けられた。

さらに、令和2年度は「寺岡・紫山市民文化祭」（市民センターまつり）を中止したが、例年「市民文化祭」にて行政相談ブースを出していた地域在住の行政相談員より、活動紹介を行いたいとの相談を受け、館内ロビーにパネルを設置、常時配置することで活動支援を行っている。パネルを見た市民センター来館者からは自分の困りごとも相談してみようという声が聞かれた。このパネルに関しては、東北管区行政評価局からの取材を受けており、行政相談広報誌にも掲載予定である。

≪泉区≫

長命ケ丘市民センター

〔沿　革〕

長命ケ丘市民センターは、平成 5 年 4 月に泉区 10 番目の市民センターとして開館した。その周囲は昭和 50 年代初めに造成された長命ケ丘団地で形成されている。利用者の約6割が長命ケ丘地区、約2割が近隣地区、残り1割が他地区の利用者となっており、地域に密着した市民センターといえる。地域利用団体の 34 サークルをはじめ、月に約 50 以上のサークルが活動している。

当市民センターは、子どもから高齢者まで幅広い年齢層の支持を得ながら、サークル活動はもとより、地域の生涯学習活動の拠点として定着しており、その役割と機能を大いに発揮している。

［★震災を踏まえた事業　●区役所との連携事業　◎地域力創造支援事業］

〔特色ある事業〕

事業名	長命ケ丘保育所・長命ケ丘児童センター・長命ケ丘市民センター 3 館共催「子育て講座」		
参加者	乳幼児と保護者	延参加者	102 人
開催日	全 3 回　令和 2 年 9 月 30 日(水)、11 月 27 日(金)、12 月 10 日(木)		
協力者・ 協力団体	長命ケ丘保育所、長命ケ丘児童センター		
ねらい	長命ケ丘地域にある子育て支援機関である長命ケ丘保育所、長命ケ丘児童センターとの共催により、それぞれの館の特徴や特色を活かした講座を実施し、子育て中の不安の解消や子どもの健やかな育ちを支援する。		
概要・成果	コロナ禍により人数と回数を減らして実施した。「ちびっこわくわく運動あそび」や「親子ビクス」では、交流や外出の機会が減っている中、親子が一緒に参加することで気分転換を図りコミュニケーションを深めることができた。子育て講話「心が育つイヤイヤ期」では、託児付きとしたことで、参加者が幼児教育の専門家の先生のお話をじっくり聞くことができた。 また、講座終了後に個別の相談を受ける時間を設けたことで、参加者の子育て中の悩みや不安解消へとつながった。		

〔令和２年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
フレンドスクール	少子化及び核家族化により学校や家庭では経験できない学びや体験の中で子どもの健やかな成長を育み異世代交流の機会を提供した。コロナ禍により人数と回数を 2 回に減らして実施した。実施内容：グラスアート、ネイチャークラフト。	10 月 17 日 10 月 31 日	2	12
長命大学	地域の高齢者の方々に、歴史や栄養学など様々なジャンルの講座を提供することで、生涯学習の機会を提供した。また、受講生同士が交流することで、仲間づくりの場となった。コロナ禍で人数と回数を減らし実施した。実施内容：国際交流、シルバー川柳、栄養学、コンサート。	9 月 24 日 10 月 15 日 11 月 19 日 12 月 17 日	4	162
長命短期大学	「長命大学」の定員を超えた方を対象に「長命大学」と同程度の学びの場を提供し、より多くの高齢者に活き活きとした毎日を過ごしてもらえるよう支援することができた。コロナ禍で人数と回数を減らして実施した。実施内容：日本と台湾あれこれ、食べること！人生 100 年時代を生きる、コンサート。	10 月 7 日 11 月 11 日 12 月 2 日	3	84

みんなでアップ！健康寿命	地域の高齢化に伴い、住み慣れた地域で自立して暮らし続けられるかが課題となっている。そこで地域にある仙台リハビリテーション専門学校と連携し介護予防に関する専門的な知識と運動方法を学んだ。人数と回数を減らして実施した。 実施内容：体と頭を使って認知症予防・リズムダンス。	10月8日 10月21日	2	17
長命コンサート	長命ケ丘は高齢化が進み、遠方のコンサートへ出向くのが困難な方が増えている。そこで高齢者をはじめ地域の方々が気軽に音楽を楽しめるよう、市民センターを会場に児童センターと共催で開催した。コロナ禍のため、1回の人数を少なくし、泉館山高校吹奏楽部による同プログラムの演奏会を2回実施した。	11月14日	2	52
ロングライフヒルコミュニティ協議会との企画検討会	長命ケ丘の小学生を中心に、中学生高校生や、地域にある複数の団体が参加できる事業を企画・検討した。コロナ禍での講座実施について検討会で話し合ったものの、令和2年度の講座の実施は見送りとした。	4月4日 8月29日 11月22日	3	44
目指そう！災害に強い長命ケ丘	町内会などの地域団体と連携し、防災に関する講座を実施することで、地域住民の防災意識の向上を図り、次世代も含めた地域ぐるみで防災に強い町づくりを目指すことを目的とした。「コロナ禍での避難所運営」をテーマにした研修会を実施した。	11月14日	1	27
市民企画会議「長命ケ丘のお宝を発見しよう！」	企画員を募集し、長命ケ丘の様々な地域資源について調査、保存等に取り組むための企画会議を行った。新型コロナウイルス感染症の影響により、講座の開始が遅れたため、令和2年度は方向性を決めるところまでで、具体的な活動は令和3年度からとした。	11月6日 2月5日	2	7
【中止】長命ケ丘文化活動発表会	市民センターで活動しているサークルや団体の活動成果の発表の場、地域住民の交流の場として、市民センターまつりを開催する予定だったが、協議の結果、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止を決定した。	【中止】 10月10日 10月11日	－	－
長命ケ丘市民センター地域懇談会	地域の団体、関係機関、利用サークル、利用者との意見や情報を交換することで市民センターとして取り組むべき課題を把握するとともに、市民センターへの理解を高めるため懇談会を実施した。	7月29日 2月5日	2	39
【中止】市民企画会議「長命ケ丘のお宝を発見しよう！」を経て企画する事業	市民企画会議「長命ケ丘のお宝を発見しよう！」により企画・検討を行い方向性は決まったものの、事業実施は令和3年度からとした。	【中止】	－	－
【中止】ロングライフヒルコミュニティ協議会との企画検討会を経て企画する事業	ロングライフヒルコミュニティ協議会との企画検討会により企画・検討を行った結果、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため小学生向けの事業は断念した。	【中止】	－	－

〔令和２年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

<u>おもちゃドクターボランティア「長命おもちゃ病院『エル』」の活動支援</u>

おもちゃドクターボランティア「長命おもちゃ病院『エル』」は、平成29年度に実施した講座「おもちゃドクターボランティアフォローアップ研修」から立ち上がった団体である。

市民センターでは、毎月のセンターだよりやチラシで活動に関する広報をしたり、修理したおもちゃを持ち主に返す際の窓口になったりする形で活動支援を行い、地域の方々にサークルを知ってもらい、活動の幅を広げられるようにサポートしてきた。

令和2年度は利用者からの問い合わせの仲介をしたり、市民センター以外での活動場所を模索したり、メンバー同士の打合せの機会の調整などを行ったりした。コロナ禍で活動が制限されているものの、常に情報共有を図っている。

松森市民センター

〔沿　革〕

松森市民センターは平成 12 年 1 月、鶴が丘中学校区施設として泉かむり訪問看護ステーション（現在は移転)、コミュニティ防災センターと併設し、泉区内 11 番目の市民センターとして開館した。当市民センターは仙台市泉区の北東端に位置し、担当するのは、古くからの松森地区と昭和 40 年代から 50 年代にかけて開発された鶴が丘団地からなる地域である。

施設内は、バリアフリー仕様になっており、広々としたロビーのほか親子室・娯楽室・図書室を有し、市民活動室には印刷機が備えられ地域団体やサークル活動に寄与している。このような特性を生かしながら地域の生涯学習の拠点施設として開かれた親しみのある市民センターを目指している。

［★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業］

〔特色ある事業〕

事業名	複数年事業　松森･鶴が丘あったかサロン		
参加者	成人	延参加者	63 人
開催日	全 5 回　令和 2 年 11 月 27 日(金)～令和 3 年 2 月 26 日(金)		
協力者・協力団体	松森地域包括支援センター		
ねらい	高齢化が進む地域において、地域全体で主体的な介護予防活動について考えるきっかけとなるよう、地域住民を対象に気軽に参加できる運動講座を実施する。また、住民主体の介護予防活動を継続できるよう、サークル化を目指す。		
概要・成果	令和元年度まではサークル化や仲間づくりにつながるよう、グループで行う運動やゲームを中心に実施してきたが、令和 2 年度はコロナ禍での外出自粛に伴い、運動能力の低下、認知能力の低下が危惧される中、感染予防の対策をとりながら楽しくできる運動やダンスを行い、心も体も元気になるための講座を実施した。 その結果、音楽に合わせて笑いながらの運動やストレッチが脳のトレーニングにもつながることを実感した方が多く、今後もずっと継続していきたいとの声が多数上がり、サークル化へとつなげることができた。令和 3 年度は新型コロナウイルス感染症の状況を見ながら、サークルの活動を支援していきたい。		

〔令和２年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日･期間	回数	延参加者
子育てサロン「こどもの杜」	①「親子ビクス♪」、②「家族で考える防災」、③「親子リトミック♪」を未就学児とその保護者を対象に実施した。子（孫）育て支援、施設や講座の利用の促進、児童センターや保育所との連携の強化を図った。	11 月 18 日 12 月 10 日 1 月 20 日	3	42
ジュニアちゃれんじ	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、3 回の予定を 1 回に減らして小学生を対象に実施した。「親子でわくわく職人体験！大工さんになってみよう！」として、大工さんの仕事と道具のお話、踏み台作りを行った。	2 月 20 日	1	20
命をつなぐ防災講座	小学生向けの減災セミナーであったが、連携先の学校の要請で中止となったため、「家族で考える防災」として実施した。家庭でやっておくべきことを講話と体験（折り紙食器・簡易おむつ）を交えた内容で実施した。	12 月 10 日	1	20
暮らしの彩り広場 2020	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため内容を変更し、地域住民の居場所づくりとして実施した。①センターだより 7 月号紙面での「アロマテラピー講座①」、②「アロマテラピー講座②」ルームスプレー作り、③鹿島地域出前講座「指ヨガ・目ヨガで健康に」、④「足つぼ健康法」、⑤「健康講座」を実施した。	7 月 25 日～ 2 月 17 日	5	23

≪泉区≫

こちらお年頃準備室です	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、当初の計画から内容を変更し、和服地で作るインナーバック作り①②を実施した。	1月23日 1月30日	2	20
城前大学	地域の高齢者に学習の場を提供するために、①景品表示法の落し穴、②健康講話、③ストレッチとリンパマッサージ、④歴史講話、⑤意外と多い家の中の危険、⑥オカリナコンサートを実施した。	9月17日～ 2月18日	6	215
松森ハートフルタイム	地域の文化の向上のため、①本の譲渡会、②素ばなしを楽しむ、③クリスマスコンサート、④講談で知る宮城の伝説を実施した。	11月26日～ 2月6日	4	194
【中止】 松森市民センターまつり	実行委員会で開催を検討したが、市内の感染状況を踏まえ、参加者の安全を考慮して中止を決定した。	【中止】 10月18日	－	－
松森・鶴が丘地域懇談会	地域の団体や機関の代表者と活動状況や課題について情報交換を行った。令和2年度は、回数増や少人数での実施などを試みた。また、サークル活動に関わっている方や講座の受講生などから広くご意見を伺う機会とした。	11月5日 11月6日 12月8日 12月15日	4	47
【中止】市民企画会議（仮称）「こども企画会議」	コロナ禍により、学校の臨時休業、長期休業日の短縮等の状況から、児童に係る事業を進めていくことが困難であったため、中止とした。	【中止】 5月～1月	－	－
【中止】市民企画会議「こども企画会議」（仮称）を経て企画する講座	コロナ禍による市民企画会議の開催中止に伴い、それを経て企画する講座も中止とした。	【中止】 7月～1月	－	－

〔令和２年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

松森市民センター図書室ボランティアの活動支援

松森市民センターでは図書室ボランティアの活動を支援するために、毎月定例会を開催し、図書室ボランティアと、様々な課題について情報を共有し、解決に向けて取り組んでいる。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、松森市民センター図書室も4月19日（日）より休室とし、4月・5月は定例会も中止した。しかしながら、図書室ボランティアの熱意は強く、6月には定例会を開催し、図書室の再開に備えて感染防止対策等の準備を行った。図書室の休室が長引くと、コロナ禍のために自宅で過ごす時間が長いからこそ、屋外に図書を持ち出してでも貸出だけは再開できないかが検討された。講座の形をとってでも貸出が再開できないか検討された背景には、松森地域包括支援センターからも見守り活動として高く評価されている、図書室ボランティアと言葉を交わすのを楽しみに図書を借りに来る地域の高齢者の安否確認が、長引く休室でできていないこともあった。

ようやく10月21日（水）に図書室を再開でき、市民センターでの「本の譲渡会」も図書室ボランティアの協力のもと、11月26日（木）から12月27日（日）まで開催することができた。これらにより、コロナ禍における読書活動の推進に寄与できた。

また、図書室ボランティア募集の支援も市民センターだより等を活用して行っており、令和2年度は1名の新加入者を迎えることができた。

桂市民センター

〔沿　革〕

桂地区は仙台市の北西部に位置し、緑に囲まれた住宅と高層マンションで構成される新興住宅団地であるが、開発から30年以上経過し、徐々に高齢化が進みつつある。また、将監地区は昭和40年代に開発された歴史の古い団地で年々高齢化が進んでいる。桂市民センターは、この両地区を受け持っている。

当市民センターは児童センターとの併設館であり、利用者の年齢層は乳幼児から高齢者までと幅広い。平成13 年 12 月の開館以来、これらのさまざまな年齢層の地域住民と地域団体を意識した事業を展開し、生涯学習の拠点を目指して取り組んでいる。

［★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業］

〔特色ある事業〕

事業名	かつら情報局		
参加者	地域の方どなたでも	延参加者	116 人
開催日	全 6 回　令和 2 年 7 月 26 日(日)～令和 3 年 3 月 20 日(土)		
協力者・協力団体	桂連合町内会、まちづくり推進部泉区中央市民センター、桂音頭を踊り隊		
ねらい	桂地域諸団体では役員の高齢化に伴う担い手不足や、行事のマンネリ化、情報伝達の遅滞など様々な課題を抱えている。課題解決のため、地域に向けて情報発信事業、交流事業、地域貢献を目指す人々の支援事業を実施し、幅広い世代の住民の参画と地域への関心を高め、コミュニティの絆を深めることで地域活性化を目指す。		
概要・成果	「地域を担う人づくり支援事業」として、まちづくり推進部泉区中央市民センターと連携し、地域住民の地域活動参画へのつながりを深める取り組みを行った。町内会のＩＣＴ化、市民センターロビーの活用についての話し合いや、桂音頭のアーカイブ化と令和版桂音頭の制作に取り組んだ。地域の宝として桂音頭を育み大事にしていこうという地域住民の自発的な動きから「桂音頭を踊り隊」が発足した。メンバーが中心となって令和版桂音頭の歌と踊りのＤＶＤを制作した。出来上がったＤＶＤをツールとして、令和 3 年度、桂小学校運動会で全校児童、ＰＴＡで桂音頭を披露することが計画されるなど、地域での絆づくりと地域のコミュニティを活性化しようという動きが高まっている。 また、住民参加型講座として地域の小学生親子、中学生を対象としたプログラミング講座を実施した。幅広い世代の地域住民がボランティアとして運営に関わり、顔と顔の見える関係が深まる場となり、地域の絆づくりにつながる講座となった。		

〔令和２年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
【中止】 桂の森のキッズランド	地域の子育てに関わる 4 団体が共催し、乳幼児親子がともに楽しめる体験型イベントを計画したが、市内の感染状況を踏まえ、参加者の乳幼児の安全等を考慮の結果、中止を決定した。	【中止】 9 月 18 日	－	－
桂ジュニアカレッジ	7 月の水遊びは、市内の感染状況を踏まえ、参加者の安全等を考慮の結果、中止を決定。11 月の焼き芋会も中止としたが、さつまいものレシピを公募しホームページにレシピを掲載する形で実施した。2 月の工作は時間を 2 回に分け人数を半数にして、感染症予防の対策を万全に行い実施した。	12 月 3 日 2 月 6 日	2	33
桂友くらぶ（老壮大学)	70 人の受講者を 2 班に分けて、月に 2 回のペースで実施。歴史、文学、運動、健康、音楽などをテーマに学習した。	9 月 10 日～ 2 月 18 日	12	267

【中止】 桂いきいき健康講座	地域の連合町内会や社会福祉協議会、将監地域包括支援センターなどと連携した準備委員会を作り、少子高齢化に対応した地域づくりを目指す講座を計画したが、市内の感染状況を踏まえ、対象者が高齢者のため参加者の安全等を考慮の結果、中止を決定した。	【中止】 6月～9月	－	－
【中止】 防災・減災を学ぼう！	連合町内会との協働による取り組みを計画したが、新型コロナウイルスの感染状況を踏まえ、多くの地域住民参加による講座開催は難しいと判断し中止とした。代わって、桂地区の机上型防災訓練に向けた会議や、防災備蓄倉庫の資機材確認などの支援を行った。	【中止】 6月～2月	－	－
【中止】 桂ロビーコンサート	地域の連合町内会や社会福祉協議会、桂児童センターとの共催でコンサートを計画していたが、市内の新型コロナウイルスの感染状況を踏まえ、参加者の安全等を考慮の結果、中止を決定した。	【中止】 6月～12月	－	－
【中止】 桂文化祭	様々な工夫をしながら開催の可能性について検討を重ねたが、コロナ禍において不特定多数の参加者と関係者の安全確保が困難であると判断し、中止と決定した。	【中止】 10月16日	－	－
桂地域懇談会	懇談会を通して各団体の活動情報や地域課題、住民の状況、地域資源等について意見交換を行い、得られた情報を活用して各団体の連携を深め、市民センターの業務改善に生かした。	6月27日 2月20日	2	22
桂小学校区社会学級連携事業企画会	コロナ禍での食に関する講座開催は困難との観点から、買い物の際のレジ袋有料化に対応した講座として、自然環境や資源を気遣う暮らしを目指して、「風呂敷」の活用方法を学ぶ講座を計画した。	8月6日～ 11月10日	5	21
桂小学校区社会学級連携事業企画会議を経て企画する事業	風呂敷やスカーフ、バンダナ、ハンカチーフなど様々な大きさや素材の異なる四角い布を暮らしの中で活用する方法を学んだ。	11月10日	1	20
市民企画会 ～桂のお茶会～	桂地区を歩き、地域の方々が手入れをしている自然豊かな桂島緑地や町内ごとの公園を、音楽にのせて紹介する動画を作成した。	6月11日～ 12月9日	9	18
【中止】 楽しく「みどりびと」をめざそう	桂地区の自然保護ボランティア団体の活動と地域住民の参加を図る内容で計画したが、市内の新型コロナウイルスの感染状況から団体の活動が困難な状況となったため、中止を決定した。	【中止】 5月～2月	－	－
【中止】 市民企画を経て企画する事業	市内の新型コロナウイルスの感染状況を踏まえ、参加者の安全等を考慮の結果、企画員から講座実施を見送りたいとの意見が出され、中止を決定した。	【中止】	－	－

〔令和２年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

「桂音頭を踊り隊」の活動支援

複数年事業「かつら情報局」の話し合いの中から任意団体「桂音頭を踊り隊」が結成された。市民センターでは、今後、団体が活動を継続していくため、六郷市民センターで取り組んでいる「六郷ふるさと音頭」について参考に話を聞かせてもらう場を設ける等の支援を行った。また、活動の資金として、まちづくり推進課の助成金についての情報提供を行い、申請にかかる相談に乗る等の支援を行うことで、具体的な活動への足掛かりとすることができた。

南中山市民センター

〔沿　革〕

南中山市民センターは、平成 15 年 3 月をもって閉館した「泉中高年齢労働者福祉センター（サンライフ泉）」の建物に改修を行い、平成 15 年 11 月 13 日に開館した。敷地内にはコミュニティ防災センターを併設している。

当市民センターのエリアは、南中山、北中山、西中山の 3 連合町内会傘下 16 町内会で、地域の活動拠点として、地域団体やサークルなどに広く活用されている。

［★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業］

〔特色ある事業〕

事業名	まなびねっと「いずみ中山」交流事業		
参加者	南中山・北中山小学校の児童と保護者	延参加者	41 人
開催日	全 1 回　令和 2 年 12 月 27 日（日）		
協力者・協力団体	南中山小学校おやじの会、南中山小学校区体育振興会、南中山地区社会福祉協議会、北中山小学校おやじの会、北中山小学校区体育振興会		
ねらい	いずみ中山地域の親子を対象に、地域団体と連携し、自然体験や伝統文化に触れる機会を提供することで、子どもたちの感性を磨き、創造力を養う。また、地域の人々が交流事業に共に取り組むことで人と人とのつながりを深め、子どもたちの健全育成の一助とする。		
概要・成果	まなびねっと「いずみ中山」推進委員会で企画した事業で、体験学習を基にした小学生やその保護者の交流事業を 3 回実施する予定であったが、6 月の子どもたちが安全に川遊び体験をするための講座と 2 月の泉ヶ岳の自然観察をしながら雪山で遊ぶ講座は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止とした。 12 月はお正月飾り（ミニ門松）を作り、併せてお正月飾りの謂れを学んだ。竹や松などの材料は、推進委員やボランティアが地域の方の好意でいただいて集め、土台となる缶は給食センターの不要品を利用した。竹を切ることや、土台となる缶にこもを巻き縄を結ぶという作業も参加者にはなかなか難しかったようであるが、普段のこぎりなど使う機会があまりない中、親子で協力してものづくりを行う貴重な楽しい時間とすることができた。 12 月の 1 日だけの開催となったが、地域の団体と連携・共催することにより、地域全体で子育てをするという意識が高まってきている。さらに、親子で参加する事業のため、子どもたちの交流や成長を促すだけでなく、地域での交流や、家庭の中でのコミュニケーションを深める一助にもなった。		

〔令和２年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
おやこほっとタイム	乳幼児親子を対象に、2 つの児童センターと連携し、母子同室でふれあい楽しめる「ベビーマッサージ」を開催した。感染防止のため広い部屋で密にならないよう 1 回のみ実施した。	9 月 29 日	1	14
こどもワンダークラブ	南中山小学校・北中山小学校の児童と保護者を対象に、仙台市天文台との共催で、ベガ号で秋の星空ウォッチングを開催した。新型コロナウイルス感染症の影響により、1 回のみの開催とした。	10 月 2 日	1	27
ほがらかシニア塾	地域の高齢者を対象に、栄養学、健康維持体操、口腔ケア、生活に関する講話等の講座を開催した。受講生が 70 名を超えていたため、感染対策として、受講生を 2 班に分け、時間を短縮しての開催とした。	9 月 18 日～12 月 18 日	7	206

地域防災講座	気象予報士を講師に迎え実施した。南中山連合町内会と連携することにより、町内会の役員等の参加を得て、気象庁や自治体から発信された情報の違いなどを学んだ。	10月24日	1	17
市民企画講座 いずみ中山ふれあいプロジェクト	市民企画会議で、健康維持と住民同士の交流のための講座を企画し、マップ作成のための街歩きや講話、季節の花の寄せ植えを行った。	11月11日 12月11日 1月28日	3	32
【中止】 いずみ中山フェスタ	実行委員会で検討したが、感染状況をふまえ、参加者の安全を第一に考え、中止を決定した。	【中止】 10月19日	－	－
【中止】 地域懇談会	コロナ禍において地域で様々な活動を制限している中、新型コロナウイルス感染症の収束が見定められないため中止とした。	【中止】	－	－
図書ボランティア養成講座	図書ボランティアを育成するため、選書についての講座や読書週間の展示イベントを行った。新型コロナウイルス感染症拡大により回数を減らしての実施とした。	10月15日 10月27日 11月19日	3	17
いずみ中山市民企画会議	地域が抱える高齢化やコロナ禍における課題などを話し合い、地域づくりのための講座を企画した。	7月15日～ 3月3日	6	37

〔令和２年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

ジュニアリーダーサークル「南中山巣子っぷ」への活動支援

ジュニアリーダーサークル「南中山巣子っぷ」に所属する中学生から高校生の 15 名のメンバーが地域の子ども会や町内会の行事で様々なボランティア活動を行っている。当市民センターでは月に一回行われる定例会の準備や、地域団体からの活動要請の連絡や参加者の調整、事務手続き、ジュニアリーダー向けの研修の案内など、サークル活動の取りまとめ役を担い、活動の支援を行っている。

また、市民センターは、子ども会や地域のまつりなどで行うゲームの進め方やバルーンアートなどの製作の練習にも使われており、サークルの話合いや情報交換の場となっている。

令和２年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、定例会などの活動が制限された。そのような中でも、市民センターでは、今後の要請を想定した「ゲーム研修―実践編」を行ったり、長命ケ丘市民センターに発足した「長命ケ丘 AMYY」との合同研修会を開催して、ジュニアリーダー同士の交流を深めるよう支援を行い、ジュニアリーダーの自己研鑽を後押しした。

Ⅳ　資　　料

1　市民センターの予算

＜歳　出＞

〔市民センターにかかる経費〕

単位：千円

		平成29年度(決算)	平成30年度(決算)	令和元年度(決算)	令和2年度(決算)	令和3年度(予算)
地域社会教育事業費(※)		620,701	615,263	618,941	631,927	683,117
市民センター施設費	運営管理	1,482,852	1,437,732	1,408,638	1,467,930	1,565,660
	施設整備・改築等	961,658	1,001,672	674,716	108,882	1,606,706
合　計		3,065,211	3,054,667	2,702,295	2,208,739	3,855,483

※地域社会教育事業費　内訳

単位：千円

		平成29年度(決算)		平成30年度(決算)		令和元年度(決算)		令和2年度(決算)		令和3年度(予算)	
		拠点館	地区館	拠点館	地区館	拠点館	地区館	拠点館	地区館	拠点館	地区館
各種講座等	家庭教育推進	310	3,026	198	2,868	257	2,696	55	1,577	159	2,653
	青少年健全育成	820	2,168	672	2,521	730	2,318	556	2,132	776	2,368
	成人学習振興	489	3,531	456	3,409	339	3,136	352	2,528	444	3,205
	高齢者学習振興	522	6,583	524	6,831	492	6,187	326	6,547	601	5,933
	地域社会教育推進	2,475	7,576	2,032	6,868	2,029	6,768	1,258	4,599	3,005	6,474
	民間指導者育成		2,016		2,549		2,414		2,473		2,365
	学習情報提供	139	0	225	53	188	27	339	0	213	344
	学びを支える人材育成	1,978		2,039		1,936		1,663		2,874	
	若者社会参画型学習推進	1,556		1,644		1,412		1,085		1,709	
	住民参画・問題解決型学習推進	1,463		1,810		1,777		1,582		2,255	
	学びのまち仙台市民カレッジ	904		695		513		307		982	
	子ども参画型社会創造支援	1,607		1,435		1,401		1,448		1,706	
	障害者学習講座開設	355		309		278		116		462	
	市立高等学校開放講座開設	159		153		158		68		200	
	小　計	12,777	24,900	12,192	25,099	11,510	23,546	9,155	19,856	15,386	23,342
学習情報提供（システム運営管理等）		15,959		15,489		32,568		17,616		18,184	
その他		14,258	552,807	13,695	548,788	13,993	537,324	14,846	570,454	15,753	610,452
合　計		42,994	577,707	41,376	573,887	58,071	560,870	41,617	590,310	49,323	633,794

＜歳　入＞

単位：千円

	平成29年度(決算)	平成30年度(決算)	令和元年度(決算)	令和2年度(決算)	令和3年度(予算)
市民センター使用料	177,675	178,663	151,018	125,525	164,065

２　令和２年度 市民センター職員数

（令和2年6月1日現在）

部分は嘱託職員　　内部で兼務　　外部と兼務

青葉区

	職名／館名	区役所・教育委員会											(公財)仙台ひと・まち交流財団									
		センター長	センター次長兼係長	主幹兼係長	係長	主査		総括主任・主任	主事	正職員以外		合計	館長（常勤嘱託）	事業職員			常勤嘱託職員		非常勤嘱託職員	臨時職員	合計	総計
						社会教育主事	主査			専門員	会計年度任用職員			係長	主任	係員	主任	係員				
1	青葉区中央	1			1	3	1	1		3	1	11	1		1	4		1	2		9	20
2	柏　木												1		1	3			2		7	7
3	北　山												1			3		1	3		8	8
4	福　沢												1		1	2		1	1		6	6
5	旭ケ丘												1			3	1		2		7	7
6	三本松												1			3		1	1		6	6
7	片　平												1		1	2		1	1		6	6
8	水の森												1			2	1		1	1	6	6
9	貝ケ森												1		1	2		1	2		7	7
10	中　山												1		1	3			2		7	7
11	折　立												1		1	3			1		6	6
12	木町通												1		1	2		1	2		7	7
13	広　瀬												兼		1	3					4	4
14	宮城西												1		1	1		1	1	1	6	6
15	大　沢												1		1	3			1		6	6
16	落　合												1			3		1	1		6	6
17	吉　成												1		1	3				1	6	6
	小　計	1	0	0	1	3	1	1	0	3	1	11	16	0	12	45	2	9	23	3	110	121

宮城野区

1	生涯学習支援	1	1		1	4	1	4			3	15	1		1	2		2	2		8	23
2	宮城野区中央	1		1		3		1			2	8	兼	1		2		2			5	13
3	高　砂												1		1	3			1		6	6
4	岩　切												1			3		1	1		6	6
5	鶴ケ谷												1		1	2		1	1		6	6
6	榴ケ岡												1		1	3		1	1		7	7
7	東　部												1			3		1	1		6	6
8	幸　町												1			3		1	1		6	6
9	田　子												1		1	2		1	1		6	6
10	福　室												1		1	2		1	1		6	6
	小　計	2	1	1	1	7	1	5	0	0	5	23	9	1	6	25	0	11	10	0	62	85

若林区

1	若林区中央	1			1	2	1	1		1		7	兼	1		2		1		1	5	12
2	七　郷												1			3		1	1		6	6
3	荒　町												1			3		1	1		6	6
4	六　郷												1		1	2		1	1		6	6
5	若　林												1		1	3			1		6	6
6	沖　野												1		1	2		1	1		6	6
	小　計	1	0	0	1	2	1	1	0	1	0	7	5	1	3	15	0	5	5	1	35	42

太白区

		区役所・教育委員会											(公財)仙台ひと・まち交流財団									
	職名 / 館名	センター長	センター次長 兼係長	主幹兼係長	係長	主査 社会教育主事	主査	総括主任・主任	主事	正職員以外 専門員	正職員以外 会計年度任用職員	合計	館長（常勤嘱託）	事業職員 係長	事業職員 主任	事業職員 係員	常勤嘱託職員 主任	常勤嘱託職員 係員	非常勤嘱託職員	臨時職員	合計	総計
1	太白区中央	1			1	3		2			1	8	兼	1		3		1			5	13
2	生出												1			3		1	1		6	6
3	中田												1		1	3				1	6	6
4	西多賀												1		1	2		1	1		6	6
5	八本松												1		1	2		1	1		6	6
6	八木山												1			3		1	1		6	6
7	山田												1			4			1		6	6
8	茂庭台												1			3		1	1		6	6
9	東中田												1		1	3			1		6	6
10	柳生												1		1	2		1	1		6	6
11	富沢												1		1	1		1	1	1	6	6
12	秋保												1		1	4			1	1	8	8
13	馬場												兼1		兼1	兼4			兼1	兼1	0	0
14	湯元												兼1		兼1	兼4			兼1	兼1	0	0
	小計	1	0	0	1	3	0	2	0	0	1	8	11	1	7	33	0	8	10	3	73	81

泉区

1	泉区中央	1			1	3	1	1			1	8	1		1	4		1	2		9	17
2	根白石												1			4			1		6	6
3	南光台												1		1	2		1	1		6	6
4	黒松												1		1	2		1	2		7	7
5	将監												1		1	2		1	1		6	6
6	加茂												1			3		1	1		6	6
7	高森												1			3		1	1		6	6
8	松陵												1			3		1	1		6	6
9	寺岡												1			3		1	1		6	6
10	長命ケ丘												1			3	1		1		6	6
11	松森												1		1	2		1	1		6	6
12	桂												1		1	2		1	1		6	6
13	南中山												1			3		1	1		6	6
	小計	1	0	0	1	3	1	1	0	0	1	8	13	0	6	36	1	11	15	0	82	90

総　計

		区役所・教育委員会											(公財)仙台ひと・まち交流財団									
	職名	センター長	センター次長 兼係長	主幹兼係長	係長	主査 社会教育主事	主査	総括主任・主任	主事	正職員以外 専門員	正職員以外 会計年度任用職員	合計	館長（常勤嘱託）	事業職員 係長	事業職員 主任	事業職員 係員	常勤嘱託職員 主任	常勤嘱託職員 係員	非常勤嘱託職員	臨時職員	合計	総計
	計	6	1	1	5	18	4	10	0	4	8	57	54	3	34	154	3	44	63	7	362	419

３　令和２年度　主催講座の事業別実施状況

区名 / 館名 / 事業		青葉区														
		青葉区中央	柏木	北山	福沢	旭ケ丘	三本松	片平	水の森	貝ケ森	中山	折立	木町通	広瀬	宮城西	大沢
家庭教育推進事業																
(例) 子育て支援講座 親子ふれあい教室 食育講座 思春期親学 プレパパママ講座 絵本よみきかせ講座	講座数	3	1	1	1	0	1	0	1	0	0	1	1	0	1	0
	回数	7	1	6	3	0	2	0	2	0	0	1	3	0	2	0
	参加者数	283	11	43	44	0	26	0	8	0	0	11	21	0	33	0
青少年健全育成事業																
(例) インリーダー研修 子どもの広場 キッズクッキング 夏休みチャレンジ講座 子ども体験塾	講座数	8	1	2	2	2	2	2	2	3	2	2	2	4	2	2
	回数	77	1	2	2	3	7	4	4	11	4	9	7	13	2	2
	参加者数	1,438	28	107	58	63	146	61	43	901	112	163	292	326	35	50
成人学習振興事業																
(例) 自然体験教室 エコライフ講座 男の料理教室 現代課題対応講座	講座数	2	1	0	1	0	1	1	3	1	2	1	1	1	4	2
	回数	107	4	0	5	0	1	5	11	4	6	5	1	3	11	17
	参加者数	3,774	60	0	67	0	5	92	176	39	102	21	18	43	138	222
高齢者学習振興事業																
(例) 明治青年大学 老壮大学 健康づくり教室 介護予防教室	講座数	1	1	1	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	回数	6	15	6	0	4	7	12	2	8	5	6	9	6	5	6
	参加者数	229	364	156	0	268	207	264	68	259	129	94	401	233	137	293
地域社会教育推進事業																
(例) 市民センターまつり 事業運営懇話会 学びのコミュニティ関連事業 地域防災教室 社会学級連携事業 地域(自然・伝統)を知る講座	講座数	8	5	4	6	5	5	4	2	2	4	3	3	3	4	6
	回数	41	12	10	17	15	21	11	7	16	10	25	10	4	20	13
	参加者数	1,212	247	400	1,149	147	523	493	110	128	85	1,042	109	256	890	433
民間指導者育成事業																
(例) 各種ボランティア育成講座 各種ボランティア活動支援 ジュニアリーダー育成支援	講座数	0	0	1	3	0	1	0	0	1	0	1	1	1	0	1
	回数	0	0	8	14	0	9	0	0	2	0	6	5	2	0	1
	参加者数	0	0	89	109	0	43	0	0	27	0	39	10	18	0	12
合計		22	9	9	13	8	11	8	9	8	9	9	9	10	12	12
		238	33	32	41	22	47	32	26	41	25	52	35	28	40	39
		6,936	710	795	1,427	478	950	910	405	1,354	428	1,370	851	876	1,233	1,010

2つ以上の市民センター間で共催・連携した事業は，「小計」及び「総計」欄では1事業として計上しています。

(※1)青葉区中央市民センターと区内地区館の「インリーダー研修」

(※2)若林区中央市民センターと区内地区館の「インリーダー研修」

			宮城野区											若林区						
落合	吉成	小計	生涯学習支援	宮城野区中央	高砂	岩切	鶴ケ谷	榴ケ岡	東部	幸町	田子	福室	小計	若林区中央	七郷	荒町	六郷	沖野	若林	小計
1	1	13	0	0	0	3	2	0	1	1	1	0	8	1	1	0	1	1	1	5
4	3	34	0	0	0	27	4	0	2	4	5	0	42	3	1	0	2	3	3	12
30	20	530	0	0	0	293	201	0	10	42	63	0	609	35	9	0	16	49	30	139
		(※1)																		(※2)
2	1	24	0	3	1	2	3	1	2	2	1	1	16	4	2	1	3	3	4	11
2	1	134	0	16	1	5	25	9	6	4	2	3	71	10	2	1	6	11	14	38
148	33	3,458	0	717	15	448	764	62	69	114	67	176	2,432	96	38	97	72	313	385	723
1	1	23	7	4	0	0	2	1	1	0	2	0	17	11	0	2	0	0	2	15
4	3	187	47	26	0	0	13	1	2	0	6	0	95	94	0	3	0	0	7	104
36	21	4,814	714	729	0	0	122	24	13	0	51	0	1,653	457	0	19	0	0	55	531
1	1	16	1	1	1	1	1	2	2	1	1	1	12	2	1	2	1	1	1	8
6	12	115	13	4	12	6	6	10	9	6	5	11	82	18	14	11	7	7	7	64
170	326	3,598	3,609	104	337	337	268	169	208	153	162	366	5,713	576	426	309	327	362	321	2,321
1	3	68	1	8	7	2	3	5	3	2	4	6	41	4	3	5	6	3	3	24
2	5	239	1	29	34	6	7	16	4	3	13	18	131	15	14	17	29	9	12	96
29	65	7,318	13	3,916	693	350	172	241	90	106	622	438	6,641	85	236	435	543	874	163	2,336
2	2	14	8	3	0	2	0	1	1	2	1	1	19	4	1	1	2	1	1	10
11	7	65	28	18	0	8	0	9	3	16	23	17	122	41	18	16	19	5	4	103
133	45	525	650	135	0	91	0	33	36	186	514	282	1,927	417	61	74	152	45	60	809
8	9	158	17	19	9	10	11	10	10	8	10	9	113	26	8	11	13	9	12	73
29	31	774	89	93	47	52	55	45	26	33	54	49	543	181	49	48	63	35	47	417
546	510	20,243	4,986	5,601	1,045	1,519	1,527	529	426	601	1,479	1,262	18,975	1,666	770	934	1,110	1,643	1,014	6,859

区名 / 館名 / 事業		太白区												
		太白区中央	生出	中田	西多賀	八本松	八木山	山田	茂庭台	東中田	柳生	富沢	秋保	小計
家庭教育推進事業														
(例) 子育て支援講座 親子ふれあい教室 食育講座 思春期親学 プレパパママ講座 絵本よみきかせ講座	講座数	1	1	1	1	2	0	0	1	0	1	3	0	11
	回数	2	1	2	1	7	0	0	3	0	5	15	0	36
	参加者数	18	15	38	8	79	0	0	84	0	102	188	0	532
青少年健全育成事業														(※3)
(例) インリーダー研修 子どもの広場 キッズクッキング 夏休みチャレンジ講座 子ども体験塾	講座数	4	2	2	4	2	3	2	3	2	2	3	1	19
	回数	14	5	12	11	4	4	3	3	3	5	6	3	61
	参加者数	534	72	500	215	15	153	56	14	19	59	430	76	2,072
成人学習振興事業														
(例) 自然体験教室 エコライフ講座 男の料理教室 現代課題対応講座	講座数	2	2	0	1	0	1	1	1	1	0	1	3	13
	回数	17	5	0	2	0	36	3	3	6	0	3	7	82
	参加者数	96	70	0	27	0	304	33	14	62	0	50	97	753
高齢者学習振興事業														
(例) 明治青年大学 老壮大学 健康づくり教室 介護予防教室	講座数	2	1	1	1	1	1	0	1	1	1	1	1	12
	回数	12	6	10	5	6	5	0	6	6	7	6	7	76
	参加者数	322	132	102	207	251	500	0	182	154	341	145	192	2,528
地域社会教育推進事業														
(例) 市民センターまつり 事業運営懇話会 学びのコミュニティ関連事業 地域防災教室 社会学級連携事業 地域(自然・伝統)を知る講座	講座数	7	5	3	4	4	4	2	4	5	3	2	2	45
	回数	29	11	15	7	10	7	11	5	11	7	6	4	123
	参加者数	2,907	270	902	275	149	443	121	120	160	182	72	71	5,672
民間指導者育成事業														
(例) 各種ボランティア育成講座 各種ボランティア活動支援 ジュニアリーダー育成支援	講座数	2	0	1	0	1	0	3	2	1	1	1	1	13
	回数	5	0	8	0	9	0	9	14	3	1	7	3	59
	参加者数	88	0	45	0	18	0	248	94	19	2	62	11	587
合計		18	11	8	11	10	9	8	12	10	8	11	8	113
		79	28	47	26	36	52	26	34	29	25	43	24	437
		3,965	559	1,587	732	512	1,400	458	508	414	686	947	447	12,144

2つ以上の市民センター間で共催・連携した事業は、「小計」及び「総計」欄では1事業として計上しています。

(※3)太白区中央市民センターと区内地区館の「インリーダー研修」

泉区														
泉区中央	根白石	南光台	黒松	将監	加茂	高森	松陵	寺岡	長命ケ丘	松森	桂	南中山	小計	総計
1	1	0	0	0	1	1	1	1	1	1	0	1	9	46
1	2	0	0	0	2	3	3	2	3	3	0	1	20	144
8	79	0	0	0	28	31	50	6	102	42	0	14	360	2,170
													(※6)	
2	2	3	1	1	1	1	0	0	1	2	1	2	17	87
1	5	24	1	1	2	1	0	0	2	2	2	2	43	347
385	195	285	6	17	27	21	0	0	12	40	33	68	1,089	9,774
4	1	2	0	0	1	0	4	1	0	2	0	0	15	83
28	2	18	0	0	1	0	21	2	0	7	0	0	79	547
186	24	139	0	0	13	0	244	11	0	43	0	0	660	8,411
1	2	1	2	1	2	1	1	1	3	1	1	1	18	66
8	12	9	3	5	11	4	5	7	9	6	12	7	98	435
335	253	469	153	204	389	197	405	219	263	215	267	206	3,575	17,735
4	1	5	3	6	3	4	1	4	4	2	4	3	44	222
10	2	23	7	14	4	14	1	11	8	8	23	7	132	721
89	23	823	58	170	70	484	3	425	162	241	179	63	2,790	24,757
3	2	0	2	0	1	1	1	1	1	1	1	2	16	72
16	13	0	6	0	10	9	1	8	2	5	9	9	88	437
179	199	0	50	0	40	34	4	21	7	62	18	54	668	4,516
15	9	11	8	8	9	8	8	8	10	9	7	9	119	576
64	36	74	17	20	30	31	31	30	24	31	46	26	460	2,631
1,182	773	1,716	267	391	567	767	706	682	546	643	497	405	9,142	67,363

4　主催事業参加者数推移

（※）2つ以上の市民センター間で共催・連携した事業は表上段の市民センターに計上しています。

青　葉　区　　（単位：人）

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和２年度	
青葉区中央	14,735	16,421	13,643	16,663	17,153	6,893	
柏木	3,284	3,277	3,154	2,768	2,458	682	
北山	3,812	2,900	2,397	1,814	1,685	737	
福沢	3,640	4,125	4,565	3,451	3,628	1,389	
旭ケ丘	6,940	6,722	6,137	5,417	4,297	444	
三本松	618	2,749	2,722	3,022	1,880	916	平成27年8月1日～平成28年4月14日 大規模修繕工事のため休館
片平	3,168	4,185	3,249	3,477	3,198	867	
水の森	4,775	4,496	2,575	2,660	2,496	371	令和2年11月1日～令和3年11月（予定） 大規模修繕工事のため休館
貝ケ森	4,091	4,489	4,494	1,809	3,630	1,329	
中山	4,998	2,937	2,096	1,982	2,180	383	
折立	3,121	3,417	3,421	3,454	3,898	1,341	
木町通	3,057	3,340	2,862	2,069	2,415	808	
広瀬	8,659	7,680	6,702	5,891	6,919	850	
宮城西	4,296	4,340	5,037	5,059	7,183	1,231	
大沢	3,968	3,172	3,759	1,349	3,133	995	平成30年7月18日～平成31年4月19日 大規模修繕工事のため休館
落合	2,199	2,911	3,886	5,603	2,638	530	
吉成	2,221	2,232	3,061	3,176	2,919	477	
計	77,582	79,393	73,760	69,664	71,710	20,243	

宮　城　野　区　　（単位：人）

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和２年度	
生涯学習支援	16,485	18,500	17,390	17,028	15,250	4,986	
宮城野区中央	6,686	7,543	8,050	8,072	7,344	5,601	
高砂	21,746	18,941	12,683	9,840	7,159	1,045	
岩切	4,014	4,337	4,671	5,323	2,608	1,519	
鶴ケ谷	2,180	3,647	3,657	3,769	3,819	1,527	平成23年3月11日の東日本大震災以降 休館，平成28年4月2日再開館
榴ケ岡	3,024	3,899	2,882	2,766	2,249	529	平成27年8月1日～10月31日 修繕工事のため休館
東部	4,570	4,836	3,744	3,744	2,690	426	
幸町	3,920	4,083	4,131	4,380	482	601	令和元年8月1日～令和2年4月17日 大規模修繕工事のため休館
田子	7,073	7,279	7,093	7,156	6,254	1,479	
福室	5,412	5,644	6,229	5,096	4,290	1,262	
計	75,110	78,709	70,530	67,174	52,145	18,975	

若　林　区　　（単位：人）

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和２年度	
若林区中央	10,864	10,413	9,734	7,252	6,681	1,612	
七　　郷	12,145	12,593	14,270	15,573	14,670	732	
荒　　町	4,232	6,730	6,321	6,064	6,011	837	
六　　郷	5,043	6,443	7,243	9,445	12,589	1,110	
沖　　野	12,009	12,326	12,002	10,289	8,706	1,599	
若　　林	3,465	3,116	3,486	2,988	1,086	969	令和元年7月9日～令和2年4月17日 大規模修繕工事のため休館
計	47,758	51,621	53,056	51,611	49,743	6,859	

太　白　区　　（単位：人）

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和２年度	
太白区中央	25,425	23,400	24,998	23,404	32,765	3,965	
生　　出	6,336	5,741	5,970	5,256	4,429	548	
中　　田	5,358	5,280	5,442	5,468	16,379	1,587	
西　多　賀	9,380	2,803	1,847	2,432	3,749	732	
八　本　松	4,129	5,002	4,990	3,187	2,768	512	平成26年11月1日～平成27年4月10日 大規模修繕工事のため休館
八　木　山	17,131	29,282	31,533	26,246	20,959	1,400	平成26年3月1日～平成27年4月2日 大規模修繕工事のため休館
山　　田	6,696	6,719	3,349	6,133	4,510	420	平成29年8月1日～平成30年4月13日 大規模修繕工事のため休館
茂　庭　台	4,316	5,310	4,747	810	2,288	508	平成30年7月18日～平成31年4月19日 大規模修繕工事のため休館
東　中　田	5,755	6,984	6,252	4,984	4,612	414	令和2年12月14日～令和4年2月（予定） 大規模修繕工事のため休館
柳　　生	3,690	3,976	4,728	3,449	2,517	686	
富　　沢	5,888	5,966	5,661	7,477	7,475	925	
秋　　保	2,977	2,698	2,644	2,701	2,071	447	
計	97,081	103,161	102,161	91,547	104,522	12,144	

泉　　区　　（単位：人）

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和２年度	
泉区中央	6,427	5,707	6,144	5,801	4,918	1,182	
根　白　石	3,173	1,805	2,539	2,794	3,052	773	平成28年8月1日～平成29年4月14日 大規模修繕工事のため休館
南　光　台	3,901	5,369	5,108	5,482	3,622	1,716	平成23年3月11日の東日本大震災以降 休館，平成27年3月28日再開館
黒　　松	2,738	6,042	6,226	5,238	2,927	267	
将　　監	4,118	4,539	5,123	4,764	4,441	391	
加　　茂	3,141	2,623	3,014	2,631	2,497	567	
高　　森	7,581	7,679	4,359	4,748	4,641	767	
松　　陵	4,421	4,716	4,654	3,732	3,650	706	
寺　　岡	3,171	3,578	3,648	2,610	2,275	682	
長命ケ丘	4,699	4,895	7,237	6,420	3,752	546	
松　　森	3,259	3,501	3,366	3,073	1,568	643	
桂	3,987	3,047	3,276	2,123	2,167	497	
南　中　山	2,218	2,845	2,411	2,104	1,916	405	
計	52,834	56,346	57,105	51,520	41,426	9,142	

（単位：人）

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和２年度	
合　　計	350,365	369,230	356,612	331,516	319,546	67,363	

5　市民センター利用者数推移

青　葉　区　　（単位：人）

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
青葉区中央	95,024	93,687	90,977	92,239	71,794	40,529
柏木	32,566	30,545	30,070	30,665	25,360	15,105
北山	39,390	37,639	33,388	30,297	26,187	11,619
福沢	45,315	46,227	46,908	48,137	41,638	22,965
旭ケ丘	76,637	78,086	85,147	81,099	71,346	36,882
三本松	7,833	21,496	24,619	24,281	23,392	14,393
片平	75,747	73,612	74,704	96,460	90,962	65,253
水の森	72,592	75,932	73,445	74,125	69,569	30,527
貝ケ森	47,328	54,609	58,832	58,272	49,116	31,842
中山	63,873	66,801	65,557	62,680	57,393	35,044
折立	50,448	44,956	47,898	50,766	49,404	28,228
木町通	81,235	82,513	82,107	93,409	92,797	62,629
広瀬	54,747	31,554	29,157	33,657	29,337	12,600
宮城西	22,513	20,417	19,283	17,790	16,075	9,670
大沢	31,909	28,005	29,493	8,107	23,704	21,002
落合	34,978	34,563	33,415	31,700	29,658	15,814
吉成	54,451	54,601	51,303	52,157	46,328	26,800
計	886,586	875,243	876,303	885,841	814,060	480,902

※三本松：平成27年8月1日から平成28年4月14日まで大規模修繕工事のため休館
※水の森：令和2年11月1日から令和3年11月（予定）まで大規模修繕工事のため休館
※大沢：平成30年7月18日から平成31年4月19日まで大規模修繕工事のため休館

宮　城　野　区　　（単位：人）

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
生涯学習支援	105,083	100,316	102,367	103,223	87,652	46,133
宮城野区中央	79,773	72,858	76,606	70,328	70,617	37,009
高砂	89,006	78,260	77,273	77,067	64,054	35,623
岩切	35,923	33,655	32,730	31,387	30,166	18,359
鶴ケ谷	0	33,846	38,895	39,760	38,420	23,522
榴ケ岡	25,115	34,479	34,110	32,784	31,301	17,807
東部	48,354	49,497	46,171	41,012	42,459	29,502
幸町	70,095	72,028	65,887	58,019	16,420	34,952
田子	76,428	78,556	79,924	80,837	67,951	53,413
福室	95,991	95,796	100,779	100,485	99,232	68,990
計	625,768	649,291	654,742	634,902	548,272	365,310

※鶴ケ谷：東日本大震災の影響により休館、平成28年4月2日再開
※榴ケ岡：平成27年8月1日から10月31日まで修繕工事のため休館
※幸町：令和元年8月1日から令和2年4月17日まで大規模修繕工事のため休館

若　林　区　　（単位：人）

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
若林区中央	80,028	75,342	67,196	64,898	56,962	35,555
七郷	68,540	69,492	74,493	74,708	69,186	45,534
荒町	59,163	57,769	52,358	53,827	49,743	30,033
六郷	70,057	63,092	58,400	58,306	58,105	37,625
沖野	69,903	66,560	62,502	63,044	59,469	38,332
若林	53,087	47,806	50,413	48,681	15,057	23,682
計	400,778	380,061	365,362	363,464	308,522	210,761

※若林：令和元年7月9日から令和2年4月17日まで大規模修繕工事のため休館

太　白　区

（単位：人）

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
太白区中央	88,613	84,621	85,521	80,179	72,957	37,627
生出	19,604	17,139	17,989	17,763	15,050	10,347
中田	47,254	51,384	51,061	46,706	41,644	26,748
西多賀	55,861	51,450	48,029	37,993	31,555	21,809
八本松	40,715	41,140	45,857	41,171	40,708	24,534
八木山	47,543	59,331	58,394	57,663	52,834	27,165
山田	39,709	40,762	12,569	31,937	32,873	18,359
茂庭台	43,698	51,903	55,693	16,022	37,765	24,664
東中田	55,580	59,740	64,662	59,494	53,059	27,729
柳生	73,740	69,065	92,656	95,305	67,251	59,116
富沢	63,172	58,115	61,284	60,543	45,174	22,109
秋保	12,217	11,942	11,576	12,615	11,418	8,729
馬場	5,048	4,217	1,332	4,752	5,916	2,958
湯元	6,866	7,342	5,874	5,191	5,282	2,060
計	599,620	608,151	612,497	567,334	513,486	313,954

※八本松：平成26年11月1日から平成27年4月10日まで大規模修繕工事のため休館
※八木山：平成26年3月1日から平成27年4月2日まで大規模修繕工事のため休館
※山田：平成29年8月1日から平成30年4月13日まで大規模修繕工事のため休館
※茂庭台：平成30年7月18日から平成31年4月19日まで大規模修繕工事のため休館
※東中田：令和2年12月14日から令和4年2月（予定）まで大規模修繕工事のため休館
※馬場：平成29年8月1日から平成30年4月13日まで大規模修繕工事のため休館

泉　　区

（単位：人）

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
泉区中央	50,830	45,644	46,115	44,554	41,016	27,536
根白石	22,042	7,612	19,979	23,930	22,339	14,744
南光台	46,584	40,754	41,213	40,695	40,777	23,662
黒松	50,754	49,300	49,203	46,651	42,635	28,332
将監	33,205	34,668	33,167	35,188	29,466	18,155
加茂	52,026	47,768	52,471	49,055	45,268	27,334
高森	39,912	35,715	35,918	33,253	31,591	22,710
松陵	28,931	28,973	27,725	28,198	24,289	17,299
寺岡	36,685	35,004	34,994	32,993	31,105	22,434
長命ケ丘	42,121	40,001	38,950	38,381	36,202	23,104
松森	34,069	31,582	30,162	30,656	27,329	15,483
桂	51,605	49,359	50,819	53,760	49,162	31,610
南中山	37,956	38,467	38,865	41,381	34,623	23,598
計	526,720	484,847	499,581	498,695	455,802	296,001

※根白石：平成28年8月1日から平成29年4月14日まで大規模修繕工事により休館
※南光台：東日本大震災の影響により休館、平成27年3月28日再開館

（単位：人）

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
合計	3,039,472	2,997,593	3,008,485	2,950,236	2,640,142	1,666,928

◆利用者数には、市民センターまつり参加者分は含まない。
◆新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、次の期間は全館とも利用自粛を要請した。
　令和2年4月11日から5月31日まで、令和3年3月27日から5月11日まで

６　仙台市市民センター条例・施行規則

仙台市市民センター条例

平成二年三月一六日

仙台市条例第八号

(設置)

第一条　市民相互の交流と地域活動の振興に資するとともに、市民の文化の向上及び福祉の増進に寄与するため、社会教育法（昭和二十四年法律第二百七号）第二十四条の規定に基づき、市民センター（以下「センター」という。）を設置する。

２　センターの種類は、次のとおりとする。

一　生涯学習支援センター（本市の全域を主たる対象区域としてその事業を行うとともに、他の全てのセンターを統括するセンターをいう。）

二　区中央市民センター（その所在する区の区域内を主たる対象区域としてその事業を行うとともに、当該区域内に所在する地区市民センターを支援するセンターをいう。）

三　地区市民センター（前二号に掲げるセンター以外のセンターをいう。）

(名称及び位置)

第二条　センターの名称及び位置は、次のとおりとする。

一　生涯学習支援センター

名称	位置
仙台市生涯学習支援センター	仙台市宮城野区榴岡四丁目1番8号

二　区中央市民センター

名称	位置
仙台市青葉区中央市民センター	仙台市青葉区一番町二丁目1番4号
仙台市宮城野区中央市民センター	仙台市宮城野区五輪二丁目12番70号
仙台市若林区中央市民センター	仙台市若林区南小泉一丁目1番1号、保春院前丁3番地の1
仙台市太白区中央市民センター	仙台市太白区長町五丁目3番2号
仙台市泉区中央市民センター	仙台市泉区市名坂字東裏53番地の1

三　地区市民センター

名称	位置
仙台市柏木市民センター	仙台市青葉区柏木三丁目3番1号
仙台市北山市民センター	仙台市青葉区新坂町8番4号
仙台市福沢市民センター	仙台市青葉区福沢町9番9号
仙台市旭ケ丘市民センター	仙台市青葉区旭ケ丘三丁目25番15号
仙台市三本松市民センター	仙台市青葉区堤町三丁目23番1号
仙台市片平市民センター	仙台市青葉区米ケ袋一丁目1番35号
仙台市水の森市民センター	仙台市青葉区水の森四丁目1番1号
仙台市貝ケ森市民センター	仙台市青葉区貝ケ森一丁目4番6号
仙台市中山市民センター	仙台市青葉区中山三丁目13番1号
仙台市折立市民センター	仙台市青葉区折立三丁目20番1号
仙台市木町通市民センター	仙台市青葉区木町通一丁目7番36号
仙台市広瀬市民センター	仙台市青葉区下愛子字観音堂5番地
仙台市宮城西市民センター	仙台市青葉区熊ケ根字石積47番地
仙台市大沢市民センター	仙台市青葉区芋沢字要害65番地
仙台市落合市民センター	仙台市青葉区落合二丁目15番15号
仙台市吉成市民センター	仙台市青葉区国見ケ丘二丁目2番地の1
仙台市高砂市民センター	仙台市宮城野区高砂一丁目24番地の9
仙台市岩切市民センター	仙台市宮城野区岩切字三所南88番地の2
仙台市鶴ケ谷市民センター	仙台市宮城野区鶴ケ谷二丁目1番地の７
仙台市榴ケ岡市民センター	仙台市宮城野区五輪一丁目3番1号
仙台市東部市民センター	仙台市宮城野区平成一丁目3番27号
仙台市幸町市民センター	仙台市宮城野区幸町三丁目13番13号
仙台市田子市民センター	仙台市宮城野区田子二丁目4番25号
仙台市福室市民センター	仙台市宮城野区福室五丁目9番36号
仙台市七郷市民センター	仙台市若林区荒井三丁目7番地の2
仙台市荒町市民センター	仙台市若林区荒町86番地の2
仙台市六郷市民センター	仙台市若林区今泉一丁目3番19号
仙台市若林市民センター	仙台市若林区若林三丁目15番20号
仙台市沖野市民センター	仙台市若林区沖野七丁目34番43号
仙台市生出市民センター	仙台市太白区茂庭二丁目8番地の1
仙台市中田市民センター	仙台市太白区中田四丁目1番5号
仙台市西多賀市民センター	仙台市太白区西多賀三丁目6番8号
仙台市八本松市民センター	仙台市太白区八本松二丁目4番20号
仙台市八木山市民センター	仙台市太白区八木山本町一丁目43番地
仙台市山田市民センター	仙台市太白区山田北前町13番1号
仙台市茂庭台市民センター	仙台市太白区茂庭台四丁目1番10号
仙台市東中田市民センター	仙台市太白区四郎丸字吹上51番地
仙台市柳生市民センター	仙台市太白区柳生七丁目20番地の7
仙台市富沢市民センター	仙台市太白区富沢南一丁目18番地の10
仙台市秋保市民センター	仙台市太白区秋保町長袋字大原44番地の1
仙台市馬場市民センター	仙台市太白区秋保町馬場字竹林45番地の1
仙台市湯元市民センター	仙台市太白区秋保町湯向2番地の20
仙台市根白石市民センター	仙台市泉区根白石字杉下前24番地
仙台市南光台市民センター	仙台市泉区南光台七丁目1番30号
仙台市黒松市民センター	仙台市泉区黒松一丁目33番40号
仙台市将監市民センター	仙台市泉区将監八丁目2番1号
仙台市加茂市民センター	仙台市泉区加茂四丁目2番地
仙台市高森市民センター	仙台市泉区高森六丁目1番地の2
仙台市松陵市民センター	仙台市泉区松陵五丁目20番地の2
仙台市寺岡市民センター	仙台市泉区寺岡二丁目14番地の4
仙台市長命ケ丘市民センター	仙台市泉区長命ケ丘二丁目14番地の15
仙台市松森市民センター	仙台市泉区松森字城前9番地の2
仙台市桂市民センター	仙台市泉区桂三丁目19番地の1
仙台市南中山市民センター	仙台市泉区南中山二丁目24番地の12

（使用の許可）

第三条　センターを使用しようとする者は、あらかじめ教育委員会の許可を受けなければならない。

２　教育委員会は、次の各号のいずれかに該当するときは、前項の許可をしないことができる。

一　公の秩序を乱すおそれがあるとき

二　センターの管理上支障を及ぼすおそれがあるとき

三　前二号に掲げるもののほか、教育委員会が不適当と認めるとき

（使用料）

第四条　センターの使用料は、別表に定めるとおりとする。

２　使用料は、前条第一項の許可の際、納入しなければならない。ただし、市長が必要と認めるときは、使用料を別に定める納期限までに納入させることができる。

（使用料の額の特例）

第四条の二　市長は、前条第二項ただし書の規定により使用料を別に定める納期限までに納入させる場合において、当該納期限の日以前に、第三条第一項の許可を受けた者（以下「使用者」という。）につき次の各号のいずれかに該当すると認めるとき（使用料が既納の場合を除く。）は、前条第一項の規定にかかわらず、同項に規定する使用料の額の範囲内で使用料の額を定めることができる。

一　天災その他自己の責めによらない事由によりセンターを使用できないとき

二　市長が別に定める期間内にセンターの使用の取りやめを申し出たとき

（使用料の返還）

第五条　既納の使用料は、返還しない。ただし、使用者につき前条各号のいずれかに該当すると市長が認めるときは、その全部又は一部を返還することができる。

（使用料の減免）

第六条　市長は、特別の事由があると認めるときは、使用料を減免することができる。

（目的外使用の禁止）

第七条　使用者は、許可を受けた目的以外にセンターを使用してはならない。

（使用権の譲渡等の禁止）

第八条　使用者は、使用の権利を譲渡し、又は転貸してはならない。

（使用許可の取消し等）

第九条　教育委員会は、次の各号のいずれかに該当するときは、第三条第一項の許可を取り消し、又はセンターの使用を制限し、若しくは停止することができる。

一　使用者がこの条例又は使用の許可の際に付された条件に違反したとき

二　第三条第二項各号のいずれかに該当することとなったとき

（指定管理者）

第十条　教育委員会は、センターの管理運営上必要と認めるときは、地方自治法（昭和二十二年法律第六十七号）第二百四十四条の二第三項に規定する指定管理者（以下「指定管理者」という。）にセンターの管理を行わせることができる。

（指定管理者が行う業務の範囲）

第十一条　前条の規定により指定管理者にセンターの管理を行わせる場合に当該指定管理者が行う業務は、次に掲げる業務とする。

一　第三条第一項の許可に関する業務

二　センターの事業として教育委員会がセンターごとに定める事業に関する業務

三　センターの維持管理に関する業務

四　前三号に掲げるもののほか、教育委員会が必要と認める業務

２　前項の場合における第三条及び第九条の規定の適用については、これらの規定中「教育委員会」とあるのは、「指定管理者」とする。

（指定管理者が行う管理の基準）

第十二条　指定管理者は、この条例及びこの条例に基づく規則

の定めるところに従い、適正にセンターの管理を行わなければならない。

（審議会）

第十三条　社会教育法第二十九条第一項の規定に基づき、本市が設置する全ての市民センターに共通の公民館運営審議会として、仙台市公民館運営審議会（以下「審議会」という。）を設置する。

2　審議会の委員の委嘱の基準は、社会教育委員及び公民館運営審議会の委員の委嘱の基準を条例で定めるに当たって参酌すべき基準を定める省令（平成二十三年文部科学省令第四十二号）第二条に規定する基準とする。

3　審議会の委員の定数は、十七人以内とする。

4　審議会の委員の任期は、二年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

5　前三項に定めるもののほか、審議会に関し必要な事項は、教育委員会が定める。

（委任）

第十四条　この条例の施行に関し必要な事項は、市長又は教育委員会が定める。

附則省略

別表（第四条関係）

一　専用使用する場合

使用区分		金額	
仙台市生涯学習支援センター	会議室	一時間につき	620円
	第1セミナー室(A)	一時間につき	620円
	第1セミナー室(B)	一時間につき	620円
	第1セミナー室(C)	一時間につき	620円
	第2セミナー室	一時間につき	930円
	ミーティング室	一時間につき	390円
	和室	一時間につき	790円
	第1音楽室	一時間につき	1,000円
	第2音楽室	一時間につき	1,000円
	創作室(1)	一時間につき	790円
	創作室(2)	一時間につき	790円
	トレーニング室	一時間につき	790円
	体育館	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円
仙台市青葉区中央市民センター	第1会議室	一時間につき	790円
	第2会議室	一時間につき	790円
	第3会議室	一時間につき	620円
	第4会議室	一時間につき	790円
	第5会議室	一時間につき	620円
	和室	一時間につき	790円
	調理実習室	一時間につき	930円
	音楽室	一時間につき	930円
	小ホール(1)	一時間につき	930円
	小ホール(2)	一時間につき	790円
	ホール	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円
仙台市宮城野区中央市民センター	第1会議室	一時間につき	930円
	第2会議室	一時間につき	620円
	第3会議室	一時間につき	930円
	第4会議室	一時間につき	620円
	和室(1)	一時間につき	930円
	和室(2)	一時間につき	620円
	調理実習室	一時間につき	930円
	音楽室	一時間につき	930円
	創作室	一時間につき	930円
	体育館	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円

仙台市若林区中央市民センター	第1会議室	一時間につき	620円
	第2会議室	一時間につき	620円
	第3会議室	一時間につき	930円
	第4会議室	一時間につき	390円
	セミナー室(A)	一時間につき	620円
	セミナー室(B)	一時間につき	620円
	和室(1)	一時間につき	390円
	和室(2)	一時間につき	390円
	和室(3)	一時間につき	390円
	和室(4)	一時間につき	390円
	調理実習室	一時間につき	930円
	創作室	一時間につき	620円
	ホール	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円
仙台市太白区中央市民センター	大会議室	一時間につき	930円
	中会議室	一時間につき	790円
	第1小会議室	一時間につき	620円
	第2小会議室	一時間につき	620円
	第3小会議室	一時間につき	620円
	和室（大）	一時間につき	930円
	和室（小）	一時間につき	620円
	調理実習室	一時間につき	930円
	音楽室	一時間につき	930円
	創作室	一時間につき	790円
	体育館	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円
仙台市泉区中央市民センター	第1会議室	一時間につき	930円
	第2会議室	一時間につき	390円
	第3会議室	一時間につき	390円
	研修室	一時間につき	790円
	和室(1)	一時間につき	790円
	和室(2)	一時間につき	620円
	調理実習室	一時間につき	930円
	音楽室	一時間につき	730円
	創作室	一時間につき	790円
	ホール	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円
仙台市柏木市民センター	会議室	一時間につき	930円
	和室(1)	一時間につき	390円
	和室(2)	一時間につき	390円
	ホール	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円

仙台市北山市民センター	第1会議室	一時間につき	930円
	第2会議室	一時間につき	390円
	第3会議室	一時間につき	930円
	和室(1)	一時間につき	930円
	和室(2)	一時間につき	390円
	和室(3)	一時間につき	620円
	和室(4)	一時間につき	620円
	調理実習室	一時間につき	730円
	トレーニング室	一時間につき	730円
仙台市福沢市民センター	第1会議室	一時間につき	620円
	第2会議室	一時間につき	930円
	第3会議室	一時間につき	790円
	和室(1)	一時間につき	930円
	和室(2)	一時間につき	390円
	和室(3)	一時間につき	390円
	視聴覚室	一時間につき	730円
	調理実習室	一時間につき	730円
	体育館	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円
仙台市旭ケ丘市民センター	第1会議室	一時間につき	1000円
	第2会議室	一時間につき	790円
	第3会議室	一時間につき	790円
	展示ホール(1)	一時間につき	930円
	展示ホール(2)	一時間につき	730円
	小ホール	一時間につき	790円
	ホール	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円
仙台市三本松市民センター	会議室	一時間につき	620円
	会議室兼調理実習室	一時間につき	930円
	和室(1)	一時間につき	620円
	和室(2)	一時間につき	620円
	体育館	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円
仙台市片平市民センター	第1会議室	一時間につき	790円
	第2会議室	一時間につき	620円
	会議室兼調理実習室	一時間につき	620円
	和室(1)	一時間につき	790円
	和室(2)	一時間につき	620円
	和室(3)	一時間につき	620円
	体育館	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円
仙台市水の森市民センター	会議室	一時間につき	790円
	会議室兼調理実習室	一時間につき	790円
	和室(1)	一時間につき	790円
	和室(2)	一時間につき	620円
	和室(3)	一時間につき	620円
	体育館	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円

仙台市員ケ森市民センター	会議室	一時間につき	930円
	会議室兼調理実習室	一時間につき	790円
	和室(1)	一時間につき	930円
	和室(2)	一時間につき	620円
	ホール	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円
仙台市中山市民センター	会議室	一時間につき	790円
	会議室兼調理実習室	一時間につき	790円
	和室(1)	一時間につき	930円
	和室(2)	一時間につき	620円
	ホール	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円
仙台市折立市民センター	会議室	一時間につき	930円
	会議室兼調理実習室	一時間につき	790円
	和室(1)	一時間につき	930円
	和室(2)	一時間につき	390円
	ホール	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円
仙台市木町通市民センター	第1会議室	一時間につき	930円
	第2会議室	一時間につき	390円
	和室(1)	一時間につき	930円
	和室(2)	一時間につき	390円
	調理実習室	一時間につき	1000円
	ホール	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円
仙台市広瀬市民センター	会議室	一時間につき	620円
	セミナー室(A)	一時間につき	620円
	セミナー室(B)	一時間につき	620円
	和室(1)	一時間につき	620円
	和室(2)	一時間につき	390円
	創作室	一時間につき	620円
仙台市宮城西市民センター	第1会議室	一時間につき	620円
	第2会議室	一時間につき	620円
	和室(1)	一時間につき	620円
	和室(2)	一時間につき	390円
	調理実習室	一時間につき	730円
	ホール	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円
仙台市大沢市民センター	会議室兼調理実習室	一時間につき	790円
	和室(1)	一時間につき	790円
	和室(2)	一時間につき	390円
	体育館	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円

仙台市泉合市民センター	会議室兼調理実習室	一時間につき	930円
	和室(1)	一時間につき	620円
	和室(2)	一時間につき	620円
	ホール	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円
仙台市吉成市民センター	会議室	一時間につき	930円
	会議室兼調理実習室	一時間につき	620円
	和室	一時間につき	620円
	ホール	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円
仙台市高砂市民センター	第1会議室	一時間につき	620円
	第2会議室	一時間につき	620円
	和室(1)	一時間につき	790円
	和室(2)	一時間につき	390円
	調理実習室	一時間につき	930円
	ホール	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円
仙台市宮町市民センター	講義室	一時間につき	390円
	第1研修室	一時間につき	790円
	第2研修室	一時間につき	790円
	和室(1)	一時間につき	620円
	和室(2)	一時間につき	620円
	視聴覚室	一時間につき	730円
	調理実習室	一時間につき	930円
	創作室	一時間につき	390円
	体育館	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円
仙台市鶴ケ谷市民センター	第1会議室	一時間につき	930円
	第2会議室	一時間につき	620円
	第3会議室	一時間につき	620円
	和室	一時間につき	620円
	調理実習室	一時間につき	930円
	ホール	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円
仙台市檜ケ岡市民センター	ミーティングルーム(1)	一時間につき	930円
	ミーティングルーム(2)	一時間につき	620円
	和室(1)	一時間につき	390円
	和室(2)	一時間につき	390円
	体育館	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円

仙台市東部市民センター	会議室	一時間につき	620円
	和室(1)	一時間につき	390円
	和室(2)	一時間につき	390円
	和室(3)	一時間につき	790円
	調理実習室	一時間につき	730円
	体育館	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円
仙台市幸町市民センター	会議室	一時間につき	790円
	会議室兼調理実習室	一時間につき	790円
	和室(1)	一時間につき	930円
	和室(2)	一時間につき	620円
	ホール	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円
仙台市田子市民センター	第1会議室	一時間につき	930円
	第2会議室	一時間につき	390円
	和室(1)	一時間につき	930円
	和室(2)	一時間につき	620円
	調理実習室	一時間につき	1000円
	ホール	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円
仙台市福室市民センター	第1会議室	一時間につき	930円
	第2会議室	一時間につき	620円
	和室(1)	一時間につき	930円
	和室(2)	一時間につき	620円
	調理実習室	一時間につき	930円
	ホール	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円
仙台市七郷市民センター	会議室	一時間につき	390円
	第1研修室	一時間につき	790円
	第2研修室	一時間につき	790円
	和室(1)	一時間につき	390円
	和室(2)	一時間につき	390円
	和室(3)	一時間につき	390円
	視聴覚室	一時間につき	930円
	調理実習室	一時間につき	930円
	創作室	一時間につき	620円
	体育館	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円
仙台市荒町市民センター	第1会議室	一時間につき	390円
	第2会議室	一時間につき	390円
	第3会議室	一時間につき	930円
	和室(1)	一時間につき	930円
	和室(2)	一時間につき	390円
	調理実習室	一時間につき	730円
	ホール	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円

仙台市六郷市民センター	第1会議室	一時間につき	620円
	第2会議室	一時間につき	390円
	第3会議室	一時間につき	390円
	和室(1)	一時間につき	930円
	和室(2)	一時間につき	390円
	和室(3)	一時間につき	390円
	調理実習室	一時間につき	730円
	体育館	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円
仙台市若林市民センター	会議室	一時間につき	930円
	会議室兼調理実習室	一時間につき	790円
	和室(1)	一時間につき	930円
	和室(2)	一時間につき	620円
	ホール	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円
仙台市沖野市民センター	会議室	一時間につき	790円
	会議室兼調理実習室	一時間につき	790円
	和室(1)	一時間につき	930円
	和室(2)	一時間につき	390円
	ホール	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円
仙台市生出市民センター	第1講義室	一時間につき	620円
	第2講義室	一時間につき	390円
	和室	一時間につき	620円
	調理実習室	一時間につき	730円
	体育館	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円
仙台市中田市民センター	講義室	一時間につき	620円
	第1研修室	一時間につき	790円
	第2研修室	一時間につき	790円
	和室(1)	一時間につき	620円
	和室(2)	一時間につき	620円
	視聴覚室	一時間につき	730円
	調理実習室	一時間につき	930円
	体育館	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円
仙台市西多賀市民センター	第1会議室	一時間につき	390円
	第2会議室	一時間につき	390円
	第3会議室	一時間につき	790円
	会議室兼調理実習室	一時間につき	790円
	和室	一時間につき	390円
	ホール	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円

仙台市八本松市民センター	会議室	一時間につき	390円
	会議室兼調理実習室	一時間につき	930円
	和室(1)	一時間につき	620円
	和室(2)	一時間につき	930円
	体育館	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円
仙台市八木山市民センター	会議室	一時間につき	620円
	会議室兼調理実習室	一時間につき	930円
	第1研修室	一時間につき	620円
	第2研修室	一時間につき	790円
	第3研修室	一時間につき	790円
	和室(1)	一時間につき	930円
	和室(2)	一時間につき	620円
	体育館	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円
仙台市山田市民センター	会議室	一時間につき	620円
	会議室兼調理実習室	一時間につき	790円
	和室(1)	一時間につき	930円
	和室(2)	一時間につき	620円
	体育館	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円
仙台市茂庭台市民センター	会議室	一時間につき	620円
	会議室兼調理実習室	一時間につき	790円
	和室(1)	一時間につき	930円
	和室(2)	一時間につき	620円
	体育館	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円
仙台市東中田市民センター	会議室	一時間につき	930円
	会議室兼調理実習室	一時間につき	620円
	和室(1)	一時間につき	620円
	和室(2)	一時間につき	930円
	体育館	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円
仙台市柳生市民センター	会議室	一時間につき	930円
	会議室兼調理実習室	一時間につき	790円
	和室(1)	一時間につき	930円
	和室(2)	一時間につき	390円
	ホール	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円

仙台市富沢市民センター	第1会議室	一時間につき	930円
	第2会議室	一時間につき	620円
	和室(1)	一時間につき	930円
	和室(2)	一時間につき	620円
	調理実習室	一時間につき	930円
	ホール	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円
仙台市秋保市民センター	第1会議室	一時間につき	930円
	第2会議室	一時間につき	620円
	研修室	一時間につき	790円
	和室(1)	一時間につき	620円
	和室(2)	一時間につき	620円
	調理実習室	一時間につき	930円
	ホール	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円
仙台市鹿場市民センター	会議室	一時間につき	790円
	調理実習室	一時間につき	480円
	体育館	午前	2000円
		午後	2400円
		夜間	2,500円
仙台市湯元市民センター	会議室	一時間につき	390円
	講義室	一時間につき	390円
	和室	一時間につき	620円
	視聴覚室	一時間につき	480円
	調理実習室	一時間につき	480円
	集会室	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円
仙台市根白石市民センター	大会議室	一時間につき	930円
	小会議室	一時間につき	620円
	和室	一時間につき	790円
	調理実習室	一時間につき	930円
	工作室	一時間につき	620円
	ホール	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円
仙台市南光台市民センター	第1会議室	一時間につき	620円
	第2会議室	一時間につき	620円
	第3会議室	一時間につき	620円
	第4会議室	一時間につき	930円
	和室	一時間につき	390円
	調理実習室	一時間につき	930円
	ホール	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円

仙台市黒松市民センター	第1研修室	一時間につき	620円
	第2研修室	一時間につき	790円
	和室	一時間につき	790円
	多目的室	一時間につき	790円
	調理実習室	一時間につき	730円
	ホール	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円
仙台市将監市民センター	第1研修室	一時間につき	620円
	第2研修室	一時間につき	620円
	第3研修室	一時間につき	620円
	和室(1)	一時間につき	620円
	和室(2)	一時間につき	620円
	調理実習室	一時間につき	930円
	ホール	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円
仙台市加茂市民センター	会議室	一時間につき	390円
	第1研修室	一時間につき	930円
	第2研修室	一時間につき	620円
	和室	一時間につき	620円
	調理実習室	一時間につき	930円
	体育館	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円
仙台市高森市民センター	第1研修室	一時間につき	790円
	第2研修室	一時間につき	620円
	第3研修室	一時間につき	620円
	和室	一時間につき	620円
	調理実習室	一時間につき	930円
	音楽室	一時間につき	730円
	工作室	一時間につき	620円
	ホール	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円
仙台市松陵市民センター	第1研修室	一時間につき	790円
	第2研修室	一時間につき	620円
	第3研修室	一時間につき	620円
	和室	一時間につき	790円
	調理実習室	一時間につき	730円
	工作室	一時間につき	620円
	ホール	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円

仙台市寺岡市民センター	第1研修室	一時間につき	620円
	第2研修室	一時間につき	620円
	第3研修室	一時間につき	620円
	和室	一時間につき	620円
	調理実習室	一時間につき	730円
	トレーニング室	一時間につき	620円
	ホール	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円
仙台市長命ケ丘市民センター	会議室	一時間につき	930円
	会議室兼調理実習室	一時間につき	790円
	和室(1)	一時間につき	620円
	和室(2)	一時間につき	930円
	ホール	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円
仙台市松森市民センター	会議室	一時間につき	930円
	和室（大）	一時間につき	930円
	和室（小）	一時間につき	620円
	調理実習室	一時間につき	930円
	工作室	一時間につき	620円
	ホール	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円
仙台市桂市民センター	第1会議室	一時間につき	930円
	第2会議室	一時間につき	390円
	和室(1)	一時間につき	930円
	和室(2)	一時間につき	620円
	調理実習室	一時間につき	930円
	創作室	一時間につき	620円
	ホール	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円
仙台市南中山市民センター	第1会議室	一時間につき	930円
	第2会議室	一時間につき	620円
	研修室	一時間につき	930円
	和室(1)	一時間につき	390円
	和室(2)	一時間につき	390円
	和室(3)	一時間につき	390円
	調理実習室	一時間につき	730円
	体育館	午前	2,500円
		午後	3,000円
		夜間	3,100円

備考

一　使用時間は、午前九時から午後九時までとする。

二　「午前」とは午前九時から正午までを、「午後」とは午後一時から午後四時三十分までを、「夜間」とは午後五時三十分から午後九時までをいう。

三　その使用に係る時間に一時間に満たない端数があるときは、これを一時間に切り上げる。

四　一時間ごとの使用料を定めた使用区分において、第一号の使用時間以外の時間に使用する場合における使用料は、この表に定める額とする。

五　前号の使用区分以外の使用区分において、次のイからハまでに掲げる使用時間に係る使用料は、それぞれイからハまでに掲げる額とする。

イ　午前九時から午後四時三十分まで　午前の項及び午後の項に定める額の合計額

ロ　午後一時から午後九時まで　午後の項及び夜間の項に定める額の合計額

ハ　午前九時から午後九時まで　午前の項、午後の項及び夜間の項に定める額の合計額

六　前号の使用区分において、第一号に定める使用時間以外の時間に使用する場合（前号の場合を除く。）における使用料は、午後の項に定める額を時間割りして計算した額（十円未満の端数が生じたときは、これを十円に切り上げる。）とする。

七　使用者が対価の支払を受けて展示会その他の催しを行う場合その他これに類する場合の使用料は、この表に定める額の三倍以内において市長が定める。

八　会議室兼調理実習室を会議のために区分して使用する場合の使用料は、この表に定める額に〇・七を乗じて得た額（十円未満の端数が生じたときは、これを十円に切り上げる。）とする。

二　個人使用する場合

使用区分		金額	
体育館・ホール・仙台市生涯学習支援センター及び仙台市北山市民センターのトレーニング室	一般	一回につき	240円
	小学生・中学生	一回につき	120円
仙台市寺岡市民センターのトレーニング室		一回につき	240円

仙台市市民センター条例施行規則

平成二年三月二九日

仙台市教育委員会規則第五号

（趣旨）

第一条　この規則は、仙台市市民センター条例（平成二年仙台市条例第八号。以下「条例」という。）の施行に関し必要な事項を定めるものとする。

（使用時間）

第二条　市民センター（以下「センター」という。）の施設の使用時間は、午前九時から午後九時までとする。

２　前項の規定にかかわらず、教育委員会が必要と認めるときは、同項に規定するセンターの施設の使用時間を変更することができる。

（休館日）

第三条　センターの休館日は、次のとおりとする。ただし、教育委員会が必要と認めるときは、これを変更し、又は休館することができる。

一　月曜日（国民の祝日に関する法律（昭和二十三年法律第百七十八号）に規定する休日（以下「休日」という。）に当たる日を除く。）

二　休日の翌日（土曜日、日曜日又は休日に当たる日を除く。）

三　十二月二十八日から翌年の一月四日までの日（前二号に掲げる日を除く。）

（使用許可の手続）

第四条　条例第三条第一項の許可（以下「使用許可」という。）を受けようとする者は、使用申込書及び教育委員会が必要と認める書類（次項において「使用申込書等」という。）を教育委員会に提出しなければならない。

２　前項の規定による使用申込書等の提出は、次に定めるところにより行わなければならない。ただし、教育委員会が特に必要と認める場合は、この限りでない。

一　センターの施設を専用使用しようとする場合には、使用しようとする日（以下「使用日」という。）の属する月の二月前の月の十日から使用日までの期間内に行うこと

二　センターの施設を個人使用しようとする場合には、使用日に行うこと

３　教育委員会は、使用許可をしたときは、使用承認書を交付するものとする。

４　センターの施設の使用許可に係る手続（センターの施設を個人使用しようとする場合及び次条第二項に規定する場合の使用許可に係る手続を除く。）については、前三項の規定にかかわらず、市民利用施設予約システム（仙台市民利用施設予約システムの運用及び利用者登録等に関する規則（平成十五年仙台市規則第八十七号）第二条第二号に規定するものをいう。）を利用する方法により行うことができる。

第四条の二　条例第三条第二項第三号に規定する教育委員会が不適当と認めるときは、次の各号に掲げる場合とする。

一　センターの施設において物品又は権利の販売又は宣伝（次項において「物品販売等」という。）を行おうとする場合

二　その他センターの設置目的に照らして教育委員会が不適当と認める場合

２　教育委員会は、前項第一号の規定にかかわらず、センターの設置目的に照らして適当と認める場合は、センターの施設において物品販売等を行おうとする者に対し、使用許可をすることができる。この場合において、物品販売等を行おうとする者は、教育委員会が必要と認める書類を教育委員会に提出しなければならない。

（市長が必要と認めるときの使用料の納期限）

第五条　条例第四条第二項ただし書に規定する市長が必要と認めるときは、次の各号に掲げる場合とし、同項ただし書に規定する別に定める納期限は、当該各号に掲げる場合の区分に応じ、それぞれ当該各号に定める日とする。

一　使用料を口座振替の方法により納入する場合　使用許可を受けた日の属する月の翌月末日

二　区長が特別な事由があると認める場合　区長が定める日

（市長が必要と認めるときの使用料の額の特例）

第六条　使用許可を受けた者（以下「使用者」という。）が条

例第四条の二第一号に該当する場合において、同条の規定により市長が定める使用料の額は、零とする。

2　条例第四条の二第二号に規定する市長が別に定める期間は、次の各号に掲げる期間とし、同条の規定により市長が定める使用料の額は、前項の規定にかかわらず、次の各号に掲げる期間の区分に応じ、それぞれ当該各号に定める額とする。

一　使用許可を受けた日から使用日の七日前の日までの期間　零

二　使用日の七日前の日の翌日から使用日までの期間　条例第四条第一項の規定による使用料（条例第六条の規定により使用料を減免した場合にあっては、当該減免後の使用料）の額

3　使用者が前条の納期限までに使用料を納入せず、かつ、センターの施設を使用する意思があると認められないときは、当該納期限の日において使用の取りやめの申出がなされたものとみなし、前項の規定を準用する。

（使用料の返還）

第七条　使用者が条例第四条の二第一号に該当すると区長が認める場合において、条例第五条ただし書の規定により既納の使用料を返還する場合の返還額は、既納の使用料の全額とする。

2　使用者が条例第四条の二第二号に該当すると区長が認める場合において、条例第五条ただし書の規定により既納の使用料を返還する場合の返還額は、前条第二項第一号に掲げる期間においては、既納の使用料の全額とする。

3　使用料の返還を受けようとする者は、還付請求書を区長に提出しなければならない。ただし、区長が特別の事由があると認めるときは、この限りでない。

（指定管理者に管理を行わせる場合における規定の適用）

第八条　条例第十条の規定により指定管理者（地方自治法（昭和二十二年法律第六十七号）第二百四十四条の二第三項に規定する指定管理者をいう。以下同じ。）にセンターの管理を行わせる場合における第四条の規定の適用については、同条中「教育委員会」とあるのは、「指定管理者」とする。

（審議会）

第九条　仙台市公民館運営審議会（以下「審議会」という。）は、次に掲げる事務を所掌する。

一　生涯学習支援センター長から諮問のあったことについて、審議すること

二　センターにおける各種の事業について、調査研究すること

三　センターにおける各種の事業について、評価すること

四　その他審議会が必要と認める事項について、審議等を行うこと

2　審議会に会長及び副会長一人を置く。

3　会長及び副会長は、それぞれ委員が互選する。

4　会長は、審議会を代表し、会務を総理する。

5　副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき又は会長が欠けたときは、その職務を代行する。

第十条　会長は、審議会の会議を招集し、その議長となる。

2　審議会の会議は、二月ごとに一回開くものとする。ただし、会長が必要と認めたときは、臨時に開くことができる。

3　審議会の会議は、委員の過半数が出席しなければ開くことができない。

4　審議会の会議の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

第十一条　審議会の庶務は、生涯学習支援センターにおいて処理する。

第十二条　前三条に定めるもののほか、審議会の運営に関し必要な事項は、会長が審議会に諮って定める。

（実施細目）

第十三条　この規則の実施細目は、教育長が定める。

附則省略

令和２年度
仙台市市民センター事業概要

令和３年９月　発行

編集・発行　仙台市教育局生涯学習支援センター
〒983-0852
仙台市宮城野区榴岡四丁目１番８号
（パルシティ仙台ビル内）
電話　022（292）4875
FAX　022（295）0810